

三、本證發行擔任者ヲ左ノ如ク限定スルコト

警視廳警務部警務課長

道、府、縣警察部課長

警察署長、警察分署長

少年審判所長

四、本證ヲ發行スルトキハ發行者ニ於テ乘車人所屬官署名職氏名年齢及發行年月日ヲ記入シ且發行者欄ニハ左ノ如ク記入シ職印ヲ押捺スルコト

何縣 警察部警務課長 官氏名印

(警察署、同分署長ニ於テ發行スルトキハ其ノ所在地名ヲ肩書スルコト)

五、本證ノ發着驛名、車船等級、列車種類(普通、急行、特別急行列車ノ別)ハ乘車人ニ於テ之ヲ記入シ發着驛名ニ付テハ當該驛係員ノ車船等級及列車種類ニ付テハ車掌ノ證明ヲ受クル事但シ短距離ノ乘車ニシテ車掌ノ證明ヲ受クル追ナキトキハ之ヲ省略スルモ妨ナシ

六、一旅行中ニ於テ上級又ハ下級ノ車船室へ乗換ヲ爲シ(山手線又ハ下關門司間ノ如ク上級室ノ設備ナキ區間ニ於テ下級室ニ乗換ユル場合ハ此ノ限ニアラス)又ハ普通列車ヨリ急行列車ニ乗換ヲ爲スカ如キ場合ニ於テハ乗換ヲ爲ス毎ニ別箇ノ旅行トシテ各別ニ運賃料金を計算ス故ニ乗換ヲ爲ス毎ニ新ニ本證ヲ提出シ驛係員又ハ車掌ノ證明ヲ受クルコト

七、本證ヲ以テ途中驛ニ下車シ再ヒ他ノ列車ニ乗換クコトヲ得ス故ニ途中下車ヲ爲シタルトキハ其ノ下車驛ヲ着驛トシテ本證ヲ提出シ乗換ヲ爲サントスルトキハ新ニ別葉ヲ使用スルコト

八、本證ニ依リ乘車スル者ハ所屬長發行ノ身分證明書(官職氏名及年齢ヲ記載シタルモノ)又ハ警察手帖ヲ携帯シ鐵道係員ノ要求アルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スルコト

九、左ノ場合ニ於テハ無札旅客トシテ一般規定ニ依リ運賃料金及割増金ヲ即時ニ本人ヨリ收受スルコト

一、後拂乘車證ニ發驛ノ證明ヲ受ケスシテ乘車シタルトキ

二、後拂乘車證ニ記載シタル等級ヨリ上級ノ車船室ニ乘車船シタルトキ

三、身分證明書、警察手帖ノ呈示ヲ拒ミタルトキ

一〇、發行者ハ毎月五日迄ニ前月中ニ發行シタル本證ノ報告用片ヲ取纏メ確實ナル方法ヲ以テ配付ヲ受ケタル鐵道局經理課へ送付スルコト

廢線ニハ抹線ヲ書シ其ノ報告片ト共ニ送付スルコト

一一、運賃料金ハ每一箇月分ヲ鐵道局經理課ニ於テ計算ノ上本證發行者へ請求スヘキニ付發行者ニ於テ取纏メ納入ノ手續ヲ爲スコト

甲片乙片ニ記入シタル發着驛名其他一致セサルトキハ甲片ニ記入シタルモノニ依リ運賃料金を決定スルコト

(本扱ニ依ル場合ハ普通運賃ニ依ルコト)

一二、本證ヲ保管中ニ於テ紛失シタトキハ保管者其ノ責ニ任スルコト前項紛失ノ場合ニ於テハ遲滞ナク鐵道局(經理

課)へ通知スルコト

後拂乗車取扱手續(達示案)省略

●警部補死亡ノ場合ニ於ケル弔祭料給與ノ件

通牒

(大正十四年六月十六日内務省發警第
四二號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

奈良縣知事官房主事照會

(大正十四年三月十
二日官第一一四號)

明治四十三年三月勅令第二百二十六號ヲ以テ巡查看守療治料及弔祭料給與令ヲ警部補ニ準用ストアリ

同 勅令第三百三十五號ノ判任官俸給令第十三條ニ判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸四月分ヲ其遺族ニ支給スト

アリ

以上ノ規程ニヨリ警部補タル判任官在職中死亡ノ場合ニ其遺族ハ二箇ノ給與ヲ受クヘキモノ、如ク解セラル、モ右ハ孰レモ弔祭料タル意味ニ外ナラス何レカ一方ヲ適用スルヲ正當ト認ムヘク前方後方ノ關係ヨリ見レハ第三百三十五號ニ依ルヘキモノト存セラレ候處差掛リ給與ノ事實相生シ居リ候ニ付至急何分ノ御回示相煩度此段及御問合候也

警保局長回答

(大正十四年六月十六日
内務省發警第四二號)

三月十二日附官第一一四號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ貴縣官房主事ヨリ内務大臣秘書官へ問合ノ次第有之候處警部補在職中死亡ノ場合ニ於テハ明治四十三年三月勅令第一二六號ニ依リ巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令ヲ準用シ弔祭料ヲ給與スヘク判任官俸給令ニ依ル死亡賜金ハ之ヲ給スルノ限ニ非スト被存候條御了知相成度

●警察官吏内國旅費規則中疑義ニ關スル件

通牒

(大正十四年七月十四日内務省北警第
二〇號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

(甲號) 北海道廳長官照會

(大正十四年四月二十二
日警務第二八五九號)

改正警察官内國旅費規則第四條第六條ノ解釋ニ付キ聊カ疑義ヲ相生シ候條左記三件ニ對シ何分ノ御垂示有之度差掛リタル儀ニ付折返シ御回答相煩度此段稟議候也

記

一、第四條ノ但書以外ノ出張ノ場合ニハ内國旅費規則第八條ノ適用ヲ受ケサル儀ト思料セラレ候果シテ然リトスレハ在勤廳所在地ノ市町村外ニ出張シタル場合ハ日歸リニシテ六里未滿ノ旅行ナルト否トヲ問ハス第四條ニ定ムル日當ノ全額ヲ支給スル儀ト心得可然哉

二、第六條在勤廳所在地ノ市町村内ノ出張トアルハ第四條ノ但書以外ノ出張ノミヲ包含スルモノト思料セラレ候モ特別用務ノ出張(巡視巡回受訓以外)ヲモ包含スルモノニ候哉

三、第六條在勤廳所在地ノ市町村内ノ出張ニアリテハ日當(宿泊シタル場合ト雖モ)ハ支給セサル儀ト心得可然哉

(乙號) 警保局長回答

(大正十四年七月十四日
内務省北警第二〇號)

四月二十二日附警務第二八五九號御稟伺ニ係ル標記ノ件左記各項ノ通ト御了知相成度

記

- 一、御見込ノ通
- 二、特別用務ノ出張ヲモ包含ス
- 三、御見込ノ通ノ趣旨ニ有之

●警察官吏旅費規則中疑義ニ關スル件

大阪府知事照會 (大正十四年六月十二日)
日會第一三二五號

本年二月貴省訓令第五號ヲ以テ御改正ニ係標記旅費規則中左記ノ廉疑義ニ涉リ候條至急何分ノ御回答相煩度候也

記

- 一、第四條改正本文中殊更ラニ巡回ノ文字ヲ抹消セラレタルハ之以外ノ警察用務ヲモ包含スルノ意ト解セラレ果シテ然リトセハ但書ノ特別用務トハ如何ナルモノヲ指稱スルヤ具體的ニ表示セラレタシ
- 尙前項ノ解釋ヲ正當トスレハ在勤廳所在地内ノ出張ニ對シテハ殆ント旅費ヲ支給スルノ事實ナシ然ルニ當大阪市内ノ如キ膨大ナル地ニ於テハ警察署管轄區域モ亦廣大ナルカ故ニ之ニ對シ旅費ヲ給セサルカ如キハ忍ヒサルモノアリ此ノ場合ニ於ケル特別ノ取扱ヲ設ケラレタシ
- 一、第四條本文ノ反對解釋ヲ以テスレハ在勤廳所在地内ノ出張ニハ旅費ヲ支給スル能ハサルカ如シ果シテ然ラハ第五條ノ巡回月額旅費ハ在勤廳所在地ノミヲ管轄スル警察署員ニハ之ヲ支給シ得サルモノト解シ可然哉

警保局長回答

(大正十四年九月九日)
警發乙第一〇六五號

六月十二日付會第一三二五號會計課長宛御照會ニ係ル標記ノ件左記各項ノ通御了知相成度

記

- 一、第四條但書ノ「特別用務ノ爲臨時出張シタル場合」トハ常ニ豫定セサル特別用務ヲ指示スルモノニシテ改正前ノ「特別用務ノ爲臨時出張スルトキ」ト同一義ナルモ改正後ニ於テハ必スシモ巡回ニ限ラス其ノ出張ト雖特ニ普通旅費ヲ給スルノ要ナキ性質ノ出張ニ對シテハ同條規定ノ制限旅費ヲ支給シ得セシムルノ必要上巡回ノ文字ヲ抹消改正セラレタル儀ニシテ具體的ニ之ヲ表示スルハ困難ナリ各場合ニ付判定スルヲ要ス在勤廳所在地ノ出張ニ付テハ第六條及月額旅費支給ノ規定アルヲ以テ目下ノ處一般旅費支給ノ特別規定ヲ設クルノ必要ヲ認メス
- 一、第五條ノ巡回月額旅費ハ在勤廳所在地ノミヲ管轄スル警察署員ニ之ヲ支給シ得サル趣旨ニアラス必要アルニ於テハ之ヲ支給シ差支ナシ

●旅費支給方ニ關スル件

千葉縣知事照會 (大正十四年八月五日)
日會第七四九號

縣廳所在地外ノ警察署長タル警部病氣引籠中署長事務取扱ヲ本廳勤務ノ警部(巡查教習所教官)ニ命シ取扱期間中警察署ニ引續キ勤務セシムル場合ノ旅費支給方ニ關シ差懸リ左記甲乙丙ノ如キ疑義ヲ生シ候モ甲ノ如ク取扱相成可然哉至急何分ノ御回答相成度此段及照會候也

附記七月二十日病氣引籠中署長事務取扱ヲ命ス

記

甲、事務取扱ヲ命シタル警部出張下命ニ依リ警察署ニ滞在スル場合ハ滞在中管内巡廻ニハ署長相當ノ月額旅費及本廳間ノ往復ニハ普通旅費ヲ支給スヘキモノトス

乙、本件ノ場合ハ教習所教官ト署長事務取扱ノ職ヲ並有スルモノナルヲ以テ警察署ニ引續滞在勤務ノ期間ニ對シ出張滞在ナルニ依リ本人相當ノ普通旅費及管内巡廻ニ對シテハ署長相當ノ月額旅費ヲ支給スヘキモノトス

丙、署長事務取扱ヲ命シタル警部ハ警察署ニ引續滞在ヲ要シ事實上教習所教官タルノ事務ヲ採ルコト能ハサルモノナレハ警察署ヘノ旅費ハ赴任ナルニ依リ赴任旅費ヲ支給シ事故止ミテ本廳又ハ他ニ勤務ヲ命シタル場合ハ相當赴任旅費ヲ支給スヘキモノトス

警保局長回答 (大正十四年九月九日 警發乙第一〇六六號)

八月五日附會第七四九號會計課長宛御照會ニ係ル標記ノ件左記ニ依リ御了知相成度

記

本件ノ場合ハ現在勤務ヲ其儘トシ署長事務取扱ヲ兼勤セシムル場合ナルヲ以テ警察署ヘ出張中ハ管内巡廻共普通旅費ノ支給ヲ要シ巡廻月額旅費ハ之ヲ支給スルノ限ニアラス

右旅費ニシテ他トノ均衡上過給ニ亘ルト認ムル場合ハ警察官内國旅費規則第八條ニ依リ適當ノ制限ヲ加フルコトヲ得

● 巡查退職ノ場合ニ於ケル療治料及給助料給與ニ關スル件

德島縣知事照會

(大正十四年十二月二日 日發第九一四號ノ一)

巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令ニ依ル療治料及給助料給與ニ關シ左記事項ニ付疑義有之候條御意見拜承致度及照會候也

記

一、職務上負傷シタル者其ノ治療中途ニ於テ職ニ堪ヘサル者トシテ退職(依願免職)シタル者アリ右ニ對シテハ給與令第一條ニ依リ退職後ト雖前記負傷ノ治療ヲ要セサルニ至ル迄ハ療治料ヲ給與スヘキモノナルヤ或ハ退職ト同時ニ巡查看守タルノ身分ヲ喪失シタル者ナルヲ以テ退職日ヲ以テ打切り療治料ヲ給與スヘキモノナリヤ

二、前號退職者ニ對スル給助料ハ給與令第二條第一項第二號ニ依リ退職後ト雖治療ヲ要セサルニ至ルヲ待テ給與スヘキモノナルヤ或ハ退職ト同時ニ巡查看守タルノ身分喪失シタル關係上巡查看守トシテノ治療ハ之ヲ要セサルニ至リタルモノト解釋シ直ニ給與シ差支ナキヤ

警保局長回答

(大正十五年一月十日 九日警乙第六四號)

客月二日發第九一四號ノ一ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件左記各項ノ通ト御了知相成度

記

一、前段御見込ノ通

二、前段御見込ノ通

●警察費國庫下渡金算定ニ關スル件依命通牒(大正十五年二月十二日發警第六號 警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

警察費國庫下渡金算定上控除スヘキ費目ニ付テハ明治四十五年六月三日付内務省地第四、九八八號通牒ノ次第モ有之候處同算定ニ付テハ尙左記各項ニ準據シ御取扱相成度

記

一、下渡金算定上控除スヘキ費額

- (イ) 恩給法第十七條ニ依リ國庫其他ノ經濟ヨリ道府縣經濟ニ收入スル分擔金中道府縣警察費ヨリ支出スル恩給又ハ扶助料ニ對スル額
- (ロ) 恩給法第五十九條ニ依リ道府縣警察費支辨ノ待遇職員ヨリノ納金
- (ハ) 府縣制第九十五條に依リ退隱料支給吏員ニ對シ納金ノ義務ヲ命スル府縣ニ於テハ警察費支辨ノ俸給ヲ受クル道府縣吏員ノ該納金
- 二、下渡金算定上加算スヘキ費額
 - (イ) 警察廳舍ニ對スル火災保險料
本費用ハ財産管理費ヨリ支出スル府縣アルモ費用ノ性質上之ヲ警察費ノ一部トシテ加算ノコト尙支出費目モ將來可成之ヲ警察費中ニ統一スルコト

(ロ) 恩給法第十七條ニ依リ道府縣經濟ヨリ支出スル分擔金中警察費ニ屬スル分

●給助料給與ニ關スル件

北海道廳長官照會

(大正十五年五月四日 警務第二七一三號)

明治三十四年七月二十六日勅令第四百九十九號巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令第二條第一號ノ治療二十日以上ニ涉リトアルハ引續治療二十日以上ニ涉リタル場合ノミナルヤ、治療ヲ中斷シテ其日數二十日以上ニ涉リタル場合ヲモ包含スルモノナリヤ且ツ又最初診斷ヲ受ケタル時ヨリ最後ニ診斷ヲ受ケタル時迄(例ヘハ最初負傷當時ニ診斷ヲ受ケ十三日間治療ヲ爲シ二十三日間中斷シテ後一日間治療ヲ爲シ更ニ十七日間中斷シタル後診斷ヲ受ケ全治スルニ至リ此日數五十日間ナルモ實際ノ治療日數ハ十五日間ナリ)ノ場合ヲモ包含スルモノナルヤ第三ノ場合ノ如キハ包含セサル様思料セラル、モ差當取扱上疑義相生シ候ニ付至急何分ノ御回示相煩度此段及稟議候也

警保局長回答

(大正十五年七月五日 内務省發警第四五號)

五月四日付警務第二七一三號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會ノ次第有之候處巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令第二條第一項第一號ニ所謂「治療二十日以上ニ涉リ」トアルハ治療開始後治療ヲ要セサルニ至リタルモノトシテ廢療スルニ至ル迄引續キ二十日以上ニ涉ルモノヲ指稱スルモノト解スルヲ相當ト被認ルルヲ以テ(一)治療開始以來二十日未滿ニシテ一旦治療ヲ要セサルモノトシテ廢療セルモノハ同給與令ノ適用ニ付テハ一事件ノ完結セルモノト認ムヘク(二)其後ニ於テ前回ト同一原因ニ依リ傷痍、疾病ノ再發ヲ見更ニ給與令ニ依リ療治料ノ給與ヲ要スル場合ハ其ノ適用上ニ於テ

ハ新ナル事件トシテ處理スルヲ相當トスヘク此ノ治療期間亦二十日未滿ニシテ治療ヲ要セサルニ至リタル場合ニ於テ
ハ(一)ノ治療日數ヲ合算シ二十日以上ニ涉ルト雖同條第三項ニ依ル場合ノ外給助料ヲ給スルノ限ニ無之ト被存候條御
了知相成度經伺ノ上及回答候也

●巡查看守療治料給助料ニ關スル件

福岡縣知事照會 (大正十五年五月十五
日警發第二六七四號)

巡査職務ノ爲メ傳染病ニ感染シ治療二十日以上ニ涉リタルモ公立傳染病院ニ入院シタル爲メ治療費全部ハ市町村費
ヲ以テ負擔シタリ此ノ場合療治料ヲ支給セサルハ勿論ナルモ給助料ノミ支給シ得ヘキヤ否ニ付疑義アリ即チ巡查看守
療治料給助料及弔祭料給與令第二條ニ依ルトキハ療治料ヲ受クルモノニ對シテノミ給助料ヲ支給スヘキカ如ク規定セ
ラレ之ヲ嚴格ニ解スルトキハ療治料ヲ給セサル限り給助料モ亦給スヘキモノニ非サルカ如キモ實際ハ如斯場合ニ於テ
モ給助料ヲ給スヘキ必要アルノミナラス法ノ精神ニ依リ考察スルトキハ後段ノ如ク解スルヲ妥當カトモ被存候モ其ノ
間疑義相生候條至急何分ノ御回示相仰度此段及照會候也

警保局長回答 (大正十五年十月一
日丘警第二六號)

本件ニ關シ五月十五日警發第二六七四號ヲ以テ御照會相成候處給助料ヲ支給スルヲ相當ト被認候
右經伺ノ上

●巡査退職當月ノ月俸支給ニ關スル件

警務局長照會 (大正十五年八月七日
警々第一六〇五號)

巡査非職務上ノ傷痍疾病ニ基因シ身體若ハ精神ニ衰弱ヲ來シタル者ニ對シ退職ヲ命シタル場合ハ明治三十九年勅令
第二百五十九號巡査給與令第十條第一項第三號ニ依リ當月分月俸全額支給スヘキハ當然ノ儀ト思料候處右同様ノ事由
ニ依リ本人ヨリ辭職願出タル者ニ對シ退職ヲ命シタル場合即チ依願免職ヲ命シタル者モ巡査給與令第十條第一項第三
號ニ該當スルモノノ如ク解セラレ候ニ就テハ之ニ對スル貴省ノ御見解承知致度右照會ス

警保局長回答 (大正十五年十月二
日關警第一一號)

本件ニ關シ八月七日附警々第一六〇五號ヲ以テ御照會相成候處巡査給與令第十條第一項第三號ハ退職ヲ命セラレタ
ル場合ノ規定ニシテ本人ヨリ進ンテ辭職ヲ願出テ依願巡査ヲ免セラレタル者ハ縱令辭職ノ原因カ身體精神ノ衰弱ニ在
リ退職ヲ命シ得ル場合ナリト雖モ同號ノ退職ヲ命セラレタル者ト言フコトヲ得ス隨テ此ノ場合ニ於ケル月俸ハ其ノ當
日迄日割ヲ以テ給スヘキ儀ト被存候
右及回答候也

●巡査弔祭料算定ノ勤續年數ノ計算ニ關スル件 (昭和二年六月一日內務省冲警第
二號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

冲繩縣知事照會 (昭和二年二月四
日警第二六七號)

巡查弔祭料算定ノ勤績年數ノ計算ニ關シ左ノ通り疑義相生シ差掛リタル事案モ有之候ニ付御意見承知致度候條至急何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

記

大正八年十二月巡查ヲ拜命シ引續キ同九年三月ヨリ同十五年八月迄恩給法第三十八條所定ノ邊陲又ハ不健康ノ地域ニ在勤中同地域ニ於テ死亡シタル者ニ對スル弔祭料算定ノ勤績年數ハ巡查看守退隱料及遺族扶助料法廢止ニヨリ恩給法施行令第十五條ニ依ル加算年ハ包含セサルモノト解シ取扱フヘキヤ

警保局長回答

(昭和二年六月一日
内務省沖警第二號)

本件ニ關シ二月四日警第二六七號附御照會相成候處巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令ノ規定ニ依ル弔祭料給與ノ基本トナルヘキ勤績年數ノ計算ニ關シテハ巡查看守退隱料及遺族扶助料法ノ例ニ依ルヘキ規定ナルモ巡查看守退隱料及遺族扶助料法ハ廢止セラレ現行恩給法之ニ代リ制定セラレタルモノナルヲ以テ右勤績年數ノ計算ハ恩給法ノ例ニ依ルヘキモノト解セラレ候從テ恩給法第三十八條所定ノ邊陲又ハ不健康ノ地域ニ在勤セシ者死亡シタルトキハ同施行令第十五條ニ依リ加算シタル勤績年數ニ依リ弔祭料ヲ給與相成可然ト存候

右經伺ノ上

●巡查精勤加俸支給ニ關スル件

兵庫縣知事照會

(昭和二年九月三十日
日警發第五七三號)

大正十二年十月勅令第四四八號ヲ以テ巡查給與令ノ一部改正セラレ精勤加俸ヲ受クル者ニシテ他ノ廳府縣ニ轉勤シタル者ニ對シテモ亦支給シ得ルコト、相成候處右ハ精勤加俸ヲ受クル者ニ限り適用セラルヘキモノニシテ精勤加俸ヲ受ケサル者他ノ廳府縣ニ轉勤シタル場合ニ於テハ支給シ得サル趣旨ニ有之候哉果シテ斯ノ如ク解スルトキハ精勤加俸ヲ受クル者ハ前後在職年ヲ通算スルノ結果トナリ之ヲ受ケサル者ハ更ニ同一廳府縣ニ於テ五年以上勤績セサルヘカラサルコト、ナリ彼此權衡ヲ得サルヲ以テ後者ニ就テモ前後在職年ヲ通算シ勤績五年以上ニ達シ廳府縣長官ニ於テ其ノ精勤ヲ表彰シタルトキハ精勤加俸ヲ支給シ得ルコトニ取扱差支無之哉聊カ疑義相生シ候條何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

警保局長回答

(昭和二年十月二十二日
内務省兵警第一六號)

本件ニ關シ九月三十日附警發第五七三號ヲ以テ御照會相成候處精勤加俸授與條件タル勤績五年ハ同一廳府縣タルコトヲ要シ其ノ二以上ニ五リタル勤績年數ハ之ヲ通算シ得サルモノト被存候
右經伺ノ上

●内國旅費規則中疑義ニ關スル件

(昭和二年十一月十六日内務省兵警第一一號
内務次官ヨリ廳府縣長官宛)

福岡縣知事照會

(大正十五年十二月二十二日
日警發第六五八〇號)

内國旅費規則第六條ニヨリ家族移轉料ヲ支給スヘキ所謂家族ノ意義ニ就テハ單ニ戶籍法ニヨル入籍濟ノ者ノミヲ指稱スルモノナルヤ又ハ入籍未濟ナルモ現實ニ家族ト認メラルヘキ(例ヘハ内縁ノ妻ノ如キ)者ヲモ包含スヘキモノナル

ヤ本縣ニ於テハ從來戶籍法ニヨル入籍濟ノ者ノミトシテ取扱ヒ來リ候モ斯テハ實際上不合理ノ場合不尠即チ本縣訓令警察官署處務規程及巡查服務心得等ニ於テモ警察官吏ニ對シテハ身分監督ノ必要上戶籍法ノ入籍有無ニ不拘結婚セムトスル場合及携帶家族ノ異動ニ就テハ之ヲ所屬長ニ届出ヘキ義務ヲ負擔セシメツ、有之實情ニシテ右ハ獨リ本縣ノミノ取扱ニ無之從テ監督上携帶ヲ拒否スヘキニアラサル限り其ノ携帶スル家族ノ移轉ニ就キ移轉料ノ支給ヲ爲スヘキハ其ノ性質ヨリ思考スルモ極メテ適當ナルノミナラス本年十月五日付内務省石警第五號ヲ以テ警察共濟組合死亡給與金ヲ夫婦ノ實アルトキハ入籍未濟ノ妻ノ死亡ニ對シテモ給與差支無之旨御通牒ノ趣旨ニ鑑ミルモ假令戶籍法上ノ届出未濟ナリト雖所屬署長ニ届出ヲ了シ且所屬長ニ於テ現實ニ家族ト認メラルヘキモノニ付テハ之等（内縁ノ妻）ニ對シテモ家族移轉料ヲ支給スヘキカ相當乎ト思考セラレ此點聊カ疑義相生シ候條何分御回示相煩度

内務次官回答

（昭和二年十一月十六日）
（内務省戶警第一一號）

本件ニ關シ各年十二月二十二日警發第六、五八〇號ヲ以テ警保局長宛御照會相成候處貴縣訓令警察官署處務規程及巡查服務心得等ニ於テ警察官吏ニ對シ結婚若ハ携帶家族ノ届出ヲ爲サシメ之カ承認ヲ與ヘタル者ト雖右ハ將來家族關係ヲ生スルコトノ承認ニ過キササルヲ以テ本人赴任前戶籍法上ノ手續未了ノ者ニ對シテハ家族移轉料ヲ支給スヘキ限ニ無之候條御了知相成度經伺ノ上

●公務上死亡認定ニ關スル件

大阪府知事照會

（昭和三年三月一日）
（警視第五五三號）

巡查カ命令ヲ受ケ自轉車ニ乗シ傳令勤務中位置ノ關係上電車ノ進行ヲ豫知シ得サル踏切ニ於テ電車ト衝突轢死セリ之等ハ巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令恩給法上ノ公務ニ關スル死亡ト認メ得ルヤ否ヤ何分ノ御指揮相仰度
追テ當時ノ勤務ハ衆議員選舉取締ノ爲連日徹宵セル等身體極度ニ疲勞シ居リタルト且其ノ傳令カ急速ヲ要シタル場合ニシテ頗ル同情ニ値スルモノアリ爲念申添候

警保局長回答

（昭和三年三月十四日）
（内務省阪警第一〇號）

本件ニ關シ三月一日附警視第五五三號ヲ以テ御照會相成候處右ハ巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令上公務ニ關スル死亡ト認ムルヲ相當ト被存候
追テ恩給法上ノ解釋ニ付テハ恩給局主管ニ付可然御了知相成度

●巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令ノ規定中

疑義ノ件

（昭和三年四月十四日内務省時警第
四號警保局長ヨリ廳府縣長官宛）

長崎縣知事照會

（昭和三年三月十六日）
（日警收第七五一號）

巡查職務ノ爲傷病ヲ受ケテ死亡シタルニ際シテハ標記給與令第三條ノ規定ニ依リ其ノ遺族ニ弔祭料ヲ給與シ又第一條規定ニ依リ其ノ治療中本人ニ給與スヘカリシ療治料ハ死後ハ同様遺族ニ之ヲ給與スヘキ儀ト存シ候ヘ共第二條第一項第二號ニ規定セル退職ハ本人ノ生存ヲ前提トセルモノニシテ死亡ノ場合ハ之ニ該當セス從テ給助料ヲ給與スヘキ儀ニ無之ト思料致候處明治四十三年十一月十五日千葉縣知事照會ハ反對ノ意見ヲ有スルモノノ如ク認メラレ之ニ對ス

ル貴局ノ回答ニモ疑義ノ點有之候ニ付テハ至急御意見承知致度差掛リタル事實有之此段及照會候也

警保局長回答

(昭和三年四月十四日)
(内務省警保第四號)

本件ニ關シ三月十六日警收第七五一號ヲ以テ御照會相成候處同給與令第二條第一項第二號ノ規定ハ其ノ死亡シタルトキト雖給助料ハ尙之ヲ給與スヘキモノト被存候條御了知相成度經伺ノ上

● 巡查退職ノ場合ニ於ケル療治料及給助料給與ニ

關スル件

(昭和三年七月二十八日内務省警保第一二六號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

大阪府知事照會

(昭和三年六月二日警
親第一、七八八號)

巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令第二條第二號ノ解釋ニ就キ左記ノ通り疑義相生候ニ付御意見承知致度候條至急御回示相煩度此段及照會候也

記

巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令第二條第三號ニ「療治料給與ニ係ル傷痍疾病ニ因リ職ニ堪ヘス退職シ療治ヲ要セサルニ至リタルトキ」ト規定ス依テ公務傷病ノ爲職ニ堪ヘス退職シタル者尙引續キ治療ヲ要スル場合ハ其ノ治療ヲ要セサルニ至ルヲ俟ツテ給助料ヲ支給シ其ノ間ニ要シタル治療費モ亦療治料トシテ支給スヘキモノナルヤ斯クテハ其ノ傷病ノ性質ニ依リ永久治療ヲ要スルモノアリテ療治料モ亦永久支給セサルヘカラサルコト、ナレリ又一說ニハ右ノ場合ニ於テハ退職ニ依リ巡查ノ身分消滅シタルモノナルヲ以テ退職ト同時ニ其ノ傷病モ治療ヲ要セサルニ至リタル

モノナリト認ムヘキモノナリト云フ解釋ヲナスモノアリ何レヲ適當ト認ムヘキカ

警保局長回答

(昭和三年七月二十八日)
(内務省警保第二六號)

六月二日付警親第一、七八八號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ前段御見込ノ通ト存候此段及回答候也

● 巡查給助料給與上ノ疑義ニ關スル件 (昭和三年九月十七日内務省警保第一三二號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

本件ニ關シ警視總監ヨリ照會有之候處左ノ通回答致置候條御了知相成度

記

- 一、巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令第二條第一項第一號ハ療治料ヲ受クル者治療二十日以上ニ涉リ引續キ在職シ死亡シタル場合ニ於テハ之ヲ治療ヲ要セサルニ至リタルトキニ該當スルモノト解シ給助料ヲ給與スヘキモノト認ム
- 二、療治料給與ニ係ル傷痍疾病ニ因リ職ニ堪ヘス退職シタル以上其ノ退職當日治療ヲ要セサルニ至リタル場合ト雖給助料ハ之ヲ支給スヘキモノト認ム
- 三、給助料給與ニ關スル第二條ノ規定中「治療ヲ要セサルニ至リタルトキ」ノ規定ヲ死亡ノ場合ニモ適用スルニ當リテハ其ノ死亡ノ原因ノ如何ヲ問ハス給與スヘキモノト認ム

●警部補在職中死亡シ警部ニ任官セシメタル場合警部補ノ弔祭料支給ノ件

福岡縣知事電報照會 (昭和三年十月十一日)

警部補在職中死亡シタルヲ以テ優遇ノ意味ニ於テ警部ニ任官セシメタシ此ノ場合警部トシテノ死亡賜金ヲ支給セス警部補トシテノ弔祭料ヲ支給シタシ差支ナキヤ返乞フ

警保局長回答 (昭和三年十月十三日)

昨日御電照ニ係ル警部補トシテ弔祭料ヲ支給スルノ件ハ差支ナキモノト認ム

●旅費支給上疑義ノ件

兵庫縣知事照會

(昭和三年十一月二日) 兵警發第五六四號

警察官吏(國費共)ニシテ御大禮用務ノ爲十一月中京都府ニ出張スルモノニ(應援ヲ含ム)對スル旅費支給ニ關シ左記ノ點疑義相生シ差迫リタル儀有之候條何分ノ指示相煩度此段及伺候也

記

旅費支給額ハ昭二年一月十三日勅令第二號大禮費及大禮施設費ノ額ニ依ルヘキモノナルヤ將又大正九年十一月內務省訓令第二五號警察官吏內國旅費規則額ニ據ルヘキモノナルヤ

警保局長回答

(昭和三年十一月十八日) 警保局長警發乙第七號

本月十二日兵警發第五六四號ヲ以テ大藏省京都出張所宛御照會ニ係ル標記ノ件ハ大正九年十一月內務省訓令第二五號警察官吏內國旅費規則額ニ據ルヘキモノト御承知相成度

●警察特別施設費旅費支給ニ關スル件(昭和四年三月十四日內務省熊警第三號) 會計課長、警保局長ヨリ廳府縣長官宛

熊本縣知事照會

(昭和四年二月十四日) 日警第六八八號

昨年七月特別高等警察課新設ニ伴ニ國費支辨ノ警視一名警部二名増員ノ諸費中旅費ハ原則トシテ増員指定セラレタル警視警部ノ出張要務ノ旅費トシテ充當支給シ來リタル處ナルカ増員指定セラレタル右三名中病氣其他ノ事故ノ爲メノ急務遂行上支障アルトキ又ハ要務ノ性質及事情等ニテ増員指定者以外ノ警視警部ヲ以テ其ノ特高要務ヲ遂行セシムル事便益且適切ト認メタルトキ或ハ又特高事務ノ指揮監督ノ地位ニ在ル警察部長ニ於テ特高要務ヲ帶ヒ出張シタル場合ノ如キニ於テハ豫算經理上特別施設費旅費中ヨリ支辨スル方好都合ナルヲ以テ如此小範圍ヲ限定シ其ノ特命者ニ限リ特ニ例外ヲ認メ支給スル様致度キモ豫算ノ性質上如何カトモ存セラレ候條至急何分ノ御指示相仰度此段及稟請候也

會計課長警保局長回答

(昭和四年三月十四日) 內務省熊警第三號

客月十四日警第六八八號ヲ以テ御稟請相成候警察特別施設費旅費ハ特別高等警察事務ノ爲配置セラレタル警視警部ノ要務出張旅費ニ充當スヘキモノニ有之候處右事務ノ遂行上必要已ムヲ得サル場合ニ於テハ他ノ特命者ニ限り之ヲ支給相成可然ト存候經伺ノ上此段及回答候

● 巡查弔祭料算定ノ勤績年數ノ計算ニ關スル件

(昭和五年二月十二日内務省發警第
十二號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

昭和二年六月一日内務省沖警第二號附ヲ以テ巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令ノ規定ニ依ル弔祭料給與ノ基本トナルヘキ勤績年數ノ計算ハ恩給法ノ例ニ依ルヘキモノト解セラルヘキ旨通牒致シ置候處其ノ勤績年數ハ巡查トシテノ勤績年數ヲ指稱スルモノニ有之從テ他ノ公務員トシテノ在職年數ハ弔祭料ノ關係ニ於テハ之ヲ通算スヘキモノニ在ラスト被存候、問合ノ向モ有之依命此段及通牒候也

● 療治料及給助料給與ニ付疑義ノ件

山口縣知事照會 (昭和五年四月四日
日警第一三九號)

巡查職務上傳染病豫防救治ニ從事中該病毒ニ感染治療シタル場合ハ「明治三十四年七月勅令第一四九號巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令」ヲ適用スヘキモノナルヤ又ハ「明治十九年七月閣令第二十三號官吏公務上傳染病豫防等ニ從事シ感染又ハ死亡ノ者手當金給與方」ヲ適用スヘキモノナルヤ將又右勅令及閣令ノ双方ヲ適用シテ療治料及給助料ヲ給與スヘキモノナルヤ差當リタル事件モ有之聊カ疑義相生シ候條至急何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

警保局長回答 (昭和五年五月十日内
務省山警第一號)

本月四日警第一三九號ヲ以テ貴縣ヨリ當局宛御照會相成候標記ノ件ニ關シテハ明治三十四年七月勅令第一四九號ニ

適用スヘキモノト存候經伺ノ上此段及回答候也

● 巡查療治料ニ關スル件

山口縣知事照會 (昭和五年十二月二十
四日警第二六四五號)

巡查職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ之ヲ治療スルニ當リ勤務地ニ適當ナル醫師ナキ爲メ他町ニ於ケル病院ニ自動車及汽車ニ依リ通ヒ或ハ看護ノ爲メ妻ヲ同伴シテ温泉地ニ滞在入湯治療シタル場合ニ於テ前記自動車賃及汽車賃並妻ノ滞在費等ハ明治二十四年七月勅令第一四九號巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令第一條ニ依リ療治料トシテ支拂ヒ差支無之候哉或ハスル費用ハ療治ニ伴フ費用ナルモ同給與令ニ依ル療治料トハ認メ難キヲ以テ之等ノ費用ヲ辨償スル意味ニ於テ給助料ヲ支給セラル、趣旨ナリトモ解セラレ聊カ疑義有之候條至急何分ノ御指示相成度此段及稟議候也

警保局長回答 (昭和六年一月七日警
保局發乙第二三號)

本件ニ關シ客年十二月二十四日付警第二六四五號ヲ以テ當省大臣宛御稟議相成候處傷痍治療ノ必要上自動車又ハ汽車ニ乗車シタル場合ハ其ノ費用ハ療治料トシテ支拂ヒ差支無之候處妻ノ温泉地滞在費等ハ支給スヘキ限ニ無之ト被存候條此段及回答候也

● 鐵道乗車公務運賃割引證ニ關スル件 (昭和五年五月三十一日内務省鐵第
二號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

警察官吏鐵道乗車公務運賃割引證並囚徒運賃割引證様式別紙訓令ノ通相定メラレ候ニ付至急新様式ノ割引證ヲ調製

使用セシメラレ度右申進候

追テ新様式ノ割引證調製迄當分ノ間從來ノ公務證券ヲ其ノ儘使用シ一、二等ニ乘車差支無之候條爲念

別紙

内務省訓第七四三號

廳 府 縣(東京府ヲ除ク)

警察官吏公務運賃割引證及囚徒運賃割引證様式左記ノ通相定メ昭和五年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年四月内務省訓第二一〇號警察官吏等鐵道乘車公務證券及證明書様式ハ之ヲ廢止ス

昭和五年五月三十一日

内務大臣 安達 謙 藏

第一號

警察官吏公務運賃割引證様式

用紙鳥ノ子又ハ洋紙厚紙寸法縦十二糎横九糎

内務省訓第七四三號

別紙

追テ新様式ノ割引證調製迄當分ノ間從來ノ公務證券ヲ其ノ儘使用シ一、二等ニ乘車差支無之候條爲念

使用セシメラレ度右申進候

第 號 公務運賃割引證

區	間	至自	興
氏用者	年身	齡分	當
乘車	引船	等	等
割	率	等	割
年	年	年	年

昭和 年 月 日發行

發行担任官職氏名

赤色線

注 意

- 一、本證ハ公務ヲ以テ旅行ノ場合ニ限り使用シ得ルモノニシテ番號使用者ノ身分、姓名、年齢及發行日付ハ發行者之ヲ記入シテ本人ニ交付スルモノトス
- 二、本證ニ依リ往復乘車券ヲ購入セムトスルトキハ本證二枚ヲ提出スルモノトス
- 三、本證ニ依リ團體乘車券ヲ購求セムトスルトキハ一人一乘車船區間ニ付本證一枚ヲ提出シ當該團體ノ引率者又ハ代表者ノ割引證氏名欄ニ何某外何名ト記載シ其ノ他ノ割引證ニ對シテハ乘車船區間、身分、氏名等ノ記載ヲ省略スルコトヲ得
- 四、本證ハ他人ニ讓渡スルコトヲ得
- 五、本證記載事項ヲ訂正シタル場合ニ於テハ左ノ證明アルモノニ限り之ヲ有效トス
 - (一) 發行者ノ記入スヘキ事項ニ付テハ發行者ノ認印
 - (二) 使用者ノ記入スヘキ事項ニ付テハ使用者ノ認印
- 六、本證ノ有効期間ハ發行ノ日共三十日トス

裏

表

備考 表面左方下部ヨリ右方上部ニ幅〇、二糎ノ赤色斜線一條ヲ劃ス

第一編 警 務

第二號 囚徒運賃割引證様式

用紙及寸法第一號割引證ニ同シ

第 號
囚徒運賃割引證

昭和 年 月 日發行	發行 者 團	乘 車 區 間 自 至	乘 車 票 價 自 至
乘 車 引 等 率 級	使 用 者 氏 名	年 齡	年 限
三 等 五 割	當	當	年

赤化線

注 意

- 一、本證ハ片道乗車券ニ限リ鐵道旅客運賃ノ割引ヲ爲スモノトス
- 二、本證記載事項ハ總テ發行者ニ於テ記入スルモノトス
- 三、本證記載事項ヲ訂正シタルトキハ發行者ノ認印アルモノニ限リ之ヲ有效トス

備考 表面左方下部ヨリ右方上部ニ幅〇、二種ノ赤色斜線一條ヲ劃ス

第一號證ハ警察官吏公務上一等及二等乗車用トシテ、第二號證ハ護送セラル、囚徒用トシテ之ヲ發行スルモノトス

第一號證ハ一等ニアリテハ運賃ノ五割、二等ニアリテハ運賃ノ四割ヲ減シタル額ト共ニ鐵道掛員ニ差出シ之ト引換ニ乗車券ヲ受取ルモノトス

● 巡查公務死亡ニ關スル疑義ノ件

大分縣知事照會

(昭和五年六月二日 警第一、五五四號)

管内中津警察署詰巡查安藤兵藏ハ五月三十一日午後一時頃同署演武場ニ於テ劍道練習ヲ爲シタル直後卒倒シ直ニ醫師ノ手當ヲ受ケタルモ遂ニ別紙診斷書ノ通り現場ニテ死亡シタルモノナルカ同人ハ本年六十四歳ノ老齡ニテ劍道一級平素健康體ナルモ肥滿シ所謂卒中體質ノ者ニ付之ヲ公務死亡ト見做スニ聊カ疑義有之差當リ弔祭料其ノ他支給上必要ニ有之候條至急何分ノ御回報相煩度此段及照會候也 (別紙略)

警保局長回答

(昭和五年六月十九日 内務省分警第三號)

標記ノ件ニ關シ六月二日附警第一五五四號ヲ以テ御照會相成候處右ハ公務ニ依ル死亡ト見做スヘキモノト被存候條御了知相成度經伺ノ上右申進候也

● 巡查療治料給助料ニ關スル件

茨城縣知事照會

(昭和五年六月七日 警第一八一號)

第一編 警 務

松原警察署在勤巡查部長仁平貢ハ昭和四年五月五日管内多賀郡磯原町ニ於テ執行セラレタル町會議員選舉取締トシテ同町ニ出張シ大字大塚雁ノ倉炭鑛地内ヲ視察警戒中同月四日午後十一時頃誤テ同所ニ敷設シアル軌道ニ躓キ高サ八尺ノ所ヨリ墜落シ左大腿部骨折ノ重傷ヲ負ヒ直ニ接骨病院ニ入院引續キ治療中ニ屬スルモ將來身體ノ自由ヲ失ヒ到底繁激ナル警察事務ニ服スルコト能ハサル實情ニ有之右ハ元ヨリ本人ノ過失ニ原因スルモノナリト雖明治三十四年勅令第一四九號巡查看守療治料給助料給與令第一條ニ依リ職務ノ爲傷痍ヲ受ケタルモノトシテ療治料給助料ヲ給與相成差支ナキヤ尙又同條ニ所謂職務ノ爲傷痍ヲ受ケ云々トアルハ全然自己ノ過失ニ基ク負傷ヲ包含セサルモノトノ見解モ有之聊カ疑義相生シ候ニ付至急何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

警保局長回答 (昭和五年七月十七日)

(内務省共警第五號)

本件ニ關シ六月七日付警收第一八一號ヲ以テ御照會相成候處右ハ職務ノ爲傷痍ヲ受ケタルモノ認ムルヲ相當ト被存候

警察官吏内國旅費規則ニ關スル件

(昭和五年八月二十一日内務省發警第一三三號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

官吏其ノ他ノ者ニ對スル旅費減額ニ關スル件七月十日内務省發令第五一七號ヲ以テ通牒相成候處警察官吏内國旅費規則第一號表中ノ乙額ヲ支給スヘキ者ニ付テハ事情已ムヲ得サルモノト認ムル場合ニ限り前記通牒第一項末段ノ趣旨ニヨリ現在支給額ニ止ムルモ差支無之候條御了知相成度依命此段及通牒候也

第六章 警察共濟組合

警察共濟組合事務取扱ニ關スル件依命

通牒

(大正九年九月十一日内務省發衛第二二七號大臣官房會計課長、地方、警保、衛生局長ヨリ廳府縣長官宛)

本年三月勅令第四四號及七月省令第二二號ニ基キ九月十一日警察共濟組合事務取扱規程訓令相成候處尙之カ事務執行ニ付テハ左記ノ通御了知相成度

記

- 一 地方長官ノ掌理スル組合ノ事務ハ總テ廳府縣ノ職員ヲシテ執行セシメラレ度旅費ハ其ノ職員ノ依給ヲ支辨スル經費ヨリ支出セラレタキコト
- 二 地方廳ニ於ケル組合ノ事務執行ニ要スル印刷費、筆紙墨文具、通信費等ノ支出方ニ付テハ本事務ヲ警察官吏ヲシテ掌理セシムル場合ハ警察費ヲ以テ支辨シ其ノ他ノ官吏ヲシテ掌理セシムル場合ハ國費ヲ以テ支辨セラレタキコト
- 三 組合員原票ハ本省ヨリ之ヲ配布シ帳簿等ハ總テ地方廳ニ於テ作製スルコト
- 四 組合員原票ハ一人一枚ヲ限り配布スルモノナルヲ以テ地方長官ニ於テ更ニ必要ト認ムル場合ハ適宜原票ノ複寫ヲ作ルコト

五 規則第十一條ノ醫療ノ範圍ニハ賣藥ヲ含マサルヲ以テ醫師ノ在住ナク且交通不便ノ土地ニ對シテハ規則第二十六

條ニ基ク施設トシテ適當ナル方法ヲ案シ内務次官ニ進達スルコト

六 醫師ヲ招聘シタル場合ノ車馬賃ハ往診料中ニ含まレタルモノハ格別車馬賃ト明記シタルモノハ之ヲ給與セサルコト

七 罹災給與金ハ水害、海嘯、火災、震災、山崩レ、地亡、風害、雪害又ハ火藥其ノ他ノ危險物爆發ノ場合左ノ標準ニ依リ給與スルコト但シ給與ノ額ハ損害ノ額ヲ超ユルコトヲ得サルコト

一、家屋ノ流出全焼倒壊又ハ之ニ準スヘキ損害ヲ生シタルトキハ二箇月以内

二、家屋ノ床上浸水一部ノ倒壊破損又ハ之ニ準スヘキ損害ヲ生シタルトキハ一箇月半以内

三、家屋又ハ家具ノ損害ニシテ前二項ノ程度ニ達セサルトキハ一箇月以内

八 前項ノ外特ニ救済ノ必要アリト認ムル場合ハ罹災ノ狀況被害ノ程度及給與見込額ヲ具シ内務次官ニ協議スル事

九 規則第二十條但書ノ組合員ノ意思表示ハ書面ニ依ルト否トヲ問ハス確證アルヲ要スルコト

十 規則第二十一條ノ規定ニ依リ受領者ノ指定及救済金ノ給與ハ地方長官ニ於テ之ヲ執行スルコト其ノ指定スヘキ者及給與スヘキ金額ハ左ノ各號ニ依ルコト
(大正九年十月十八日社發乙第八)
(二號社會局長通牒ニ依リ訂正)

一、削除 (昭和二年十二月二十七日内務省發警第一〇六號依命通牒)

二、組合規則第二十條ノ該當者(第一項第一號ノ配偶者ニ付テハ昭和二年十二月二十七日内務省廣警第一四號通牒廣島縣知事宛回答左記中ノ第四項ニ該當スルモノヲ含ム)ナキ場合ニ於テ死亡者ノ爲ニ葬祭ヲ營ミタル者アルトキハ死亡給與金ノ三分ノ二ヲ限度トシテ之ニ要シタル實費ヲ葬祭ヲ營ミタル者ニ對シテ給與スルコトヲ得 (昭和

二年十二月二十七日内務省發警第一〇六號依命通牒ニ依リ訂正)

十一 規程第五條ニ依リ細則ヲ定メタルトキハ速ニ内務次官ニ報告スルコト

十二 月俸ニハ功勞加俸及精勤加俸ヲ含ムコト

十三 月俸ハ總テ支給額ニアラスシテ辭令面ニ於ケル月俸額ヲ意味スルモノナルヲ以テ月ノ中途ニ加入又ハ脱退スル者アルモ掛金ハ辭令面ノ月俸ノ百分ノ二ヲ徵收スルコト

十四 月ノ末日ニ加入シタル組合員ノ其ノ月ノ掛金ハ次ノ月俸仕拂ノ時徵收スルコト

十五 規程第十二條ニ依リ算定ハ前月中ノ組合員總人員ノ辭令面ニ於ケル月俸額ニ依ルモノナルヲ以テ月ノ中途ニ加入若クハ脱退シ又ハ中途加入シ其ノ月ノ中途ニ於テ脱退スル如キ者モ總テ組合員總人員中ニ加フルコト

十六 規程第十四條ニ依リ内務次官ニ送金スルトキハ之カ明細書ヲ添付スルコト

十七 規程第十四條ニ依リ準備金ハ組合員ノ救済金ニ充ツル外支出スルヲ得サルコト

十八 本省ニ報告スル組合ノ書類ニ記入スル番號ニハ總テ「共」ノ文字ヲ加フルコト

●警察共濟組合財産管理並送金方法ニ關スル件

依命通牒

(大正十年一月七日内務省九發會第五二)
(三號官房、會計課長ヨリ廳府縣長官宛)

警察共濟組合財産ノ管理並送金方ニ關シテハ夫々適當ナル方法ヲ講シ遺憾ナキヲ期セラレ候儀ト存候得共本省ニ於テ管理スル資金ノ預入ニ付テハ左記六銀行ヲ確實ト認メ預金取引ヲ開始スルコトニ定メラレ而シテ該資金ノ送金ニ付

テハ郵便振替貯金又ハ預金口振込ニ據ルヲ最モ安全有利ナル方法ト存候依テ二者ヲ對比スルニ郵便振替貯金ハ振替ニ依ル拂出及現金ノ拂渡ノ爲ニスル拂出ノ際各相當料金ヲ徴收セラレ且預金利率低薄ニシテ振替ニ日時ヲ要ス然ルニ預金口振込ハ其ノ副報告書(用紙ハ私製葉書)ニ相當郵便切手ヲ貼用スルノミニテ足リ預金利率ハ郵便振替貯金ニ比シ常ニ高位ニ在リ且受信方前者ヨリ迅速ナリ上述ノ如ク預金口振込ハ郵便振替貯金ニ比シ經費利率及速達ノ點ニ於テ優レルヲ以テ本省ニ於テハ預金口振込ノ方法ニ依リ送金可致候條貴縣御取引ノ銀行名ハ預金種別及預金者名義御回示相成度候尙貴縣ヨリ本省へ送金ノ場合ニ於テモ可成右ニ依リ取扱ハレ度就テハ預金口振込方法ハ概略別紙ノ通ニ有之候條御承相成度

追而預金口振込ニ依ラレサル場合ニシテ郵便振替貯金口座ヲ有スル向ハ本省取引銀行ノ振替貯金口座へ直接御振替相成ルヲ便宜ト存候但此場合ハ其ノ都度本省へ其旨御通知相成度又從前通小切手ヲ使用サル、向ハ今後記名式線引トセラレ度且會計課長山田準次郎ヲ受取人ニ指定相成度

所在地	銀行名	預金種別	預金者名義
日本橋區平松町	住友銀行東京支店 (振替貯金口座東京七番)	特別當座預金	
日本橋區駿河町	三井銀行 (同) 東京三三番	特別當座預金	
同區小船町三丁目	安田銀行 (同) 東京二三九番	特別當座預金	內務省
麴町區永樂町二丁目 (東京海上ビルディング内)	三菱銀行丸ノ内支店 (同) 東京一五四〇五番	特別當座預金	山田準次郎

右 同 所	十五銀行丸ノ内支店 (同) 東京六九五〇番	特別當座預金
日本橋區檜物町	川崎銀行 (同) 東京二一三五番	特別當座預金

●警察共済組合收支計算ニ關スル件依命

通牒

(大正十年一月三十一日社發乙第一七號)
(內務省社會局長ヨリ各廳府縣長官宛)

警察共済組合收支計算ニ關シテハ夫々御督勵中ノ事ト被存候處之ヲ從來之實例ニ徵スルニ其ノ取扱區々ニ互リ調査上支障不尠候條爾今左記ニ依リ御取運相成度

追テ右報告書ノ提出ハ甚シク遅延之向有之集計上差支候ニ付期限勵行相成候様致度申添候
記

- 一 給與金並掛金ハ當月分ヲ翌月廿日前ニ必ス收入ヲ了シ少クトモ廿日迄ニ其ノ三分ノ一ヲ送金シ當月分收支報告書ノ當該欄ニ區分記載シテ提出スルコト但シ月俸支給定日以後月末迄ニ加入シタル組合員ニ就テハ此ノ限ニアラス
- 二 前項但書ノ未收入額ハ當月分收支報告書ノ欄外ニ附記シ其ノ額收入済ノ後ニ於テハ翌月分收支報告書中ニ區分掲記シテ報告スルコト
- 三 收支報告書様式第三號注意中「三」ハ之ヲ削除ス
- 四 收支報告書中ニ送金ニ關スル内譯ヲ記載シ送金明細書ヲ省略スル向アルモ右ハ別途ニ提出スルコト
- 五 概算前渡ヲ爲シタルトキハ其ノ種目ヲ分記スルコト

- 六 送金後其ノ額ニ異動ヲ生シタルトキハ收支報告書訂正ノ手續ヲ取運フコト
- 七 送金明細書ハ爾今別紙様式ニ據リ提出スヘキコト

(別紙)

大正 年 月分警察共濟組合送金明細書

送金	高	摘要
184	150	掛金五百五拾貳圓四拾六錢ノ三分ノ一
184	000	給與金五百五拾貳圓ノ三分ノ一
	010	何月分掛金ノ際何々ノ爲不足額
	300	前月分掛金九拾貳錢ノ三分ノ一額(前月分送金後徴收分)
計	460	何々銀行特別當座口振込又ハ何々銀行振出小切手

備考 計算上錢未滿ヲ生シタルトキハ送金額ニ於テ切捨テヌシテ内譯毎ニ切捨ツルモノトス

●警察共濟組合收支報告補正ニ關スル件

通牒

(大正十年十一月十四日社發乙第四〇三號內務省社會局長ヨリ各廳府縣長官宛)

警察共濟組合事務取扱規程第十四條ニ依ル送金後異動ノ場合ニ於ケル收支報告書補正方ニ關シテハ本年一月三十一日附社發乙第一七號ヲ以テ通牒置候處既往ノ實例ニ徴スルニ之レカ手續取運不相成向有之整理上差支不尠候ニ就テハ

右手續精々御勵行相成候様致度

●警察共濟組合收支決算ニ關スル件依命

通牒

(大正十一年四月一日內務省發社會第二四號內務省社會局長ヨリ廳府縣長官宛)

警察共濟組合收支計算ニ關シテハ夫々御精勵中ノ事ト被存候處右決算書別記様式ニヨリ取調毎年度終了後一ヶ月以内ニ本省ニ到着スル様提出相成度

追テ右計算ニ關シテハ豫テ報告ニ係ル收支計算参照ノ上異動ニ關スル附記相成候様致度申添候

大正何 年 度 警察共濟組合收支決算書

廳府縣

事 項	收 入			支 出							差 引						
	掛金	給與金	利子	計	送金	醫療金	死亡給與金	發疾給與金	罹災給與金	脫退給與金							
別 月	四月	五月	六月	七月	以下順ヲ追フ	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	計	殘 額

警察共濟組合事務取扱規程第三條ニ基キ當省ニ提出スヘキ收支報告書ニハ爾今別紙様式(一)ニ依ル救濟金内譯書添付相成度尙證憑書類ニ添付送付セラルヘキ集計表ニ關シテハ大正十年六月二十三日社發乙第一六九號照會ノ次第有之候ヘ共爾今之ヲ廢止シ別紙様式(二)ニ依リ調製ノコトニ御取計相成度

給與種目		(一) 大正 年 月分警察共濟組合救濟金内譯調書				官職別件數		給與金額	
		巡査	消防	合	計				
醫療金	警部補								
	巡査								
	消防								
	合計								
死亡給與金	警部補								
	巡査								
	消防								
	合計								
		組員合計							
		小計	合計	合計	合計				
		父	妻	母	祖父母				
		子	小計	合計	合計				

總計	廢疾給與金				罹災給與金				脫退給與金				族	
	警部補	巡査	消防	合計	警部補	巡査	消防	合計	警部補	巡査	消防	合計	小計	合計

(二) 大正 年 月分警察共濟組合救濟金集計表

證憑書類番號		給與種目	件數	給與金額
至自	號號	醫 療 金		
至自	號號	死亡給與金		
至自	號號	癩疾給與金		
至自	號號	罹災給與金		
至自	號號	脫退給與金		
總計				

●警察共濟組合癩疾給與金請求ニ關スル件

(大正九年十二月七日內務省發社會第四號內務省社會局長ヨリ廳府縣長官宛)

警察共濟組合規則第十三條ニ依ル癩疾給與金ノ請求ヲ受ケタルトキハ規程第七條ニ依リ送付セラルヘキ成規ニ有之候處之ヲ從來ノ事例ニ徵スルニ添付書類ノ内容往々明確ヲ缺クノ嫌有之爲ニ給與金決定上支障不尠候ニ付爾今左記事

項取調添付相成候様致度

記

- 一 救濟事由發生ノ時ニ於ケル月俸額(功勞加俸、精勤加俸等ヲ含ム)
- 二 規則第十三條第三號ノ場合ニ於テハ警察醫ヲシテ當該患者ヲ檢診セシメ其ノ證明書ヲ添付スルコト
- 三 前項證明書中ニ病毒傳播ノ危險アリヤ否ヤヲ特ニ附記スルコト

●警察共濟組合ニ關スル檢診證記載方ノ件

依命通牒

(大正十年三月四日內務省發社會第二四號內務省社會局長ヨリ廳府縣長官宛)

警察共濟組合員ニシテ規則第十三條第三號中肺結核及喉頭結核ニ該當スル場合ニ於テハ客年十二月七日內務省發社會第四六號通牒ノ趣旨ニ基キ警察醫檢診ノ結果夫々具申有之候處之ヲ其ノ後ノ事例ニ徵スルニ該檢診證ノ内容往々明確ヲ缺キ審査上支障不尠候條爾今左記各項ニ準シ記載相成候様致度

記

- 一 病 名
- 二 既往症
- 三 現在症 (打診、聽診、脈搏、呼吸、體溫、咯痰検査成績等詳細)
- 四 經 過

- 五 診 斷 (他人ニ對シ病毒傳播ノ有無等)
- 六 豫 後

●警察共濟組合規則ニ關スル件依命通牒 (大正十年五月十日内務省鳥社會第九號)
(内務省社會局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

鳥取縣知事照會 (大正九年十二月十日共發警第六〇號)

警察共濟組合規則第二十二條ニハ組合員懲戒處分ニ因リ其ノ官ヲ免セラレ又ハ刑事裁判ニ因リ失官失職シタルトキハ救濟金ヲ給與セストアリテ救濟金ノ種類ヲ明記セラレサルモ右ハ

- 一 脫退給與金ノミヲ意味スルヤ
- 二 脫退給與金ノ外免官又ハ失職ノ事由ト因果關係ヲ有スルモノ例ヘハ自己ノ家ニ放火シタルニ因ル罹災給與金、泥醉シテ他人ト爭鬪シ爲ニ負傷シタル等官吏ノ體面ヲ汚損スルモノアリテ懲戒免官セラレタル場合ニ於ケル醫療金ノ如キモ包含スルヤ
- 三 又免官失官以前已ニ救濟金ヲ受領スヘキ權利ヲ生シ居ルモノハ後免官又ハ失官ニ依リ變更セラレサルモノト解スヘキヤノ點

取扱上疑義ヲ生シ居候條御省ノ御意見承知致度此段及照會候也

内務省社會局長回答 (大正十年五月十日鳥社會第九號)

標記ノ件ニ關シ客年十二月十日附共發警第六〇號ヲ以テ御照會有之候處左記ノ通り御了知相成度

記

- 一 脫退給與金ノミナラス規則第九條ノ各種救濟金ヲ總テ包含ス
- 二 懲戒處分又ハ刑事裁判ニ因ル免官失職ノ關係ヲ有スル事實ヲ原因トスル救濟金ハ勿論其免官失職以前ニ給與事實ノ發生シタルモノト雖未タ給與ヲ了セサルニ於テハ等シク救濟金ノ總テヲ給與セサルノ法意ナリトス

●警察共濟組合廢疾給與金請求ニ關スル件

(大正十年九月十九日内務省發社會第一三號)
(七號内務省社會局長ヨリ廳府縣長官宛)

依命通牒

警察共濟組合規則第十三條ニ依ル廢疾給與金請求書送付方ニ關シテハ嘗テ夫々通牒置候處右給與金決定上必要有之候ニ付爾今該請求書送付ノ際ハ左記關係書類添付相成候様致度

追而右請求ハ救濟事由發生後數箇月ヲ經過スル向有之給與上遺憾ニ被存候條相當御留意相成度爲念申添候

記

- 一 本人ノ退職願書
- 二 本人退職當時ノ醫師ノ診斷書
- 三 退職決定書類(退職月日共)
- 四 現俸給(退職當時ノ本俸並加俸)増俸年月日並増俸額

●警察共濟組合癱疾給與金請求ノ件通牒(大正十年九月三十日社發乙第三五二號)
(內務省社會局長ヨリ各廳府縣長官宛)

警察共濟組合癱疾給與金請求書送付ノ際關係書類添付方ノ義ニ關シ九月十九日附內務省發社會第一三七號ヲ以テ通牒置候處右關係書類ハ謄本ニテ差支無之候條御了知相成度

●警察共濟組合警察醫檢診方ニ關スル件

(大正十一年二月十七日內務省一〇視社會第
七二號內務省社會局長ヨリ各廳府縣長官宛)

依命通牒

警察共濟組合癱疾給與金請求書送付ニ際シ警察醫ノ檢診證添付ヲ要スル旨豫テ通牒置候處組合脫退後ニ於ケル本人ノ居所ニシテ警察醫ノ設置ナク從ツテ其ノ在勤所ヨリ甚シキ遠隔ノ地點ニ在リ爲ニ檢診上非常ナル支障ヲ生スル場合ニ限り本人所在ノ開業醫ヲシテ所轄警察署長立會ノ下ニ檢診ヲ了セシメ該檢診證ヲ添付シ差支無之候條爾今右様御了知相成度

追テ右開業醫ノ檢診證添付ノ場合ハ其ノ事由詳記相成候様致度申添候

●警察共濟組合事務取扱ニ關スル件依命

(大正十一年十二月廿六日警保局警發乙第四
三八號警保局長ヨリ各廳府縣長官宛移牒)

通牒

大阪府知事照會 (大正十一年十一月十
八日共第五〇九號)

大正九年九月十一日訓令第一七號第六條第一項中ニ所謂入院料トハ如何ナルモノヲ包含スルモノナリヤ當府管内公私立病院ニ於ケル入院料ノ内容區々ニ涉リ例ヘハ濱地病院ニアリテハ病室、寢具、什具ノミヲ入院料トナシ食費藥價等ハ入院料中ニ包含セシメ居ラス松岡病院ニアリテハ病室、食費、藥價、寢具、什器ヲ悉ク入院料中ニ包含セシメ居レリ各病院ノ入院料規則ニヨリテ入院料ヲ支給スルモノトセハ醫療費支給上公平ヲ缺クノ嫌有之是レカ取扱上統一ヲ期シ度候條入院料ノ内容御指示相成度右及照會候也

警保局長回答 (大正十一年十二月廿六日
警保局警發乙第四三八號)

標記ノ件ニ關シ十一月十八日共第五〇九號ヲ以テ御照會有之候處右ハ病室、寢具、什具、患者ノ食費及藥價ハ之ヲ入院料ニ包含セシメ可然義ト被認候條御了知相成度候

●警察共濟組合事務取扱ニ關スル件依命

(大正十二年三月十七日內務省發警第一
四號內務省警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

通牒

醫療金支給ニ關シテハ組合員打撲、捻挫、脱臼、接骨ニ關シテ接骨營業者及柔道ノ教授ヲ爲ス者ノ柔道整復術ニ依リ治療ヲ爲シ其ノ費用ヲ請求スル場合ニ於テ從來ノ取扱ハ費用領收書ニ醫療上ノ指示ニ基ク旨ノ醫師ノ證明アルコトヲ要シ候處右ハ自今醫師ノ證明ノ有無ニ拘ラス之ヲ醫療ト認メ規則第十一條ニ依リ給與相成様致度

●警察共濟組合醫療金給與ニ關スル件通牒(大正十二年五月十四日內務省發警第
六號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

宮城縣知事照會

(大正十二年三月十日共發第五二號)

警察共濟組合員ニ對スル醫療給與金査定上左記ノ通疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相成度

記

一 組合員疾病ニ罹リ歩行不能ノ爲メ船車馬ニ據リ診療ヲ受クル場合又ハ病狀ニ依リ他ニ入院スル途中ノ船車馬賃ハ醫療金トシテ給與シ差支ナキヤ

警保局長回答

(大正十二年五月十日四日城警第六號)

標記ノ件ニ關シ三月十三日共發第五二號ヲ以テ御照會有之候處右ハ御申越ノ通事實全ク已ムヲ得サル場合ノ乗車船賃ハ之ヲ醫療ニ件フ費用トシテ醫療金ヲ給與相成可然取扱ニ關シテハ事務取扱規程第六條第二項ニ依リ御取計相成度尙治療期間一定ノ區間ヲ鐵道等ニ據リ運賃ノ明瞭ナル場合ハ領收書ヲ要セス所屬長ヲシテ認定センメ可然御算定相成度右經伺ノ上申進候

警察共濟組合災害給與金ニ關スル件

通牒

(大正十二年九月十九日內務省發警第一九ノ三號內務省警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

今般內務省令第三十號ヲ以テ警察共濟組合規則ヲ改正シ災害給與金ハ從來二月分以内ナリシヲ災害ノ狀況ニ依リテハ特ニ三月分以内ヲ給シ得ルノ途ヲ講セラレ候處右ハ大體左記ノ標準ニ依リ給與スヘキ義ニ有之候條右ニ依リ御取計相成度候

追テ流失、倒壞等モ右ニ準シ御取扱相成度申添候

記

死者アリ	家族アル者		家族ナキ者	
	勤務中ノモノ	勤務中ニアラサルモノ	勤務中ノモノ	勤務中ニアラサルモノ
家財全燒	三ヶ月分	二ヶ月半分		
家財全燒	二ヶ月半分	二ヶ月分	二ヶ月分	一ヶ月半分
死者アリ	二ヶ月半分	二ヶ月分		
家財半燒	二ヶ月分	二ヶ月分		
家財半燒	二ヶ月分	一ヶ月半分	一ヶ月半分	一ヶ月分

警察共濟組合死亡給與金請求ニ關スル件

依命通牒

(大正十三年一月四日內務省一二視警第二六號警保局長ヨリ神奈川縣知事宛移牒)

警視總監照會

(大正十二年十一月二十四日警共第八七號)

警察共濟組合事務取扱規程第六條ニ依リ死亡給與金請求ニ付テハ請求書ニ死亡診斷書若ハ死體檢案書又ハ其ノ寫ヲ添付スヘキ規定ニ候處今回ノ災變ニ因リ當廳所屬組合員及家族ニ死亡者アリタルモノニシテ死體檢案書ヲ得サル爲救濟金ヲ請求スル能ハサル者多數有之候條是等特種ノ事情アル場合ハ檢視調書ノ謄本又ハ所屬長ノ證明書ヲ以テ之ニ替ヘ請求シ得ルコトニ御認定相成候様致度此段及稟申候

警保局長回答

(大正十三年一月四日內務省一二視警第二六號)

標記ノ件ニ關シ十一月二十四日警共第八七號ヲ以テ稟申ノ越了承右ハ大正十二年九月一日ノ震災及之ニ伴フ災害ノ爲メ組員或ハ其ノ家族死亡シ救済金請求ノ場合ハ御申越ノ趣旨ニ依リ御取扱相成差支無之候條御了知相成度

●警察共濟組合醫療金ニ關スル件通牒(大正十三年五月一日警保局長發乙第六五七號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

廣島縣知事照會 (大正十三年二月十日共第三一六號)

脚氣病ニ罹リ客年八月十五日ヨリ九月二十日マテ三十七日間醫師ノ醫療ヲ受ケ既ニ醫療金ノ交付ヲ受ケタル者ニシテ同年八月十五日ヨリ同月二十六日マテノ間同一疾病ノ爲乙醫師ニ就キ醫療ヲ受ケタル趣ヲ以テ更ニ之ニ對スル醫療金ノ交付ヲ請求セル者有之候處右ハ甲醫師ニテハ效果涉々シカラサル様自覺シ同時ニ乙醫師ノ醫療ヲ受ケタルモノナル趣ニ有之候條乙醫師ノ醫療ニ就テハ規則第十一條第三項ニ依リ給與スヘカラサルモノト思料候處何分ノ御指示相成度及照會候也

警保局長回答 (大正十三年五月一日警保局長發乙第六五七號)

二月十四日附共第三一六號ヲ以テ内務次官宛警察共濟組合醫療金ニ關シ御照會相成候處右ハ規則第十一條第三項ニ據リ支給スヘキ限りニ無之候條御了知相成度候

●警察共濟組合事務ニ關スル件通牒 (大正十三年四月九日内務省發警第二〇號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

大阪府知事照會 (大正十三年三月四日附共親第四號)

規則第十三條第三號ニ依ル癡疾給與金ノ請求ニ關シテハ大正十年三月内務省發社會第二四號御通牒ニ依リ警察醫ノ檢診書ヲ添付致スコト、相成居候處警察醫ハ大正十年十一月十一日勅令第四三五號ヲ以テ廢セラレ之ニ代ル衛生技師ヲ設置セラレ候然ルニ大正十一年二月内務省一〇視社會第七二號御通牒ニ依レハ尙警察醫ナル文字ノ御使用有之自然警察囑託醫ニテモ差支無之モノト思料セラレ當府ニ於テハ從來當該警察囑託醫ヲシテ檢診セシメ居候處聊カ疑義相生シ候條何分ノ御指示相成様致度此段及照會候也

警保局長回答 (大正十三年四月十一日内務省阪警第二〇號)

三月四日附阪共親第四號ヲ以テ警察共濟組合事務ニ關スル件御照會相成候處右ハ御來示ノ通り警察醫ハ衛生技師技手ト相成候ニ付テハ爾來醫師タル衛生技師技手ノ檢診書ヲ添付スルヲ原則トシ若シ衛生技師官ノ在ラサルカ爲之ニ依ルヲ得サル場合ニ於テハ警察囑託醫ニ依ラルルモ已ムヲ得サル儀ト御了知相成度右經伺ノ上申進候

●警察共濟組合救済金ニ關スル件通牒 (大正十三年六月十一日内務省阪警第一五號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

栃木縣知事照會 (大正十三年四月五日附共第一二號)

警察共濟組員ニ對スル救済金給與上左記ノ通疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相成度

記

一 組員所有ノ實家ニ家族全部ヲ遺シ置キ單身借家居住ノ上他町村ニ於テ勤務中ノ處偶々火災ノ爲メ該實家ハ勿論家財道具全部ヲ燒失セリ

二 組合員借家居住ノ上他町村ニ於テ勤務中偶々火災ノ爲メ組合員所有ノ家屋全部焼失セリ右ノ場合何レモ罹災給與金ヲ給與シ差支ナキヤ

三 組合員肺結核症ニ罹リ退職後癩疾給與金ノ請求ヲ爲サシテ死亡シタリ其後ニ於テ組合員ノ父ヨリ右給與金ノ請求書ヲ提出セリ右ハ癩疾給與金ヲ給與シ差支ナキヤ

警保局長回答 (大正十三年六月十一日)
(内務省板警第一五號)

標記ノ件ニ關シ四月五日附板共發第一二號ヲ以テ御稟申相成候處該書記載左記一、二項共支給ノ限リニ無之第三項ニ付テハ退職ノ日ヨリ一年以内ニ民法ノ規定ニ基キ家督相續人又ハ遺産相續人ヨリ請求アリタル場合ニ於テハ警察共濟組合取扱規程第七條ニ依リ御取計相成可然ト存候右經伺ノ上申進候

●警察共濟組合規則ニ依ル癩疾給與金給與決定ニ關ス

ル件依命通牒

(大正十三年十二月十一日内務省發警
第九六號内務次官ヨリ廳府縣長官宛)

警察共濟組合規則第十三條ニ依ル癩疾給與金ノ請求ニ對シテハ同事務取扱規程第七條ニ依リ總テ内務次官ニ於テ之カ給與ニ關スル決定ヲ爲シ居リ候處同請求ニシテ其ノ原因カ規則第十三條第三號中病毒傳播ノ危險アル肺結核若クハ喉頭結核ニ因リ退職シタルニ由ルモノニシテ廳府縣衛生技術官(醫師タル衛生技師、衛生技手、防疫醫ヲ謂ヒ囑託醫ヲ含マス)ノ診斷檢鏡ノ結果明瞭ニ結核菌ヲ證明シ地方長官ニ於テ給與スヘキモノト被認ル、モノニ限リ爾今取扱規程第七條ノ手續ヲ省略シ内務次官ノ給與決定ヲ經タルモノト看做シ直チニ同第九條ニ依ル給與書交付ノコトニ決定相

成候條御了知ノ上可然御取扱相成度

追テ肺結核及喉頭結核ニ因ル請求ト雖本文ニ該當セサルモノ及其ノ他ノ原因ニ因ル癩疾給與金ノ請求ハ依然取扱規程第七條ニ依リ内務次官ニ御送付可相成義ニ付爲念申添候

●警察共濟組合救濟金請求廳府縣ニ關スル件

通牒

(大正十四年二月十六日内務省視警第一
四號警保局長ヨリ各廳府縣長官宛移牒)

警視總監照會 (大正十四年一月十
四日警共發第二號)

他府縣ヨリ轉屬セル警察共濟組合員ノ轉屬前ニ於ケル醫療金ハ事實發生當時ノ所屬地方長官ニ請求之カ給與ヲ受クヘキ義ト思料セラレ候ヘ共右ニ關シ何等規程無之取扱上疑義相生シ居候條至急何分ノ御指示相煩度此段及照會候也

警保局長回答 (大正十四年二月十六日)
(内務省視警第一四號)

一月十四日付警共發第二號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會ノ次第有之候處組合事務取扱規定第六條ノ「所屬長」及「地方長官」ハ給與ノ事由發生當時ノ所屬長及其ノ地方長官ノ義ニ有之候條御見込ノ通り御取計相成可然

●警察共濟組合救濟金支給者ニ關スル件

依命通牒

(大正十五年一月九日内務省一四阪警第
三八號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

大阪府知事照會 (大正十四年九月二十
四日共親第三三號)

第一編 警 務

標記ノ件ニ關シ左記ノ通り疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相成度候

左記

- 一 廢疾、脫退其他ノ救濟金ヲ脫退後請求シタル者其ノ死亡後ニ給與決定アリタル時ノ該金受領者ハ規則第二十條ノ順位ニヨリ支給支障ナキ哉
 - 二 前號ノ場合ハ大正十三年六月十一日內務省柄警第十五號警察共濟組合救濟金ニ關スル回答第三號ニ準シ家督相續人又ハ遺產相續人ニ給與ス可キ哉
 - 三 規則第二十一條ニヨリ受領者指定ノ場合警察共濟組合事務取扱ニ關シ依命通牒ノ件第十項第一號ノ該當者(婚姻ノ届出ナキモ夫婦ノ實アリト認メラル、者)無キ時ト雖モ死亡給與金外ノ救濟金ニ在リテハ例ヘ同號但シ書ノ他ニ葬祭ヲ營ミタル者アルモ不給與ノ決定ヲ爲シ支障ナキ哉
- 警保局長回答 (大正十五年一月九日內務省一四四警第三八號)
- 九月二十四日附共親第三三號御照會ニ係ル標記ノ件左記各項ニ依リ御了知相成度右經伺ノ上及回答候也

記

- 一 御見込ノ通
- 二 大正十三年六月十一日內務省柄警第十五號回答第三號ハ家督相續人又ハ遺產相續人ヨリノ請求ハ之ヲ適法ノモノトシテ事務取扱規程第七條ニ依リ內務次官ニ送付スヘキコトヲ回答セル義ニシテ救濟金ノ受領者ヲ決定セルモノニアラス

- 三 組合員脫退後死亡ノモノニシテ死亡給與金ハ給與セラレサルモ其他ノ救濟金ニシテ未受領ノモノアル場合規則第二十條該當者及婚姻ノ届出ナキモ夫婦ノ實アリト認メラル、者共ニ無キ場合ニ於テハ大正九年九月十一日內務省發衛第二二七號依命通牒左記第十項第二號ニ準シ救濟金中本人ノ葬祭ニ要シタル實費ニ相當スル金額ヲ給與ノコトニ取扱相成可然

●警察共濟組合救濟金給與ニ關スル件依命

通牒

(大正十五年一月十二日內務省阪警第一號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

大阪府知事照會

(大正十四年十月十日共第六三五號)

警察共濟組合規則第二十三條ニ「救濟金給與事由發生ノ日ヨリ一ケ年內ニ請求ヲ爲ササルトキハ救濟金ヲ給與セサルコトアルヘシ」トアリ依ツテ同明文ニ抵觸スルトキハ其ノ遲延ノ理由ガ救濟法規ノ存在ヲ知悉セス又ハ法規ノ解釋ヲ誤リ其ノ他遺亡シタル等自己ノ過失ニ基因スル場合ノ如キハ絕對ノ時効ト看做スコトヲ得ルモ斯クテハ折角當該組合ヲ設ケラレタル相互救濟ノ主旨ヲ没却スル次第ニ付キ該請求遲延スルモ事實明瞭ニシテ且ツ簿冊整理上支障ナキニ於テハ上記遲延ノ理由カ如上ノ場合ト雖モ可及的給與スヘキ義ト解シ支障ナキ哉聊カ疑義相生候條一度貴官ノ御定見承知致度此段及照會候也

警保局長回答

(大正十五年一月十二日內務省阪警第一號)

十月十二日共第六三五號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件御見込通給與ノコトニ御取扱相成可然經伺ノ上

●警察共済組合救済金ニ關スル依命通牒(大正十五年一月三十日内務省一四佐警第
一〇號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

佐賀縣知事照會 (大正十四年十月二十
九日佐共第二七四號)

警察共済組合規則第十一條ニ依ル救済金(醫療)給與ニ關シ左記ノ通疑義相生シ候ニ付御意見承知致度至急何分ノ御回示相煩度候也

記

- 一 齶齒治療(齒科)ニ關シ護謨、セメント又ハ銀ヲ以テ充填ニ要シタル費用ハ醫療金トシテ給與スヘキモノナルヤ
- 二 蟲様突起炎、腸「チブス」等ニ罹リ發熱シ治療上必要トシテ使用シタル氷代ニシテ醫師ノ證明アル場合ハ醫療金トシテ給與スヘキモノナルヤ

警保局長回答 (大正十五年一月三十日内
務省一四佐警第一〇號)

十月二十九日附佐共第二七四號ヲ以テ内務次官宛御照會相成候標記ノ件ハ左記ノ通御了知相成度經伺ノ上

記

- 一 齶齒治療ニ關シテハ最低限度ノ護謨又ハ「セメント」ノ充填ハ已ムヲ得サル醫療ノ範圍ト認メ醫療金ヲ給與スルコトヲ得ルモ其ノ他ノ充填ニアリテハ給與スルコトヲ得サルモノトス
- 二 蟲様突起炎、腸「チブス」ノミナラス一般ニ熱性ノ疾病又ハ傷痕ニシテ醫療上其ノ必要ヲ缺クヘカラサルモノニシテ醫師ノ指示ニ基キ使用シタルモノニシテ其ノ證明書アルトキハ之ニ對シ醫療金ヲ給與シ支ヘナシ

●警察共済組合醫療金ニ關スル件依命通牒(大正十五年三月十一日内務省阪警第
九號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

大阪府知事照會 (大正十四年九月十
六日親共第三一號)

法定傳染病ニ罹リタル組合員各其ノ住居地市町村設置ノ傳染病院隔離病舎ニ收容セララルニ於テハ無料取扱ヒヲ受ケルニ不拘特ニ當該設備中ノ有料室ニ變更シ又ハ前記以外ノ病院(有料)ニ入院加療シタル場合其醫療金ノ請求アリタル時ハ規則第十一條第三項ニヨリ醫療金ニ要シタル費用ニシテ必要ノ限度ヲ超ユルモノト認メ減額支給スヘキ哉若シ減額スルトセハ其ノ救済金算定ノ標準又前記ノ場合主治醫ニ於テ有料病院ニ入院シタル理由カ醫療上ノ必要ニ基ク旨ノ證明書添附請求シタルトキハ全額支給支障ナキ哉至急何分ノ御指示相成度右及照會候也

警保局長回答 (大正十五年三月十一
日内務省阪警第九號)

九月十六日附親共第三一號御照會ニ係ル標記ノ件左記各項ニ依リ御取扱相成度經伺ノ上及回答候也

記

- 一 傳染病院又ハ隔離病舎ノ有料室ニテ加療ノ場合
照會ノ有料室トハ傳染病豫防法施行規則第三十條ニ依リ地方長官又ハ郡長ノ認可ヲ受ケタル食費、藥價徴收ノ場
合ト認メラルルヲ以テ同費用徴收ノ認可條件ヲ参照シ
- (一) 同費用ノ徴收ニシテ進ンテ本人ノ希望セルニ基キ必要ノ限度ヲ超エタル治療方法ヲ採ル場合ニ行ハル、ニ於
テハ之ニ對シ醫療金ヲ給與スルノ限ニアラス此ノ場合ノ減額シテ支給スル金額ノ標準ハ同病舎中ノ無料治療ヲ受

クル部分ニ收容セラレタル場合ノ要費トス

- (二) 特ニ食費藥價ノ負擔ニ困難ヲ感スルカ如キ貧困者ニ對シテハ其費用ヲ徵收セサル負擔能力アル者ニ對シテハ之ヲ徵收シ無料者ト有料者ト病室ヲ異ニスルカ如キ場合ハ同費用ニ對スル醫療金ハ之ヲ給與スルヲ相當トス
- 二 有料病院ニ入院加療ノ場合

有料病院ニ於テ加療ノ原因ニシテ市町村立傳染病院又ハ隔離病舎ノ都合若ハ治療上ノ不得止ル必要ニ基ク等本人ノ自由ナル希望ニ依ラサル場合ハ一般疾病治療ノ場合ト同様醫療金給與ノコトニ取扱フヲ相當ト認ムルモ個々ノ場合ニ付事實上有料病院ニ入院治療ノ不得止ル事由ノ有無ハ慎重調査ノ上其ノ給否ヲ決定スヘキモノト認ム

●警察共濟組合救濟金ニ關スル件依命通牒(大正十五年七月二十九日内務省阪警第三八號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

大阪府知事照會(大正十五年二月二日十四日親共第六號)

標記ノ件ニ關シ左記各號ノ通り疑義相生候條至急何分ノ御指示相成度

左記

- 一 組合員カ開業醫師ト信シ醫療繼續中該醫師ハ無免許ナルコト發覺シ檢舉セラレタル事實アリ而シテ該組合員ハ其ノ發覺ニ至ル期間ノ代金ハ支拂濟ナリト言フ本件ハ醫療ト看做シ醫療金支給スヘキモノナルヤ
- 一 甲組合員カ乙組合員ノ丙女ト姪養子縁組ヲナシ戶籍ノ手續ヲ了シ同一世帯中丙女死亡シタリ甲組合員ハ配偶者ノ死亡乙組合員ハ自己ノ扶養セル子死亡トシテ何レモ死亡給與金ノ請求ヲナシタル場合ハ同一事實ニ基クト雖モ組合員ヲ異ニスルニ依リ双方共支給ス可キモノナルヤ

員ヲ異ニスルニ依リ双方共支給ス可キモノナルヤ

警保局長回答(大正十五年七月二十日九日阪警第三八號)

本年二月二十四日附親共第六號ヲ以テ御來照ニ係ル標記ノ件ハ左各項ニ依リ御取扱相成度右經伺ノ上及回答候也

記

- 一 組合員カ免許開業醫師ノ如ク裝ヘル無免許ナル醫師ヲ一般ノ免許開業醫師ナリト信シタル點ニ於テ組合員ニ重大ナル過失ナキ場合ニシテ既ニ仕拂濟ニ係ル醫療費ニ對スル醫療金ハ之ヲ給與シ差支ナシト認ム
- 二 (一) 夫タル甲組合員ニ對シテハ當然之ヲ給與スルノ要アルモ (二) 同一ノ家ニ在ル父タル乙組合員ニ對シテハ丙女死亡前後ニ之ヲ扶養シ來レルノ事實アル場合ニ於テハ組合規則第十二條第二號ニ依リ同人ニモ之ヲ給與シ得ルカ如ク解シ得ラレサルニ非サルカ如キモ同一原因ニ對シ同一家内ニ二人ノ救濟金受領者ヲ生スルハ組合救濟金給與ノ性質上妥當ヲ缺クモノナルヲ以テ之ヲ給與セサルモノト解スルヲ相當ト認ム

●警察共濟組合死亡給與金ニ關スル件通牒(大正十五年十月五日内務省石警第五號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

石川縣知事照會(大正十五年六月十七日收警共第九七號)

警察共濟組合規則第十二條ニ依ル救濟金(死亡)給與ニ關シ左ノ通疑義相生シ候ニ付御意見承知致度至急何分ノ御回示相煩度候也

記

一 組合員ニ於テ扶養中ノ入籍未済ナルモ所屬長ニ於テ其ノ婚姻ヲ認可シタル妻死亡シ其ノ葬祭等モ組合員ニ於テ爲シタル場合所屬長ニ於テ其ノ扶養並ニ葬祭ヲ營ミタル事實ノ證明アルトキハ規則第十二條ニ依ル救済金給與スヘキモノナルヤ

警保局長回答 (大正十五年十月五日) (内務省石警第五號)

本年六月十七日附收警共第九七號ヲ以テ次官宛御來照ニ係ル首題ノ件ハ左記ノ通り御了知相成度右經伺ノ上及回答候也

記

戸籍法上ニ於ケル婚姻ノ届出ハ未済ナリト雖夫婦ノ實アリト認メラル、者ニ對シテハ救済金給與相成可然

●警察共濟組合救済金ニ關スル件依命通牒 (大正十五年十月二十六日内務省阪警第(四八號)警保局長ヨリ廳府廳長官宛移牒)

大阪府知事照會 (大正十五年八月二十) (八日親共第三四號)

標記ノ件ニ關シ左記各項ニ對シ給否決定上疑義相生シ差當必要有之候條至急何分ノ御指示相成度

左記

一 組合員ト同一家ニ在ル子大阪市ノ一時救助人トシテ取扱ヲ受ケ入院治療中死亡シタリ組合員ハ該子ニ對シ大阪市ノ一時救助人トシテ取扱ヲ受ケル前ノ扶養ハ勿論死後ノ葬祭モ該組合員ニ於テ營ミタルヲ理由トシ死亡給與金ノ請求ヲ爲シタリ本件ハ警察共濟組合規則第十二條第二號現ニ扶養スル子死亡ト解シ支障ナキヤ

追テ大阪市一時救助人トシテ取扱ヲ受クル者ハ(一)自活ノ道ナク且ツ扶養義務者ナキ者(二)扶養義務者アルモ其ノ義務ヲ履行スル實力ナキ貧困者等ニシテ本件ハ(二)ニ屬ス

二 組合員自動車ニ觸レ負傷シ入院治療ヲ受ケ該治療費ハ他ヨリ融通ヲ受ケタル金額ヲ以テ全額ノ支拂ヲ了シ退院ヲ爲シ其ノ後自動車會社ヨリ前記治療費總額ノ約五割強ニ相當スル慰藉料ヲ受ケ該醫療金ノ請求ヲナシタリ本件醫療金ハ治療全額ニ對シ救済支障ナキヤ

内務次官回答 (大正十五年十月二十六) (日内務省阪警第四八號)

本件ニ關シ八月二十八日親共第三四號ヲ以テ御照會相成候處第一ニ付テハ死亡給與金給與相成第二ニ付テハ醫療費全額ニ對シ醫療金給與相成可然右申進候

●警察共濟組合救済金ニ關スル件依命

通牒

(大正十五年十一月九日警保局長ヨリ廳府廳長官宛移牒) (四〇號警保局長ヨリ廳府廳長官宛移牒)

警視總監照會 (大正十四年六月十) (日警共發第四三號)

警察共濟組合交通事故其ノ他ニ因リ傷痍若ハ疾病ヲ受ケ相手方ヨリ見舞金又ハ慰藉料ヲ受領セル場合ニ於テハ其ノ見舞金又ハ慰藉料ハ警察共濟組合規則第十一條第一項適用上該傷痍疾病ノ醫療費ニ當然充當セシメ不足額ニ對シテノミ給與スヘキヤ或ハ全然之ヲ別個ノモノトシ一般ノ例ニ依ルヘキヤ至急何分ノ御指示相成度候

警保局長回答 (大正十五年十一月八日警) (保局警發乙第一五三四號)

本件ニ關シ客年六月十日警共發第四三號ヲ以テ内務次官宛御照會相成候處御意見後段ノ如ク醫療費全額ニ對シ醫療金給與相成可然右申進候

●警察共濟組合罹災給與金ニ關スル件

通牒

(大正十五年十一月二十日警保局警發甲第一五四號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

栃木縣知事照會 (大正十五年九月二十日 八日栃共發第三一號)

本縣下河内郡吉田村、藥師寺村地方ニ去ル九月四日午前十時四十分頃豪雨ト共ニ俄然大旋風襲來シ爲メ吉田村ニ於テ家屋ノ全潰二十四戸半潰七戸死者二人負傷者十二人藥師寺村ニ於テ全潰十七戸半潰二戸負傷者三人ヲ出シタル事件アリ當時吉田村巡査駐在所(借家)家屋ハ全潰シ勤務中ノ巡査津田國五郎ハ願部ニ微傷ヲ負ヒ加フルニ家財道具ニ對シ金十六圓ノ損害ヲ蒙リタルニ過キサルモ同巡査ハ妻當四十一年養女當二十二年長男當十三年二男當十年ノ家族ヲ擁シ家屋倒潰利那辛フシテ他家ニ避難スルヲ得タリ

又藥師寺村巡査駐在所(村有建物)家屋ハ半潰シ家財道具ニ對シ拾圓餘ノ損害ヲ蒙リタリ時恰モ同巡査駐在所勤務巡査田村義男ハ御警衛勤務トシテ那須御用邸ニ出張不在ナリシ爲メ同人妻當二十四年ハ長女當四年長男當二年ヲ擁シテ是亦辛フシテ避難シ得タリ

右兩者共物品ニ對シテノ損害ハ甚タ少額ナリト雖モ當時ノ慘狀ヨリ考フルニ物質方面以外ニ於テモ亦多大ノ損害ヲ蒙リタルモノアルヘント認メラレ候ニ就テハ前者ニ對シテハ八月俸壹ヶ月半後者ニ對シテハ壹ヶ月分警察共濟組合規則

第十四條ニ依ル罹災給與金ヲ特ニ給與致度ニ付キ御詮議相成度此段稟申候也

警保局長回答

(大正十五年十一月二十日警保局警發乙第一六二三號)

九月二十八日附栃共發第三一號ヲ以テ貴縣巡査津田國五郎外一名ニ對スル罹災給與金ニ關シ次官宛稟請ノ趣了承罹災ニ對スル救濟金ノ義ハ罹災ニ因テ受ケタル損害ノ額ヲ超過スヘキモノニ無之候條御了知相成度

●警察共濟組合救濟金ニ關スル件通牒

(昭和二年五月十六日内務省形警第一四號内務次官ヨリ廳府縣長官宛)

警察共濟組合規則第十三條各號ノ一ニ該當スル傷痍又ハ疾病ニ依リ退官又ハ退職ヲ願出テタル場合ニ於テ優遇ノ意味ニ於テ特ニ警部ニ昇進セシムル等組合員タルヲ得サル他ノ官職ニ任シ即日退官又ハ退職セシメタルトキ及組合員死亡シタル場合ニ於テ優遇ノ意味ニ於テ特ニ警部ニ昇進セシムル等組合員タルヲ得サル他ノ官職ニ任シタルトキハ轉官轉職前ニ於ケル官職ノ儘退官退職又ハ死亡シタル者トシテ救濟金ヲ給與シ差支無之候條自今右ニ依リ御取扱相成度

●警察共濟組合死亡給與金ニ關スル件

依命通牒

(昭和二年十二月二十四日内務省發警第一〇三號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

死亡給與金請求ニ付テハ請求書ニ死亡診斷書又ハ死體檢案書ノ添付ヲ要スヘキ處死體發見セサルカ爲ニ死亡診斷書又ハ死體檢案書ヲ得サルトキ管轄區裁判所ニ於テ死亡事實認定ノ許可アリタル旨ヲ記載シタル市町村長ノ證明書アルトキハ之ヲ以テ救濟金請求ノ手續ヲ爲サシメ差支無之候條御了知相成度

警察共済組合救済金ニ關スル件依命
通牒

(昭和二年十二月二十七日内務省廣警第一四號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

廣島縣知事照會 (大正十五年十月九日 共第一六九四號)

本月五日内務省石警第五號御通牒ニ關シ左記ノ通疑義相成候條至急何分ノ御指示相成度候

記

- 一 本縣ニ於テハ組合規則第十二條第二號ノ配偶者ハ戶籍上ノ手續ヲ完了セル妻ト解シ其ノ手續未了者ノ死亡ニ對シテハ從來總テ死亡給與金ヲ給與シ居ラサルモ右取扱ハ不當ナルヤ
- 二 前項解釋不當ナリトセハ本年一月十二日内務省阪警第一號通牒ノ次第モアリ事實明瞭ニシテ處理上支障ナキ限リ既往ニ遡リ救済事由發生後一年以上經過ノモノニ對シテモ之ヲ給與シ支障ナキヤ
- 三 前第一項ノ解釋不當ニ非ストセハ本文通牒適用ノ時期ニ關シ疑問アリ將來發生ノ事實ニ付テノミ該通牒ノ趣旨ニ依ルヘキヤ又ハ既往何時マテ遡リテ該趣旨ニ基キ取扱フヘキヤ
- 四 組合規則第二十條第一項ノ配偶者ニ關シテハ大正九年九月十一日内務省發警第二二七號及本年一月九日内務省一四阪警第三八號通牒ノ趣旨ニ徵スルモ一般法令ノ解釋ト同様婚姻ノ届出ナキモ夫婦ノ實アリト認メラルモノ(所謂内縁ノ妻)ヲ包含セサル義ト信スルモ前項通牒ト同趣旨ニ解スヘキモノナルヤ又ハ彼此二様ニ解スヘキ義ナルヤ(事實上戸主又ハ兄弟姉妹ヨリ内縁ノ妻ヲ先順位ニ置クヲ至當ト認ムルモノアリ)

警保局長回答

(昭和二年十二月二十七日 内務省廣警第一四號)

大正十五年十月九日附共第一六九四號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件左記ノ通御了知相成度

記

- 一 組合規則第十二條第二號ノ配偶者ニ付テハ大正十五年十月五日内務省石警第五號通牒ノ趣旨ニ依リ御取扱相成度 追テ右通牒ニ所謂「戶籍法上ニ於ケル婚姻ノ届出ハ未済ナリト雖夫婦ノ實アリト認メラル者」トハ社會通念ニ於テ正當ナリト認メ得ル婚姻ヲ爲スト雖家庭其ノ他ノ事情ニ依リ未タ戶籍法ニ依ル婚姻ノ届出ヲ完了セサル者ヲ指稱スルモノナルニ依リ之カ死亡ニ對スル救済金ノ給與ニ當リテハ慎重調査ノ上御取扱相成度
- 二 御見込ノ通
- 三 略
- 四 組合員死亡シタル場合ニ於テ大正十五年十月五日内務省石警第五號通牒ニ該當スルモノハ組合規則第二十條第一項第一號ノ配偶者ニ相當ノモノトシテ自今御取扱相成可然

警察共済組合救済金ニ關スル件

(昭和三年三月七日警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

廣島縣知事照會

(昭和二年十月二十一 日共第一九一二號)

大正九年八月各道廳府縣警察共済組合事務取扱主任協議會重要協定事項中第十五項ニ疾病ヲ未然ニ防ク爲メノ注射ハ醫療ト認メサルコトニ協定セラレ居ルヲ以テ從來右趣旨ニ則リ取扱ヒ來タリタルモ狂犬ノ咬傷ヲ受ケタル者ノ狂犬

病後防ノ爲ニ爲シタル注射ハ治療注射ト同様醫藥金ヲ給與スルヲ至當ト信スルモ一應貴官ノ御定見承リ度、尙咬傷ヲ加ヘタル犬ノ逃走ニ依リ狂犬ナリヤ否ヲ鑑別スル能ハサル場合ニ於テ念ノ爲狂犬病豫防注射ヲ爲シタル者ニ對シテモ同様取扱支障無之哉何分ノ御指示相煩度此段照會候也

警保局長回答 (昭和三年三月七日警保局警發乙第二一〇號)

昭和二年十月二十一日附共第一九二二號ヲ以テ御照會相成候首題ノ件前段ハ必要ノ限度ニ於テ御見込ノ通御取扱相成可然モ後段ニ就テハ咬傷ノ現況ニ徴シ醫師ニ於テ治療上ノ見地ヨリ必要ト認メタルモノニ在リテハ其ノ必要ト認メタル限度ニ於テ前同様御取扱相成可然ト存候

〔參照〕 (大正九年八月開催ノ各道廳府縣事務取扱主任協議會ノ際ニ於ケル重要協定事項第十五項抜抄)

問 血清其他細菌學的豫防治療品ノ注射ハ醫療ト認メテ取扱ヒ差支ナキヤ

答 注射ハ疾病ヲ未然ニ防ク場合ト疾病ノ治療ニ用ユル場合トノ二アリ前者ハ之ヲ醫療ト認メス

警察共濟組合救濟金算定ニ關スル件通牒 (昭和四年一月二十一日警保局警發甲第四七號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

死亡、廢疾、罹災給與金ハ救濟金給與ノ事由發生シタルトキニ於ケル掛金ノ標準タル月俸ニ基キ之カ金額ヲ算出スヘキ義ナルヲ以テ縱令救濟金給與ノ事由發生以前ニ昇増給シタル月俸並加俸ト雖、其ノ昇増給カ救濟金給與ノ事由發生ト月ヲ同ウスルニ於テハ救濟金算出ノ基礎ト爲スコトヲ得サルモノトス然ルニ最近組合員退職或ハ死亡ノ際昇増給シタル月俸並加俸又ハ救濟金請求書ノ提出カ遅延シタル間ニ昇増給シタル月俸並加俸ヲ基礎トシ救濟金額ヲ算出請求

スルモノ漸ク多ク、爲ニ往々過拂トナレル事例アリ事務處理上不便少カラス候條本件救濟金給與ニ當リテハ組合規則第八條第十六條參照ノ上苟クモ救濟金額ノ算出ニ過誤ナキ様特ニ御留意相成度此段申進候

警察共濟組合救濟金ニ關スル件

廣島縣知事照會 (昭和三年一月十二日共第一〇六號)

標記ノ件ニ關シ左記ノ通疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相成度候

記

- 一 社會通念ニ於テ正當ノ夫婦ト認メラルルモ戶籍法上ニ於ケル婚姻ノ届出未済ナル關係上其ノ夫婦間ニ出生シタ子ヲ妻ノ私生子トシテ戶籍法上ノ届出ヲ爲シ組合員ニ於テ現ニ扶養中死亡シタル場合ハ大正十五年十月五日內務省石警第五號通牒ノ趣旨ニ準シ死亡給與金ヲ給與スルモ支障ナキヤ
- 前項ノ私生子ハ組合規則第二十條第一項ノ順位ニ付テモ組合員ノ直系卑屬ニ相當スルモノトシテ取扱支障ナキヤ
- 二 扶養ノ義務アル別居ノ家族(組合規則第十二條第二號後段該當者)死亡ノ場合毎月一定ノ生活費送金ノ事實ナキモノト雖モ組合員所有ノ財産ニ依リ生活中ニ係ル者ノ死亡ニ付テハ死亡給與金ヲ給與スルモ支障ナキヤ
- 前項ノ死亡者ニシテ家督相續ニ依リ組合員カ取得スヘキ財産ニ依リ生活中ナリシ場合モ同様取扱差支ナキヤ
- 三 扶養ノ一部ヲ分擔ノ事實アル別居ノ家族死亡ノ場合例ヘハ甲乙兩組合員協力ニテ扶養中ノ父母又ハ祖父母死亡ノ場合若ハ組合員ト組合員以外ノ家族ト協力扶養中ニ係ル同様ノ者死亡ノ場合各死亡給與金ヲ給與スルモ支障ナキヤ

警保局長回答

(昭和四年十月十五日)
(内務省廣警第七號)

客年一月十二日附共第一〇六號ヲ以テ御照會相成候首題ノ件左ノ通御了知相成度右經伺ノ上
追テ本件ハ自今發生ノモノニ付御取扱可相成義ト御了知相成度

記

- 一 大正十五年十月五日内務省石警第五號通牒ノ趣旨ハ私生子ニ迄之ヲ援用スル趣意ニ非ス
- 二 組合規則第十二條第二號後段該當者死亡シタル場合ニ於テ組合員カ毎月一定ノ生活費ヲ送付セサル者ト雖、組合員カ自己所有ノ財産ニ依リ死亡者ヲ現實ニ扶養シ來タレル事實ヲ適確ニ認メラルル場合ハ之ニ對スル死亡給與金ハ給與スルヲ相當ト認ム
- 組合員カ法定ノ推定家督相續人ナリト雖、未タ相續ヲ開始セサル財産ハ組合員ノ財産ト謂フヲ得サルモノトス、隨ツテ之カ財産ニ依リテ生活中ノ者死亡シタル場合ハ勿論救濟金ハ給與スヘキモノニ非ス
- 三 甲乙兩組合員カ協力扶養ヲ爲シタルモノニ付テハ大正十五年七月二十九日内務省阪警第三八號ノ趣旨ニ依リ主トシテ扶養シタルモノ等給與ヲ適當ト認ム者一名ヲ定メ救濟金受給者ト爲ス。又組合員ト組合員以外ノ者ト協力扶養シタル場合ニ在リテハ之カ死亡給與金ヲ給與スルヲ相當ト認ム、然レ共所謂扶養ノ程度ニ至ラス一部助力ヲ爲シタル程度ト認メラルルモノニ對シテハ給與スヘキモノニ非ス、但本件ハ何レモ箇々ノ問題ニ付實情ヲ嚴重調査ノ上決定セラルヘキモノトス

●警察共濟組合事務ニ關スル件依命通牒

(昭和五年二月五日内務省發警第七號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

警察共濟組合事務ニ關シテハ夫々御配意中ノコトト存候處現金ノ取扱並救濟金給與ニ關シテハ未タ充分ナラサルヤニ被認ルモノ有之候ニ就テハ左記ニ依リ取扱上ノ刷新ヲ計ラレ還算ナキ様御取扱相成度右申進候

記

- 一、醫療金ノ給與ニ往々ニシテ必要ノ限度以上ノ治療方法ヲ受ケタルモノアリテ之カ爲ニ甚シク金額ノ嵩ム向アリ右給與決定ニ付其ノ公平且妥當ヲ期スルカ爲醫師タル衛生技術官ヲ警務課ニ兼務セシメ右決定ニ際シ病狀ト治療方法トヲ對査シ必要ノ限度ヲ審査セシムルコト
- 二、本組合ニ屬スル財産ノ出納管理事務ハ他ニ支障ナキ限り可成内務部會計課ニ移シ取扱上還算ナキヲ期スルコト
- 三、本組合ニ屬スル一般事務ト財産ノ出納管理事務トヲ警務課ニ於テ處理スル向ニ在リテハ之カ取扱者ハ二人以上ト爲シ出納管理事務ト一般事務トハ各別人ヲシテ取扱ハシムルコト
- 四、各所屬署ヨリノ掛金ノ納付ハ本則トシテ組合金管理者預金口座ニ所屬署所在地銀行(可成廳府縣金庫委囑銀行)ニ拂込ミ送付シ現金ヲ以テ直接取扱者間ニ於ケル授受ヲ爲サシメサルコト若シ所在地ニ銀行ナキトキハ線引郵便爲替ニ依ル等最モ正確ナル方法ヲ選ヒ送金セシムルコト
- 五、廳府縣ニ於テハ別記第一號様式ノ受附簿ヲ設ケ所屬長ヨリ救濟金請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ登記整理スルコト

六、所屬長ハ別記第二號様式ノ救済金補助簿ヲ設ケ組合員ヨリ救済金ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ニ記載シ救済金給與ニ至ル迄ノ經過ヲ明瞭ナラシムルコト

(第一號様式)

警察共済組合救済金請求書受附簿

受附番 年 月 日	附 年 月 日	請求金額 円	給與 月 日	否決 月 日	給與 金額 円	否決 金額 円	勤務 部 署	官職 名 氏	名 備	考
月 日	月 日		月 日	月 日						
月 日	月 日		月 日	月 日						
月 日	月 日		月 日	月 日						
月 日	月 日		月 日	月 日						
月 日	月 日		月 日	月 日						
月 日	月 日		月 日	月 日						
月 日	月 日		月 日	月 日						
月 日	月 日		月 日	月 日						
月 日	月 日		月 日	月 日						

注 意

- 一、本簿ハ救済金種類別ニ口座ヲ設ケ各初號ヨリ年度中ヲ通シタル受附番號ヲ附スヘキモノトス
- 二、備考欄ハ左記事項其ノ他必要ナル事項ヲ記入スルコト
 - (イ) 請求金額ニ査定ヲ加ヘタルトキハ其ノ概要
 - (ロ) 請求ニ對シ不給與ノ決定ヲ爲シタルモノハ其ノ事由概要

(第二號様式)

警察共済組合救済金補助簿

所屬長 認 印	受附番 年 月 日	受付 年 月 日	申請 事項	請求金額 円	上申 年 月 日	給與書 到着月日	金券 交付月日	給與 金額 円	官職 氏 名	受領 者 印	備 考
		月 日			月 日	給與書 月 日	金券 月 日				
		月 日			月 日	給與書 月 日	金券 月 日				
		月 日			月 日	給與書 月 日	金券 月 日				
		月 日			月 日	給與書 月 日	金券 月 日				
		月 日			月 日	給與書 月 日	金券 月 日				
		月 日			月 日	給與書 月 日	金券 月 日				
		月 日			月 日	給與書 月 日	金券 月 日				
		月 日			月 日	給與書 月 日	金券 月 日				
		月 日			月 日	給與書 月 日	金券 月 日				

注 意

- 一、受附番號ハ救済金上申ノ番號ト同一ト爲スコト
- 二、申請事項欄ニハ救済金ノ種別ヲ記入スルノ外参考事項ヲ記入スルコト
- 三、受領者印ハ受給者タル組合員又ハ請求者カ金券又ハ現金ニテ給與書記載ノ金員ヲ受領シタルトキニ押捺セシムヘキコト若シ受領印ヲ押捺シ得サル理由アル場合ハ其ノ理由ヲ記載シ押捺セサルコトヲ得

四、所屬長認印ノ外係員ノ認印ヲ記スル向ニアリテハ之ヲ欄外ニ押捺スルコト

●警察共濟組合事務取扱ニ關スル件

(昭和五年三月十九日警保局警發甲第(三二號)警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

首題ノ件ニ付テハ數次通牒ノ次第モ有之銳意改善ニ御努力ノコト、ハ存候ヘ共尙取扱區々ニ亙ルノ事例乏シカラサルハ遺憾トスル所ニ有之、自今左記各項ニ付事務取扱方ヲ劃一ヲ期スル様致度、當局ニ於テモ給與ノ當否ニ付單ニ形式の方面ノミナラス給與ノ内容等實質的の方面ニ付テモ審査ヲ慎重ニシ且時々係員ヲ出張セシメテ事務ノ聯絡統一ニ努ムルコトト致度ニ付此ノ際特ニ御督勵ノ上處理上萬違算ナキヲ期セラレ度申進候

記

一、警察共濟組合事務取扱規程第三條第四條ニ依ル諸報告ノ往々遅延スル向アリ處理上支障有之ニ付期日ヲ遵守スルコト

一、證憑書類ハ警察共濟組合事務取扱規程第二十條ニヨリ前月分ヲ毎月二十日迄ニ送付スルコトトナリ居ルモ之カ判着ノ遅延シ又ハ數ヶ月一括送付セラルル向モ有之審査上支障アルヲ以テ期日ヲ嚴守スルコト

一、警察共濟組合規則第十八條ニ依ル給與事由ノ發生申告書ハ證憑書類中ニ添付送付ノコト但シ警察部ニ於テ保管ノ必要アル向ハ事前ニ其旨報告セラレ度

一、醫療金給與ニ關スル事實調査ニ付テハ實際調査者ノ調査復命書及課署長副申書ハ何レモ證憑書類中ニ添付送付スルコト

第七章 報告、統計、巡閱

●警察事務報告ニ關スル件訓令

(明治三十六年十月五日訓第六一五號)

警察事務ハ各廳府縣互ニ氣脈ヲ通シ協同共助最モ敏活ノ行動ヲ爲スコトヲ要スルハ論ヲ待タサル所ナリト雖モ相互關係ヲ有セサル事項ニ付通報ヲ爲スハ徒ニ行務ノ繁雜ヲ來スニ過キサルヲ以テ他ノ廳府縣ニ關係セサル事件ハ高等警察事務タルト其ノ他ノ警察事務タルトヲ問ハス自今本大臣其ノ他主務大臣ニ申報スル外他ニ通報スルニ及ハサル義ト心得ヘシ

●警察事務報告ニ關スル件通牒

(明治三十六年十一月廿五日警秘第(六六號)警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

近來警察事務ニ關シ警部長ヨリ書面又ハ電報ニテ報告相成候事往々有之候處自今總テ貴官ヨリ御差出相成候様致度爲念此段及通牒候也

●廳府縣令等報告ノ件通牒

(大正二年一月二十日警發第三四(號)警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

日報トシテ報告相成候廳府縣令及告示中其一部改正ノ場合ニ於テハ調査上ノ必要モ有之候ニ付貴廳ニ於テ印刷等ノ餘部有之候ハ、爾來其參照條文便宜御添付相煩度候也

●廳府縣令報告ニ關スル件通牒

(大正八年四月十七日內務省警發第一) (一九號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

廳府縣令發布相成候節ハ內務報告例ニ依リ夫々御報告相成居候處警察取締規則中往々報告漏ノ向有之又印刷物ヲ以テセラレル場合ハ之ヲ美濃紙大ノ料紙ニ貼付シ報告相成候様同例中特ニ注意ノ次第モ有之候處單ニ印刷物ノミ送付有之候爲官廳ニ於ケル出版物トシテ當省ニ納本相成候モノト看做サル、等彼是混淆致候事例不尠候間右様ノ事無之様御配慮ヲ煩度候尙警察取締規則ニ對スル廳府縣令ハ整理上ノ便ニ供シ度義有之候間自然印刷セラレ候等ノ場合ニ於テ殘部相生候ハ、當省ニ報告ト同時ニ一部當局ヘ御送付相煩度右申進候也

●內務報告例

(昭和五年十二月十八日)抄 (內務省訓令第二十二號)

第一條 廳府縣長官、都市計畫地方委員會長、憲兵司令官及稅關長ハ本例ノ定ムル所ニ從ヒ內務大臣ニ報告スルヲ要ス

第二條 廳府縣長官、都市計畫地方委員會長、憲兵司令官及稅關長ノ報告スヘキ事項並其ノ様式及期日等ニ關シテハ別冊ノ定ムル所ニ依ル

附 則

本訓令ハ昭和六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ニヨル別冊ハ別ニ之ヲ頒ツ

大正九年十一月內務省訓第九五〇號、大正十二年七月內務省訓第六六九號、大正十三年六月內務省訓第五六三號及大正十四年七月內務省訓第六五三號都市計畫地方委員會會議事項及要旨報告方ノ件ハ之を廢止ス

(別冊)

凡 例

第一條 凡テ報告ハ本例ノ定ムル區分ニ從ヒ事務報告、統計報告ニ分チ各報告及其ノ封皮ニ夫々「事務」「統計」ト朱書スヘシ

第二條 報告スヘキ事項中重大ニシテ急ヲ要スルモノニアリテハ電信電話等便宜ノ方法ニヨリ先ツ其ノ要領ヲ報告ナシ更ニ本例ノ定ムルトコロニ從ヒ報告スヘシ

第三條 特ニ規定アルモノヲ除クノ外報告ハ凡テ美濃紙大ノ料紙ヲ用フヘシ但諸圖面等ハ此ノ限ニアラス

第四條 廳府縣令法示其ノ他ニシテ印刷シタルモノアルトキハ之ヲ用紙ニ貼付シ報告スルモ妨ナシ

第五條 凡テ報告ハ一事件又ハ一表毎ニ紙葉ヲ改ムヘシ

第六條 各表中員數ハ單位稱呼ヲ明記シ登載スヘキ事項ナキトキハ其空欄ニ縱線(—)ヲ填充スヘシ

第七條 數字ヲ以テ記入スル事實ニシテ前報告ト比較シ著シキ増減アルモノハ其事由ヲ表尾ニ附記スヘシ疑ヲ生シ易キモノ等アルトキ亦同シ

目 次

一、事務報告

第一編 警 務

第一 本省主管ニ屬スル廳府縣令告示

第一一 罹災世帯數百世帯以上若クハ特ニ注意ヲ要スルト認メラル、水火震災其他災害異變

報告期日
即日

第三九 犯罪事件ニシテ異狀ニ屬シ又ハ特ニ重大ナリト認メタルモノ(別ニ報告ノ定アルモノハ除ク)

同

第四〇 警察署ノ位置名稱及管轄區域設定及變更ノ件

同

第四一 火藥類販賣業者住所氏名異動年報

一月末日

第四二 銃砲販賣業者住所氏名異動年報

同

第四三 銃砲製造營業者銃砲修繕營業者住所氏名異動年報

同

第四四 火藥庫所在地棟數及所有者住所氏名異動年報

同

第五〇 罹災世帯數百世帯以上若クハ特ニ注意ヲ要スルト認メラル、水火震災其ノ他ノ災害異變取調表(「災取調表」)

十日以内

二、統計報告(略)

報告期日 十日以内

第五〇 「」災取調表(年月日ノ分) 廳名

市郡	町村名	人		世帯				家屋(棟數)		損害見積(價格圓)
		死	傷	全燒	半燒	流失	床上	床下		
				全燒	半燒	流失	床上	床下		
				計	計	計	計	計		
				住家	非住家	住家	非住家	住家	非住家	
				計	計	計	計	計		
合計										

備考

- 一、本表ハ罹災世帯百世帯以上(都市計畫区域内ニ在リテハ二十戸以上)特ニ注意ヲ要スト認メラル、水火災其ノ他ノ災害ニ關スル取調様式トス但シ森林火災又ハ特別建物ノ災害等ニシテ本表ニ依ルノ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 二、本表ハ官房都市計畫課、警保局、社會局へ各彙通宛報告スヘシ特ニ注意ヲ要スル災害ノ場合ノ外被害百世帯未滿ノ場合ハ官房都市計畫課ノミ彙通報告スヘシ
- 三、埋没等アビタル場合ハ適宜其ノ欄ヲ増加スヘシ
- 四、市郡町村ノ欄ニハ大災害ニシテ其ノ被害ノ廣大ナル場合ハ單ニ市郡名ノミヲ記載シ市郡内一部ノ災害ニ係ル場合ハ市郡町村名ヲ

記載スヘシ

五、本表備考欄ニ左記事項ヲ掲記スヘシ但シ燒失區域圖ハ可成陸地測量部縮尺大ナル圖面ニ當時ノ風向及火元ヲ明示スヘシ

- 一、出火原因
- 二、火元戸主ノ職業
- 三、市街地建築物法ニ依ル地域名
- 四、燒失區域圖
- 五、罹災趾地ニ對スル處置（例整理事業計畫中又ハ建築線ヲ指定スル爲目下調査中若クハ關係土地所有者ニ對シ土地區劃整理ノ施行方ヲ懲懲中等）

記載例

第一項 世帯數

- 一 世帯數ハ普通世帯及準世帯ノ數ヲ計上スルコト
- 二 普通世帯トハ住居及家計ヲ共ニスル者ヲ謂フ
 - 一人ニシテ住居ヲ有シ家計ヲ立ツル者亦同シ
- 三 住居ヲ共ニスルモ別ニ家計ヲ立ツルモノ及家計ヲ共ニスルモ住居ヲ異ニスル者ハ各一ノ普通世帯トス
- 三 寄宿舎、病院、旅店、下宿屋其ノ他家計ヲ共ニセサル者ノ集合スル場屋ニ在ル者ニシテ其ノ家計ヲ共ニセサルモノハ一場屋毎ニ一世帯ニ準ス
- 四 一世帯ニ屬スル建物カ母屋、離屋、納屋又ハ物置等數棟ニ亘ル場合ニ於テ其ノ内ノ一棟ノミ罹災シタル場合ト雖罹災世帯數中ニ掲記スルコト
- 五 前號ノ場合ヲ除クノ外非現住ノ住家、非住家等ニ付テハ罹災世帯數トシテ掲記セス單ニ家屋被害欄ニノミ記入

スルコト

第二項 住家

住家トシテ算スヘキモノハ大要左ノ如シ

- 一 人ノ居住ニ充ツルヲ目的（現住、非現住ヲ問ハス）トスル建物
- 二 人ノ收容ヲ目的トスル建物及之ニ準スヘキモノ
 - (一) 官公署廳舎
 - (二) 學校、圖書館
 - (三) 神社、佛閣（堂守其ノ他ノ監守者アルモノ）
 - (四) 教會、説教所ノ類
 - (五) 公會堂其ノ他公共ノ用ニ供セラル、建物
 - (六) 銀行、會社、法人等ノ事務所又ハ營業所
 - (七) 工場
 - (八) 娛樂場建物
 - (九) 停車場建物
 - (一〇) 病院
 - (一一) 寄宿舎

第三項 非住家

非住家トシテ算スヘキモノ大要左ノ如シ

- (一) 倉庫、土藏、車庫
- (二) 納屋、物置
- (三) 税關上屋

(四) 神社、佛閣(堂守其ノ他ノ監守者ナキモノ)

第四項 全半焼

全半焼ノ區別標準ハ大要左ノ如シ

一 可燃性物ヲ主要材料トスル建物

修補(小修繕ニテ足ルモノヲ除ク)ニ依リ再使用ニ堪フル程度ノ焼失ヲ半焼、再使用ニ堪ヘサル程度ノ焼失ヲ

全焼トス

二 不燃性物ヲ主要材料トスル建物

不燃性ノ部分ヲ除キタル他ノ部分(雜作、家具、商品等)カ三分ノ二以上焼失シタルトキヲ全焼 右ニ違セサ

ル焼失ヲ半焼トス、但シ三分ノ二以下ノ焼失ナルモ罹災ニ依リ建物カ修補ニ依ルモ再使用ニ堪ヘサルニ至リタ

ル時ハ全焼トス

三 一世帯ニ屬スル建物數棟ニ亘ル時ハ世帯ノ全半焼ハ其ノ住居ニ充ツル主タル建物ノ全半焼ノ別ニ依ル

第五項 全半潰

全半潰ノ區別ノ標準ハ大要左ノ如シ

一 修補(小修繕ニテ足ルモノヲ除ク)ニ依リ使用ニ堪ヘ得ル程度ノ倒潰ヲ半潰、使用ニ堪ヘサル程度ノ倒潰ヲ全

潰トス

二 一世帯ニ屬スル建物數棟ニ亘ル時ハ世帯ノ全半潰ハ其ノ住居ニ充ツル主タル建物ノ全半潰ノ別ニ依ル

第六項 棟數

棟數ハ獨立セル建物毎ニ計算ス但シ渡廊下等ニ依リ接続スルモノニシテ其ノ主タル梁ノ接続ナキ建物ハ之ヲ各別棟

ト看做ス

第七項 損害見積額調査範圍

本表ニ掲クル損害見積額ハ通例左記範圍ニ付キ調査スルコト道路、橋梁、河川、堤防、上下水道、田畑等ノ損害額

ハ之ヲ含メサルコト

一 建物

二 家財(官公署會社等ノ什器、什物、工場ノ設備ヲ含ム)

三 商品、在庫品

四 農作物

五 現金、有價證券(有價證券ニシテ再發行可能ノモノヲ除ク)

六 森林

第八項 損害見積額ノ算定

一 建物ニ付テハ全焼又ハ全潰ノ場合ハ建坪ニ依リ災害當時ノ時價ヲ標準トシテ計算シ半焼又ハ半潰ノ場合ハ災害

前有セシ價格ヨリ災害後殘存セル價格ヲ差引タル差額ヲ掲クルコト

二 家財、商品、在庫品、農作物、有價證券ニ付テハ時價ニ依ルコト

三 森林ニ付テハ災害前有セシ價格ヨリ災害後ニ殘存スル價格ヲ差引キタル差額ヲ掲クルコト

●警察巡閱報告書ニ巡閱官々氏名ヲ記シ日誌ヲ

添付スヘキ件訓令

(明治三十四年五月十六日内務省訓令第三七六號廳府縣長官宛)

警察巡閱報告ノ儀ニ付テハ明治二十年訓令第三十六號警察巡閱規則第六條之趣モ有之候處自今右報告ニハ巡閱官ノ官氏名ヲ記シ且巡閱日誌ヲ添付セラルヘシ

●同上ノ件通牒

(明治三十四年五月二十二日發第一九號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

今般訓第三七六號ヲ以テ自今警察巡閱報告書ニハ巡閱官ノ官氏名並ニ巡閱日誌添付ノ儀訓令相成候處右日誌之儀ハ各警察署巡閱ノ月日並訓示應問其ノ他ニ於ケル項目ノミ入用之儀ニ有之概要等ハ別ニ御記載ニ不及儀ニ候條爲念此段及通牒候也

●警察巡閱報告ニ關スル件依命通牒

(明治四十一年九月十七日内務省秘甲第一〇八號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

警察巡閱ハ毎年一回必ラス之レヲ施行スヘキコトニ相成居候處近來各地方ノ狀況ヲ見ルニ其ノ年内ニ完了セサル向少ナカラス隨テ其ノ報告モ遲延シ目下明治三十九年度分ニシテ未タ其ノ報告無之モノ往々有之候然ルニ警察ノ發展ハ其ノ人ヲ得ルト之レカ監督ノ宜シキトニ相待チテ初メテ周到ヲ期シ得ラルル次第ニ付將來御注意之上年内ニ結了報告

相成候様致度又事務官ニシテ全部又ハ一部ノ巡閱ヲ了シ他ニ轉任スル場合ハ其部分ノ復命ハ在職中ノ責任トシテ之ヲ爲サシメ且後任者ニ於テ殘部ヲ實行スルトキハ其復命書ト併テ報告相成候様致度依命此段及通牒候也

●警察巡閱規則ニ關スル件依命通牒

(大正十年九月二日内務省秘第一四八〇號警保、衛生兩局長ヨリ廳府縣長官宛)

先般御會同ノ節諮問相成候警察巡閱規則改正之儀本日訓令相成候處右規則中警視ヲシテ警察巡閱ノ一部ヲ代理セシムルコトヲ得ルコト、爲シタルハ警察及衛生事務ノ現狀並土地ノ狀況等ニ鑑ミ警察部長(警視廳ハ警務部長)ニ限定候ニ於テハ年内全部ノ警察巡閱ヲ實行スルコト能ハス往々缺略ヲ爲スノ已ムヲ得サルコトアルヲ以テ今後ニ於テハ年内必ス巡閱ヲ終了シ缺略候様ノコトナカラシムルノ必要ニ基キタルモノニ有之又舊規則ハ在閱事項細瑣ニ涉リ却テ警察及衛生事務ノ全般ニ涉リテ緊要ノ事項ヲ逸スルノ嫌アルヲ以テ今回ハ大綱ヲ列舉シ巡閱官ノ任意裁量ニ依リ充分在閱セシムルコト、爲シタル儀ニ有之候間如上ノ趣旨巡閱官ニ御示達ノ上警察巡閱ノ實行ニ努メシメ警察及衛生事務ノ實績ヲ擧クル様御配慮相煩度尙本件ノ施行ニ付左記事項御承知相成度候

記

- 一、巡閱ノ施行ニ付テハ毎年其ノ當初ニ於テ巡閱ノ日取等豫定計畫ヲ立テシメ已ムヲ得サル事由ノ生セサル限り計畫通實行セシメラレ度事
- 二、規則第四條第二項ニ依ル當省大臣ヘノ警察巡閱概況報告書ハ警察及衛生事項ノ大體ヲ知ルヲ以テ足レリト爲スモノニ有之候間簡明ヲ旨トシ詳細ニ涉ルヲ要セサル儀ニ有之候尙本報告書ハ警察ニ關スル事項ト衛生ニ關スル事項ト

ヲ各別冊ト爲シ又外事警察ニ付重要ノ關係ヲ有スル地方ハ高等警察ニ關スル事項中ニ別項トシテ掲記セラレタキ事
 三、巡閱官ノ意見書ハ代理官ヲシテ巡閱ヲ爲サシメタル部分ニ於ケルモノト各別ニスル必要無之候得共巡閱日誌中ニ
 ハ官氏名ヲ各別ニセラレタキ事

四、衛生事務ノ巡閱ニ付テハ可成技術官ヲ隨行セシメ衛生技術ニ關スル處理ノ實際ニ就キ査閲セシムルト共ニ直接衛生事務ヲ指導セシムルノ機會ヲ與フル様致度事

北海道廳長官ニハ左ノ追書ヲ加フ

追而貴廳ニ於テハ從來警察巡閱規則ノ施行無之今回改正規則發令ニ付他地方同様施行候儀ハ貴管下ニ於ケル土地ノ狀況ニ徴シ又之ニ件フ經費等ノ關係モ有之實行不能ノ場合可相生ト存規則第六條ニ於テ例外ヲ認メタル儀ニ有之候間同條ニ依リ規定ヲ設ケラルル場合ニ於テハ全管内ヲ順次三年ニ涉リテ巡閱シ若ハ警察部長、警察部勤務ノ警視ニ於テ隨時出張ノ機會ヲ利用シ出來得ヘキ程度ニ於テ巡閱ヲ行ハシメ又ハ警察署長ヲシテ大體規則第三條ノ列記事項ニ準據シ警察部長ノ巡閱ニ代ヘ其ノ所屬分署ノ事務ヲ査閲セシムルコト、爲ス等適應ノ御措置相成様致度候

●警察巡閱ニ關スル件依命通牒

(大正十五年九月十四日警保局警發第一二二三號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

警察巡閱ハ警察巡閱規則二條ニ依リ毎年實行スルヲ要スルニ拘ラス往々未完了ノ向有之候處警察事務ノ改善ヲ圖リ其ノ實數ヲ期スル上ニ於テ寔ニ遺憾ノ儀ニ有之警察巡閱規則中警視ヲシテ巡閱ノ一部ヲ代理セシメ候ハ年内ニ全部ノ巡閱ヲ終了セシムル趣旨ニ出テタル儀ニ有之候間將來必ス之ヲ完了セシムル様御配慮相成度尙本件巡閱ノ實行及報告

等ニ關シ其ノ取扱區々ニ亘リ候様被存候ニ付將來ハ左記ニ依リ御措置相成度右申進候
 追而大正十年九月秘第一、四八〇號警保衛生兩局長通牒追書ノ次第御勵行相成度候

記

- 一、規則第二條ニ所謂毎年ハ曆年ニ依ルモノナルコト
- 二、巡閱ノ際ハ前巡閱後ヨリ巡閱當日迄ノ書類ヲ査閲スルコト
- 三、巡閱ハ査閲シタル書類ノ年度ニ拘ラス巡閱實行當時ノ年度ノモノトシテ取扱ノコト

第八章 廳府縣令制定 訴願

●屋上制限規則制定ノ件依命通牒

(明治四十年十月三十日内務省英乙第一三九號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

本年七月十二日附ヲ以テ屋上制限規則制定ノ件御報告相成候處神社ノ建造物ニ關シテハ明治八年太政官達第五百十九號達ノ規定モ有之候ニ付右規則ハ之ヲ神社ノ建造物ニ適用セサルコトニ改正相成候様致度依命此段及通牒候也

參照

明治八年太政官達第五百十九號ハ官國幣社及府縣郷社共古來ノ制式保存方

●廳府縣令中構造制限規定ニ直ニ罰則ヲ付スヘカラサル件 依命通牒

(明治四十一年一月十四日內務省四〇玉乙)
第二三一號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

廳府縣令中警察取締ニ屬スルモノニシテ營業用ノ車體並附屬器具建築物其ノ他ニ對シ構造制限ノ規定ヲ爲シ之ニ適合セサル場合ニ於テハ相當制裁ヲ附スルコトニ相成居候向々有之中ニハ構造落成後廳府縣令所定ノ事實ニ適合スルヤ否ヤニ付警察官署ノ検査ヲ受ケタル後ニアラサレハ使用スル能ハサルノ規定ヲ特設セルニ拘ラス尙制裁ヲ附スル向モ有之候得共是等營業用ノ車體及建築物等ノ構造制限ニ適合セサルモノヲ使用シタル場合ニ於テ初メテ相當制裁スヘキ筋合ノモノニ可有之其未タ使用セサルモノニ對シ之ニ制裁ヲ附スルハ規定上穩當ナラサル儀ト被存候條將來廳府縣令制定ニ際シテ構造制限ニ違背セサルモノヲ使用シタル者ニ對シ制裁ヲ附スル様御規定相成度又既ニ發令相成居候モノノ内本通牒ノ趣旨ニ副ハサルモノ有之候ハ、相當訂正相成様致度依命此段及通牒候也

●舊刑法時代ノ縣令ニシテ拘留科料ノ罰則アルモノヲ

新法ノ刑ニ更改ニ付注意方ノ件依命通牒

(明治四十一年十二月一日內務省警甲)
第三八號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

先般公布相成候警察犯處罰令ニ於テ其ノ罪ヲ分チテ三種トシ拘留刑ニ處スルモノ拘留又ハ科料刑ニ處スルモノ及ヒ科料ニ處スルモノニ區分セリ然ルニ地方命令中往々右處罰令ニ重複スル規定ヲ有シ殊ニ其制裁ニ於テ例ハ處罰令ニ依リテハ拘留又ハ科料刑ヲ以テ處分スルニ拘ラス科料刑ヲ以テ處分セントシ科料刑ヲ以テ處分スルモノニ對シ拘留又

ハ科料ノ刑ヲ以テ處分セントスルノ規定ヲ爲シ又ハ處罰令ニ於テ科シタル刑名ト同シキモ其ノ範圍ヲ異ニスルモノ等有之右ハ處罰令ニテ罪ヲ區分シタル主旨ニ副ハサル儀ニ有之候尙從來施行セラレ居ル地方命令中ノ罰則ニ對シ包括的ニ之ヲ改メ總テ新法ノ範圍ニ依ル刑ヲ以テ處分セントスルノ規定ヲ公布セラレ候向有之候右ハ刑法及明治二十三年勅令第二〇八號改正ニ伴ヒ地方命令ニ附スヘキ罰則ノ範圍擴張シタルニ付夫々地方命令ニ整理ヲ加ヘラレ且此ノ範圍内ニ於テ適宜ノ刑ヲ科スルハ機宜ノ御措置ニ可有之候得共右地方命令中ニハ法令ノ下ニ規定スヘキ施行細則等モ有之候ニ付テハ自然細則ノ刑ハ本則ノ刑ニ比シ却テ重キ場合ヲ生シ又墓地埋葬取締規則ノ如キニ在リテハ舊刑法ノ拘留又ハ科料刑ヲ以テ處罰スヘキコトニ相成居候ニモ拘ラス尙刑法ノ罰則ヲ適用セラル、結果ヲ生シ不都合ノ次第ニ存候條右御舍ノ上右二件ニ該當スルモノ有之候ハ、相當御措置相成候様致度依命此段及通牒候也

●各地方命令ニ於ケル罰則ノ規定ハ包括的ナルコトヲ避ケ是等

罪ノ構成有無ヲ明瞭ナラシメ度依命通牒

(明治四十二年二月十五日內務省京乙)
第七號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

各地方命令ノ罰則ノ規定ニシテ往々「本則ニ違背シタル者又ハ本則ニ依リ發シタル命令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス云々」ノ記載ヲ爲ス向有之候處其ノ規定ノ包括的ナルカ爲各條項ノ規定違反ノ場合ニ於テ罪ヲ構成スルヤ否明確ナラス例之ハ家屋構造制限ノ規定違反ノ如キ直ニ處罰セラル、ヤニモ相見エ穩ナラサルニ付テハ自今是等罰則ハ各別ニ制裁ノ規定ヲ爲スカ又ハ除外ノ規定ヲ設ケル等罪ノ構成有無ヲ明瞭ナラシメ候様致度依命此段及通牒候也

●縣令ヲ以テ強制健康診斷ノ規定ヲ設ク

(明治四十五年二月八日內務省四四警第
三三二九號警保局長ヨリ新潟縣知事宛)

ヘカラサル件通牒

先般御報告相成候貴縣令料理屋待合茶屋取締規則第九條中警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ業務従業者ノ健康診
斷ヲ行フコトヲ得ルノ規定有之候處右ハ法制上支障之ナシトスルモ花柳病其ノ他傳染性疾患ノ兵員等ニ對シ著シク關
係ヲ及ホス等難差置場合ハ兎ニ角自今ニ於テ警察官署自ラ健康診斷ヲ行フハ穩當ナラサル儀ト存候

殊ニ前記二條末項ノ規定ニ係ル從業者以外ノ者ニ對シテモ之ヲ準用候ハ不必然儀ト存候間共ニ削除相成度

(以下略ス)

●法人處罪規定制定方ニ關スル件通牒

(大正十三年二月二十三日司法省刑事局刑事
第一九〇一號司法次官ヨリ廳府縣長官宛)

從來法人ニ關シテハ訴訟上當事者能力ヲ認メサリシ結果廳府縣令中法人ヲ處罰スヘキ場合ニ其代表者ヲ以テ被告人
ト爲ス旨ノ規定有之候處本年一月一日ヨリ施行ノ改正刑事訴訟法第三十六條ニ依リ法人ニモ當事者能力ヲ認ムルニ至
リタルヲ以テ爾後斯ル場合ニハ法人自體ヲ被告人ト爲スヘキ代表者ヲ以テ被告人ト爲スヘキモノニ非サルニ拘ラス今
尙代表者ヲ以テ被告人ト爲ス旨ノ規則制定セラル、向有之解釋上疑義ヲ生スル虞有之候條廳府縣令制定ノ際ニハ右ノ
點御留意相成候様致度爲念及通牒候也

●訴願ハ他人ニ委任シ代人ヲ以テ提起シ得ルノ件

(明治二十九年七月三日內閣通第六
三號內閣書記官長ヨリ內務次官宛)

通牒

訴願ハ他人ニ委任シ代人ヲ以テ提起スルヲ得ヘキカ否ノ件ニ付農商務大臣ヨリ閣議ニ提出相成候次第有之候處左ノ
通り指令相成候間此段及御通牒候也

農商務大臣請議ニ對スル指令

訴願ハ他人ニ委任シ代人ヲ以テ提起スルヲ得ルカ否ノ件ハ他人ニ委任シ代人ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得ルモノ
ト心得ヘシ

明治二十九年六月二十六日

●訴願法第一條第六號ノ地方警察ニ關スル事項ノ件

(明治三十五年三月五日警甲第一五
號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

通牒

廣島縣知事照會

(明治三十五年一月二
十一日警坤第六號)

訴願法第一條第六號ノ地方警察ニ關スル事項トハ普通警察ニ對シ自治團體ノ警察ヲ指稱シタルモノ、如キモ本邦ニ於
テハ現今未タ自治團體ヨリ發布スルノ警察令ナク地方官廳ヨリ發スル命令ノ如キハ外形上稍地方警察ト認ムヘキカ如
キモ是亦法律ノ委任ニヨリ國家警察權ノ執行ヲ爲スモノナレハ此點ノ觀察ニ於テハ我國ニテハ未タ眞成ノ地方警察ト

稱スヘキモノナシ就テハ訴願法ノ適用上地方警察ノ文字ハ其ノ事件ノ關スル利害ノ廣狹ニ依リ之ヲ普通警察ト區別シ一般國家ノ利益ニ影響スルモノハ普通警察ト爲シ一地方ノ利害ニノミ限ラル、モノハ地方警察ト認メ處理スルノ外無之ト存候得共誤謬無之哉又前項果シテ意見ノ通トセハ墓地取締規則ニ依リ碑表建設ヲ許否スルハ賞功旌表ノ典ト相待テ國家ノ風紀ニ關係シ普通警察ノ範圍ニ屬スルハ勿論訴願法第一條六號ノ範圍外ト認メ候得共是亦誤謬ナキカ目下差掛ル事件有之候間右兩項トモ至急御意見承知致度此段及照會候也

警保局長回答 (明治三十五年三月五日警甲第一五號)

客月二十一日付警坤第六號ヲ以テ訴願法第一條第六號ノ地方警察ニ關スル事項ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ總テ御意見之通ト思考致候本件經伺之上此段及回答候也

第九章 雜

●警察署ニ於テ領置シタル金品(出納官吏ノ保管ニ

付セサル前)盜難ニ罹リタルモノ處分方ノ件通牒

大分縣知事伺 (明治二十九年八月十五日 日警收内第一七五號)

警察ニ於テ拘留又ハ留置シタル者ノ所持金品ヲ領置シタル時其保管ハ出納官吏(金錢ハ現金出納官吏)ニ於テ其責ニ任スヘキハ當然ナリト雖モ實際ニ於テ出納官吏タルモノハ晝夜ノ區別ナク常ニ警察署ニ在テ事務ヲ執ルコト能ハサル

ナリ故ニ警察署長若クハ次席警部巡查部長又ハ特ニ命ヲ受ケタル巡查ニ於テ其領置シタル金品ヲ一時監守スルコトアルハ誠ニ已ヲ得サル事實ナリ然ルニ若シ其未タ出納官吏ニ引渡サル、以前ニ於テ該金品ノ盜難ニ罹リタル時ハ何人ニ於テ其責任ヲ負フヘキモノナリヤ疑義相生シ候得共徵スヘキ前例據ルヘキ條規共ニ無之候就テハ左項ノ通相心得可然哉此段相伺候也

追テ差掛リタル儀有之候條可相成丈ケ速ニ御指令相成候様致度此段申添候也

一、警察署ニ於テ拘留又ハ留置スル者ノ所持スル金品ノ保管ハ出納官吏(現金ハ現金出納官吏)其責ニ任スヘキハ論ヲ待タスト雖モ拘留又ハ留置セラルヘキ者ノ身體衣袖隱套等ヲ搜檢シテ其ノ所持セル金品領置ノ手續ヲ爲スハ警察署長若クハ次席警部巡查部長又ハ特ニ命ヲ受ケタル巡查ノ職責ニ屬スルモノニ付拘留人若クハ留置人所持ノ金品ハ直ニ之ヲ出納官吏ニ引渡スヘキモノナリト雖モ若シ其出納官吏在署セサル爲メ警察署長若クハ次席警部巡查部長又ハ特ニ命ヲ受ケタル巡查ニ於テ一時之ヲ監守シ未タ出納官吏ニ引渡サル、以前ニ在テ該金品ノ盜難等ニ罹ルコトアルモ出納官吏ハ未タ其保管ニ屬セサル金品ナルニ依リ責任上全ク關係ナキモノニシテ警察署長若クハ次席警部巡查部長又ハ特ニ命ヲ受ケタル巡查ニ於テ其責ニ任スヘキモノトスヘキヤ

一、警察署長若クハ次席警部巡查部長又ハ特ニ命ヲ受ケタル巡查ノ責ヲ負フヲ以テ當然ナリトスルモ會計法ノ規程ニ據テ之レカ制裁ヲ受クルニアラスシテ官吏懲戒例又ハ巡查懲罰例ニ據リ戒飭ニ止ムヘキヤ

一、領置金品盜難ニ罹リタルトキ該犯人捕ニ就カス若クハ例ヒ捕ニ就クモ該金品現存セサルトキハ官之ヲ賠償スヘキハ當然ナラン而テ賠償金ハ府縣費賠償及訴訟費(國費)ヨリ支出スヘキヤ

警保局長回答 (明治二十九年十二月十六日分甲第七二號)

警察署ニ於テ領置シタル拘留人又ハ留置人ノ所持金品ニシテ出納官吏ノ保管ニ付セサル前盜難ニ罹リタル場合ニ於ケル賠償責任等ノ儀ニ付本年八月十五日付警收内第一七五號ヲ以テ伺出相成候處右ハ出納官吏ニ其責任ナキハ勿論ノ義ニシテ該金品ノ盜難ニ罹リタル爲メ若シ被害者ニ賠償ヲ要スルトキハ國庫ニ於テ負擔スヘキモノト存候而シテ警部巡查ニ於テ職務上ノ過失アリタルトキハ官吏懲戒例及巡查懲罰令ニ依リ處分スヘキ筋ト思考候本件ニ對シテハ別ニ指令ニ及ハス依命此段及通牒候也

追テ支出科目ハ御見込ノ通ニテ可然ト存候此段申添候

町村會ノ議決ニ由リ其町村駐在ノ巡查ニ金品物品等

贈與ノ節受領方ノ件

警視總監伺 (明治二十九年十二月十七日第二〇三號)

町村會ノ議決ヲ以テ其町村駐在巡查ノ職務勤勞ニ對シ感謝ノ意ヲ表センカ爲メ慰勞トシテ金員又ハ物品等町村長ヨリ贈與ノ儀申立ノ向有之右ハ小官ニ於テ服務紀律上差支ナシト認ムルトキハ受領セシメ妨ナキ儀ト思考候ヘ共爲念相伺候條何分ノ御指示相成度此段請訓候也

內務大臣指令 (明治二十九年十二月二十七日內務省指令視甲第一〇一號)

本年十二月十七日第二〇三號伺町村會ノ議決ニ由リ其町村駐在巡查ニ金品等贈與ノ節受領方ノ件ハ伺之通

警察官ノ稱呼ニ關スル件依命通牒

(明治三十三年五月二十一日警甲第二〇號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

警察官ノ稱呼ハ左ノ通り一定相成度依命此段及通牒候也

警察官吏ハ廳府縣長官又ハ之ト同格以上ノ官吏ニ對シテハ閣下ノ敬稱ヲ用キ其ノ他ノ上官又ハ之ト同格ノ警察官ニ對シテハ殿ノ敬稱ヲ用キ官名又ハ職名ヲ稱呼スヘシ

同班又ハ下班ニ對シテハ官名又ハ職名ヲ稱呼スヘシ

他府縣ニ涉リ課長又ハ主任者ノ聯合會同ニ

關スル件訓令

(明治三十四年十一月五日內務省訓第八五六號廳府縣長官宛)

警部長ノ會同ニ關シ明治二十八年六月訓第四五五號ヲ以テ訓令及置候處自今課長若クハ主任者ニ就テモ同様他府縣ニ涉リ聯合會同セシムルノ必要アル場合ニ於テハ其理由ヲ詳具シ經伺ノ上取計ハルヘシ

印紙消印ニ關スル件通牒

(明治四十年六月十五日警發第一三號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

印紙ハ從來諸種ノ肉色ヲ以テ消印スルヲ例トセリ然ルニ此等肉色ハ化學的作用ニ於テ容易ニ洗滌除却シ得ルヲ以テ印紙ノ再用ヲ行フニ難カラサルモノアルニ依リ當局ニテハ左記ノ通り著作權登錄稅トシテ貼用納付スル收入印紙ノ消印ヲ調製シ目下之レヲ使用致居候處成績良好ニ有之候右ハ消印押捺ノ際印紙面ノ一部ヲ切り取り再ヒ印紙ヲ使用シ得

サル仕組ニ相成居候近來收入印紙消印ノ場合多キヲ加ヘ候折柄ニ付御參考ノ爲メ此段及通牒候也

著作權登錄願ニ對スル登録稅收入印紙ノ消印



- 一、ハ外枠眞鍮
- 二、ハ内枠護謨製
- 三、ハ丸形銅鐵針(捺ス時ハ圓形ニ針疵カ付ク)
- 四、ハ護謨製
- 五、ハ鋼鐵(捺ス時ハ○形ニ切リ取ル)

但シ三、五ノ部分ハ磨滅シタルトキハ取替ヘ得ラル、製作ナリ

●警察事務上電報ヲ以テ回答方ノ件

(明治四十一年四月二十日樺太廳長官ヨリ道廳府縣長官宛)

樺太ハ冬期ニ於テハ内地トノ交通殆ント杜絶シ警察事務上至急ヲ要スル事件ニ付テハ樺太廳同支廳及支廳出張所ヨリ内地警察署警察分署ニ向ツテ電報照會ヲ發シ其回答ヲ求ムルモ間々之ニ應セサル向アリ右ハ通信費豫算上不得已儀トハ被存候得共斯クテハ警察事務ノ敏活ヲ缺キ不都合不尠旨申出候ニ付右等ノ場合ニハ出來得ル限り電報ヲ以テ回答候様御取計相成度此段及照會候也

●再貼印紙ノ檢查ニ關スル件通牒

(明治四十三年九月一日警保局警發第五四號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

近來再貼ト認ムヘキ印紙ヲ貼用スルモノ有之甚タ巧ニ消印ヲ消去リ識別ニ難キモノアル爲傳染病研究所ニ於テハ凸眼鏡ヲ用ヒテ之レヲ檢查スルノ實況ニモ有之候處警察官署ニ於テハ科料金ノ徵收、狩獵免狀下付等ノ場合ニ收入印紙

ヲ收入スルコト可有之ニ付御參考ノ爲別紙當局官吏視察復命書中一節寫相添ヘ此段及通牒候也

視察復命書中一節

近來再貼ト認ムヘキ印紙ヲ貼用シテ賣下請求ヲ爲スモノ少カラス假令ハ四十三至一月中藥種商内藤某及鈴木某ノ差出セシ血清類賣下願書ニ各再貼用ト認ムヘキ拾圓印紙三枚ツ、存セルコトヲ發見シ告發ノ手續ヲナシタル所前者ハ一ケ年後者ハ八ヶ月ノ懲役ニ處セラル然ルニ去五月中ニハ又大阪市役所ヨリノ願書ニ貼用ノ印紙中ニ拾圓印紙二枚鹿兒島縣肝屬郡大始良村役場ヨリノ分ニ五拾錢印紙二枚ノ何レモ一度使用セシ痕跡ヲ有セルコトヲ發見セル趣其他金額ノ小ナル印紙中ニハ再貼用ト認ムヘキモノヲ發見セシコト一再ナラス而モ此等ハ甚タ巧ニ消印ヲ消去シアリテ夜間及曇天ノ際ナトニハ全ク識別スルコト能ハサル程ナル趣ニテ爲ニ研究所ハ凸眼鏡ヲ用ヒテ嚴重ナル檢查ヲナシ居レリ此情況ヨリ察スルニ印紙ノ再貼用及消印消去ノ印紙流通ハ廣ク全國ニ涉リ行ハレ居ルノ疑アルニ付印紙收入ノ多キ衛生試驗所ノ如キハ此際充分ノ注意ヲ要スヘシ

●收入印紙消印方法ニ關スル件通牒

(明治四十三年十一月二日警保局警發第三四號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

收入印紙再貼用ニ關スル注意方ノ件及打拔スタンプ式消印使用ノ件ハ曩ニ及通牒置候處右消印方法ハ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ黒肉ヲ用ヒテ消印ヲ押捺スヘキ大藏省訓令ト抵觸スルコトナキヤ照合ノ向有之候ヘ共打拔スタンプ式ニ依リ消印ヲ行フモ何等差支無之次第爲念此段及通牒候也

●法人設立ニ關スル件依命通牒

(大正元年七月三十一日內務省地第六
九三一號內務次官ヨリ廳府縣長官宛)

公益法人ノ設立ニ付テハ往々其事業ノ輕微ナルモノ又ハ少數者ノ共同經營ニ係ルモノ若ハ一時的義捐ニ據リ經營スルニ過キサルモノニ至ルマテ之ヲ法人ト爲サントシ殊ニ財團法人ハ財團ノ資力ニ依リ事業ヲ經營スヘキ筈ナルニ事業經營ニ相當セサル少額ノ財團ヲ法人ト爲サントシ許可申請ノ向有之候處右等ノモノニ在テハ先以テ組合其ノ他ノ方法ニ依リ事業ニ着手セシメ追テ其ノ成績良好ト認ムルニ至リ若ハ其ノ資力事業經營ニ相當スルヲ俟テ申請セシメラレ候様致度又公益法人ノ定款中創立ノ際事務執行ニ關スル規定缺如ノ爲メ定款ノ運用ニ付困難ヲ感シタル向有之候ニ聞及候條定款又ハ寄附行爲ニ於テ特ニ最初ノ理事ヲ指定シアル場合ノ外其定款又ハ寄附行爲中ニ理事ノ選定ニ至ルマテノ間一時理事ノ職務ヲ行フモノヲ規定シ置カシムル様御取計相成度依命此段及通牒候也

●公益法人ノ指導監督ニ關スル件

(大正元年十一月十六日內務省訓令第
二十號廳府縣長官(警視廳ヲ除ク)宛)

公益法人ノ指導監督ニ就テハ曩ニ訓令スル所アリタルモ之等法人ノ設立ハ近來益々多キヲ加ヘ來レリ隨テ一面指導ニ勉ムルト同時ニ之カ監督ニ就テハ特ニ注意ヲ拂フノ要アリ殊ニ多額ノ資金ヲ有スルモノニ在テハ常ニ實地ノ視察ヲ遂ケ一層監督ヲ嚴シ不正ノ事ナカラシムルヲ要ス尤モ之等法人ノ業務ニシテ苟クモ目的以外ニ涉リ又ハ設立許可ノ條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スヘキ行爲アリタルトキハ直ニ具申スヘシ

●警察官署ヨリ人民ニ對シ直接回答ニ

關スル件依命通牒

(大正五年五月十五日內務省發警第
三二號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

人民ヨリ警察官署ニ對シ書面ニ返信用郵便切手ヲ添付シ種々ノ用件ヲ問合セ越候場合ニ於テ當該警察官署ハ本人所在地所轄警察官署ヲ經テ回答スルト共ニ郵便切手ヲ返戻候コト有之候爲人民ニ於テハ其警察官署ニ召喚セラレ少カラサル煩累ヲ感シ居候哉ノ聞ヘ有之本件ハ人民ヲシテ其ノ間業務ヲ休止セシムル等迷惑ノ場合モ可有之存候間回答ニシテ人民ヲ召喚スルニ非サレハ徹底セサル等已ムヲ得サル場合ノ外返信用郵便切手ヲ使用シ直接本人ニ回報候ハ、官民ノ利便不尠儀ト存候ニ付警察官署ニ對シ御示達方御取計相煩度此邊既ニ御實行相成居候向モ可有之存候得共爲念右申進候也

●非常事變ノ際憲兵派遣請求方ニ關スル件

依命通牒

(昭和四年六月七日發警第三七號
內務次官ヨリ各廳府縣長官宛)

廳府縣長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキ師團長ニ對シ出兵ヲ請求シ得ヘキハ警視廳官制北海道廳官制及地方官官制ノ明ニ規定スル所ナルモ情況ニ依リテハ管轄憲兵隊長ニ對シ憲兵ノ援助方ヲ求メ簡易敏速ニ憲兵ノ派遣ヲ得ル方却ツテ所期ノ目的ヲ達スルニ便宜ナル場合モ可有之儀ト被存候條右御含ノ上將來非常事變等ニ際シテハ其ノ宜キニ從ヒ臨機適切ノ措置ヲ講セラルル様致度申進候也

●廳府縣連絡警察電話ニ關スル件

(昭和五年二月八日警發甲第二二號警
保局長ヨリ關係二十一廳府縣知事宛)

近時選舉取締事務ニ關シ廳府縣連絡警察電話ノ使用輻輳シ其通信ノ成績如何ハ直ニ該事務能率ニ對シ影響スル所甚大ナリト被認候條此際特ニ關係吏僚ヲ御督勵ノ上左記要項ニ依リ通信能率ノ増進ニ付御配慮相煩度此段申進候也

左記

- (一)電話主任技術者ハ當分ノ間遠隔地ニ出張スル事ヲ可及的差控ヘ要所ニ在リテ電話保守上遺漏ナキ指揮ヲ行ヒ若シ已ヲ得ス出張スル際ハ技術確實ナル代員ヲ殘留セシメ以テ能フ限り保守事務ノ餘暇ヲ利用シテ一般通話者ニ對シ特殊電話使用上ノ輔導ニ努メシメ又若シ一般使用者ヨリ異狀ヲ告ケラレタル際ハ即刻應急裝置ヲ適用シテ通話成績ヲ良好ナラシムル様努メシムル事
- (二)技術者ハ毎早朝必ス保安器及選出信號感働機ヲ點檢シ主局及隣接府縣ト通話試驗ヲ行ヒ若シ異狀ヲ發見セシ際ハ即刻機械部ニ對スル應急處置ヲ施シタル後線路ニ對スル手配ヲ迅速ニ行フ事
- (三)線路ノ雜音カ主局ニ對シ自己府縣ヨリモ遠キ地方ニ發生セル際ハ雜音ノ程度ニ隨ヒテ磁石式電話機トノ切換期間ヲ適切ニ選ヒ若シ長期間ニ亘ツテ切換ヲ繼續スル際ハ必ス主局ニ對シテ詳細ナル情報ヲ爲ス事
- (四)東京兵庫間ノ各府縣ニ於テハ必ス添付圖(甲)ニ示ス如キ外線轉換機ヲ設置シ若シ自己府縣ノ機械ヨリ東方ノ一回線ト西方ノ一回線ニ障礙併發セシ際ハ該機ヲ操縱シテ何レカノ一回線ヲ成績良好ナラシムルト共ニ能フ限り之ヲ主局及隣接府縣ニ報告スル事

(五)他者ノ通話中ハ勿論電話輻輳シ易キ時刻ニハ可及的緊急ナラサル試驗ハ之ヲ差控ヘ又他府縣ヨリ連絡的通話試驗ヲ齎ラサレタル際ハ極力懇切ニ應對シ通話ノ改善ニ協力スル事

(六)電話ノ低音又ハ諸種ノ故障ハ些細ナル保安器電池等ノ損耗ニ因ル事例比較的多キニ付主要ナル電話機ニ附設セル各種安價ナル部分品ハ此ノ際努メテ改新スル事

(七)知事部長官舎等ノ肝要部ニ至レル地方警察電話線ヲ臨機的ニ本連絡線ニ接續スルノ要アル際ハ長大ナル線路ニ連結セル他ノ多數電話機ノ機能ヲ損傷セサル様特ニ配慮シ必ス添附圖(乙)ニ示ス如キ接續方式ニ據リテ之ヲ行ヒ終話ノ際ハ必ス之ヲ切除スル事尙右ノ連絡裝置ヲ實施シタルトキハ其ノ設置個所ヲ當省ニ通報スルコト
(但シ本接續ハ來ル二月二十八日以後ハ撤廢スル事)

(八)通話ノ取繼ハ總テ筆記ニ依リ誤謬ノ發生セサル様努ムル事

(九)電話室ニハ關係外ノ人員ノ出入スルヲ嚴禁シ夜間勤務員ヲ可及的充實スル事

(十)一般通話者ハ通話スル以前ニ受話器ヲ把リテ一應他者ノ通話中ナラサル事ヲ確メタル後可及的敏速明確ニ通話ヲ行フ事
(他府縣ニ於ケル百數十機カ自己ノ終話スルヲ待チ居ル事ヲ配慮シテ互讓スル事)

(十一)二箇所以上ニ對シ類似ノ通話ヲ行ハントスル際ハ可及的全部ノ相手ヲ同時ニ呼出シテ同時ニ通話ヲ行フ事

(圖面省略)

第二編
保安

安風營交
寧俗業通
安風營交
寧俗業通
行政執行
災害消防
雜

第二編 保安

第一章 安寧

第一節 菊御紋章、御肖像、皇室ニ關スル文字、御陵墓

●菊御紋並禁裏御用等ノ文字濫用ヲ禁ス

(明治元年三月二十八日
太政官布告第一九五號)

一、禁裏御用或ハ 禁裏御料又ハ 禁裏御内杯ト會符勝示杭標札等ニ書記シ候儀ハ有之間敷事ニ候處往々見受候ニ付
以來屹度相改御用 御料ト而已書記イタシ候様被 仰出候事

但標札ハ姓名相記シ又ハ官名役名等記シ候儀不苦候事

一、提燈又ハ陶器其外賣物等ニ御紋ヲ畫キ候事共如何ノ儀ニ候以來右之類 御紋ヲ私ニ附ケ候事屹度可禁止旨被 仰
出候事

但御用ニ付是迄被免之分モ一應伺出可申事

右之通被 仰出候條末々迄不洩様可申達事

●社寺菊御紋濫用禁止

(明治二年八月二十
五日太政官布告)

社寺ニテ是迄菊御紋ヲ用ヒ來ル者不尠候處今般御改正相成社ハ伊勢八幡上下賀茂等寺ハ泉涌寺般舟院等之外ハ一切被差止候旨被 仰出候事

但格別由緒有之社寺ハ由緒書ヲ以テ可伺出候事

●皇族ノ外菊御紋禁止

(明治四年六月十日太政官布告)

菊御紋禁止ノ儀ハ兼テ御布告有之候處猶又向後由緒ノ有無ニ不關皇族ノ外總テ被禁止候尤御紋ニ紛敷品相用候儀モ同様不相成候條相改可申事

但從來諸社ノ社頭ニ於テ相用來候分ハ地方官ニ於テ取調可申出事

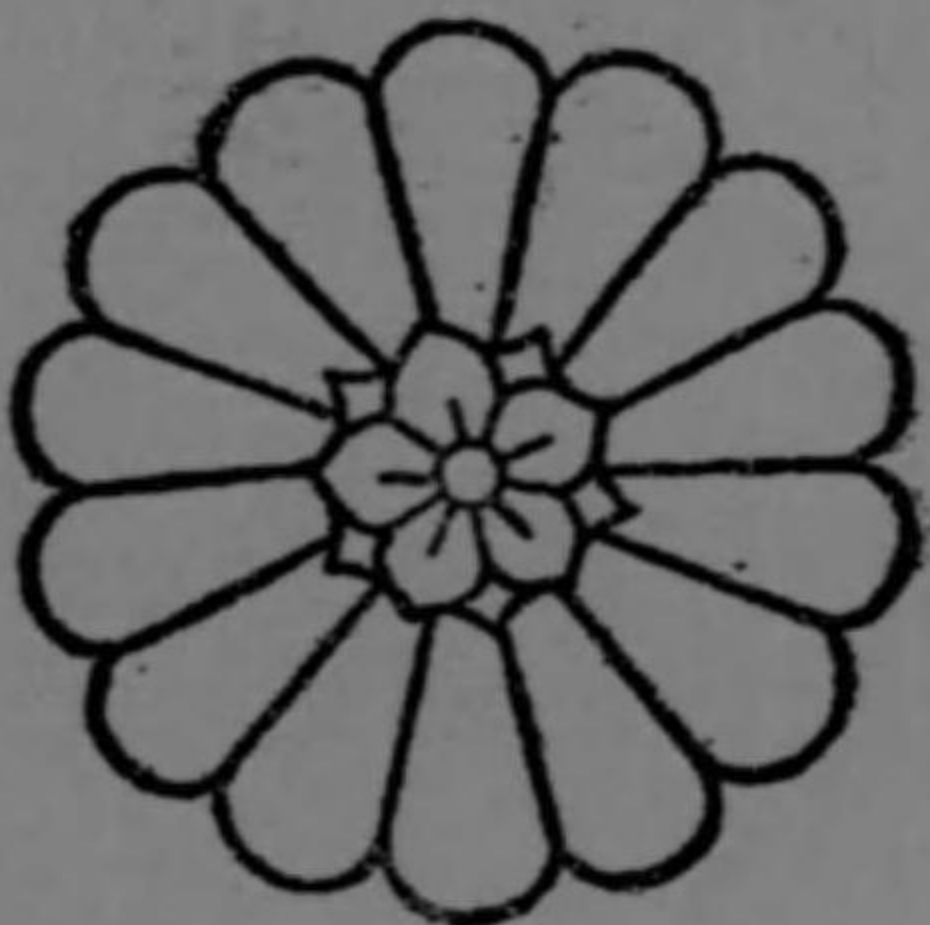
●皇族家紋章ノ制

(明治四年六月十日太政官布告)

皇族家紋雛形ノ通被定候事

(雛形)

(菊裏重一葉四十)



●官幣社社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提燈ニ限り菊御紋ヲ用フルヲ許ス

(明治七年四月二日開拓使外十七府縣ニ對シ太政官達)

社寺ニテ菊御紋相用候儀禁止ノ旨明治二年己巳八月布告候處自今官幣社社殿ノ裝飾及社頭之幕提燈ニ限り菊御紋相用不苦候條此旨管内官幣社ヘ可相達事

●國幣社社殿ノ裝飾及社頭幕提燈ニ限り菊御紋ヲ用フルヲ許ス

(明治十二年四月二十二日太政官達第二十號)

社寺ニテ菊御紋相用候儀ニ付明治二年八月布告ノ趣モ有之候處自今國幣社社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提燈ニ限り菊御紋相用不苦候條此旨管内國幣社ヘ可相達事

●內國勸業博覽會ノ賞牌ヲ製造物品又ハ看板廣告等ヘ付スルヲ許ス

(明治十一年四月二日內務省達甲第九號)

明治十年內國勸業博覽會ニ於テ授與ノ賞牌ハ受領人ノ適宜ニ任セ右賞牌ノ寫ヲ製造ノ物品又ハ其外ト包ミ或ハ看板廣告書等ノ類ヘ相付ケ候儀ハ不苦候條此旨爲心得布達候事

●社寺菊御紋禁止布告前神殿佛堂ニ粧飾セシモノニ限り
存置ヲ許ス

(明治十二年五月二十二日
日太政官達第二十三號)

(使)府 縣

一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月布告ノ趣モ候處右布告前神殿佛堂ニ裝飾シタル分ニ限り其儘存シ置苦シカラス候此旨相達候事

●菊御紋章ヲ賣品ニ畫ク者禁止

(明治十三年四月五日
宮内省乙達第二號)

府 縣

菊御紋章ヲ賣物等ニ畫キ候儀並紛敷品相用候儀モ不相成旨明治元年三月廿八日明治四年六月十七日太政官布告ノ趣モ有之候處近來住々賣品ニ御紋章ヲ畫キ候向有之候ニ付取締方一層注意可致候此段相達候事

●菊御紋章取締ニ關スル件訓令

(明治三十三年八月十八日內務
省訓第八二三號廳府縣長官宛)

菊御紋章禁制之儀ニ付テハ明治元年三月同四年六月太政官布告ヲ公布セラレ尙取締方ニ付テハ明治十三年四月宮内省乙第二號達ノ趣モ有之候處爾來事業ノ勃興ニ件ヒ各種ノ商品廣告看板又ハ私著ノ文書圖畫等ニ之ヲ私用シ近時ニ至リ濫用ノ弊漸ク滋ク取締上默過スヘカラサル儀ニ候條此ノ際管下一般ニ禁制ノ趣旨ヲ諭告シ大要左記標準ニ依リ取扱

ヲ爲シ禁止ノ命ニ應セサル者ニ對シテハ懇篤説諭ヲ加ヘ其ノ從ハサル者アルニ於テハ行政執行法第五條第一項ニ依リ處分ノ強制ヲ期セラルヘシ

左 記

- 一、印刷描出其ノ他方法ノ如何ニ拘ラス商品、商品容器、封皮、引札、廣告、看板建築物ノ門扉門頭又ハ其ノ他ノ物件ニ菊御紋章若ハ菊御紋章類似ノ圖形ヲ表出シ之ヲ發賣頒布シ又ハ之ヲ觀覽ノ用ニ供スルコトヲ得ス
- 二、帝室若ハ政府ノ授與ニ係ル賞牌、賞狀、褒狀、免狀ノ類ヲ節略模寫シテ菊御紋章ノ部分ヲ前項ノ物ニ摘出私用スルコトヲ得ス
- 三、私著ノ文書圖畫ニ在テハ御陵圖、御系譜、御歴代ノ尊號ヲ掲クル場合ト雖菊御紋章若ハ菊御紋章類似ノ圖形ヲ之ニ表出スルコトヲ得ス
- 四、帝室若ハ政府ノ所有若ハ授與ニ係ル物件ノ形狀ヲ複寫、撮影、模圖等ニ依リテ表出シタルモノハ前各項ノ限ニ在ラス

●菊御紋章取締ニ關スル件訓令

(明治三十七年八月九日內務省
訓第五〇七號廳府縣長官宛)

菊御紋章取締ノ件ニ付テハ明治三十三年訓第八二三號ヲ以テ其ノ標準ヲ指示シ及訓令置候處自今私著ノ文書圖畫ニシテ御陵圖、御系譜、御歴代ノ尊號ヲ掲クル場合又ハ御肖像、勅語、御詠(御詠ナルコトヲ明記スルモノニ限ル)ヲ掲クルニ方リ之ト相俟テ菊御紋章ヲ表示シ又ハ私人傳來ノ家紋菊一文字ノ類ニシテ全然菊御紋章ト別種ニ屬スルモノ

ノ如キハ取締上寛假スルモ差支之レナカルヘク從來菊御紋章并之ト類似ノ圖形表出ニ關シ取締勵行ノ趣旨ハ商品廣告其ノ他ニ於テ之ヲ濫用スルノ弊ヲ禁遏スルニ在ルヲ以テ是等ニ對シテハ依然嚴密ナル取締ヲ爲スヘキハ勿論ナリト雖如上例示ノ類ニ對シ私人ニ於テ帝室ニ對スル尊敬ノ誠意ヲ以テ之ヲ表示シ又ハ全然菊御紋章ト別視セラル、家紋ノ如キハ不問ニ附シ可然候條彼是斟酌シ寬嚴宜ニ從ヒ措置セラルヘシ(御詠ニ關スル分ハ大正六年十二月二十八日訓第七五九號ニヨリ追加ス)

●菊御紋章染抜キノ幕使用禁止ノ件

(大正七年九月十三日北警第五八號 警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

本件ニ付別紙甲號北海道廳長官伺書ニ對シ乙號ノ通通牒取計置候間御承知相成度候

(甲號)

北海道廳長官照會

(大正七年八月六日高 秘收第三三〇八號)

本月一日ヨリ管下札幌ニ於テ開催中ノ開道五十年紀念博覽會々場内ニ於テ東京湘南木工場出張所加茂増五郎ナル者先帝陛下明治二年京都ヨリ東京ヘ行幸ノ際ニ於ケル東海道五十三次ノ光景ヲ模型及油繪ヲ以テ表ハシタルモノヲ公衆ニ觀覽セシメ居リ候處各所ニ別紙略圖ノ如キ菊御紋章ヲ染抜キタル幕ヲ張り油繪中行在所及御乘馬ノ鞍ニモ同様菊御紋章ヲ描キタルモノ有之右ハ模型作製當時東京ニ於テ平山成信會長トナリ總務課長遠藤久敬及警視廳監督ノ下ニ模寫シ或ハ作製シタルモノニシテ既ニ各地ニ於テ興行ノ公衆ノ觀覽ニ供シ來レル旨申立居リ候モ御紋章染抜キノ幕ヲ使用スルカ如キハ菊御紋章禁止ニ關スル布告ノ趣旨ニモ相反シ穩當ナラサルヤニ思料セラレ候ニ付取締上何分ノ御指揮

相仰キ度此段相伺候也 (圖面略)

(乙號)

警保局長回答

(大正七年九月十三日 日北警第五八號)

客月六日付高秘收第三三〇八號ヲ以テ開道五十年紀念博覽會ニ於テ明治天皇明治二年京都ヨリ東京行幸ノ際ニ於ケル東海道五十三次ノ模型及油繪ノ出品者ニ於テ菊御紋章描出ノ幕使用ノ件ニ關シ御伺出相成候處右ハ御意見之通穩ナラサル儀ト存候間使用御差止相成度尙伺書中ニ記載有之候行在所及御乘馬ノ鞍ニ表示ノ御紋章其ノ他ノ事實ニ付テハ別紙宮内省トノ照覆ニ依リ御承知相成度本件別ニ指令不相成候間右申進候也

(別紙)

警保局長照會

(大正七年九月二日警北第一三四號警 保局長ヨリ宮内大臣官房總務課長宛)

目下北海道ニ於テ開催中ノ開道五十年紀念博覽會ニ於テ明治天皇明治二年京都ヨリ東京ヘ行幸ノ際ニ於ケル五十三次ノ光景ヲ模型及油繪ヲ以テ表示シタルモノヲ一般公衆ノ觀覽ニ供シ居候處右出品者ニ於テ菊御紋章ヲ描出シタル幕使用致居候趣ヲ以テ別紙寫之通措置方ニ關シ北海道廳長官ヨリ稟伺有之本件ハ菊御紋章類似(別紙ニ依レハ花瓣十四)ノ圖形ヲ幕ニ描出シタルモノニ係リ穩カナラサル儀ト存候間使用差止候方相當ト存居候得共別紙中模型作成及油繪ノ描寫ハ總務課長及警視廳ニ於テ監督ノ上調製候趣記載有之候ニ付爲念警視廳ヘ事實及問合候處一昨年倫敦五十年博覽會ヲ上野ニ開催ノ節陳列シタル際入場者ニ對シ不敬ニ涉ルコト無之様注意セシメ觀覽ニ供シ候事有之候モ同廳監督ノ下ニ調製事實ニ付テハ當時ノ記錄等無之斯ル事實ハ可無之トノコトニ有之候就テハ本件似寄ノ事實ニテモ有之候哉參

考迄ニ承知致度尙別紙記載ノ行在所及御乗馬ノ鞍ニ菊御紋章表出ノ分ハ相當ノ手續ヲ經テ帝室御所有ニ係ルモノヲ模擬謹製シ若シクハ拜寫シタルモノニ有之候哉自然右様ノモノニ無之トスルモ本件菊御紋章取締ニ關シテハ前顯幕ノ使用ヲ差止ムル外他ハ帝室ニ對シ敬意ヲ表スルノ至誠ニ出テタルモノト認メ不問ニ付シ可然被存候得共以上ノ事實竝御意見承知致度候

宮内大臣官房總務課長回答

(大正七年九月七日宮内省總務課第一九二號宮内大臣官房總務課長ヨリ警保局長宛)

九月二日附警北第一三四號照會ノ件模型作成及油繪ノ模寫ニ關シ監督若ハ之ニ類スル指示等ヲ爲シタルコト無之行在所及御乗馬ノ鞍等ニ關シテモ亦模寫等ヲ許シタルコト無之候へ共取締方ニ關シテハ貴見ノ通りニテ差支無之ト候

●香川縣誕生寺紋章ヲ菊御紋章ト別箇ノ紋章ト

看做スノ件通牒

(大正十一年十二月二十八日警發乙第(四四六號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

香川縣仲多度郡善通寺町弘法大師誕生紀念法參會ニ於テ印刷物(會員名簿)紀念章等ニ別紙圖様ノ紋章描出致居候處右紋章ニ付テハ菊御紋章類似トシテ差止處分ニ出テラレタル向モ有之候得共本件紋章ハ相當大サノ圓徑内ニ善ノ字ヲ描出シタルモノニシテ一見菊御紋章ト殊別スルコト容易ナルモノニモ有之菊御紋章ト全然別種ノ紋章ト看做シ取締上不問ニ附シ度旨ヲ以テ今回宮内省ト遂協議候處別紙寫ノ通格別意見無之趣回答ノ次第モ有之候間明治三十七年訓第五〇七號訓令末段ノ趣旨ニ依リ御取扱相成様致度右申進候也(宮内省回答略)

(別紙)



●御野立所紀念碑ニ菊御紋章描出ニ關スル件通牒

(大正十二年七月二十五日警務受第三五七二號警保局長ヨリ廳府縣(新潟縣ヲ除ク)長官宛)

本件ニ關シ別紙甲號ノ通新潟縣知事ヨリ照會有之候處乙號ノ通回答致置候ニ付右御承知相成度候

(乙號)

警保局長回答

(大正十二年七月二十五日警務受第三五七二號警保局長ヨリ新潟縣知事宛)

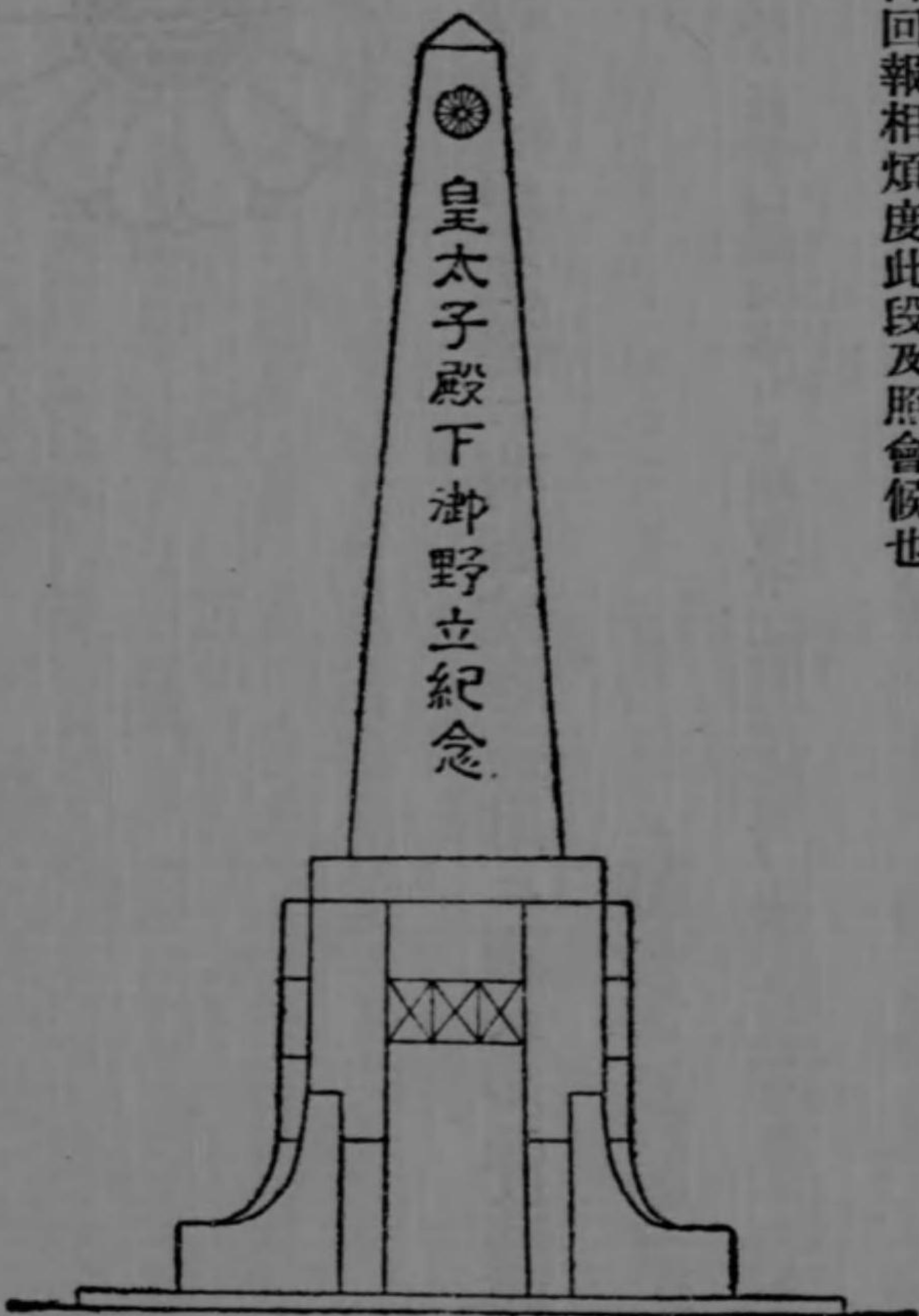
六月七日付保收第五三三五號ヲ以テ帝國在郷軍人會新潟市湊分會ニ於テ新潟市内日和山 皇太子殿下御野立所跡ヘ建設スヘキ紀念碑ニ菊御紋章描出ノ儀ニ關シ御照會有之候ニ付宮内省ニ對シ本件ハ帝室ニ對シ敬意ヲ表スルノ至誠ニ出テタル計畫ト被認候ニ付此ノ種計畫ニ對シテハ特ニ不問ニ附シ度旨ヲ以テ意見問合候處異存無之旨回答有之候間右ニ依リ御處理相成候様致度右申進候也

(甲號)

新潟縣知事照會 (大正十二年六月七日保發第五三三)

(五號新潟縣知事ヨリ警保局長宛)

帝國在郷軍人會新潟市湊分會ニ於テ今回新潟市内日和山ノ皇太子殿下御野立所跡へ別紙圖面ノ如キ紀念碑ヲ建設スヘキ計畫有之候處牌文上部ニ菊御紋章ヲ描出ノ設計ニシテ右ハ帝室ニ對シ敬意ヲ表スルノ至誠ニ出テタルモノト認メラル、モ菊御紋章禁止ニ關スル布告ノ趣旨ニモ相反シ穩當ナラサル儀ト思料セラレ聊カ疑義有之候條默許ニ附シ差支ナキヤ否ヤ何分ノ御回報相煩度此段及照會候也



●誓ノ御柱ニ菊御紋章描出ニ關スル件通牒

(大正十三年七月廿九日警保局長發乙第 一五五六號警保局長ヨリ愛知縣知事宛)

五月廿八日附保發第九二號ヲ以テ御照會有之候首題ノ件取締上不同ニ付シ置カレ可然候 追而本件ハ宮内省ト協議濟ニ有之候間申添候

愛知縣知事照會

(大正十三年五月廿八日保發第九 二號愛知縣知事ヨリ警保局長宛)

近時縣内農村青年會等ニ於テ別紙圖面ノ如キ誓ノ御柱ナル碑表ヲ建設シ之ニ五ヶ條ノ御誓文ヲ刻シ其ノ礎石正面ニ菊御紋章ヲ描出ノ設計ヲナスモノ有之候處右ハ帝室ニ對シ敬意ヲ表スルノ至誠ニ出テタルモノト認メラル、モ一面菊御紋章禁止ニ關スル布告ノ趣旨モ有之取扱上聊カ疑義ニ涉リ候條默許ニ附シ差支ヘナキモノナルヤ否ヤ至急何分ノ御 回示相煩度此段及照會候也

追テ礎石ヲ五角トナシ五ヶ所ニ菊御紋章ヲ描出スルモノモ有之候 (略圖)

●各學校ノ御眞影奉安殿ニ菊御紋章描出

ヲ差許スノ件通牒

(大正十三年八月二十九日發警第六 六號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

各學校ノ御眞影奉安殿又ハ奉安室ニ菊御紋章描出ノ儀ハ從來之ヲ差許サ、ルノ取扱ニ相成居候處今後學校ヨリ直接 申出タルモノニ限り之カ描出ヲ差許スモ支障無之候條右御含ノ上御處理相成度本件ハ宮内省トモ内議濟ニ有之候

●同上描出ニ關シ申出ヲ爲スヘキ官廳

ニ關スル件通牒

(大正十三年九月十三日警發甲第九 四號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

本件ニ關シ客月二十九日付發警第六六號ヲ以テ及通牒置候處右ニ付菊御紋章描出ニ當リ學校ヨリ直接申出ヲ爲スヘキ官廳ニ付往々御問合ノ向モ有之候處右ハ當該取締警察官憲ヲ指示シタルモノト御承知相成度爲念右申進候也

●菊御紋章類似品取締ニ關スル件通牒

(大正十三年九月二十五日警保局警發甲第九六號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

近時貝細工ヲ以テ御紋章類似圖形ヲ表出セル櫛、笄ノ類ニ對シ販賣ヲ禁止相成候向往々有之候處實物ニ就テ右圖樣ヲ檢スルニ其ノ多クハ生花ヲ模寫シタルモノト認メラレ且ツ其ノ形狀モ比較的小形ニシテ目立チタルモノニモ無之且既ニ商品トシテ商人ノ手ニアルモノ、販賣ヲ禁止スルニ於テハ個人ニ及ホスノ損害少カラスト認メラレ候條禁止ノ處分ヲ爲スニ當リテハ特ニ慎重ニ御審議相成度尙其ノ製造者アル府縣ニ於テハ成ルヘク菊御紋章ニ紛ハシカラサル圖樣ヲ使用候様豫メ御諭示相成度右申進候也

●御眞影奉安殿ニ描出スル菊御紋章ニ

關スル件通牒

(大正十三年十月二日警保局警發甲第一〇三號警保局長ヨリ廳府縣長官宛參考通牒)

茨城縣知事照會 (大正十三年九月十九日學親第四九六號)

標記ノ件本年八月二十九日內務省發警第六六號御通牒ノ處右ハ各學校ノ御眞影奉安殿又ハ奉安室前ニ掲用スヘキ幕ニ菊御紋章ヲ描出スルコトモ差許サル、襪ニ有之候哉差掛リ疑義ニ亘リ候ニ付至急何分ノ御回報相成度此段及照會候也

追テ本縣ニ於テハ多數出願ノ向有之狀況ニ付乍序申添候

警保局長回答

(大正十三年十月一日警保局警發乙第一四七七號)

首題ノ件ニ關シ八月十九日付學親第四九六號ヲ以テ御照會有之候處八月廿九日發警第六六號當局通牒ハ奉安殿又ハ奉安室ニ掲用スヘキ幔幕ノ如キ轉用ノ容易ナルモノニ迄菊御紋章描出ヲ認ムルノ趣旨ニ無之候間御承知相成度候

●菊御紋章類似品取締ニ關シテハ慎重

考慮ヲ要スル件通牒

(大正十三年十一月四日警發甲第一二八號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

近來菊御紋章及之カ類似ノ紋章ヲ商品其ノ他ニ描出使用スルモノ不尠之ニ對シテハ相當御措置ノ上其ノ圖樣添付御報告ノ向有之候處右圖樣中ニハ御紋章ノ描出ノ程度ニ達セス花瓣ノ形狀生花ニ擬シタル意匠ト認ムヘキモノ往々有之尤モ本件ノ區分ニ付テハ其ノ限界ヲ定ムルニ於テ困難ノモノモ有之候得共商品等ノ中ニハ其ノ販路ノ廣ク各地ニ涉リ居候モノモ有之處分上慎重注意ヲ要スヘキ儀ト存候從來御報告有之候向ノ送付圖樣ニ徵スルニ昨今各地ニ於テ販賣致居候櫛、笄、簪類ニ菊花ヲ描出セルモノ、如キ其ノ中花瓣ノ確然紋型ヲ爲シ一見菊御紋章若ハ之カ類似ト認メラル、モノニ對シテハ取締上相當措置スヘキハ勿論ニ有之候得共其ノ多クハ紋型ヲ爲サス花瓣ノ上部稍々彎曲セル等生花ニ擬シタリト認ムルヲ相當トスヘク殊ニ其ノ描出セル花樣概ネ極少ニシテ中ニハ枝葉ト交錯纏絡シ格別目立タサルモノ有之是等ハ不問ニ被差置可然ト存候間取締上苛察ニ失セサル様御配慮相煩度本件ハ販賣業者製造業者等ニ於テ警察取締ニ因テ被ムルノ影響定ニ不尠處分上慎重考慮ヲ要スヘキ儀ニ有之爲念右申進候也

●のみとり粉包装ニ菊御紋章描出ノモノ

取締ノ件通牒

(大正十三年十二月四日警發甲第一三九號) 內務省警保局長ヨリ各廳府縣長官宛

十月二日付高第一二五六三號靜岡縣知事報告ノ本件ニ關シ同月二十八日別紙通り同縣知事ニ通牒致置候間御了知相成度候

警保局長通牒 (大正十三年十月二十八日警發乙第一六〇號) 內務省警保局長ヨリ靜岡縣知事宛

首題ノ件ニ關シ本月二日付高第一二五六三號ヲ以テ御報告有之候處右褒賞之記ヲ其ノ原文ト照合スルニ原文中「除蟲菊」トアルヲ「のみとり菊」ト改メタル以外ハ總テ原文ト同一ニシテ褒狀ヲ節略模寫シテ菊御紋章ノ部分ヲ摘出使用シタルモノトハ難認明治三十三年八月訓第八二三號第二項反面ノ趣旨ニ依リ取締上不問ニ附シ置カレ可然モノト思料セラレ候間將來御取締上御一考相煩度候

靜岡縣知事報告 (大正十三年十月二日高第一二五六三號) 靜岡縣知事ヨリ內務省警保局長宛

靜岡市上傳馬町二〇三 藥種商 伴野金太郎
同市七間町三丁目 同商 川崎甲子太郎

右者販賣ニ係ル臭蟲滅斃藥のみとり粉包装ニ別圖ノ如キ御紋章ヲ濫用シアルヲ發見シタルニ付該品ハ明治元年三月及明治四年六月ノ各太政官布告ニ基キ取締ヲ要スルモノト認メ販賣ヲ禁止シ諭示ノ上殘品ハ仕入先ニ返送セシメ候條此段及申報候也

記

- 一、仕入先大阪市土佐堀三丁目 大日本除蟲粉株式會社
- 一、同年月日 大正十三年二月九日ヨリ六月十二日ニ至ル間
- 一、數 六千五百五十袋

(別圖 省略)

●菊御紋章ニ關スル件回答

(大正十四年二月二十六日警發乙第二九六號) 愛知縣知事宛警保局長回答

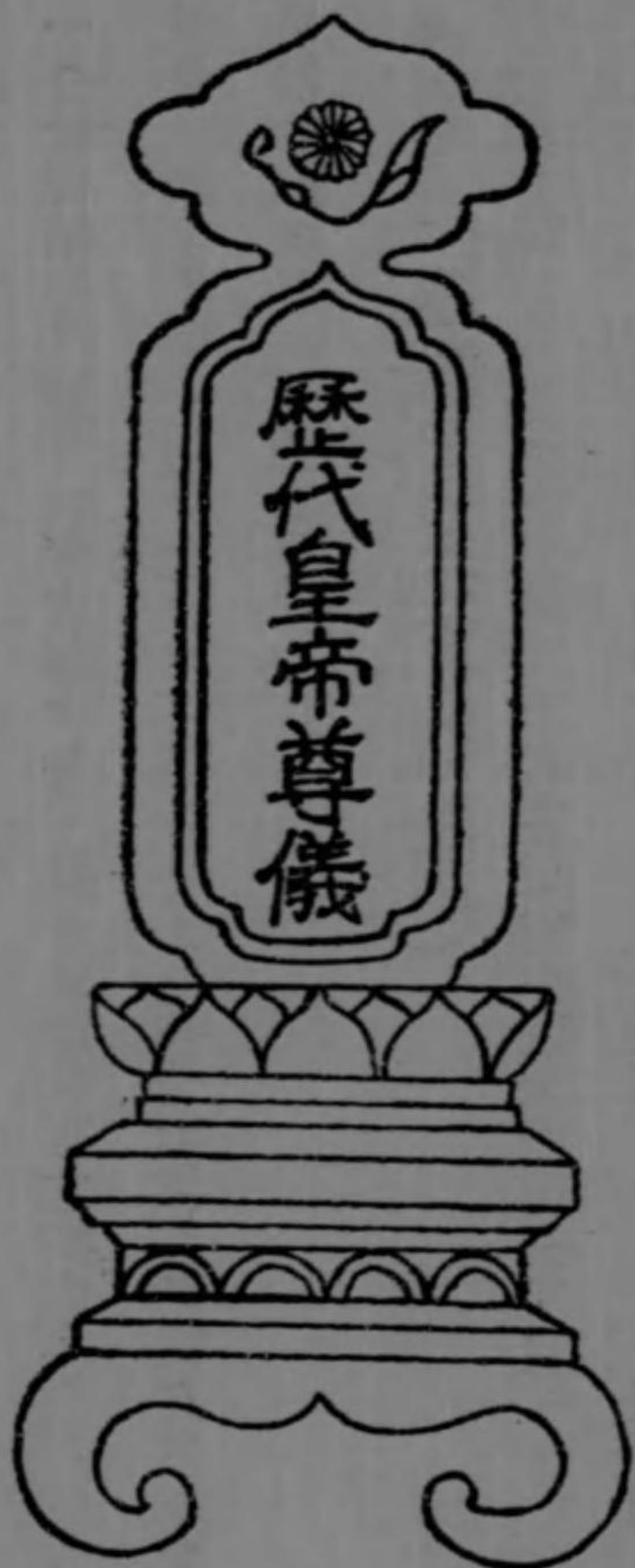
本月二十一日付保第三〇號ヲ以テ首題ノ件ニ關シ御照會有之候處本件ハ個々ノ注文ニ依リ其ノ時々製造候モノニ付テハ前段御見込ノ通り不問ニ附シ置カレ可然ト存候ヘ共平素注文ヲ俟タスシテ之ヲ製造シ置キ商品トシテ取扱候モノニ對シテハ相當取締ヲ要スル儀ト存候

愛知縣知事照會 (大正十四年二月二十一日保第三〇號) 警保局長宛愛知縣知事照會

名古屋市中區末廣町三丁目 佛具商 鈴木幸七

右者別紙圖案ノ如キ天牌ト稱スル物件數種(正面中央部ニ今上陛下聖壽無窮又ハ歷代天皇ノ御名ヲ表示ス)ヲ製造シ其ノ上部ニ正確ナル菊御紋章ヲ描出シテ數年前ヨリ販賣シ居ルヲ發見シタルモ右ハ寺院佛堂等ノ須彌壇ニ安置シ禮拜ヲ爲サシムルヲ目的トスルモノニシテ其ノ物體ノ性質上不敬ニ涉ルカ如キコトナク全ク皇室尊崇ノ精神ヨリ出テタ

ルモノニシテ不問ニ附シ支障無之ヤニモ存セラレ候へ共又一面ヨリ見レハ註文ニ依ラスシテ製造販賣シ且ツ他ニモ同
様ノ製造販賣者有之ヤノ聞ヘモアリ取扱上疑義ヲ生シ候條何分ノ御指示相仰キ度此段及稟伺候也



●菊御紋章類似圖形取締内規

(昭和四年十月二十一日内務省訓第一、
三六八號廳府縣長官宛内務大臣訓令)

菊御紋章類似圖形禁制之儀ニ關シテハ明治四年六月太政官布告ヲ以テ公布セラレ其ノ取締方ニ關シテハ明治三十四
年十一月警發第一五一號其ノ他數次通牒等ヲ以テ指示シタル處アルモ未タ取締區々ニ亘ルノ事例乏シカラス本件取締
ハ其ノ性質上最モ周到ナル注意ヲ要スル所ニシテ商品等ニ對スル取締ノ如キハ私人財産上ニ及ホス影響亦尠カラサル
モノアルヲ以テ自今左記標準ニ準據シ彼是斟酌寬嚴宜シキヲ制シ以テ之カ取締上遺憾ナキヲ期セラルヘシ
右訓令ス

菊御紋章類似圖形取締内規

- 第一 菊花紋樣ニシテ其ノ花瓣ノ數十二瓣以上二十五瓣以下ノモノハ其ノ附帶物ノ形、花心ノ圖樣ノ如何ヲ問ハス御
紋章類似トシテ取締ヲ爲スコト但シ左ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 一、花心ノ直徑花瓣ノ長サヨリ大ナルモノ (圖例乙一二號參照)
 - 二、花心ノ中央ニ文字紋樣等ヲ有シ其ノ大サ(直徑)花瓣ノ長サヨリ大ナルモノ (圖例丙七號參照)
 - 三、菊花ノ五分ノ三以上他ノモノニ依リ蔽ハレ又ハ切斷セラレタルモノ (圖例乙一一號參照)
 - 四、花心カ花ノ中心ヨリ其ノ半徑ノ四分ノ一以上偏セルモノ (圖例乙三一號參照)
 - 五、楕圓又ハ菱形ノ菊花ニシテ短徑カ長徑ノ三分ノ二未滿ノモノ (圖例乙九號、一三號參照)
 - 六、菊花ノ形狀確然紋型ヲ爲サス生花ニ擬シタリト認メラルルモノ (圖例乙六號、七號、八號等參照)
- 以上取締標準ヲ圖示スルニ別圖ノ如シ
- 第二 前項取締標準ハ大體ノ規定ニ過キサルヲ以テ其ノ取締要否ノ實際ニ於ケル決定ニ際シテハ更ニ其ノ大小、色彩
及用途等ヲ斟酌シ寬嚴宜シキヲ失セサル様注意スルコト
- 第三 取締ヲ實施スルニ際シテハ左記ニ留意スルコト
- 一、商品ニ對スル取締ハ製造者、發賣者、卸賣商等ヲ調査シ取締ヲ行ヒ既ニ小賣商等ノ手ニ在ルモノニシテ其
ノ數僅少ナルモノニ付テハ特ニ取締ノ要アルモノノ外成ルヘク説諭ニ止メ破棄セシムル等ノ措置ハ之ヲ避ケ

私人財産上ニ不測ノ損害ヲ與フルコトナキ様注意スルコト

二、菊御紋章類似圖形ニシテ建物設備等ニ附著シタルモノニシテ既ニ相當年月ヲ經格別目立タサルモノニ付テハ將來改築等ノ際變改セシムルニ止ムルコト

三、其ノ他個人ノ所有ニ係ル歴史的物品、貴金屬等ニ描出セルモノニシテ原品ヲ毀損スルニアラサレハ菊御紋章類似ノ部分ヲ容易ニ分離シ難キモノニ付テハ常ニ公衆ノ目ニ觸ルルカ如キ管理方法ヲ避ケシムルハ格別直ニ之ヲ改廢セシムル等ノ措置ヲ避ケルコト 但シ營業用器具等ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四 私人傳來ノ家紋ニシテ其ノ附帶物ノ形狀如何ヲ問ハス十六瓣菊紋ノ全部ヲ表出シタルモノニ付テハ適當ノ機會ニ於テ十六瓣以外ノ瓣數ニ變更セシムル方針ヲ以テ取締ヲ行フコト

第五 菊御紋章類似圖形ニシテ既ニ商標登錄濟ノモノナルトキハ直ニ之カ取締ヲ爲スヲ避ケ其ノ登錄圖形、登錄年月、登錄期間、登錄者住所氏名其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ヲ報告スルコト

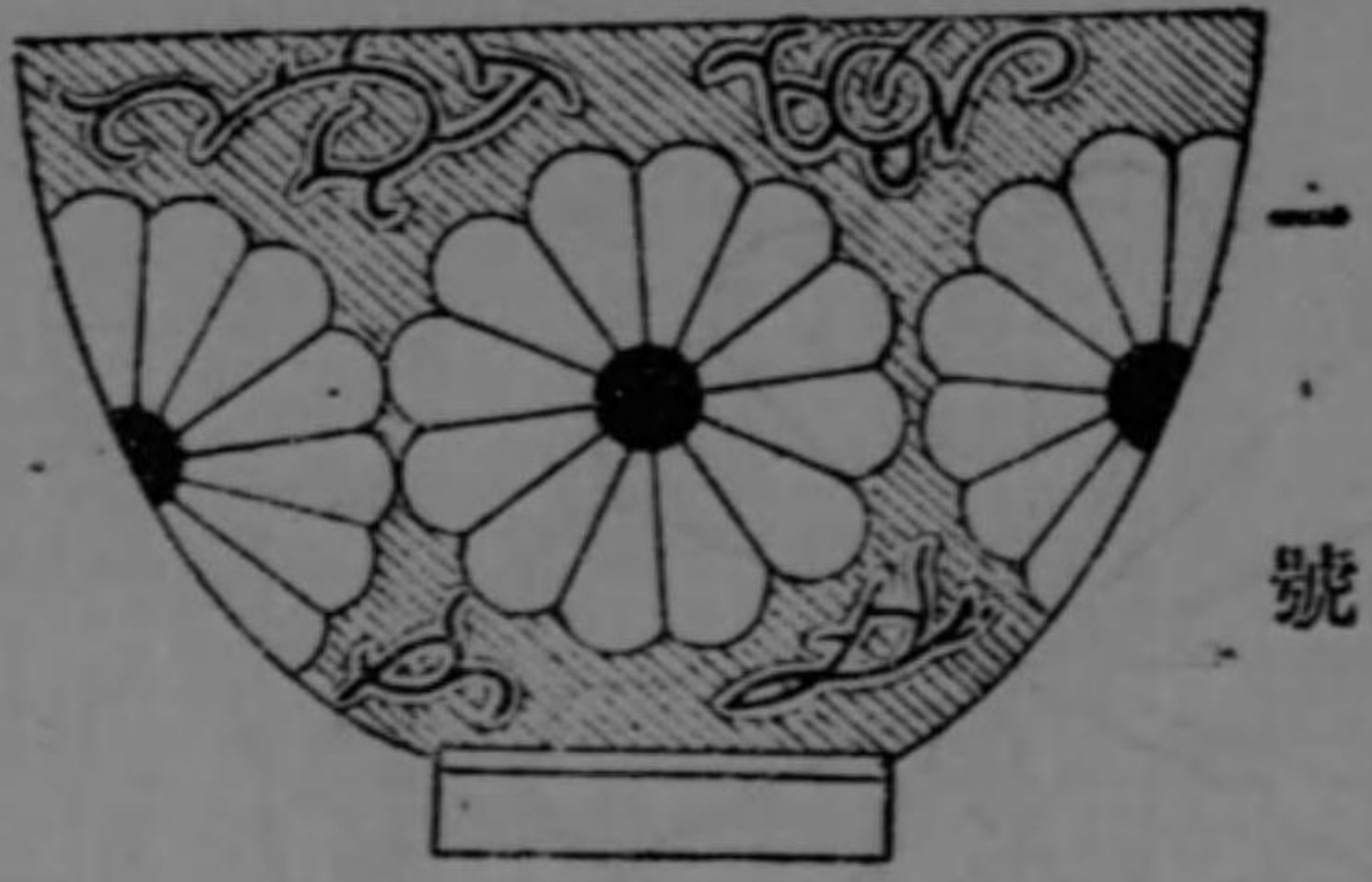
○凡 例

甲種ハ取締ヲ要スルモノ

乙種ハ取締ヲ要セサルモノ

丙種ハ菊御紋章類似ノ家紋ヲ參考ノ爲メ輯録セルモノ

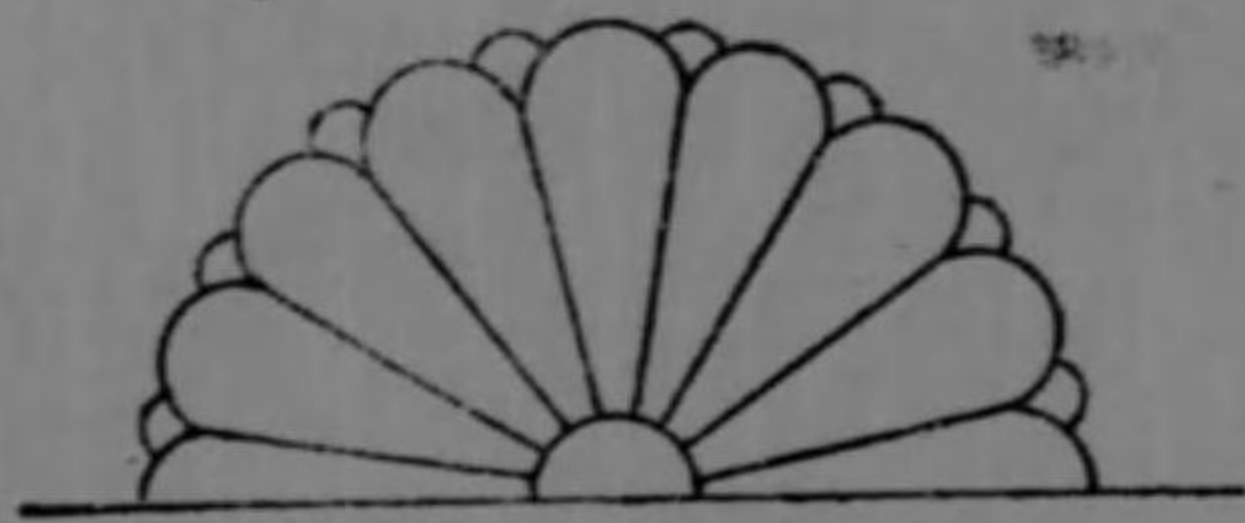
甲 種



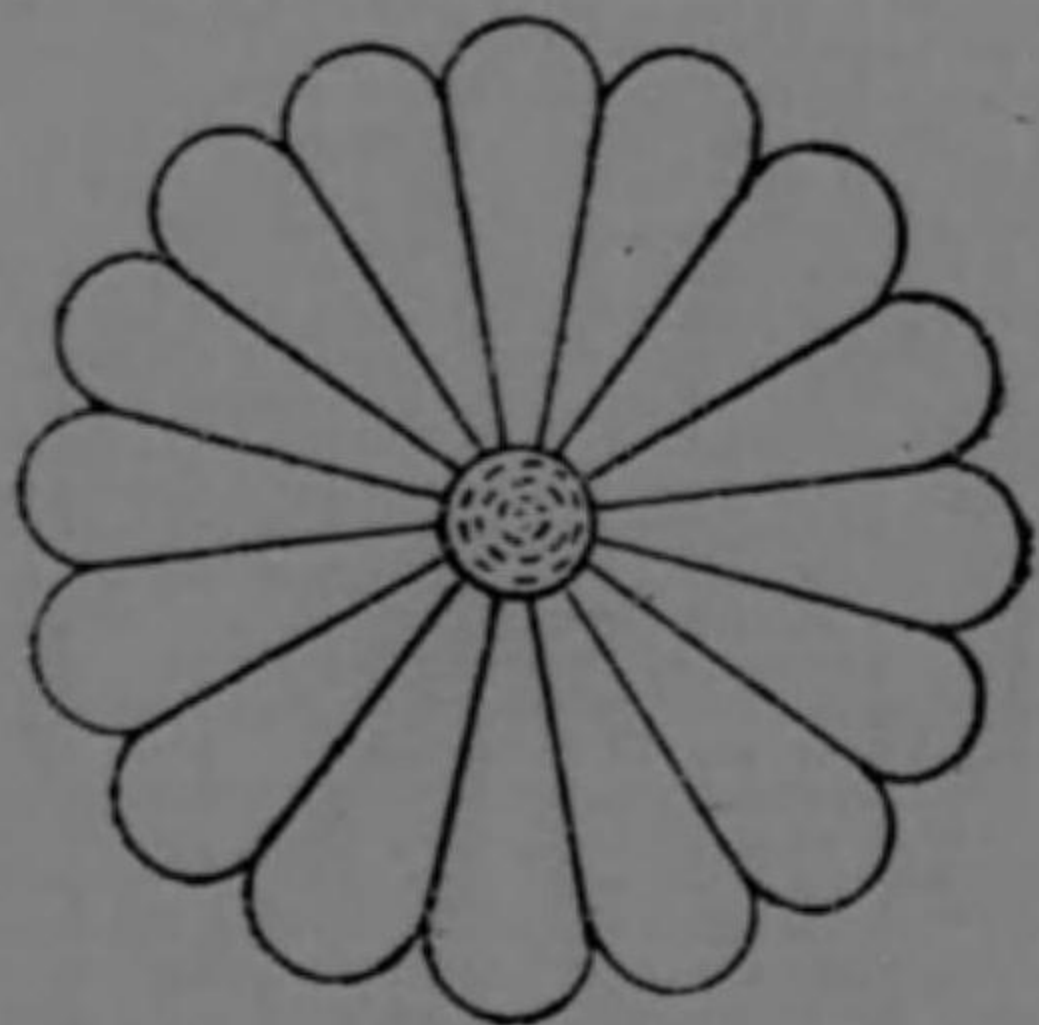
一 號



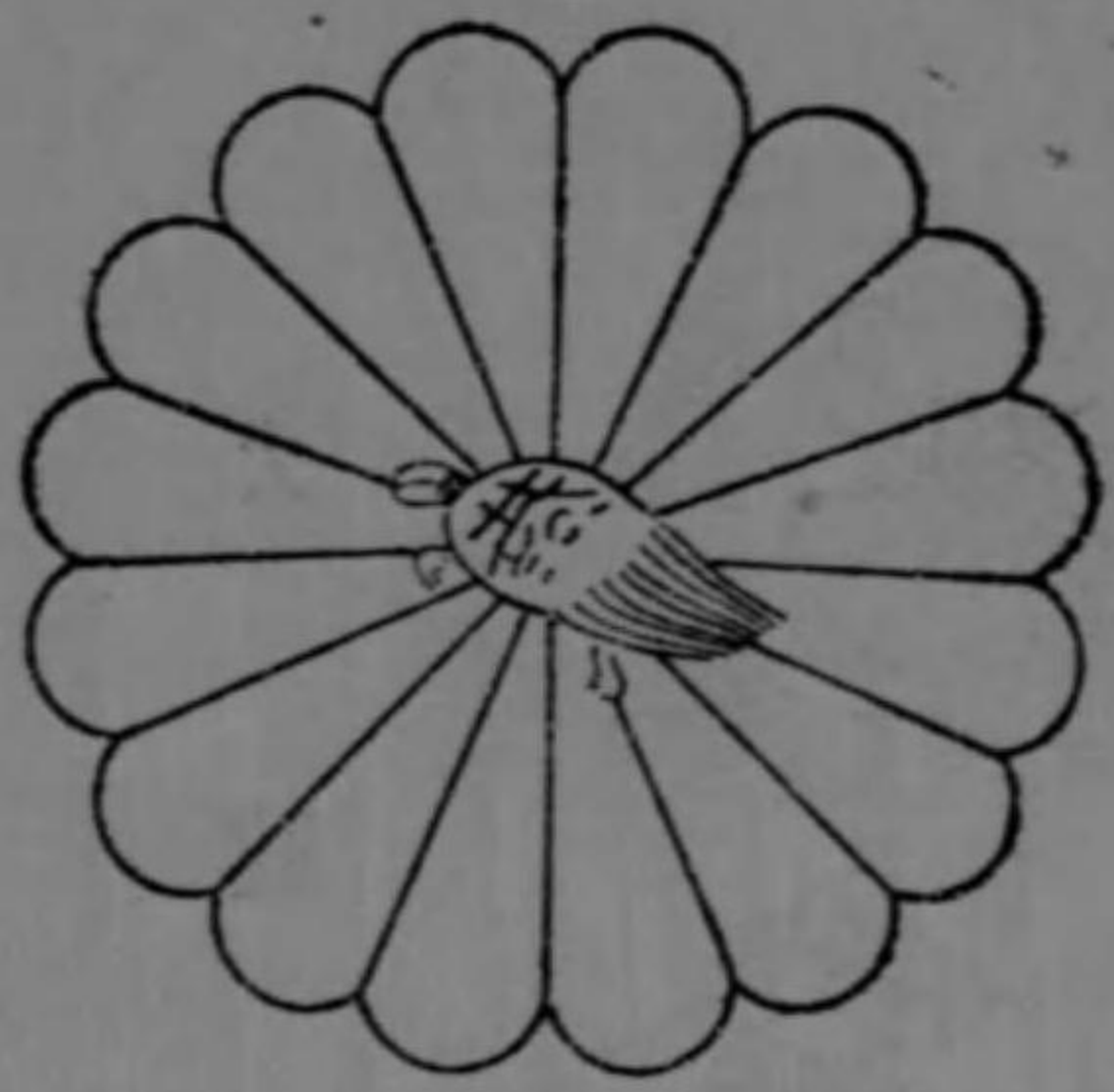
二 號



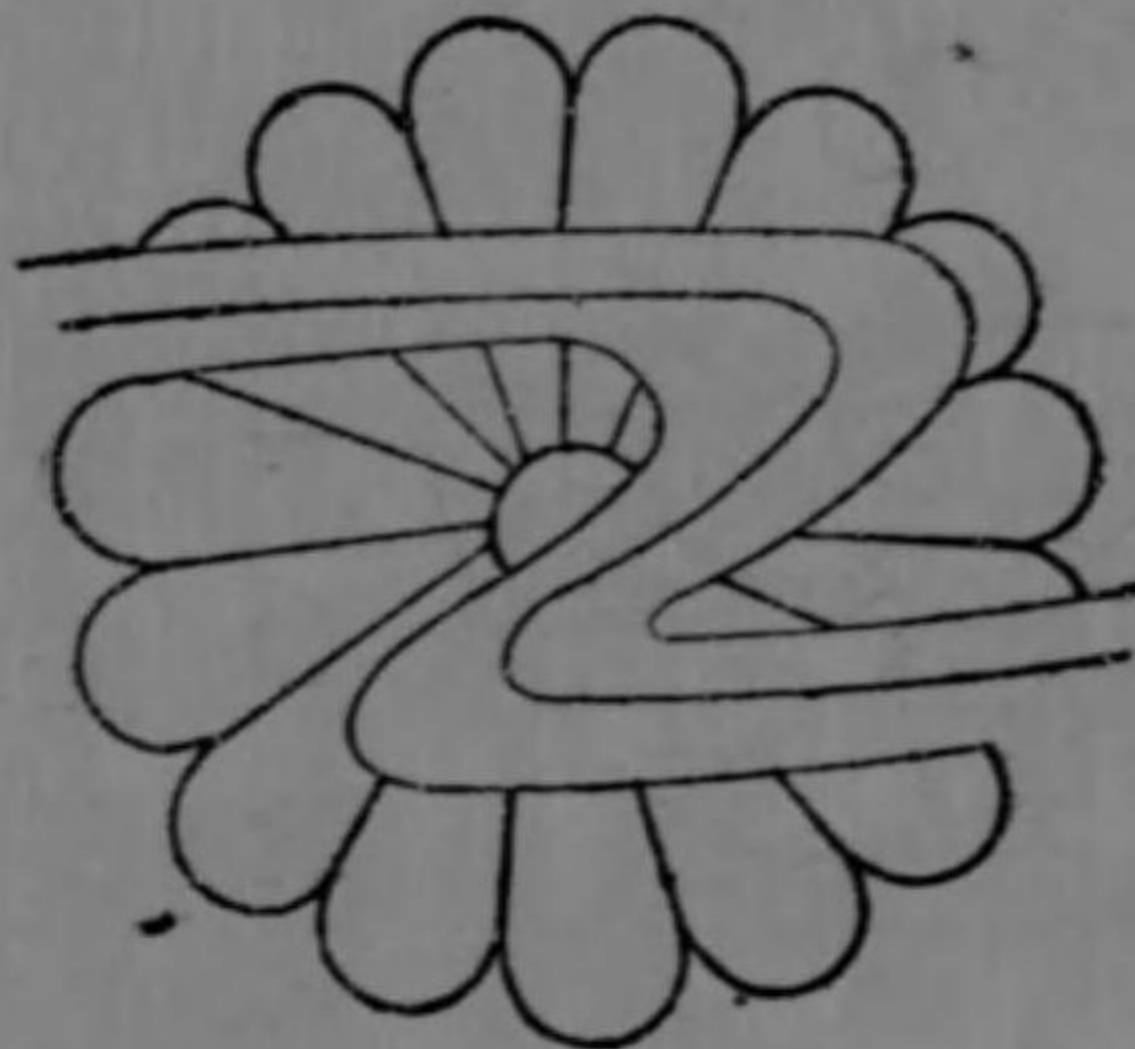
三 號



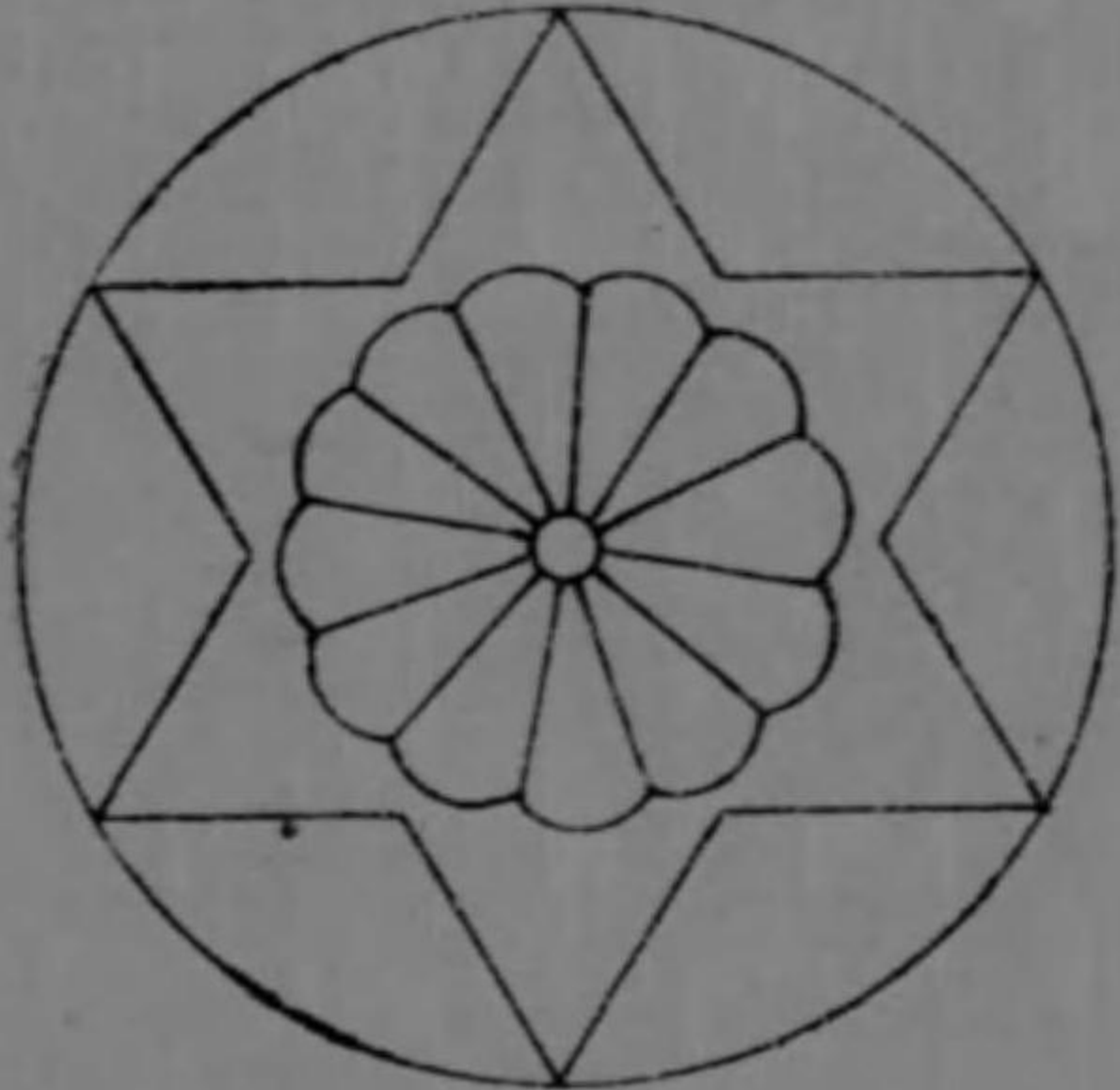
四 號



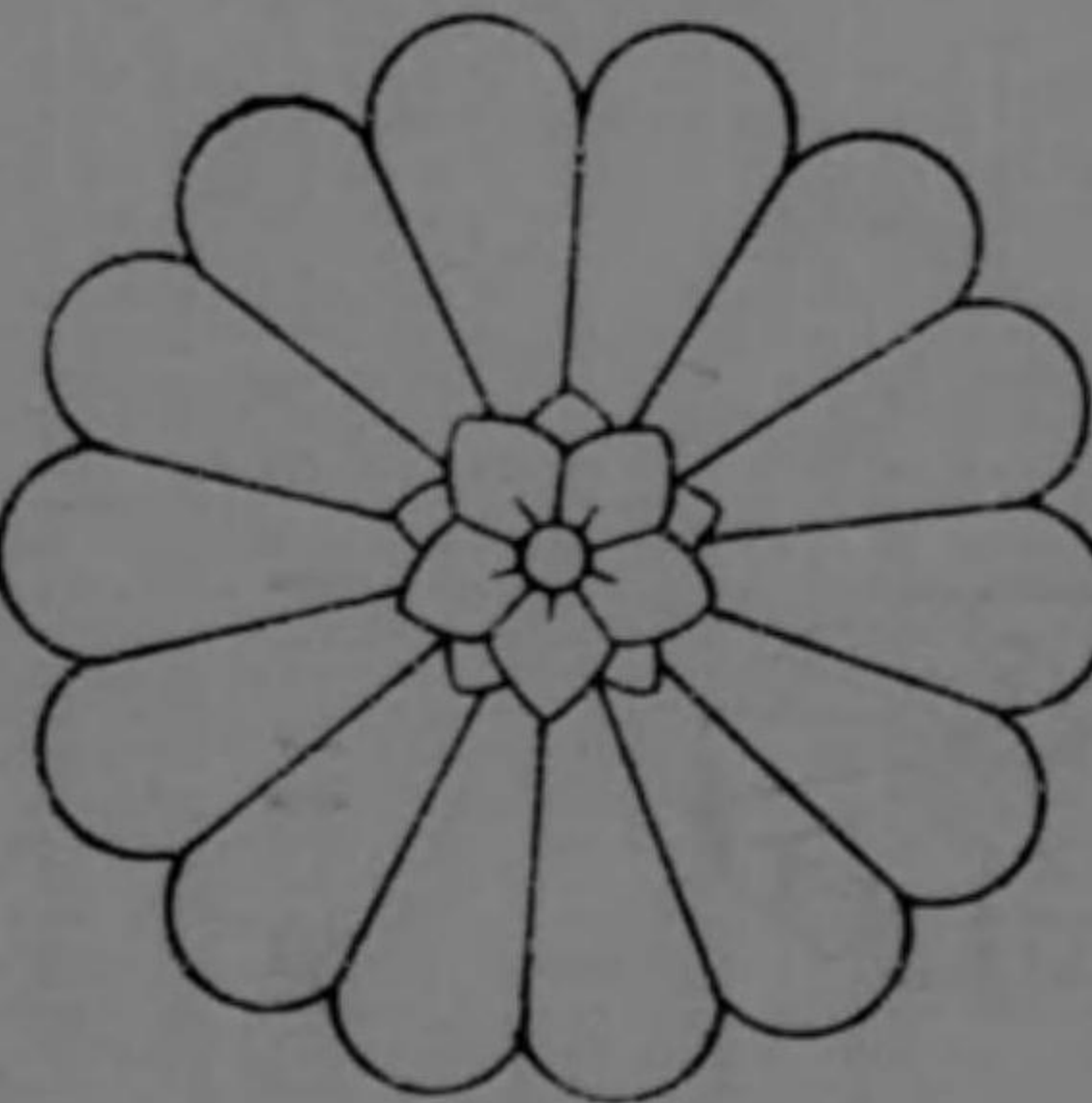
五 號



六 號



七 號

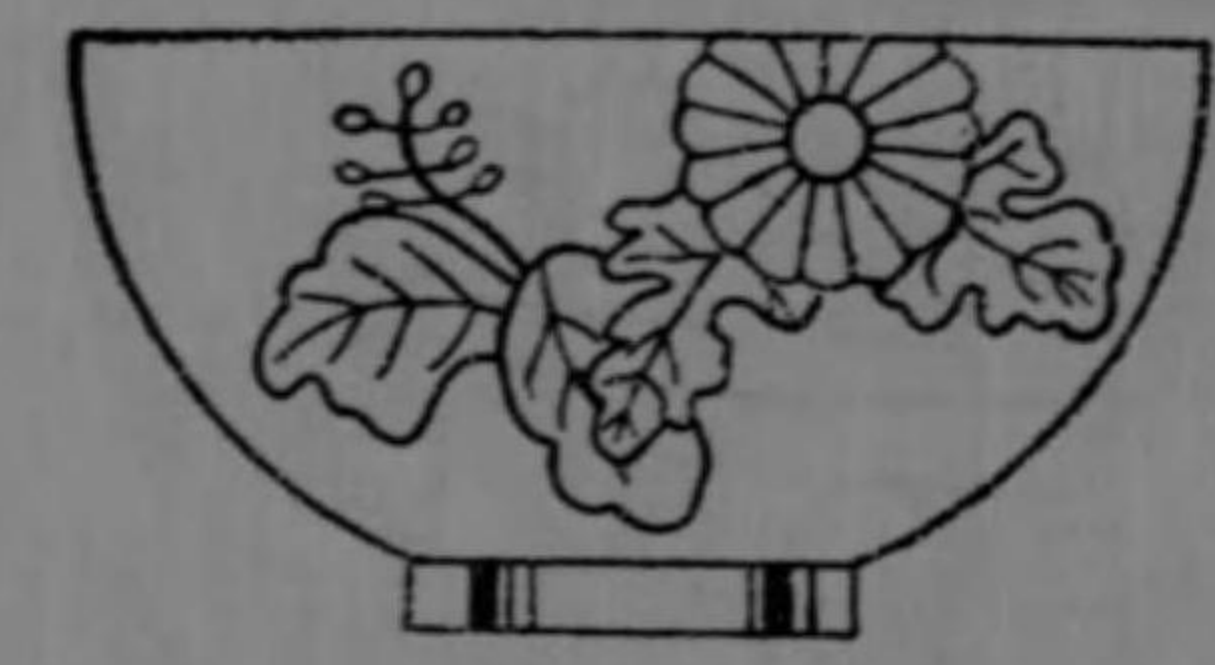


八 號

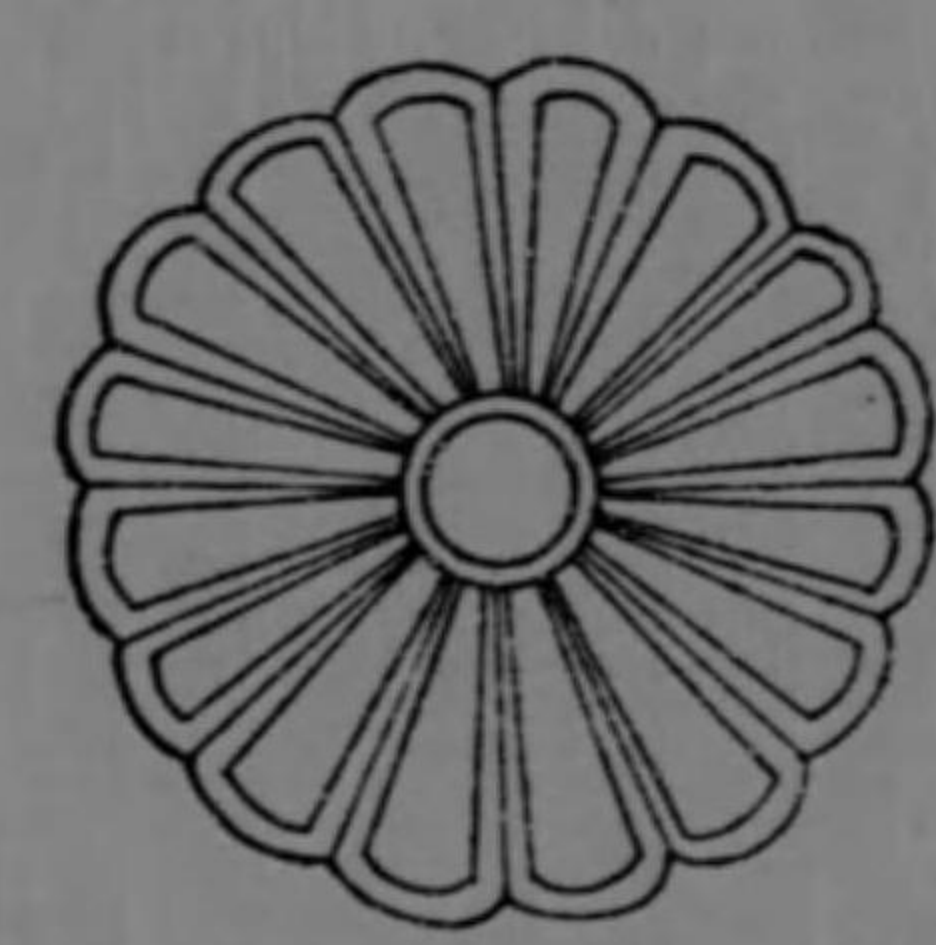
九號



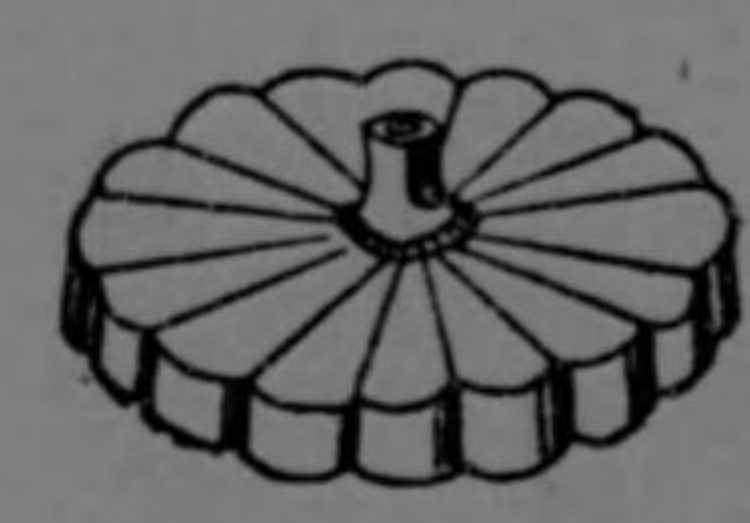
一〇號



一一號



一二號

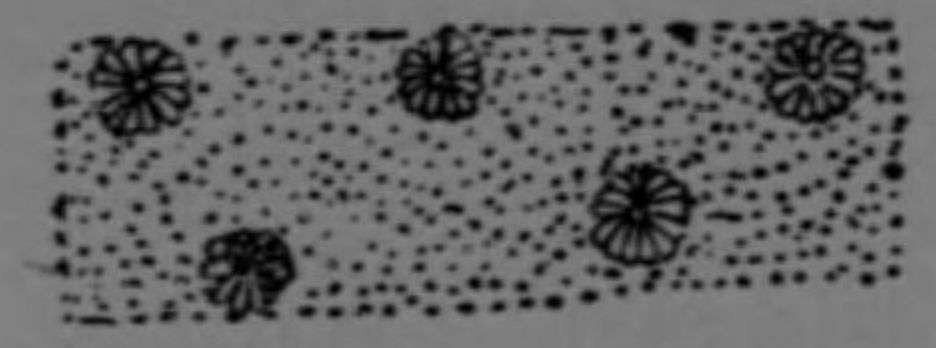


一三號



乙種

一號

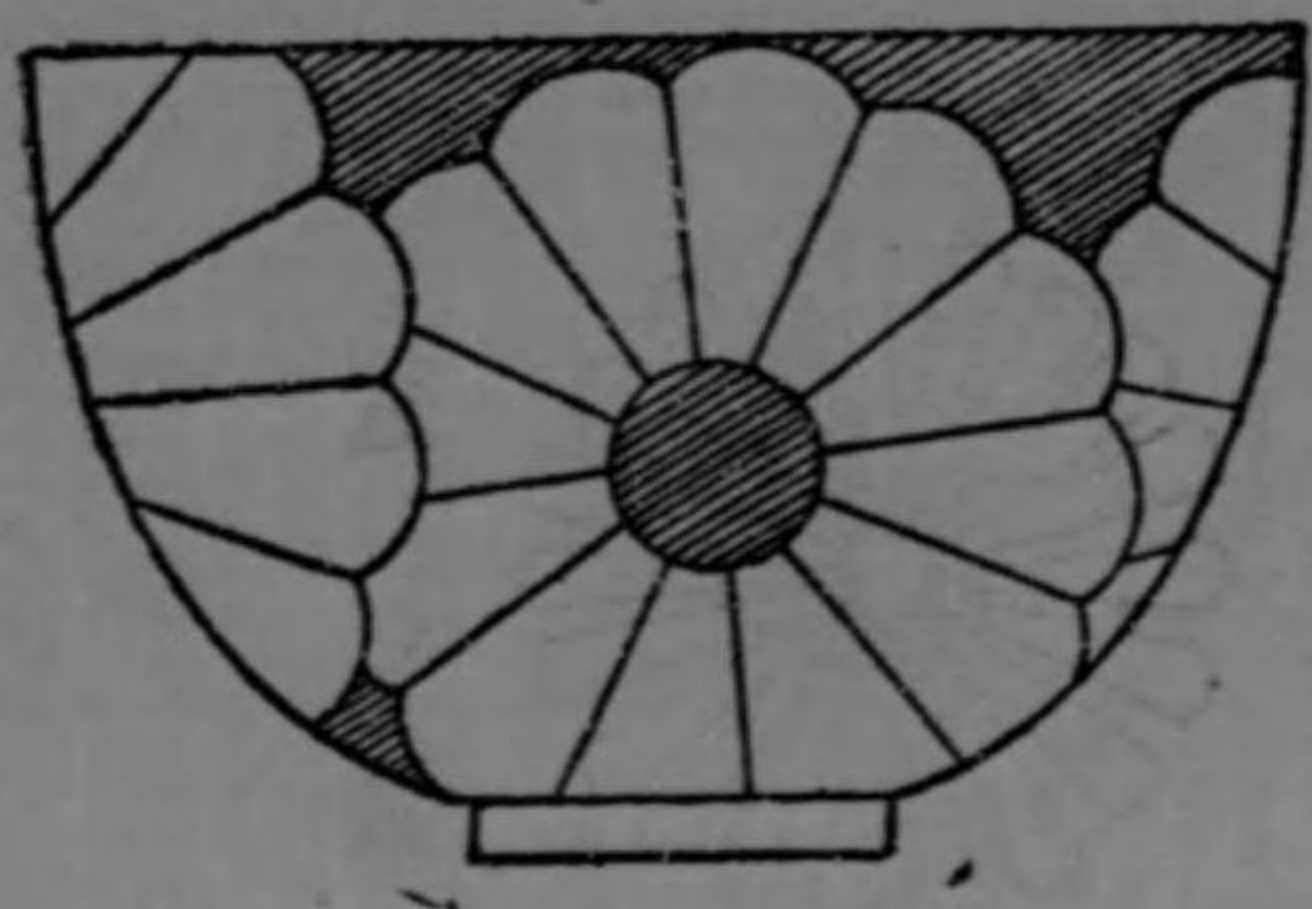


アンチモニー製

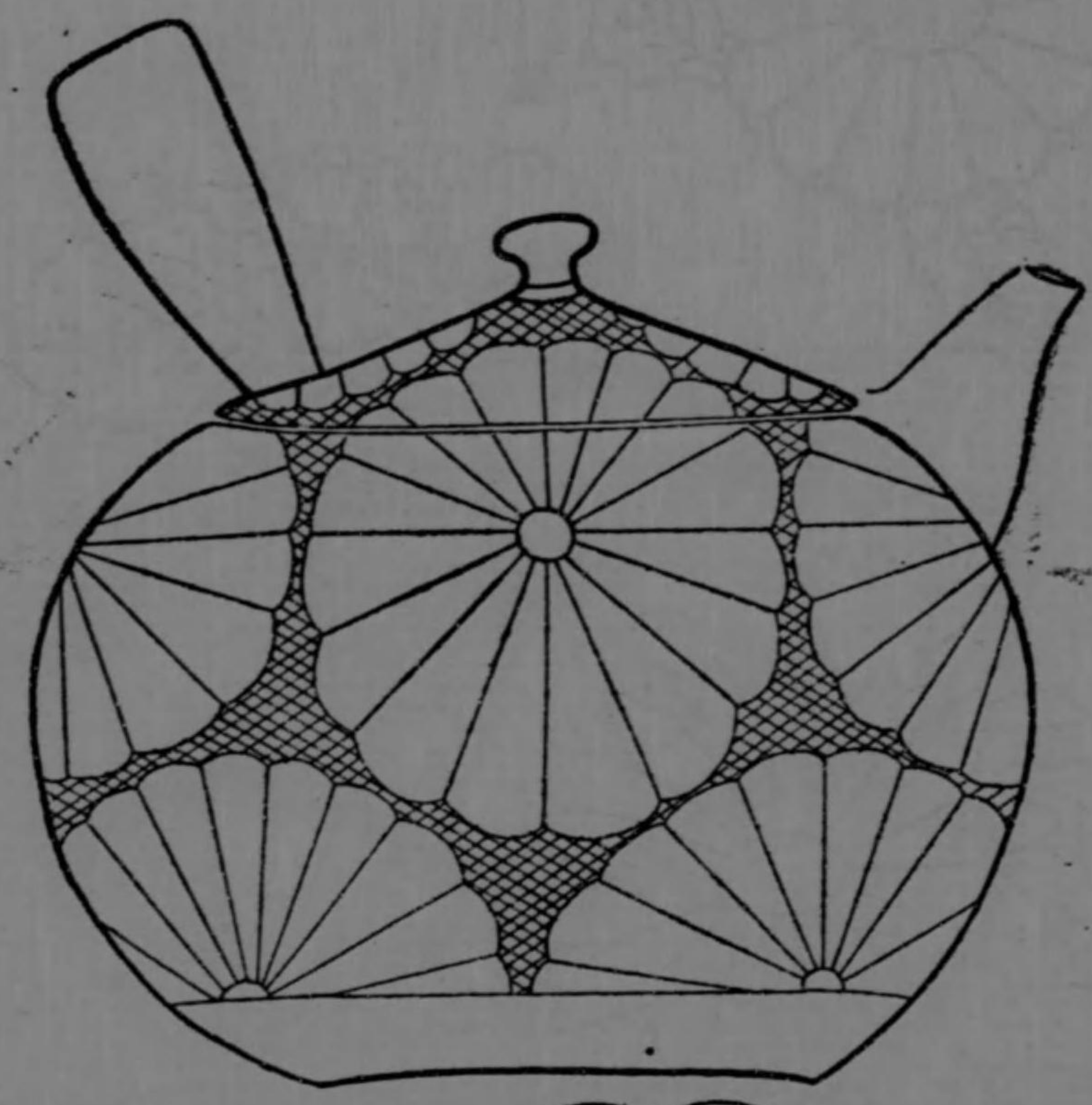
花瓶模様

但シ正確ナル紋型ヲ爲
スモノハ取締ヲ要ス

三號

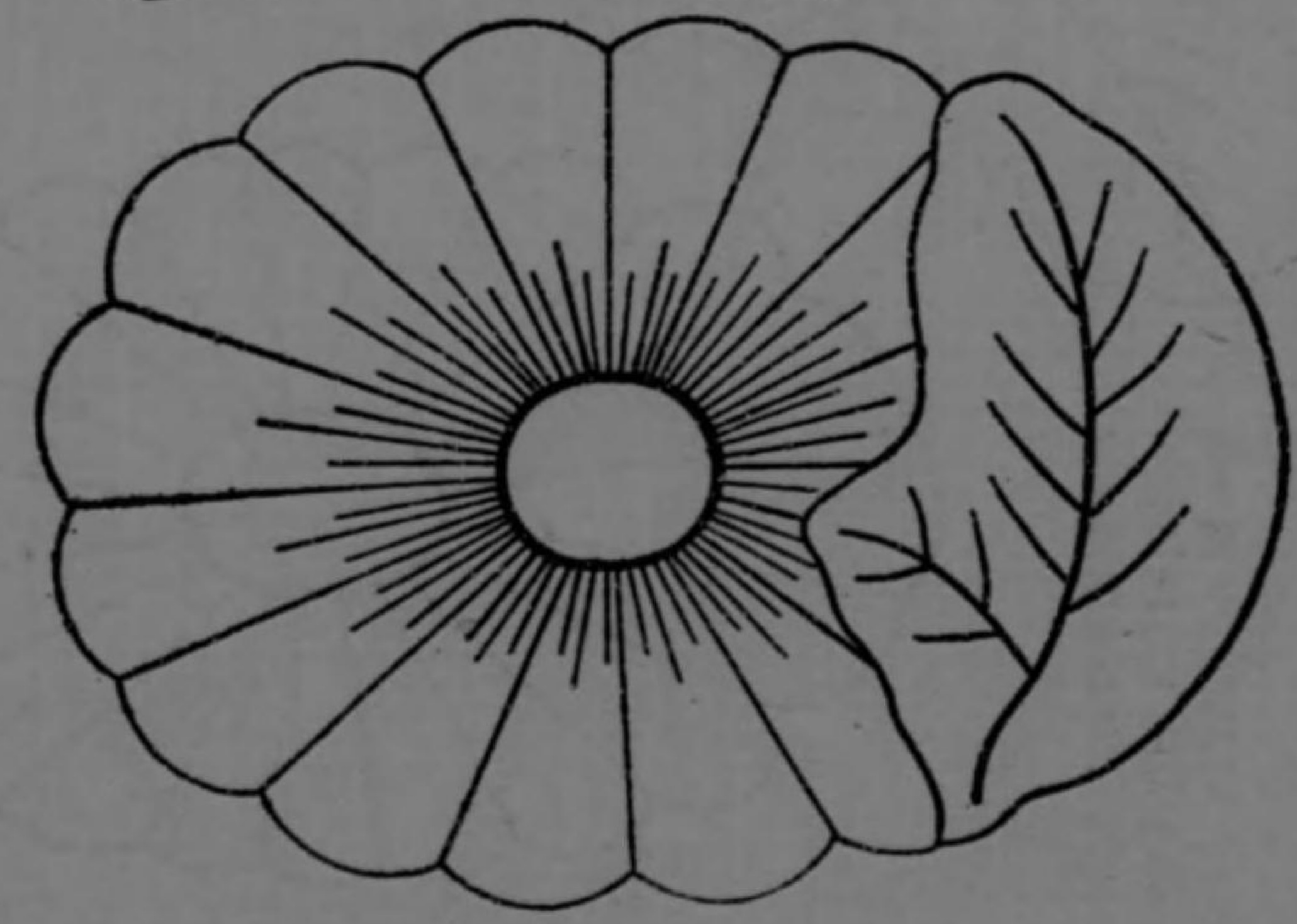


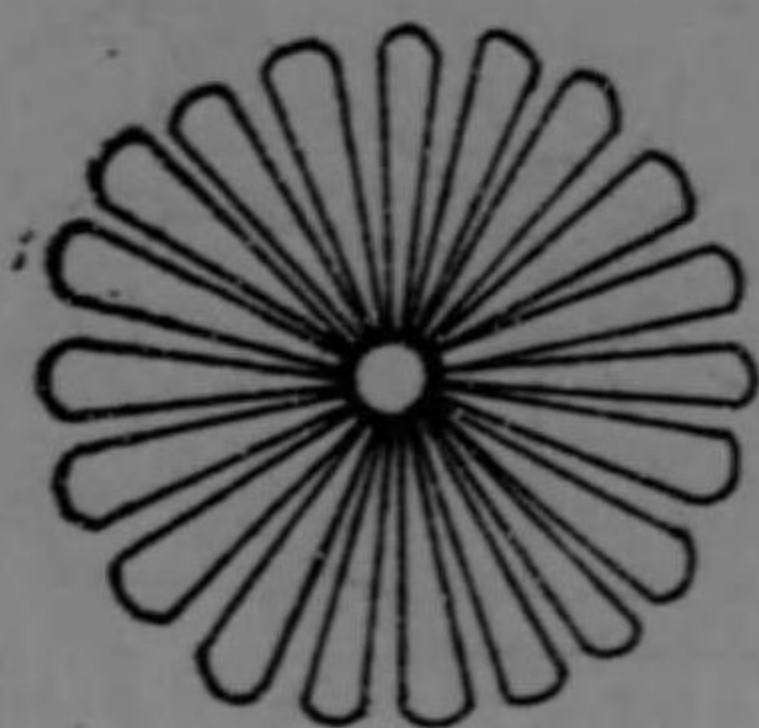
二號



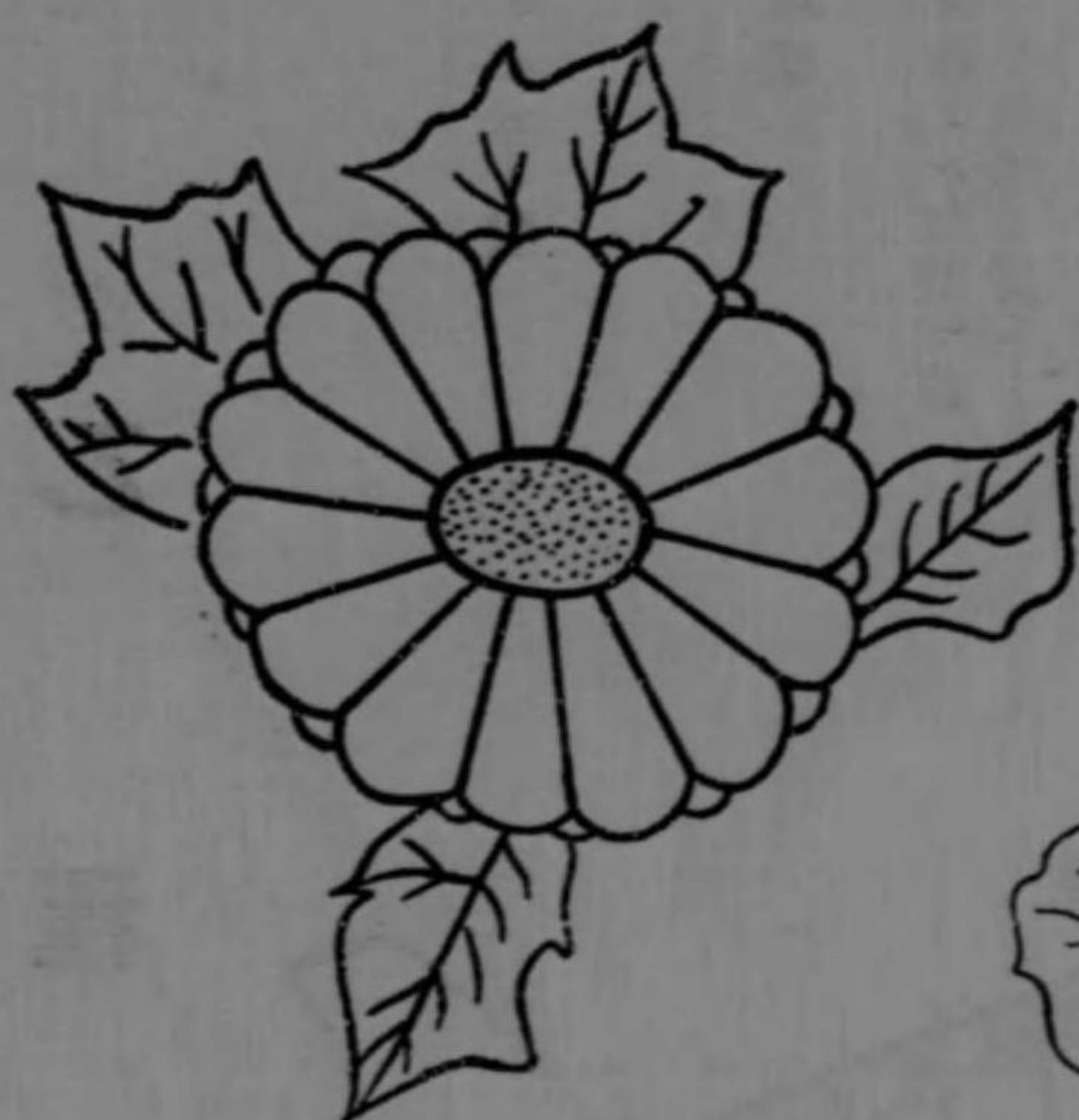
但シ蓋ノ紋様ト合セズシテ完全ニ紋様
ノ全形ヲ描出スルモノハ取締ヲ要ス

四號

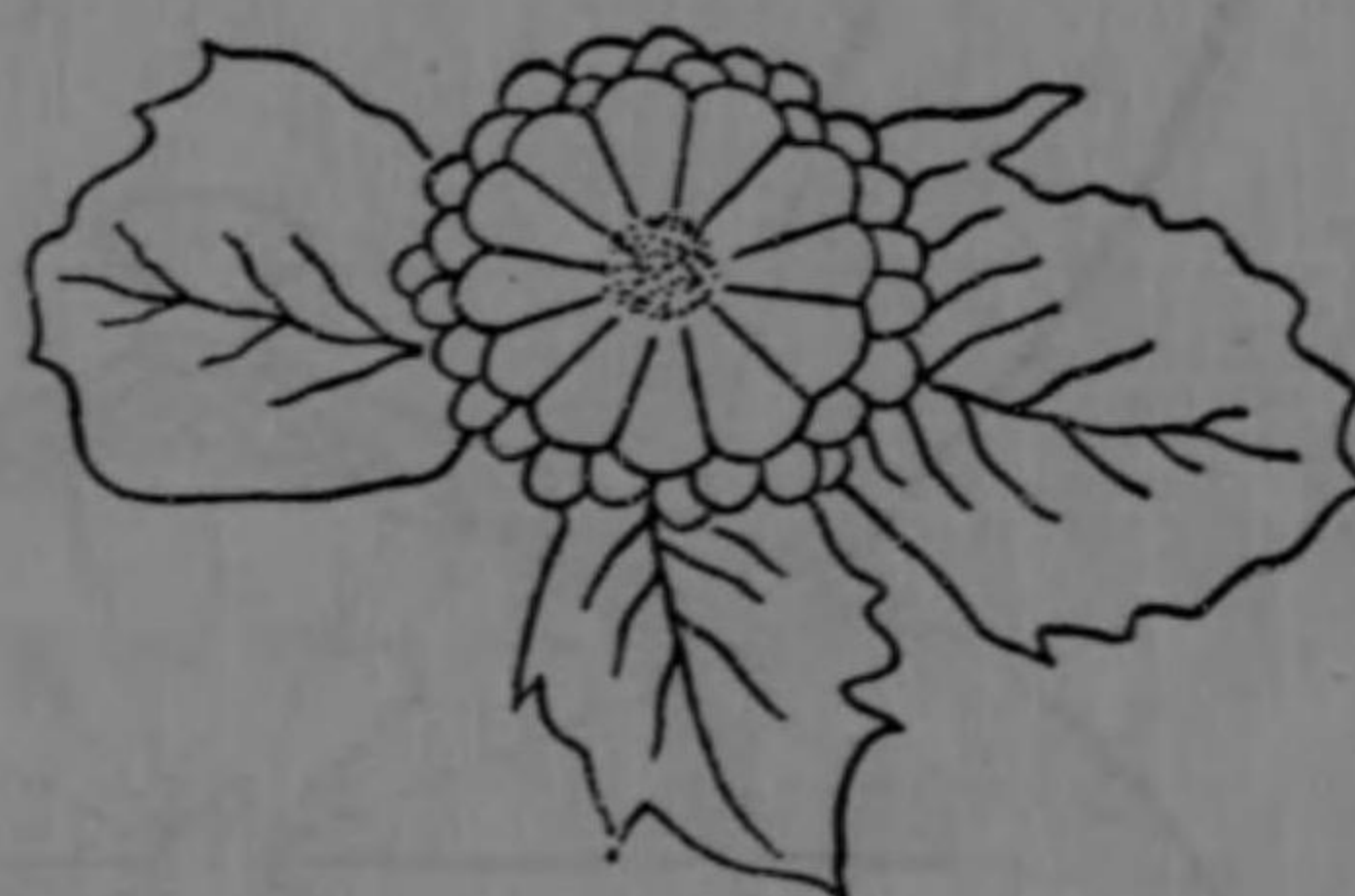




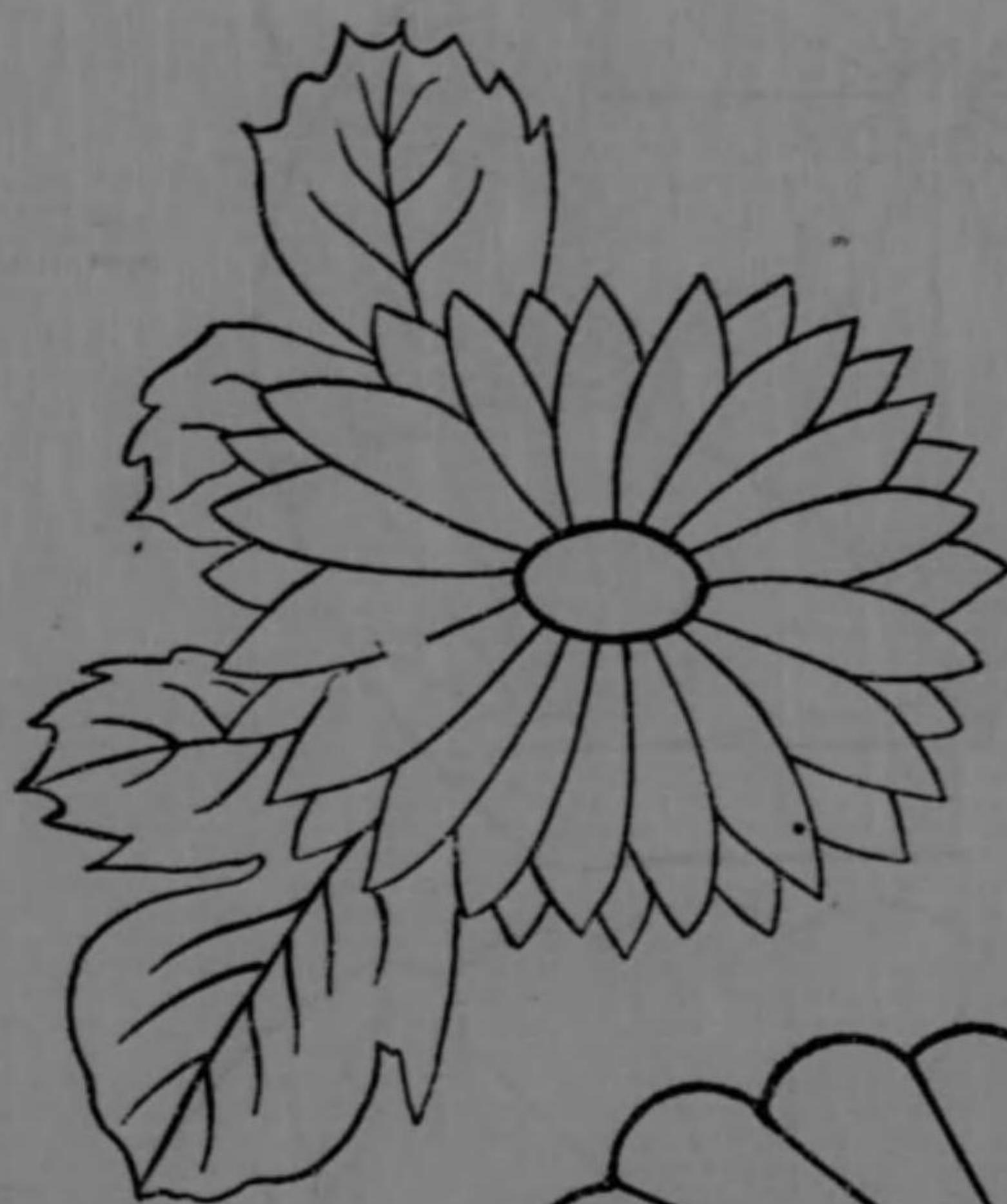
五號



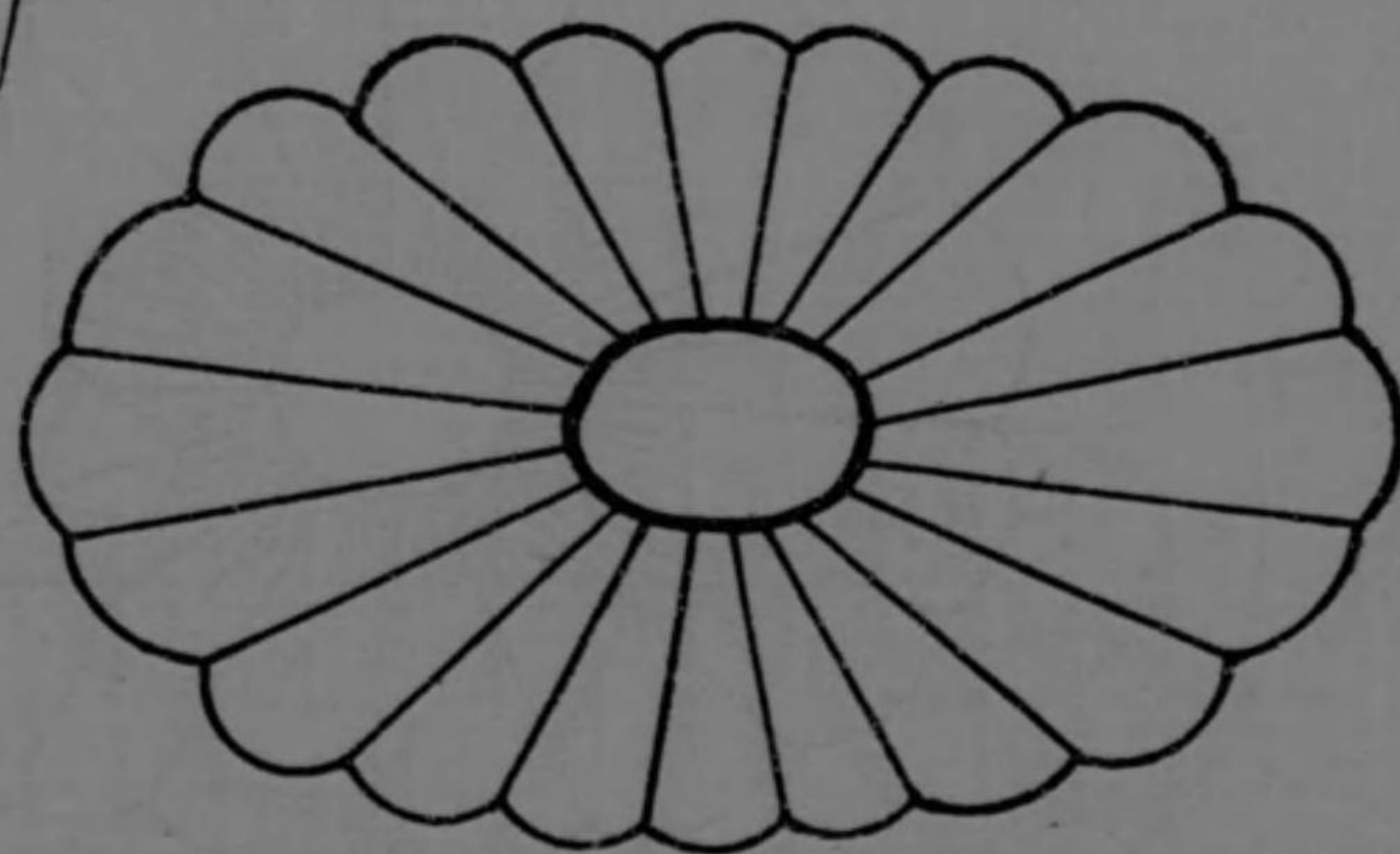
六號



七號



八號



九號

但シ短徑ガ長徑ノ三分ノ二以上ナルトキハ取締ヲ要ス

一〇號



一一號

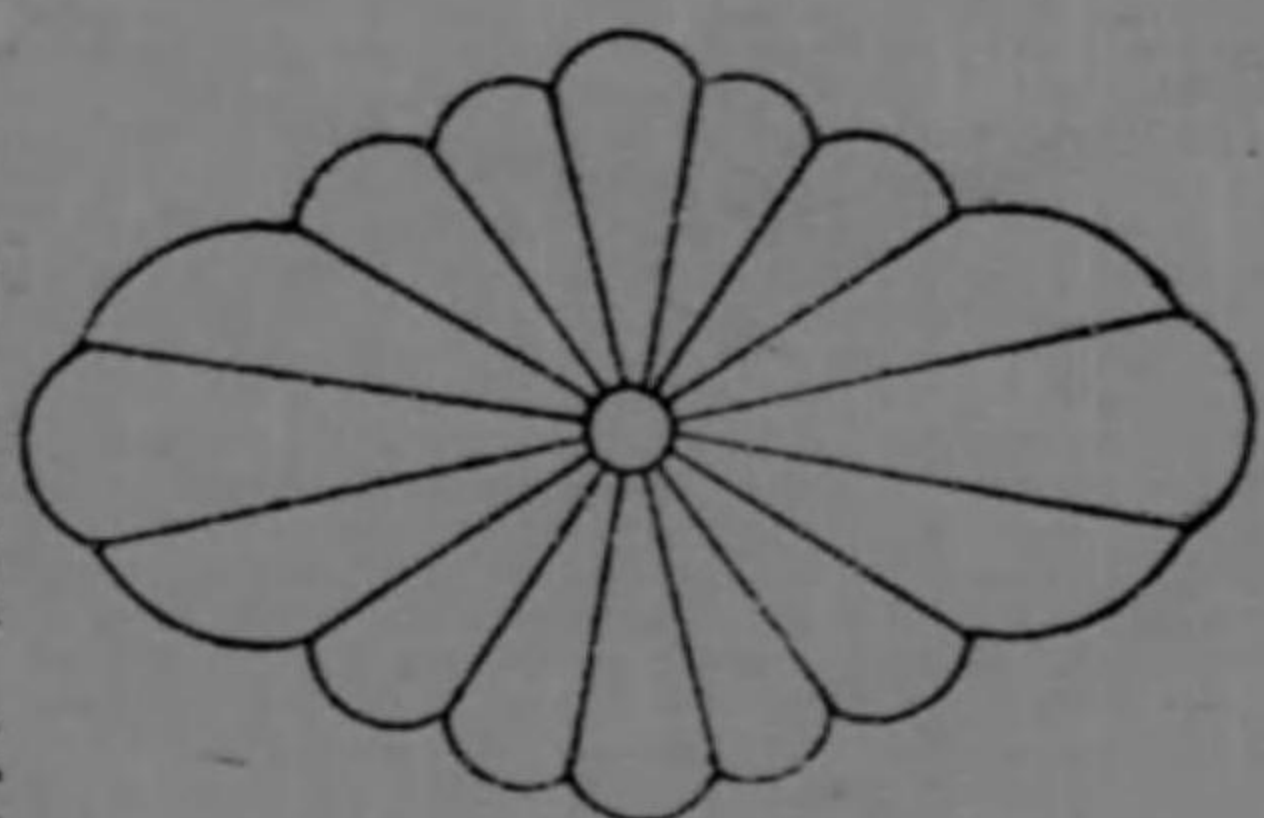
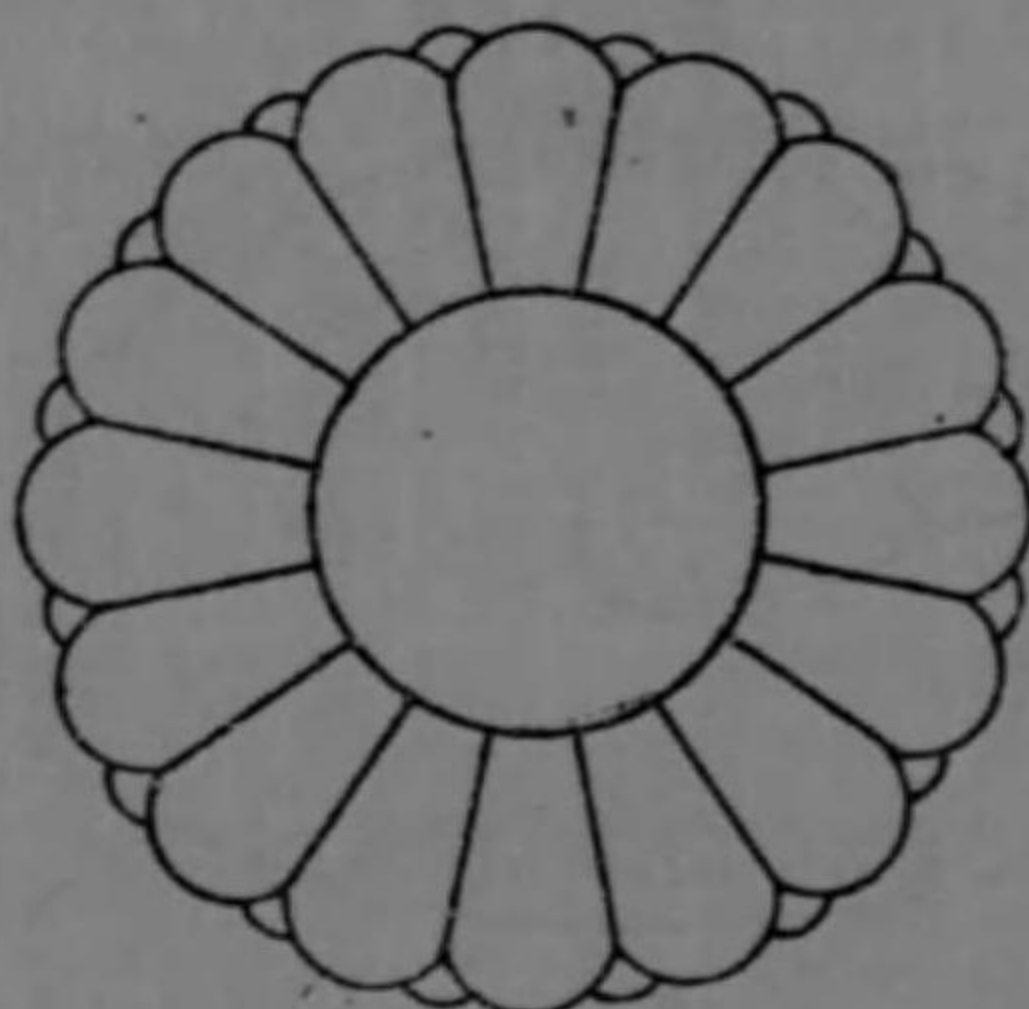


一二號

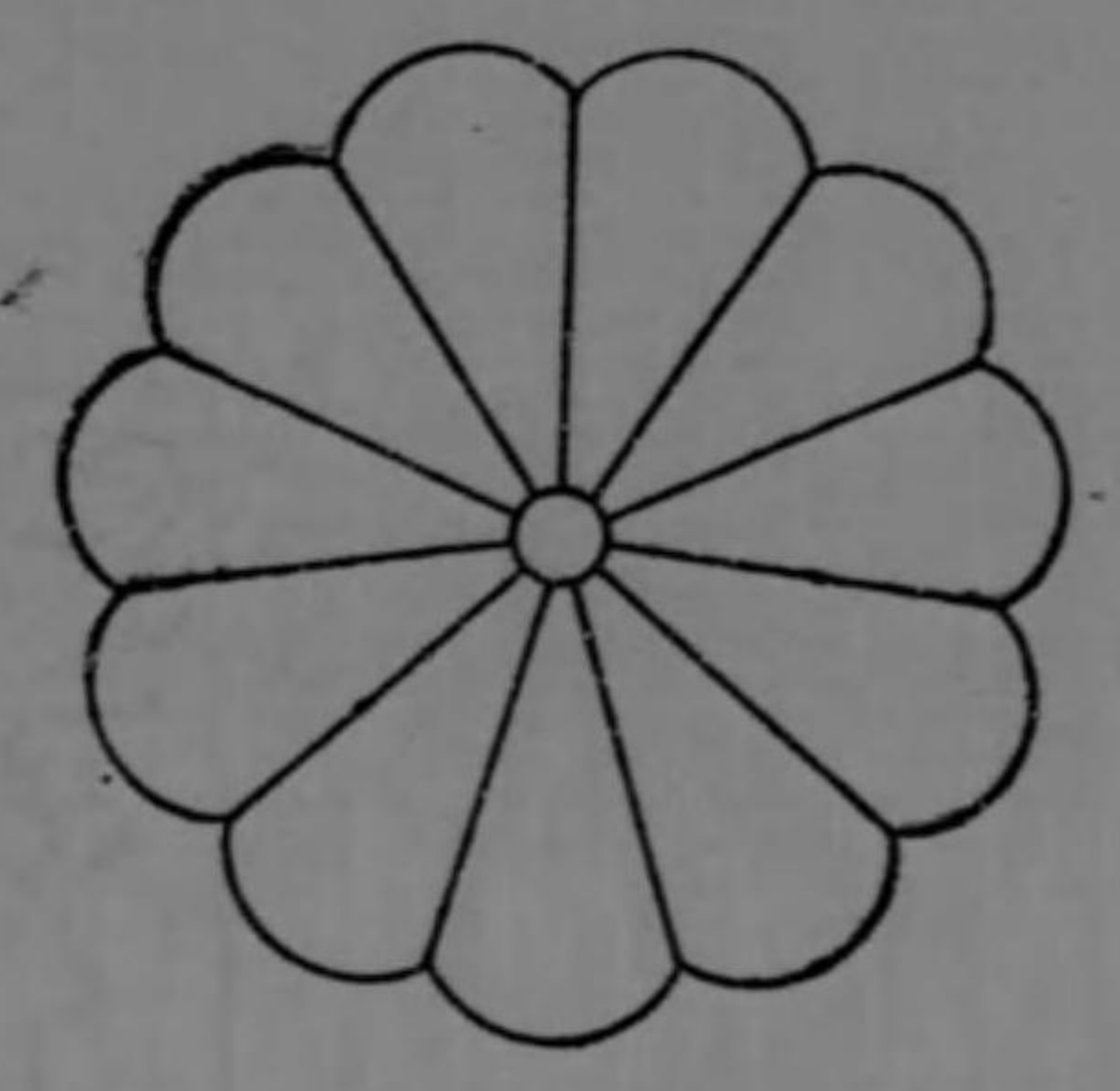
但シ菊花ヲ蔽ヘル文字紋樣菊花面積ノ五分ノ三未満ナルトキハ取締ヲ要ス

但シ中心圓ノ直徑花瓣ノ長サヨリ小ナルトキハ取締ヲ要ス

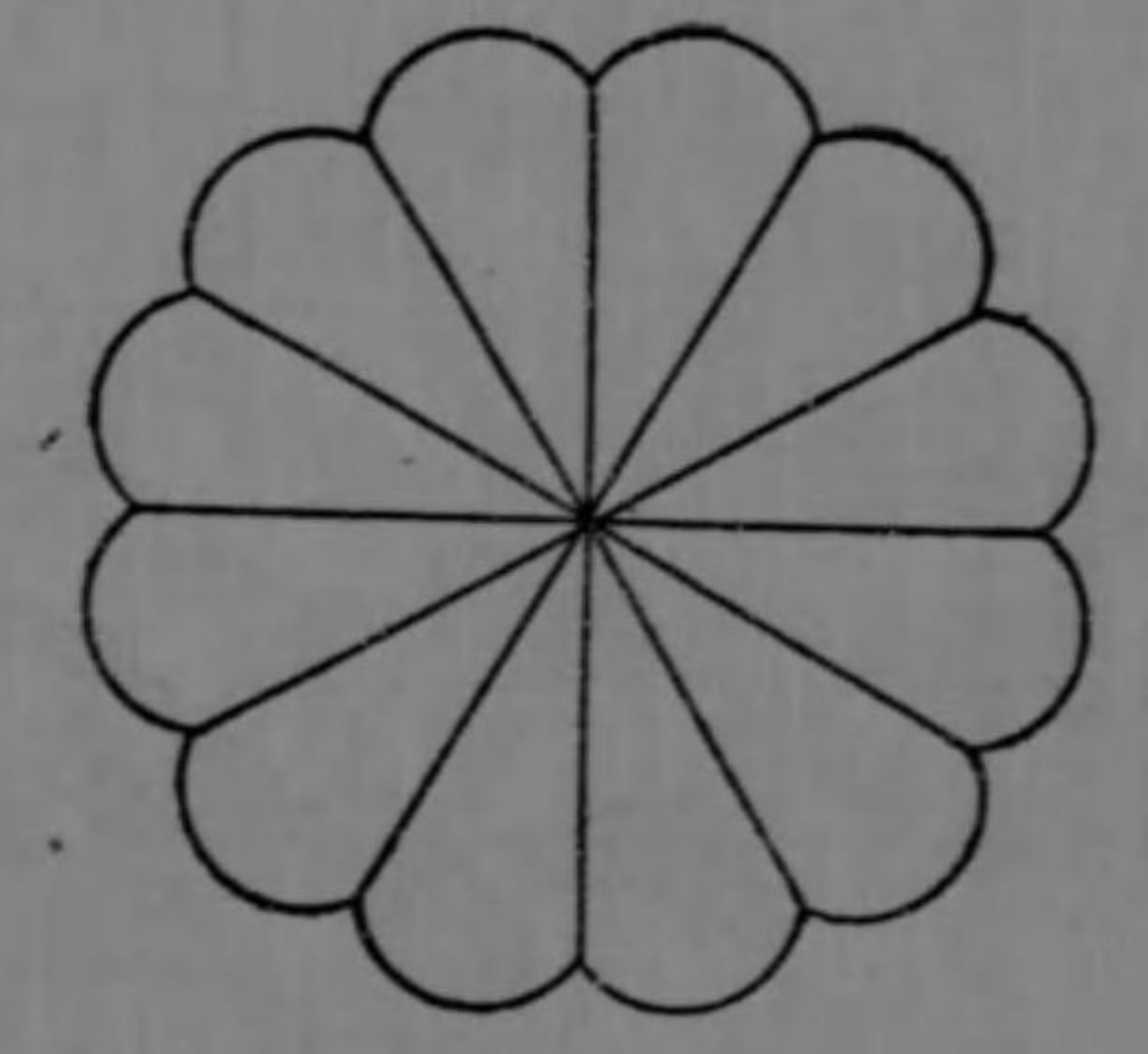
一三號



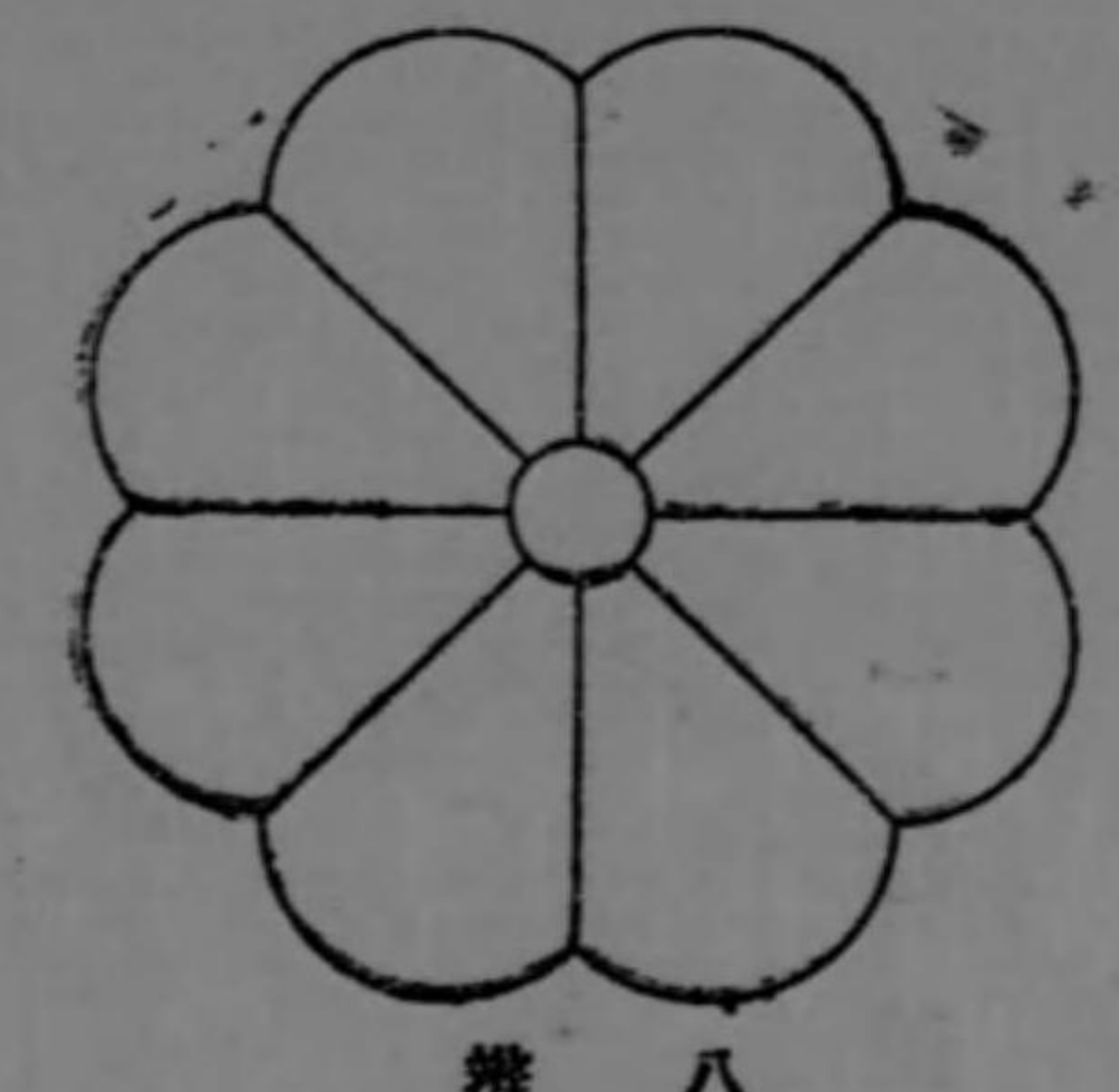
但シ短徑ガ長徑ノ三分ノ二以上ナルトキハ取締ヲ要ス



一四號

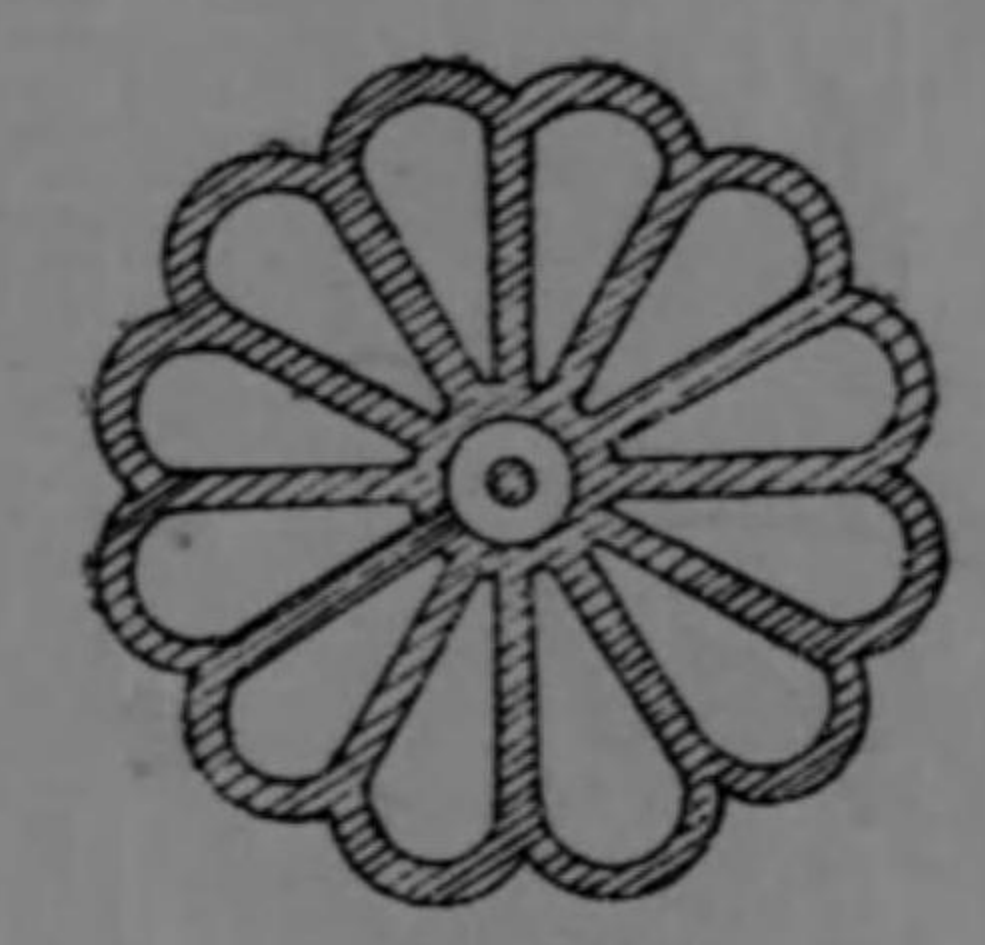


一五號



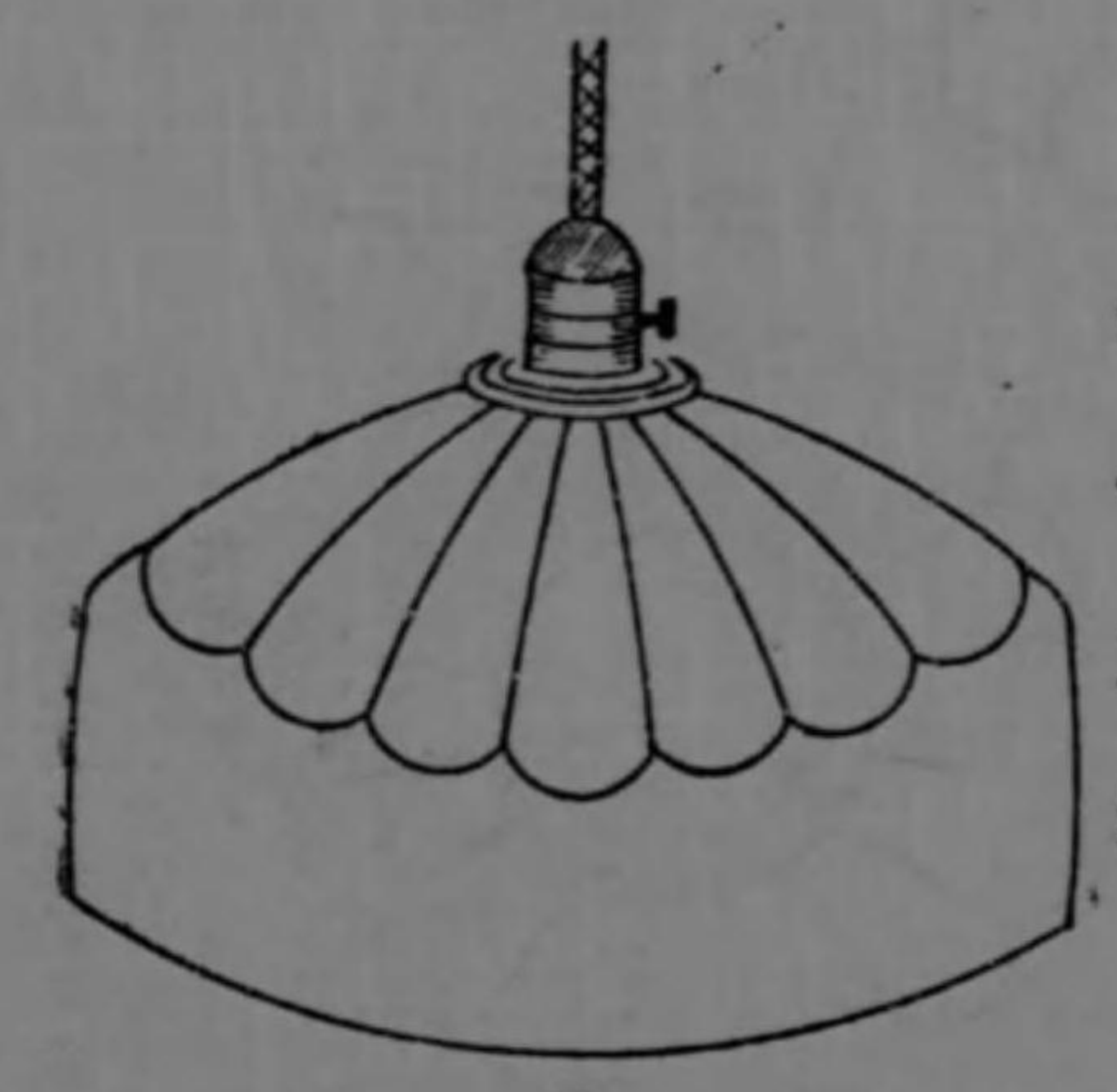
一七號

辨八



一八號

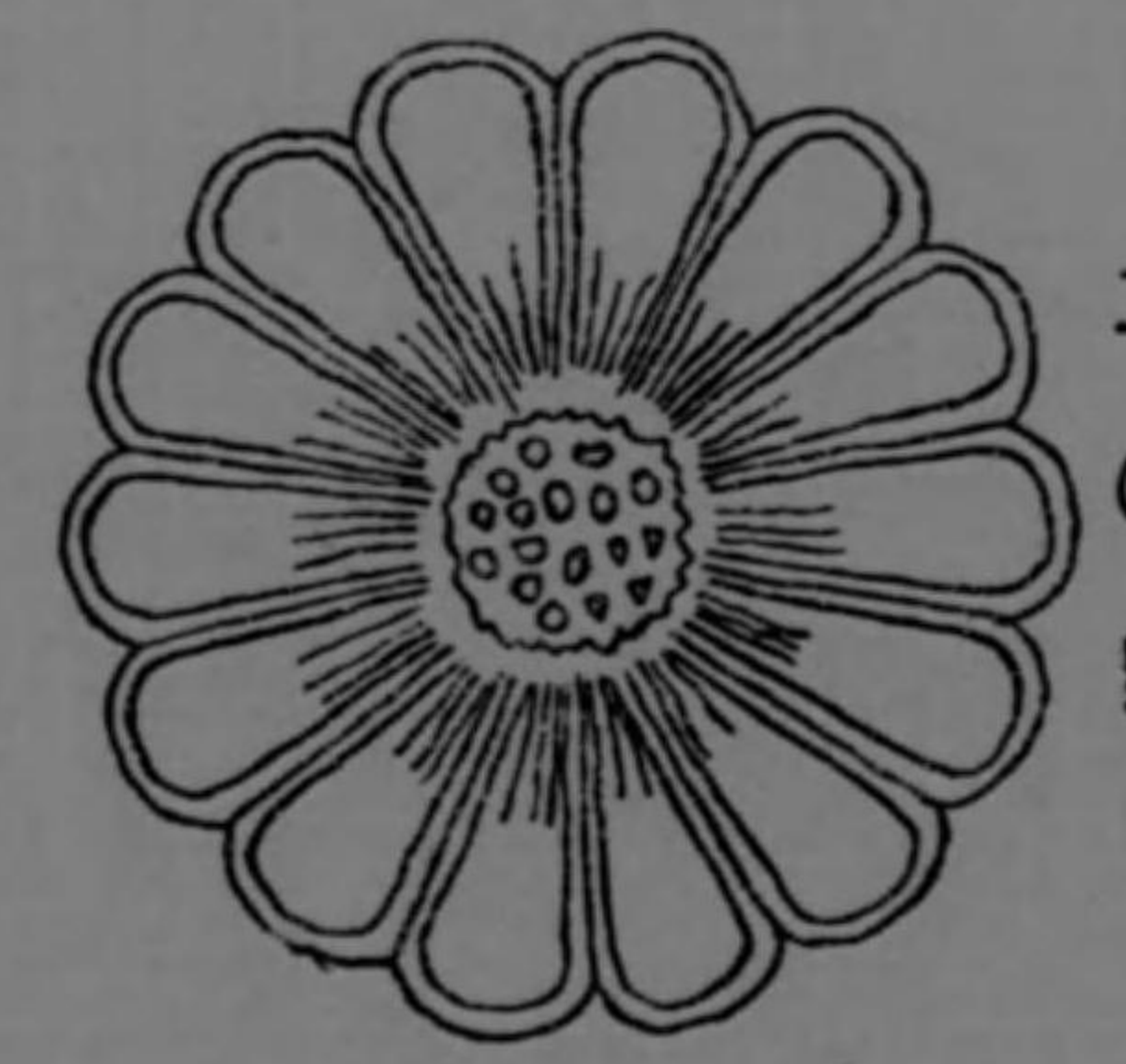
前錠筒筆



一九號

茶臺

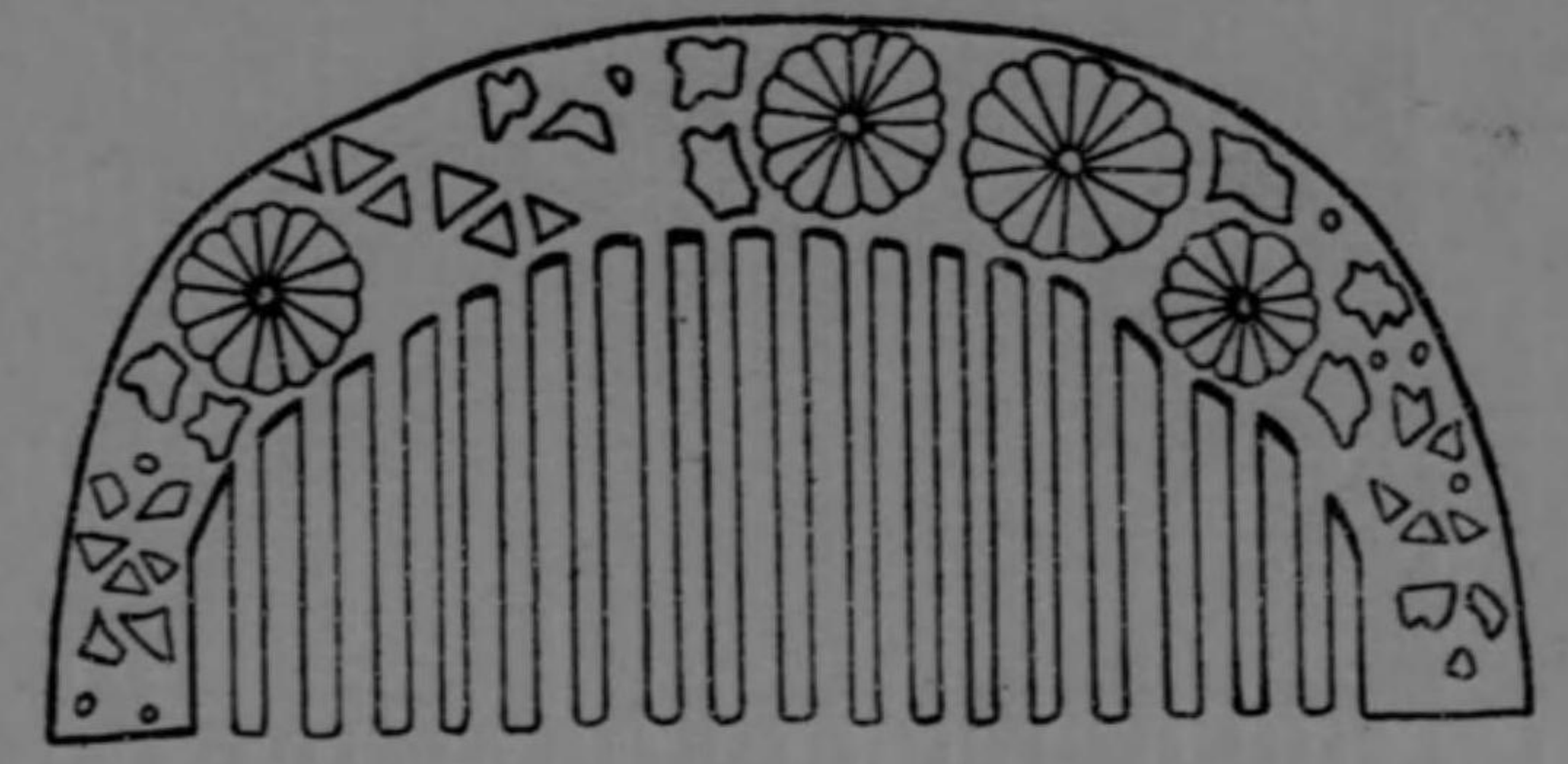
二三號



二〇號

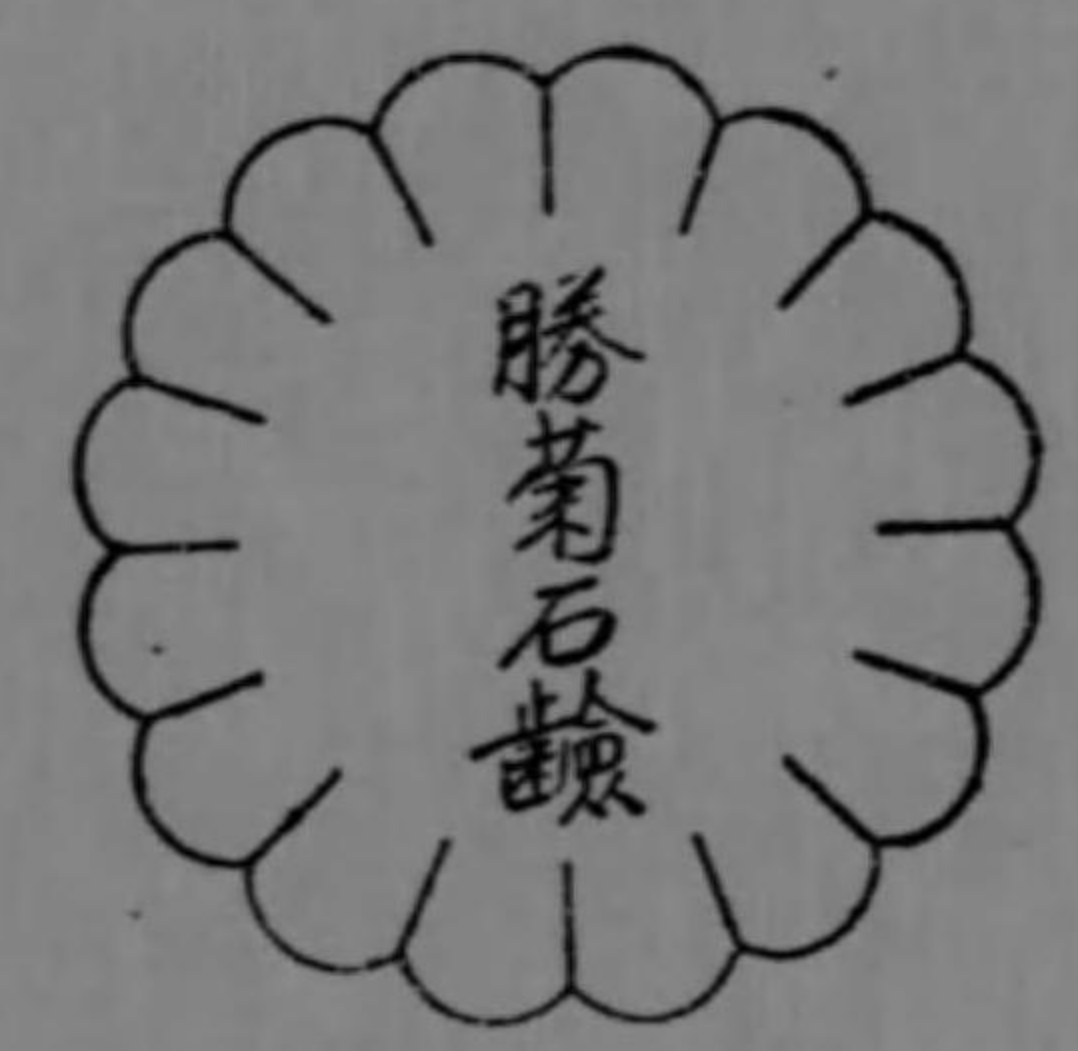


一六號

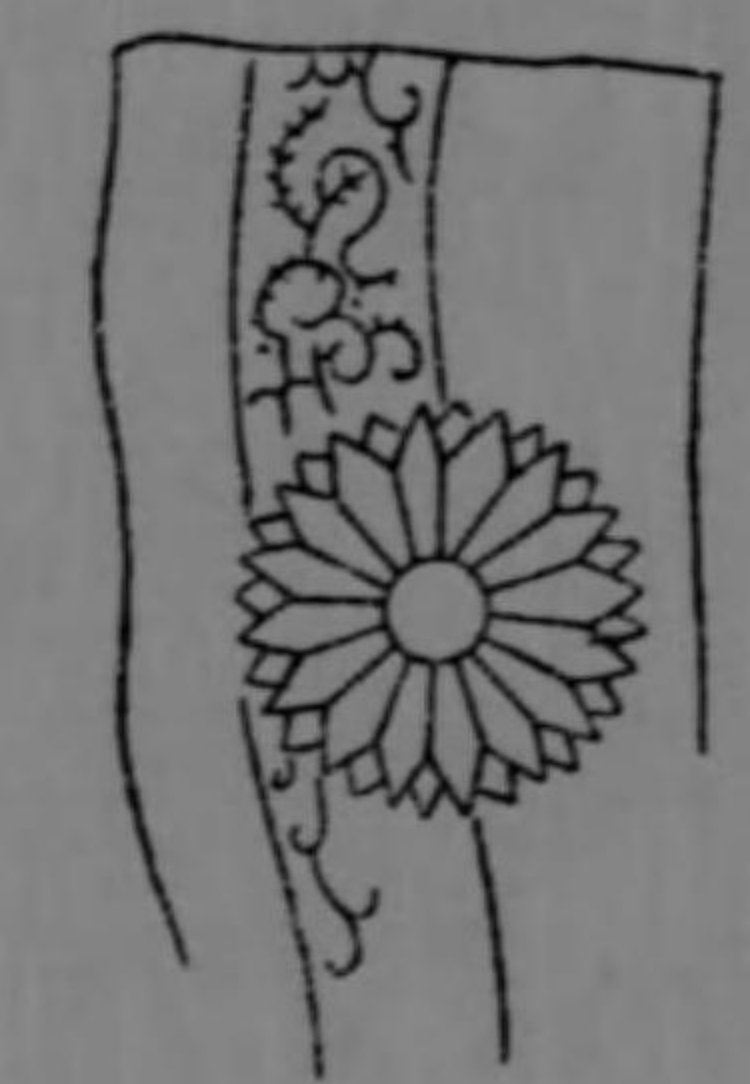


二一號

但シ正確ナル紋型ヲ爲スモ
ノアルトキハ取締ヲ要ス

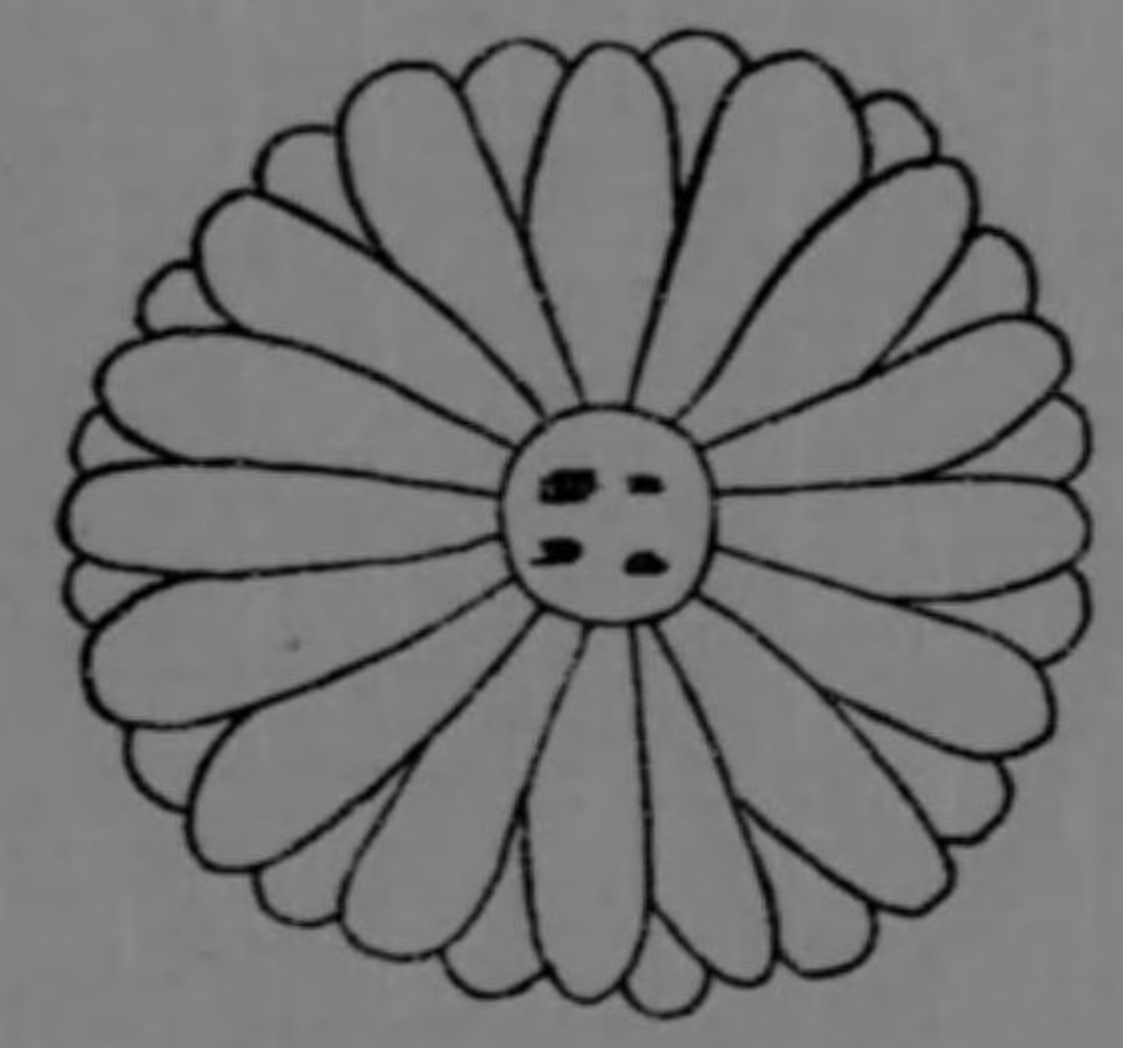


二四號

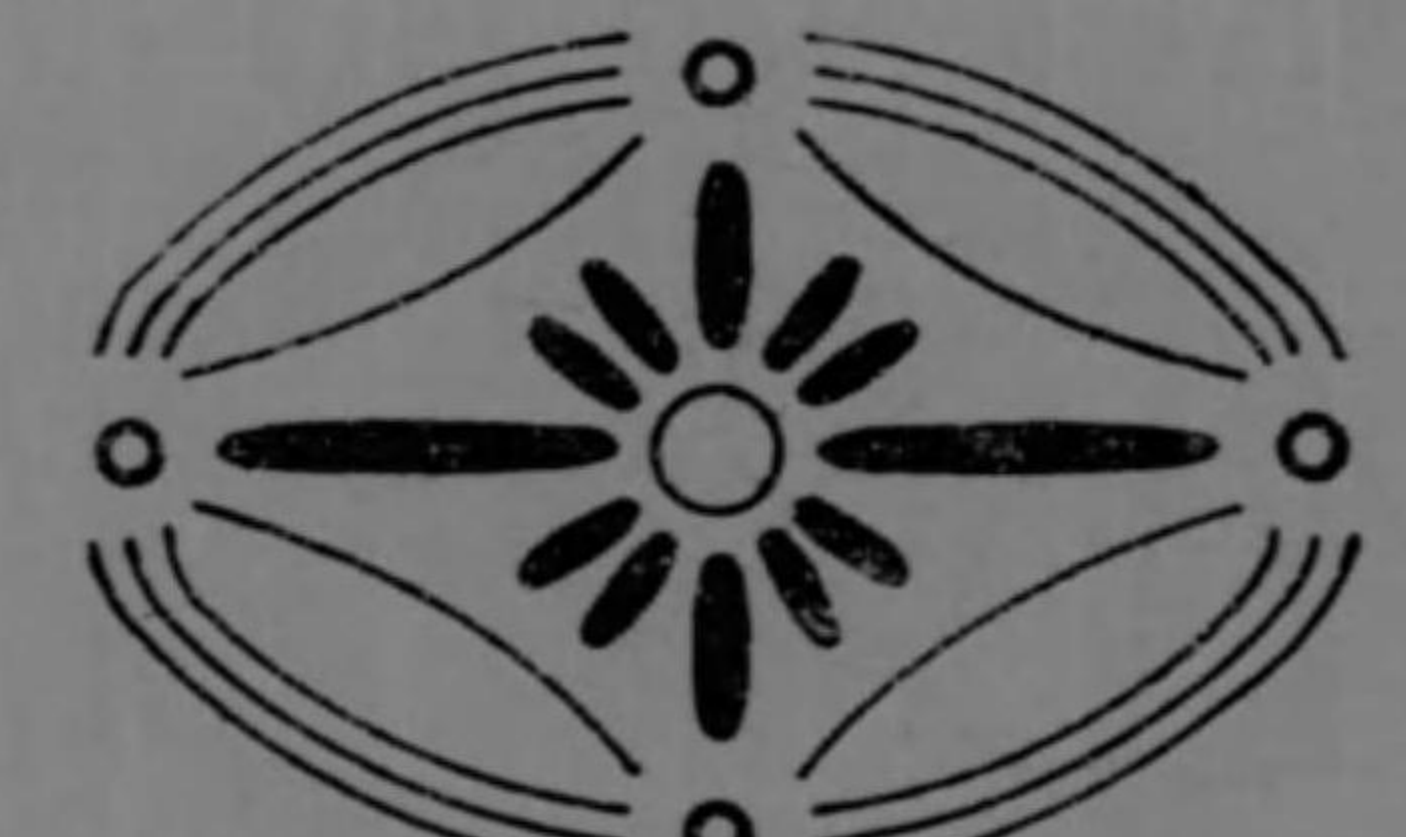


友禪染

二二號

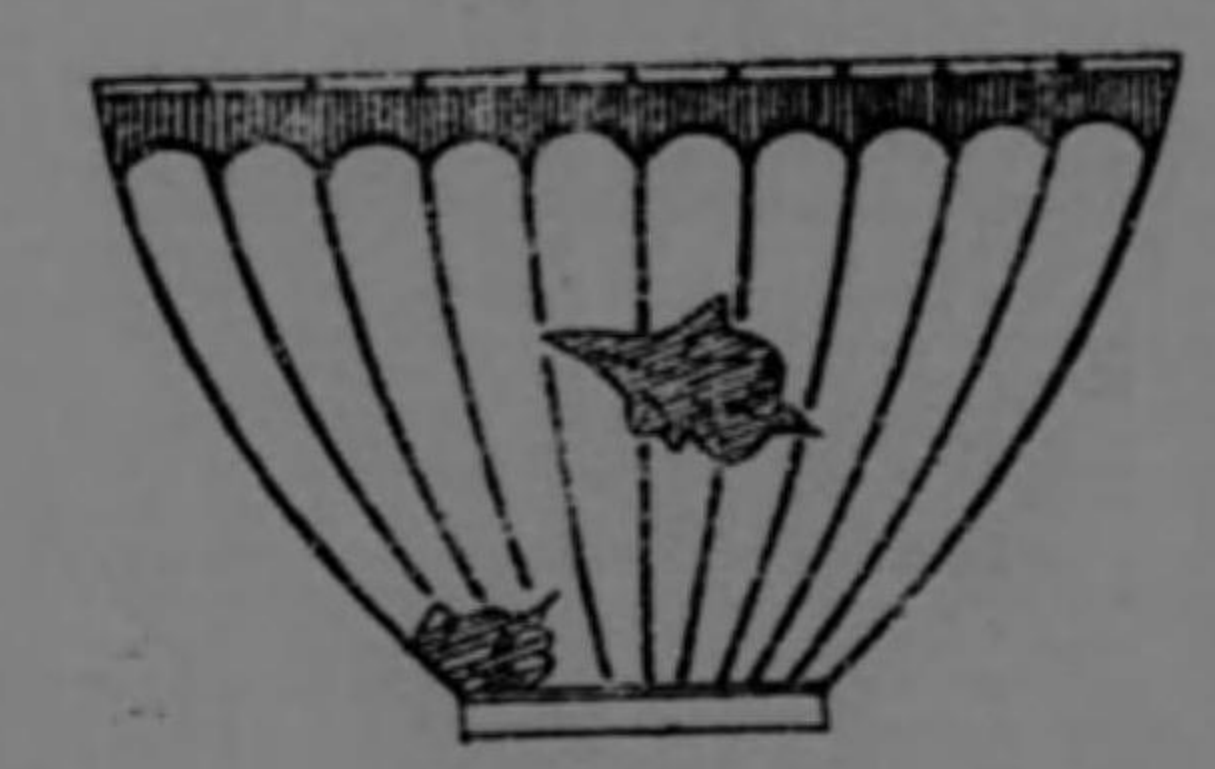


二七號



二五號

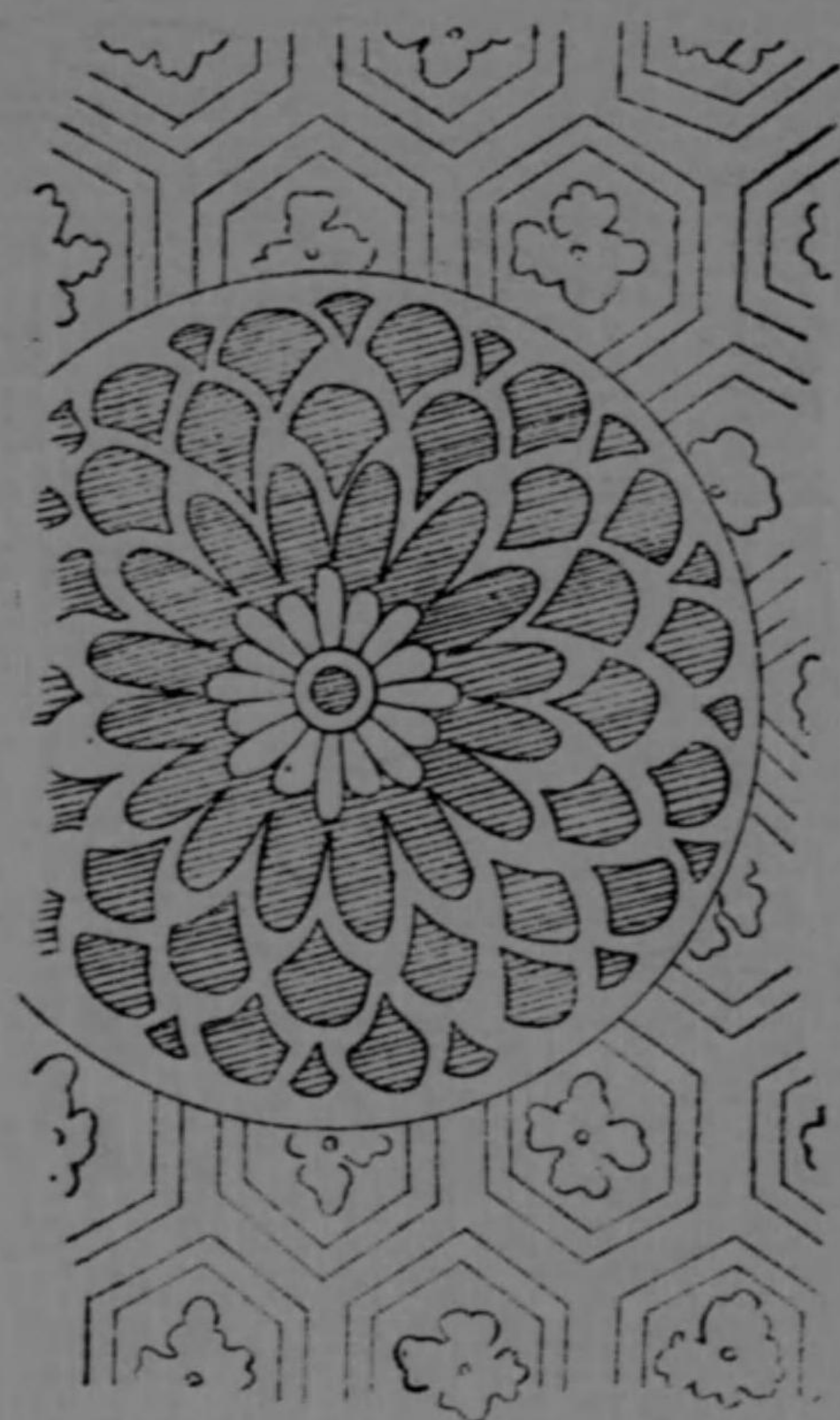
巻絲



二六號

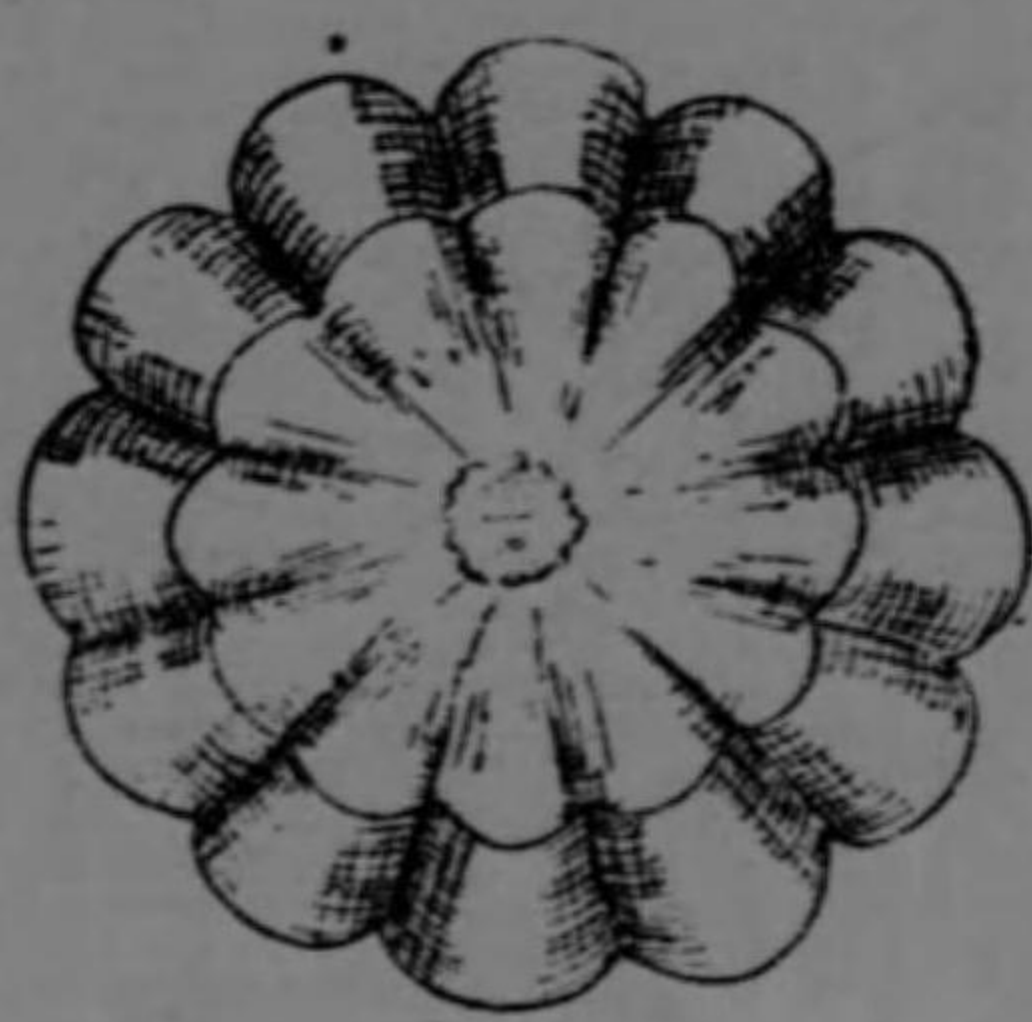


二八號

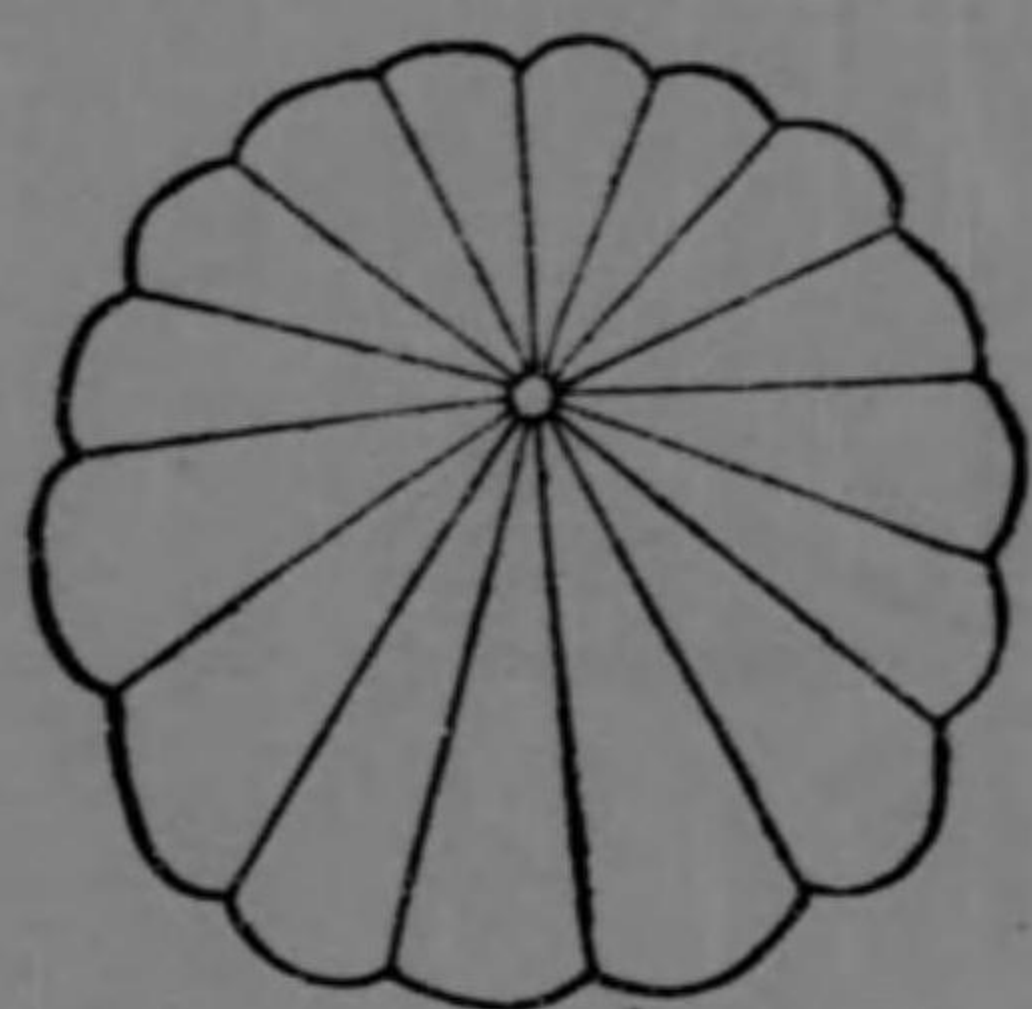
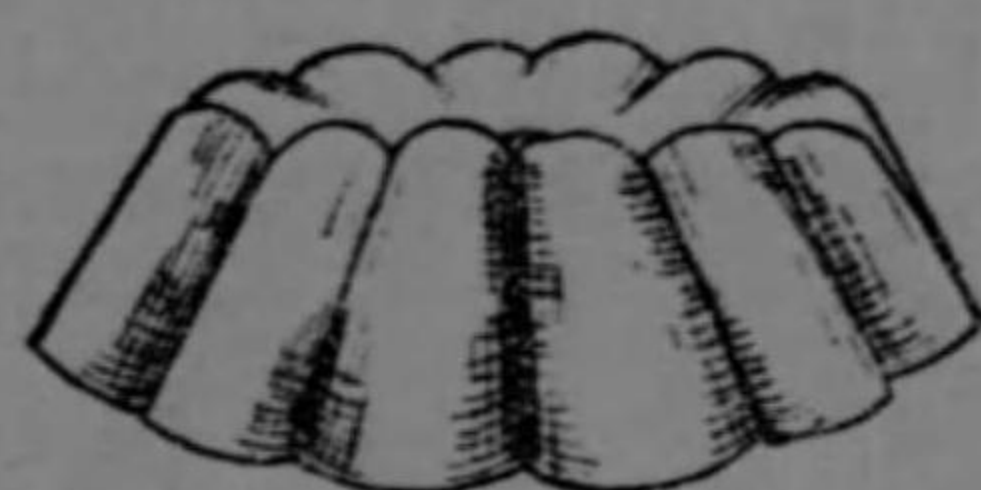


三〇號

三一號

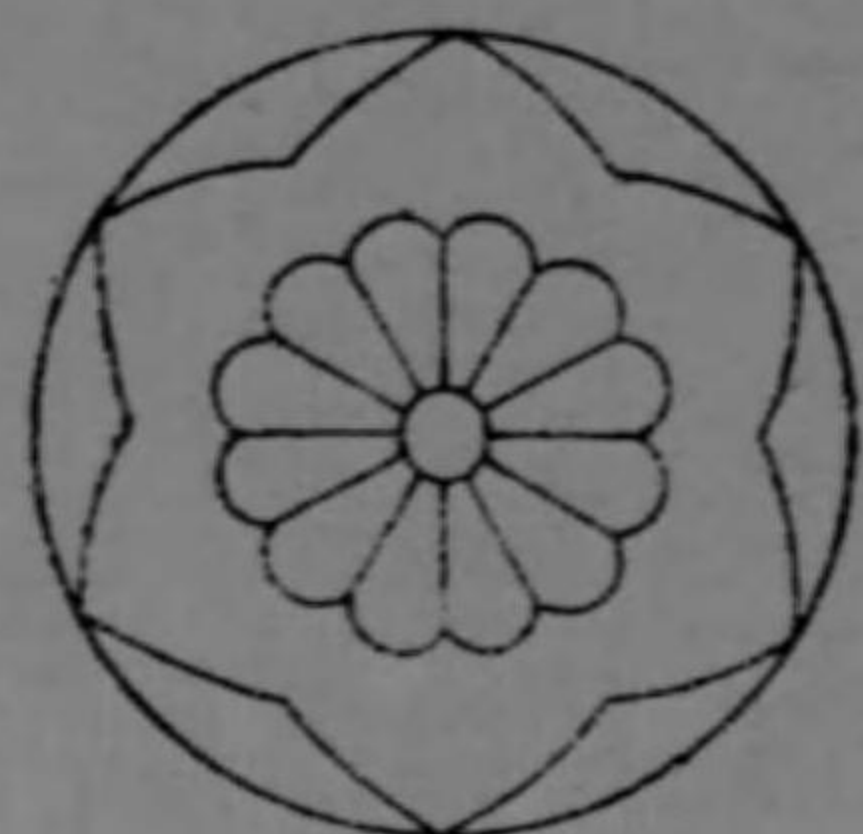


紙力製玩具型



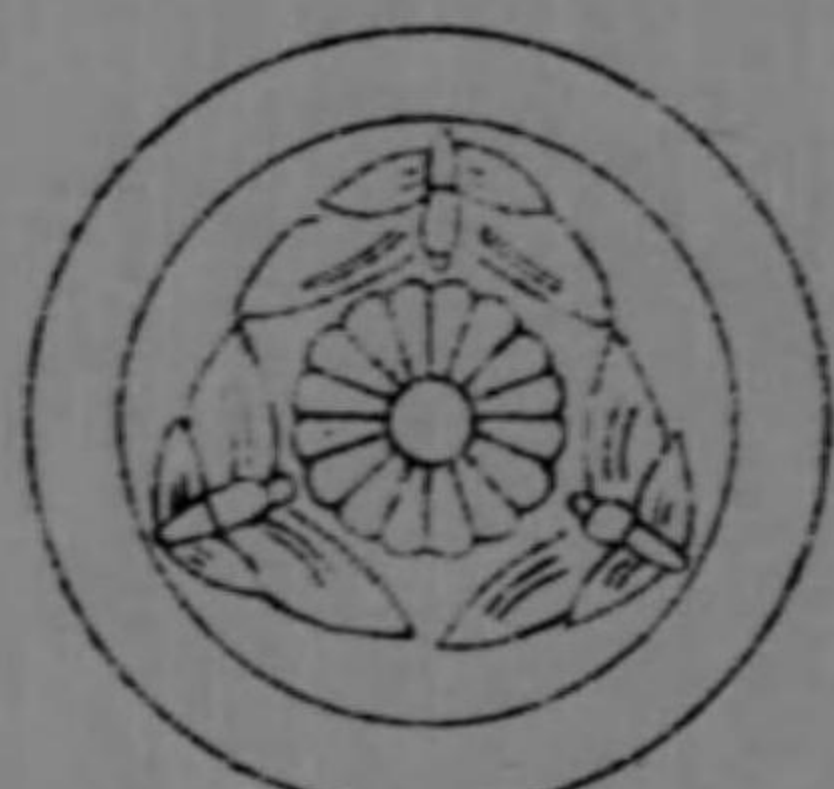
丙種

一號



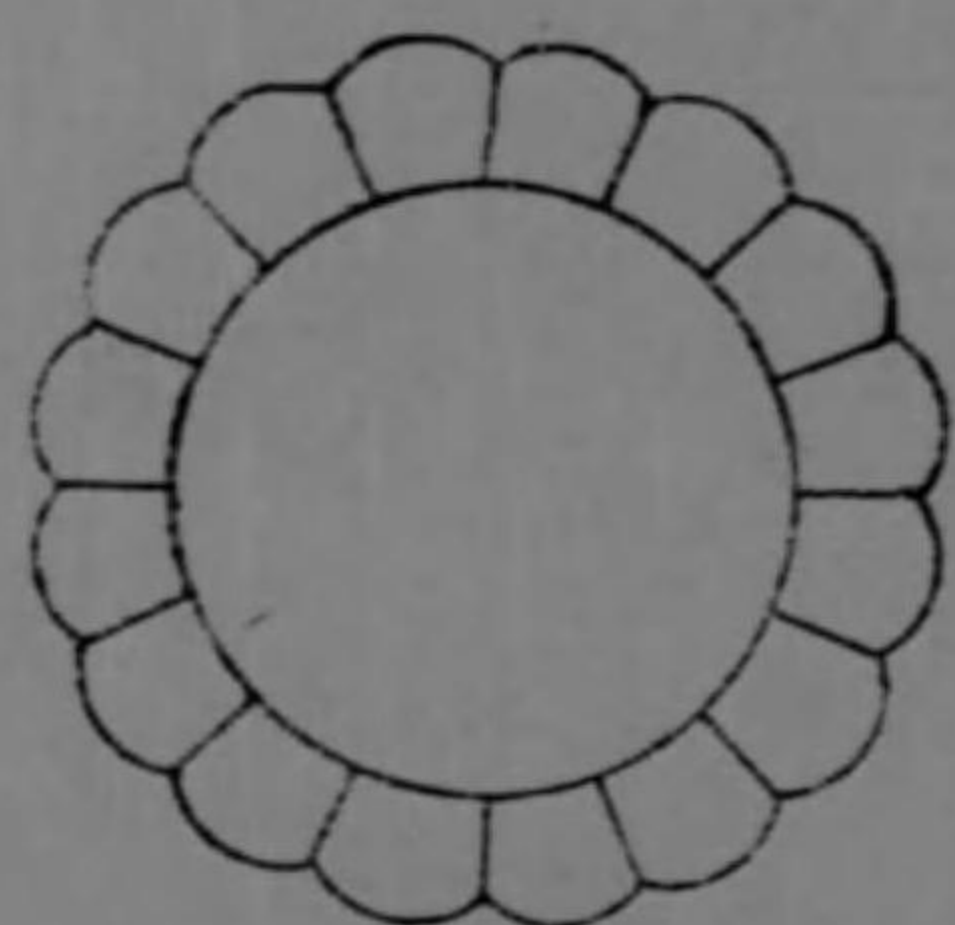
永井家鐵線はす

二號



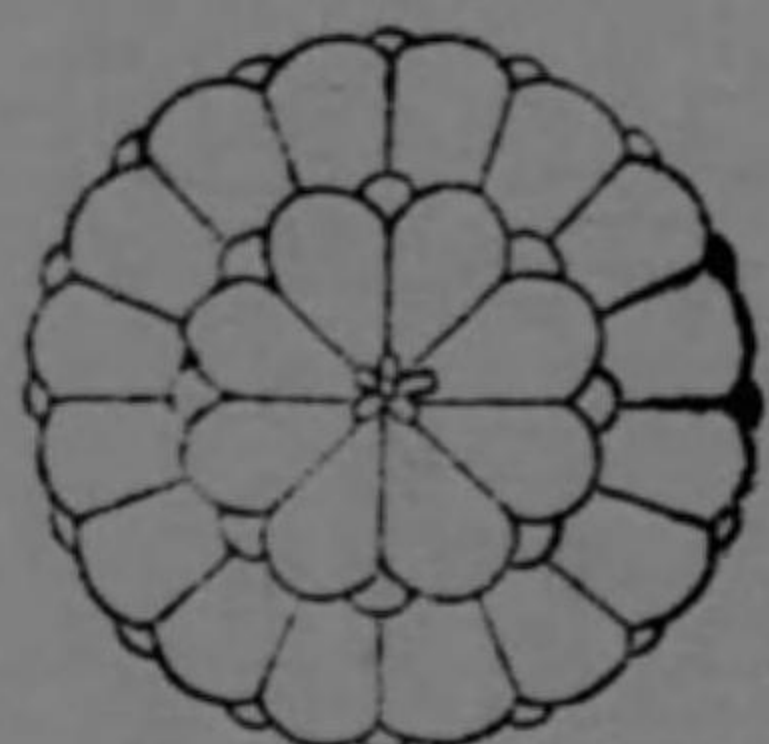
三河吉田丸に三蝶

三號



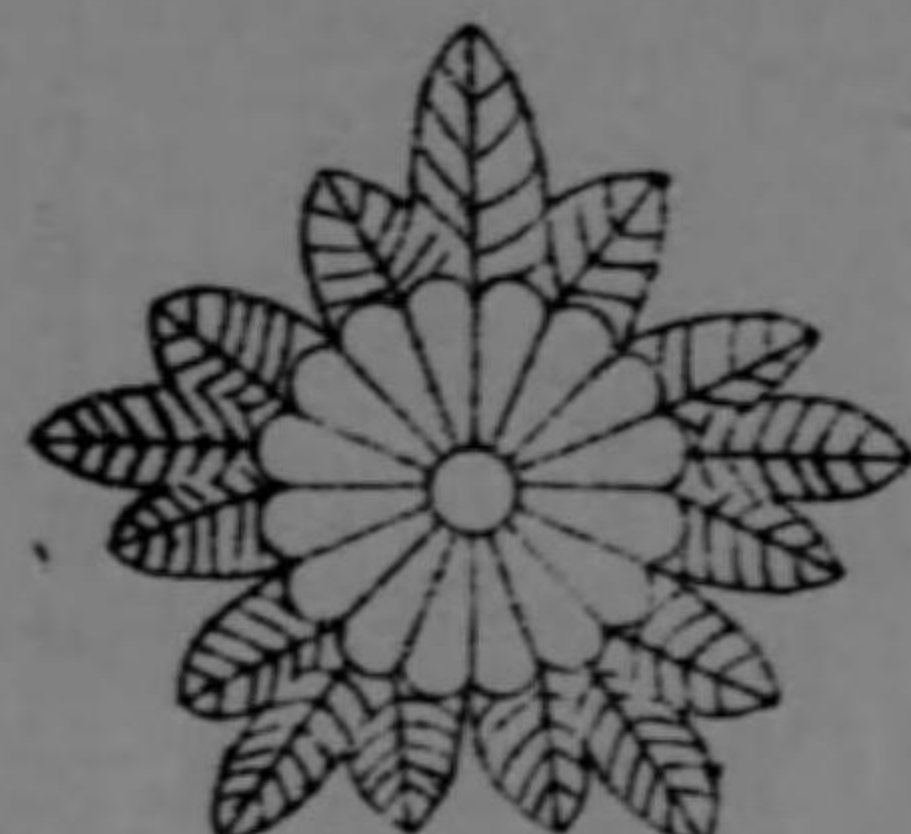
菊輪

七號



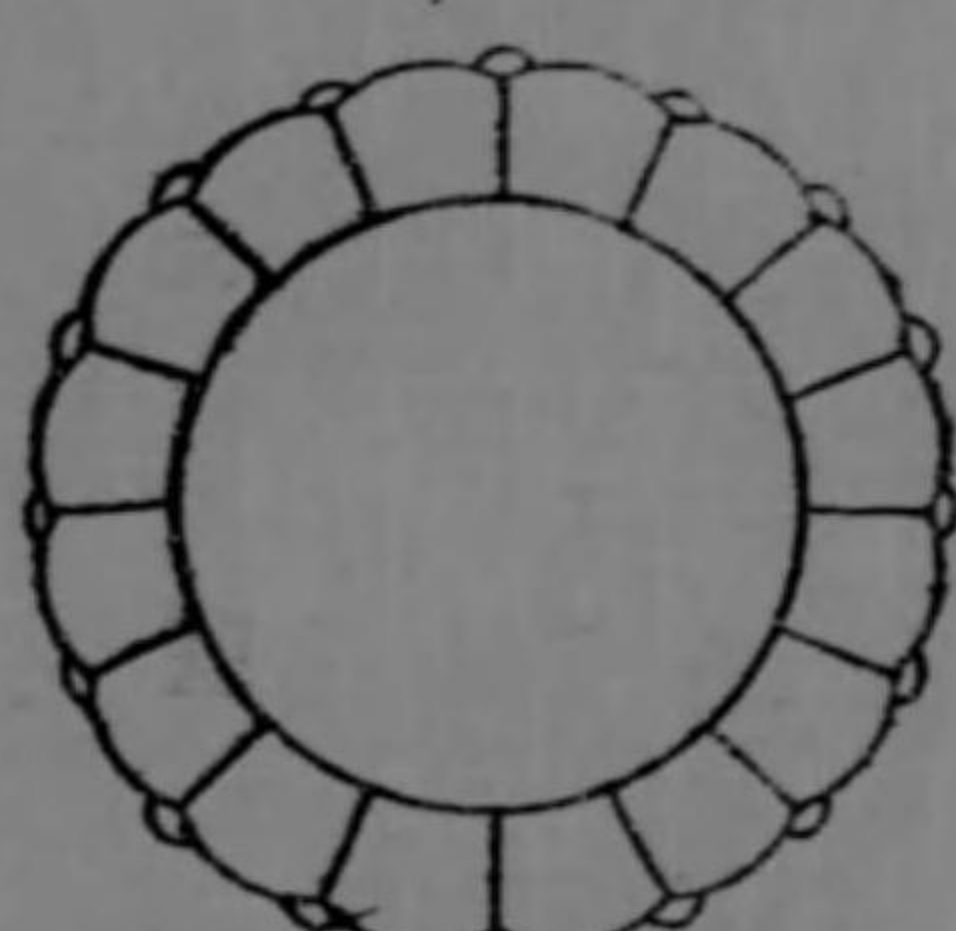
重ね菊

四號



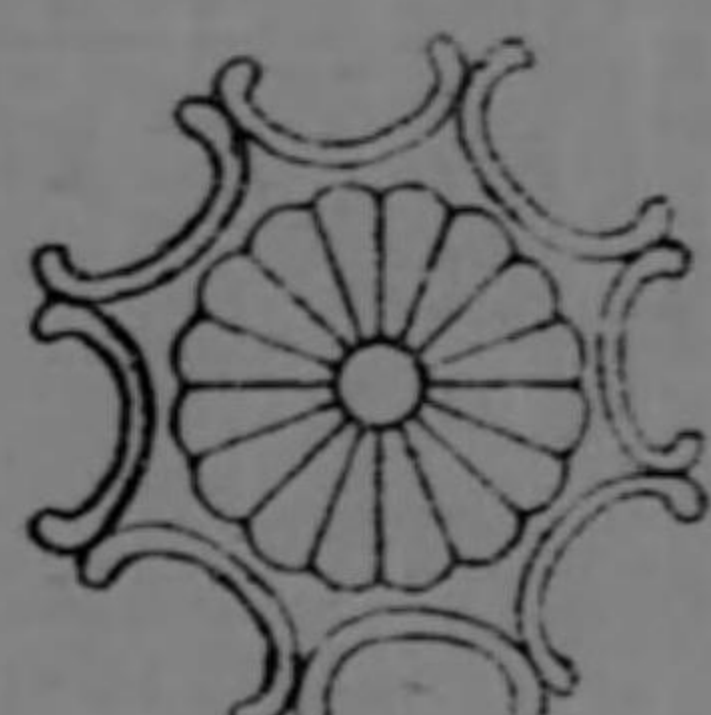
五葉十六菊

五號



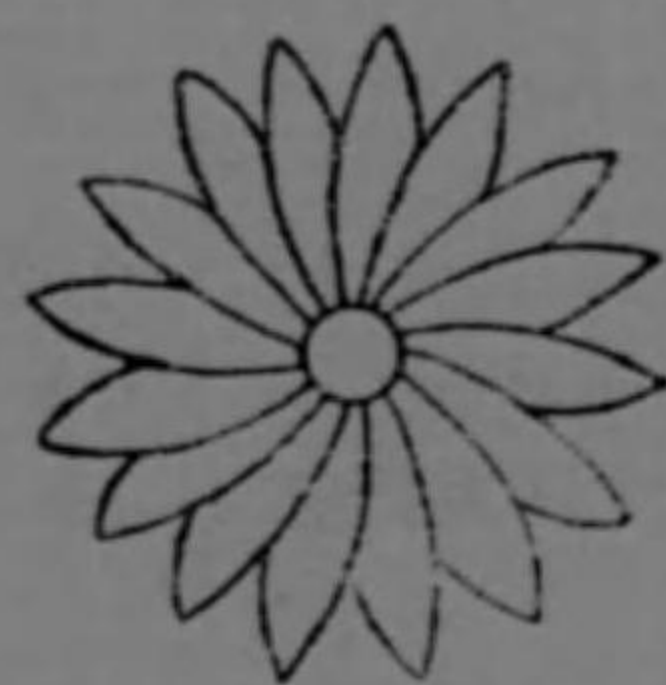
八重菊輪

六號

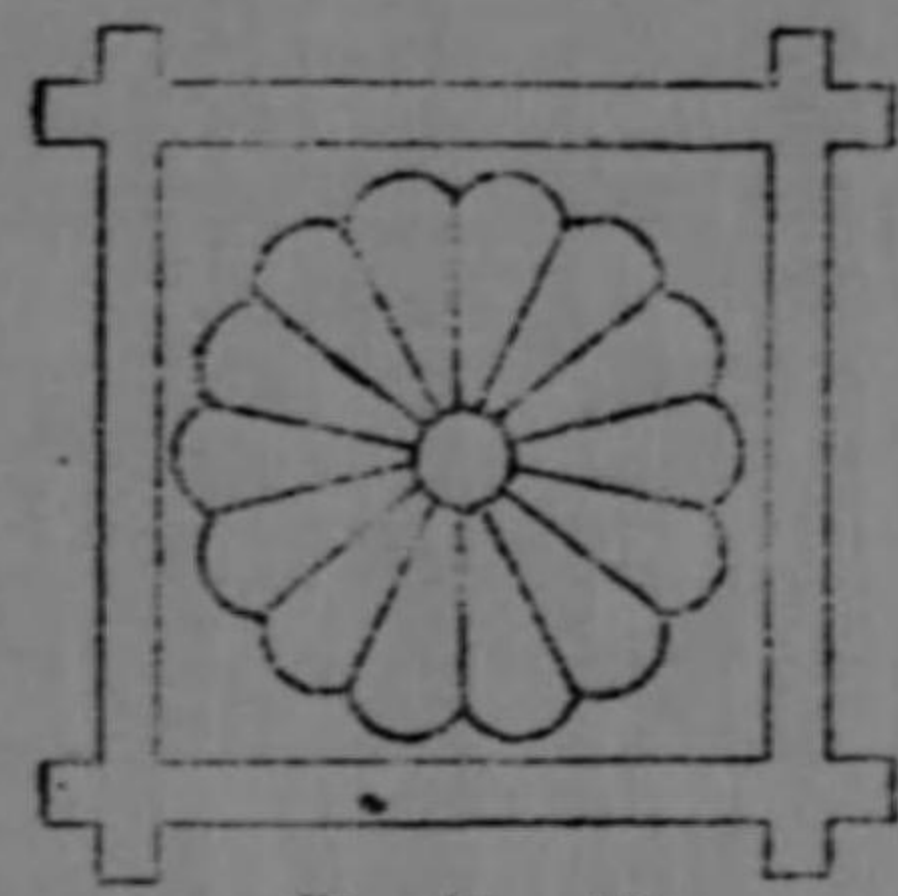


外向八つ環に菊

一〇號

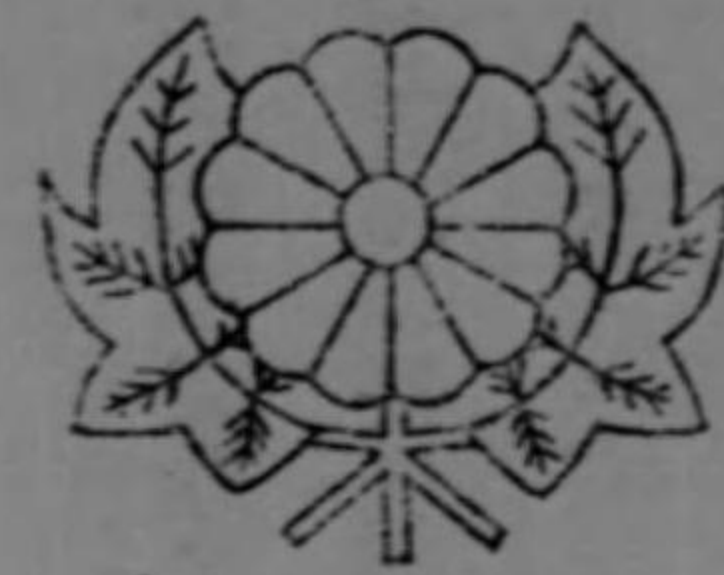


ねじ鬼菊



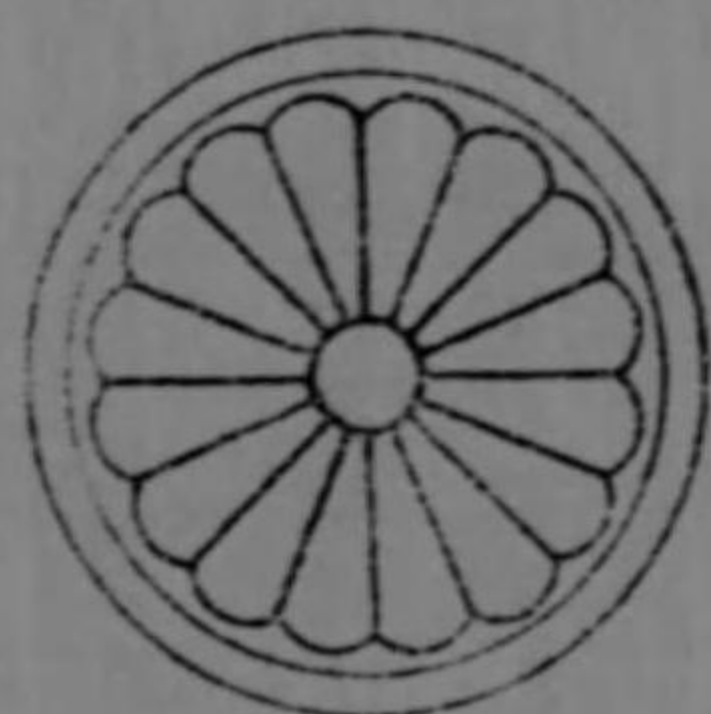
菊架種

一九號



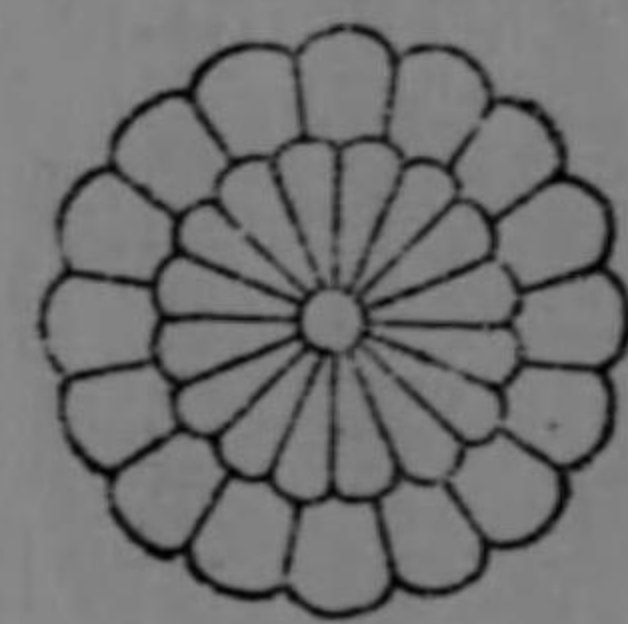
菊葉抱

一七號



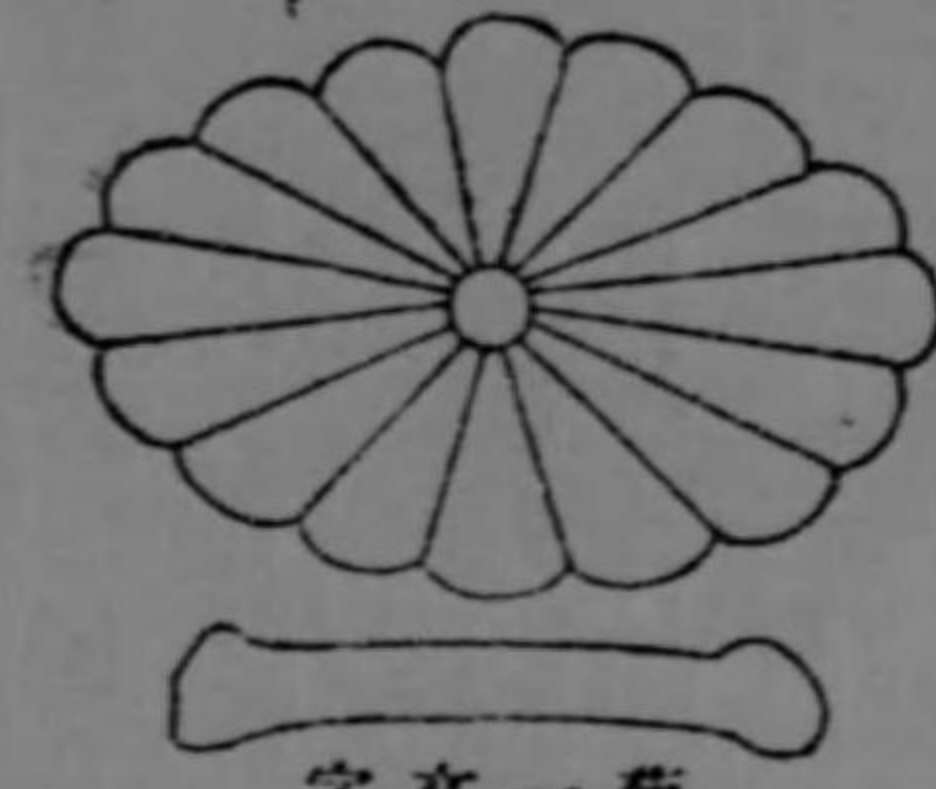
菊丸

二〇號



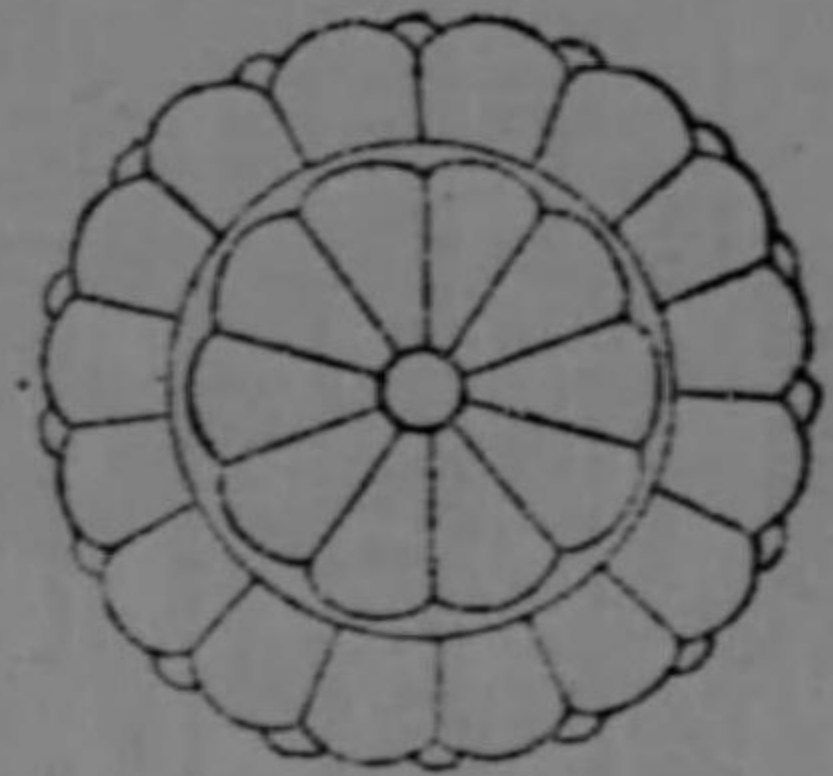
菊ね重六十

一八號



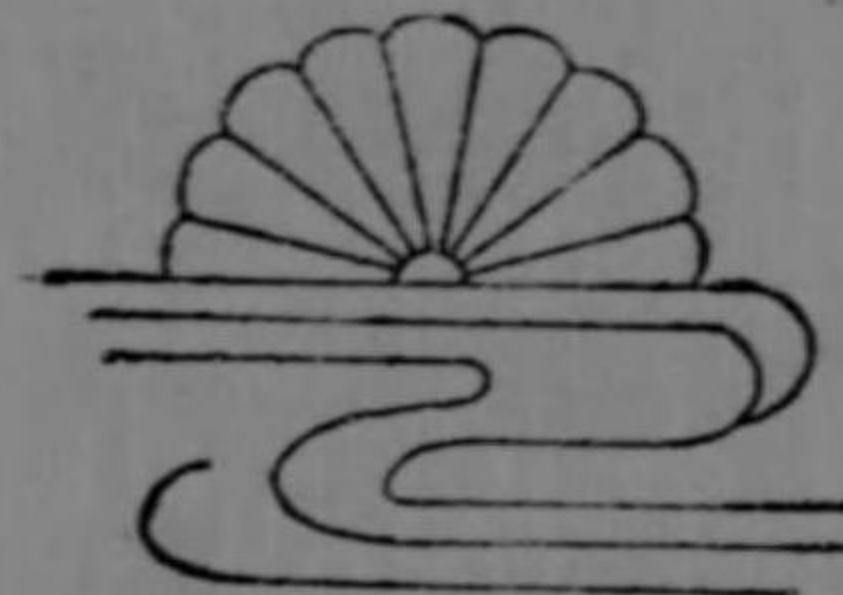
字文一菊

一一號



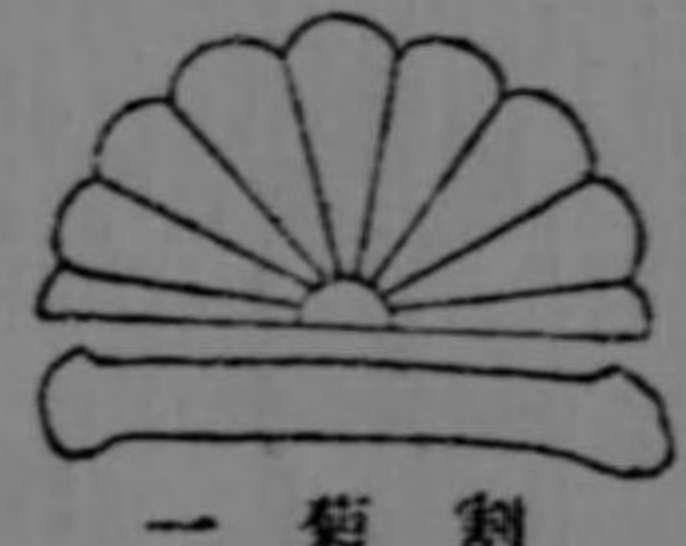
菊十に輪菊重八

八號



水菊

一二號



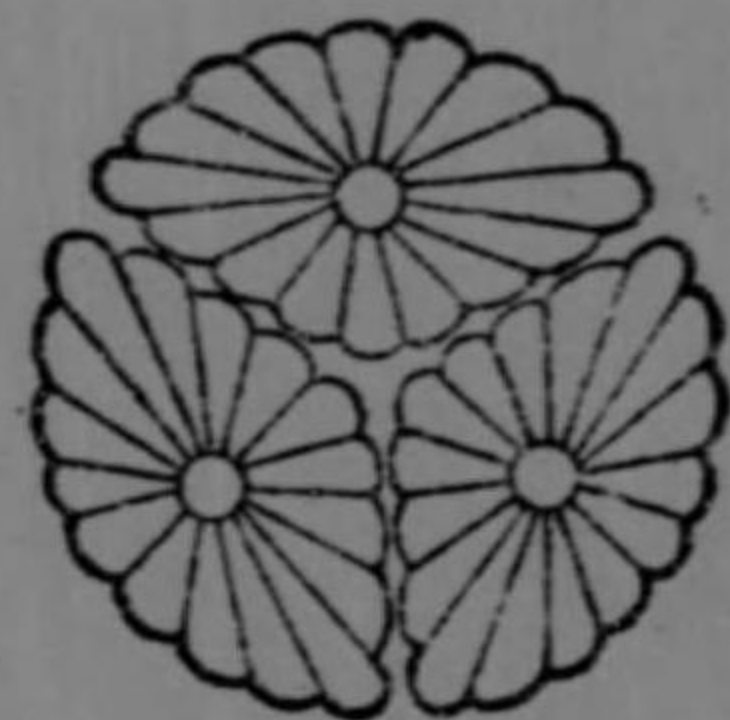
一菊割

九號



菊宮大

一五號



菊せ寄つ三

一三號



菊葉蔭花

一六號



菊二十に葉菊抱

一四號

●褒狀使用ニ關スル件

警保局長回答

(昭和四年十一月二十二日)
(警發乙第一、四六一號)

客月三十日付特秘檢第一三、一五三號ヲ以テ首題ノ件ニ關シ御照會有之候處現在小林遯及橋本作置發賣ニ係ル冷鑛泉カ會テ扇浦正二ヨリ内國勸業博覽會ニ出品褒狀ヲ受ケタルモノト同一ノモノナルニ於テハ明治三十三年八月訓第八二三號左記第二項ノ趣旨ニ依リ何レモ菊御紋章取締上其ノ使用ヲ不問ニ附シ置カレ可然ト存候
追テ別紙及送戻候

大阪府知事照會

(昭和四年十月三十日特)
(秘檢第一二、一五三號)

大阪市南區日本橋筋三丁目三十四番地

小林 遯

右者別紙寫ノ如キ褒狀ヲ所持シ明治三十七年十月頃富山縣下八代村大字磯邊ニ湧出スル冷鑛泉採酌ノ權利者扇浦義一(褒狀名儀者正二長男)ヨリ該褒狀ト共ニ向フ五十年間冷鑛泉採酌ノ權利ヲ讓受ケタリト稱シ目下其ノ冷鑛泉採酌販賣ヲ業トスルモノニ有之候處一面名古屋市中區門前町八丁目七橋本作置ハ明治三十六年褒狀名儀者正二ノ實父扇浦順平ヨリ磯邊鑛泉株式會社ノ讓受居タル同鑛泉湧出地ノ一部ヲ褒狀ノ權利ト共ニ更ニ讓受ヲナシタルモノナリト稱ヘ同様冷鑛泉ノ採酌販賣ヲ爲シツ、アリ嘗テハ該褒狀ノ權利ニ關シ訴訟ノ結果小林遯ノ勝訴トナリタル等ノ事案アルモ本件ハ兩名ノ間ニ屢々係争セラレ其ノ内容極メテ錯雜ニシテ果シテ何レノ鑛泉カ事實上其ノ褒狀ヲ受領シタルモノナ

ルヤ等判明致シ難キモ兩者何レモ該褒狀ノ寫ヲ廣告ニ利用スルハ穩當ナラスシテ現實ノ褒狀所持者小林遯ニノミ其ノ使用ヲ容認スルヲ妥當ト認メラレ候ヘ共其ノ取締ノ範圍及方法等疑義有之候條至急何分ノ御回報相成度
追テ御參考ノ爲メ別紙關係書添付致置候ニ付御回報ノ際併セテ御送付相煩度申添候(別紙略)

●御眞影奉安庫ニ菊御紋章使用ニ關スル件

警保局長回答

(昭和四年十二月十九日)
(警發乙第一、五九二號)

首題ノ件ニ關シ本月十一日付保發第二六、八〇七號ヲ以テ御照會有之候處縣廳舍或ハ市役所等ニ設置ノ御眞影奉安庫ニ就テモ學校ニ於ケル御眞影奉安殿又ハ奉安庫ニ準シ其ノ管理者ノ申出ニ依リ菊御紋章描出御認相成可然ト存候尙御眞影ヲ奉納セル額縁ニ菊御紋章附著ノ儀ハ何レノ場合ニ於テモ取締上不問ニ附シ置カレ可然ト存候

三重縣知事照會

(昭和四年十二月十一日)
(保發第二六、八〇七號)

本件ニ關シ大正十三年八月二十九日附内務省發警第六六號ヲ以テ御眞影奉拜殿又ハ奉安室ニ菊御紋章描出ノ件ニ對シ學校長ヨリ直接申出タルモノニ限り差許サルルコトニ相成候旨御通牒ノ次第モ有之候處本件ハ學校ニ於ケル講堂ニ奉掲所ヲ設ケ御眞影ヲ奉納セル額縁及學校以外ナル市役所等ニ設置スル御眞影奉安庫ニ對シ學校長ヨリ申出ツル場合ニ於テモ之ヲ差許サルル義ニ有之候哉聊カ疑義相生候條至急何分ノ御回示相成度此段及照會候也

●至尊ノ御寫眞ニ關スル件

(明治二十五年十一月)
(内務省訓令第七四一號)

聖 上

皇太后宮

皇后宮御肖像販賣ノ儀默許ニ附セラレ候ニ付テハ販賣者ニ於テ取扱上自然不敬ニ渉ル等ノ所爲無之様別紙取締心得書ニ準據シ其向營業者ニ厚ク注意セラルヘシ

(別紙)

聖 上

皇太后宮

皇后宮

東宮御肖像ト認ムヘキ寫眞畫銅石版水畫木版錦繪等ハ其尊號ヲ標記シアルト否トヲ問ハス總テ御肖像ト看做スヘシ

一 御肖像ハ不敬ニ渉ルヘキ場所ニ掲ケ又ハ陳列セシムヘカラス

一 御肖像ハ露店ニ於テ販賣セシムヘカラス

一 扇子團扇陶漆器織物染物其他引札類及翫弄品等ニハ御肖像ヲ畫カシムヘカラス

●御肖像取締ニ關スル件諭告

(明治三十一年十二月二日十八日內務大臣諭告)

御肖像ハ左ノ各項ニ準據シテ苟モ心得違ノ次第無之様厚ク注意ヲ加フヘシ

右諭告ス

第一 天皇皇族ノ御肖像ハ其尊號御稱號ヲ標記シアルト否トヲ問ハス御肖像トシテノ外ハ寫出スヘカラス

第二 御肖像ハ總テ粗造ニ流レ不敬ニ渉ルヘカラス

第三 御肖像ハ不敬ニ渉ルヘキ場所ニ掲ケ又ハ陳列スヘカラス

第四 御肖像ハ露店ニ於テ發賣頒布スヘカラス

●先帝陛下ノ御肖像ニ關スル件通牒

(大正元年八月十九日警視總監第八號ノ內務保局長ヨリ廳府縣長官宛參考通牒)

警視總監照會 (大正元年八月十日第一四號ノ二)

日本橋區本町一丁目十二番地博文館代理部博通社主大橋幹二ヨリ先帝陛下御尊像ヲ鑄造頒布致度旨ヲ以テ別紙寫ノ通伺出候處右ハ素ヨリ公式ニ指令スヘキ限ニアラスト雖モ何等先例ニ準據スヘキモノモ無之取締上疑義相生シ候條貴省ノ御意見承知致度此段及照會候也

(別紙)

先帝御尊像鑄造頒布ニ付御伺(博文館代理部大橋幹二提出)

今般帝室技藝員東京美術學校教授正五位高村高雲齋戒沐浴熱誠ヲ以テ 先帝御眞影ニ基キ御半身像ヲ御丈六寸一分ニ謹刻シ之ヲ原型トシテ金屬性御尊像ヲ鑄造奉リ桐材白木ノ崇高ナル御筐ニ安置シ奉リ其前面ヲ二重戸トナシ内側戸ノ上部即チ龍顔前面ヲ八咫ノ神鏡型ニ刻抜キ全部ニ白色ノ紗布ヲ覆ヒ以テ外部ヨリ御尊像ヲ奉拜シ得ヘキ様謹製奉リ御神鏡ノ下部ニハ文學博士佐々木信綱ノ謹寫セル御製及ヒ教育勅語ヲ奉掲シ(中略)特志者ニ頒布仕度候間特別ノ御

詮議ヲ以テ御許可被成下度此段謹テ及御伺候也

御尊像頒布實費概算

- 一金貳千五百圓 純金製御尊像實費
- 一金貳百五十圓 純銀製御尊像實費
- 一金貳拾五圓 青銅製御尊像實費
- 一金 五圓 青銅渡金合製金屬製御尊像實費

警保局長回答 (大正元年八月十七日警視第八號ノ内)

本月十日第十四號ノ二ヲ以テ貴管下日本橋區本町一丁目十二番地博文館代理部博通社主大橋幹二ノ伺出ニ係ル先帝陛下御尊像鑄造頒布ノ件ニ付御照會ノ趣了承右ニ關シ宮内省ノ意見問合候處別紙寫ノ通回報有之候間右ニ據リ御處理相成様致度此段及回答候也

(別紙)

宮内大臣官房總務課長回答

(大正元年八月十六日宮内大臣官房總務課第二號)

東京市日本橋區本町一丁目博文館代理部博通社主大橋幹二出願先帝陛下ノ御尊像鑄造頒布ノ件ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ指令ノ限りニ無之候ヘ共其行爲不敬ニ涉ラサル上ハ差支無之意見ニ有之候此段及回答候也

●御肖像ニ關スル件依命通牒

(大正九年一月二十九日發警第五號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

御肖像ニ對スル一般民衆ノ心得方ニ付テハ明治三十一年當省諭告ノ次第モ有之其後地方官會議ノ際ニ於テ別紙ノ通指示相成候義モ有之候處近來新聞雜誌其ノ他出版物ノ數著シク増加シ從テ行幸啓御成又ハ大祭祝日等ノ際之ニ掲載セラル、コト亦頗ル多ク是レ實ニ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ依リ 皇室ノ御近況ヲ普ク一般ニ紹介シ尊敬ノ念ヲ深カラシムルニ外ナラサルヘク候處頒布ノ數多キニ伴ヒ民衆中不知不識之カ取扱ヲ粗略ニシ御肖像ノ掲載アル新聞紙類ヲ商品其ノ他ノ包裝ニ供シ又ハ之カ出版物ヲ露店ニ於テ販賣スル者之レナキニアラス爲ニ本件ニ付相當取締法規ノ制定ヲ希望候者有之候ハ遺憾ニ堪ヘサル次第ニ有之候元來本件ノ行爲ニ對シ法規ヲ制定シ處罰ヲ以テ之ニ臨ムカ如キハ最モ望マシカラサル所ナルニ依リ從來諭告又ハ公衆ノ多數會同ノ機會ヲ利用シ懇篤説示シテ之カ取扱ヲ粗略ニセス又不敬ニ涉ルコトナカラシムルノ趣旨ヲ徹底セシムルノ方針ヲ採リタルモノニ有之固ヨリ本件ニ付テハ平素ニ於テ相當御配慮相成居候義ト存候得共前顯新聞紙其ノ他出版物ノ増加ニ伴ヒ此際從來ニ於ケル當省諭告及指示等御參酌ノ上貴管下全般ニ諭告ヲ發セラレ以テ民衆ニ注意ヲ與ヘ尙警察官吏ヲシテ露店ニ於テ販賣スル者ハ勿論其ノ然ラサルモノト雖モ店頭ニ於テスル等露店ニ於ケルモノト相擇ハサル場合ニ於テハ懇篤周到ニ旨ヲ諭シ彼是相待テ苟モ御肖像ニ對シ不心得ノ舉措ニ出ツルコト無之様特ニ御配慮相煩度候

(別紙) 大正三年地方官會議指示事項

御肖像ニ關シテハ明治三十一年特ニ諭告ヲ發シ取扱上苟モ不敬ニ涉ルコトナカラシムルノ趣旨ヲ公示スル所アリタリト雖近來新聞紙其ノ他ノ出版物ニ依リ世上ニ頒布セラル、ノ數漸ク増加セルノ結果不知ノ間往々之カ取扱ヲ粗略ニシ時ニ或ハ路上ニ散在スルヲ見ルカ如キコトアリ是等ノ行爲ニ對シ法令ヲ以テ之ニ臨ムハ固ヨリ妥當ニアラス一ニ國

民ノ公德ニ待ツヘキモノナルヲ以テ小學校、小學校々友會、地方青年會、衛生講話會其ノ他多衆會同ノ機會ヲ利用シ市町村長、小學校教員及警察官吏等ヲシテ懇切鄭重ニ一般ノ注意ヲ促サシメ御肖像ヲ掲載シタル新聞紙出版物類ノ取扱ヲ鄭重ニスルノ良風ヲ馴致セラレンコトヲ望ム

●御尊影描出ノ額皿ニ關スル件

愛知縣知事照會 (昭和三年六月一日) (保發第一一六號)

名古屋市中區大池町四丁目

輸向額皿製造業 今 井 昇 一

右者直徑約七寸四分ノ圓形額皿ニ天皇后兩陛下御尊影及菊御紋章ヲ描出シ御大典ヲ機トシテ廣ク内外ニ販賣ノ計畫中ニ有之候處該品ハ一見差支無之様ニ候ヘ共額皿ハ現在ニ於テハ未タ掛額ト同一視セラル、程度ニ普及シ居ラサルノミナラス國外ニ輸出セラル、曉ハ自然取扱粗略ニ流レ不敬ニ涉ルノ虞モ有之製造取止方諭示可然ト思料候モ至急何分ノ御回示相煩度現品相添及照會候也

追而現品ハ御返戻相成度申添候

以上

警保局長回答 (昭和三年六月十八日警) (保局警發乙第六〇七號)

本月一日付保發第一一六號ヲ以テ御照會有之候首題ノ件貴見ノ通り御處理相成可然ト存候尙其ノ形態ヲ偏平ト爲ス等普通皿トシテノ使用困難ト爲スニ於テハ支障無之候條御了知相成度

追而現品及返戻候也

●御肖像ヲ彫刻セル「メタル」使用ニ關スル件

警保局長回答 (昭和三年九月二十九日) (警發乙第一〇七三號)

本年二十四日付高秘發第二、六六六號ヲ以テ秩父宮殿下ノ御肖像ヲ刻シタル銀製「メタル」交付方ニ關シ御照會相成候處右ハ貴見ノ通粗造ニ流レス且取扱上不敬ニ亘ルカ如キコトナキニ於テハ不問ニ付シ置カレ可然ト存候

宮城縣知事照會 (昭和三年九月二十四日) (高秘發第二、六六六號)

管下ニ於テ來ル十月初旬頃舉行セラルヘキ第十回仙南五郡雄辯大會記念トシテ徑八分位ノ銅製「メタル」表面ニ秩父宮殿下ノ御肖像ヲ裏面ニ第十回仙南五郡雄辯大會記念ト刻シタルモノヲ當日優勝者ニ交付スル趣ナルカ右ハ記念トシテ保藏シ若ハ其ノ取扱上不敬ニ亘ルカ如キコトナキニ於テハ支障ナカルヘシト思料セラレ候條之カ取締方一應貴見承知致度

●皇室ニ關スル文字ヲ商品其他ノ物件ニ

濫用取締ノ件訓令

(明治三十四年十二月二十三日宮内省訓令第二十號)

近來往々各種ノ商品、商品容器、封皮、引札、廣告、看板等ノ物件ニ於テ帝室御用、東宮御用、宮内省御用、其ノ他皇室ニ關スル文字ヲ濫用スル者ナキニアラス右ハ明治元年三月太政官布告ノ精神ニ違背シ穩ナラサル儀ニ付心得違

ノ者ナキ様嚴重取締ラルヘシ

●皇室ニ關スル文字濫用ノ取締ニ

關スル件依命通牒

(明治三十四年十二月二十三日秘甲第
二三四號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

皇室ニ關スル文字濫用ノ取締方ニ就テハ本日官報ヲ以テ訓令ノ次第モ有之候處尙此ノ際貴管下一般ニ右趣旨ヲ諭告
相成取締上遺憾ナキヲ期セラレ度依命此段及通牒候也

●同 件

群馬縣知事照會 (明治三十四年十二月二
十五日保發第三五八號)

本月二十三日內務省訓令第二十號ヲ以テ皇室ニ關スル文字濫用ノ取締方ニ付訓令相成候處所謂濫用ト否トハ如何ナ
ル標準ニ依リテ區別致スヘキ義ニ候哉該取締方ハ各府縣之ヲ軌一スルノ必要アルハ勿論ノ義ニ有之至急何分ノ御回答
有之度此段及照會候也

警保局長回答 (明治三十四年十二月二
十八日秘乙第五九七號)

本月二十五日付保發第三五八號ヲ以テ本年訓令第二十號ニ關シ御照會ノ趣了承所謂濫用トハ該訓令指示ノ商品、商
品器等ニ於テ帝室御用東宮御用等ノ文字ヲ使用スルハ總テ濫用ト認メ候趣旨ニ有之候尤モ明治元年三月太政官布告ニ
規定セル御用御料ト而已書記云々トハ單ニ宮内省ニ納付スヘキ物件其ノ物ノミニ限り使用スルハ支障ナキ義ナルモ其

ノ他ノ物件ニ就テハ縱令右納付スヘキ物件ト同種ノモノナル場合ト雖モ使用スヘカラサル義ニ候但宮内省ノ御用ヲ受
居ル商人ニシテ其ノ筋ノ許可ヲ受ケ本人ノ標札ニ宮内省御用達ノ文字ヲ書記シ若ハ其ノ商人ノ商品等へ該標札ヲ模寫
スルカ如キハ前記布告但書ニ依リ不問ニ附セラレ可然思考致候本件經伺之上此段及回答候也

●皇室ニ關スル文字濫用取締ニ關スル件

(明治三十六年十月二十二日內務省發警
第一一九號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

商品其ノ他ニ於テ宮内省御用 天皇陛下御用 御覽等ノ文字ヲ商品引札等ニ表出スル儀ニ就テハ從來相當御取締相
成居候處往々同様ノ文字英文或ハ其ノ他ノ外國文ヲ以テスル場合ニ抹消等ノ處分ヲ爲サシメス一見不權衡ノ觀ヲ呈ス
ルモノ有之候條將來如斯場合ニ於テハ單ニ日本文ノミニ其ノ取締ヲ止メス外國文ニ就テモ同様ニ措置相成候様致度此
段及通牒候也

●皇室ニ關スル文字濫用取締ニ關スル件

(明治四十二年十二月十五日內務省發警第
五〇號ノ內警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

各種ノ商品其ノ他皇室ニ關スル文字濫用ノモノ取締方ニ付テハ明治三十四年十二月當省訓令第二十號ノ趣モ有之候
處近來御料御用等ノ文字ヲ使用シ別段皇室ニ關スル文字ヲ冠セス中ニハ商標登錄濟ノモノモ有之候ニ付一應宮内省へ
意見及問合候處例へハ御用クرائمト書記候類ハ取締ルヘキモノト存候得共自然商標登錄濟ニ候へハ便宜不問ニ付ス
ルトモ異存無之旨回答有之候間此ノ趣旨ニ依リ取締向可然御措置相成度尙右等ノ文字ハ將來商標登錄ヲ爲サ、ルコト
ニ農商務省特許局長ト交渉濟ニ有之候間御了知相成度此段及通牒候也

追テ御料等ノ文字ヲ使用シタルモノニ對シ農商務省特許局ニ於テ從來商標登錄ヲ爲シタルモノ別紙爲ノ通りニ有之候間御參考迄及送付候也 (略別紙)

宮内省御用達ノ文字使用許可者ニ關スル件

(昭和三年六月二十九日警發甲第九三號)

本年五月二十日現在ニ於テ宮内省御用達ノ文字使用ヲ許可セラレ居候モノ別紙ノ通ニ有之候條爲御參考及通牒候也 (昭和五年四月三十日現在)

許可年月日	職業	住	所	被許可者名
明治 二五、一、一九	魚類商	東京市日本橋區本船町		荒木 平八
二五、九、二四	靴商	東京市京橋區竹川町六		高橋 誠治
二七、一、二八	魚類商	東京市日本橋區平松町二		佐久間 定吉
三〇、八、二五	織物商	京都市下京區三條烏丸一四八		西村 總左衛門
三二、一、二七	菓子商	東京市京橋區南鍋町三ノ二 風月堂		米津 恒次郎
三三、四、二	清酒商	東京市京橋區五郎兵衛町二〇		柴田 幸三郎
三三、四、二	清酒商	東京市日本橋區旅籠町二		宮崎 光太郎
三三、四、二	清酒商	東京市日本橋區旅籠町二		中野 又左衛門
三三、四、一八	陶磁器業	愛知縣知多郡半田町五六九		辻 勝造
三五、四、一	織物商	佐賀縣松浦郡有田町		京都織物株式會社
三五、四、一	織物商	京都市上京區吉田下河邊町		大谷 義武
三五、四、一	洋服業	東京市芝區櫻田大左衛門町三		

明治 三七、一、二八	鳥商	東京市日本橋區小田原町七		東國屋 伊藤 健造
三七、一、二八	ビスケット造	在英國倫敦		ハンドレーパルマー會社
三九、五、四	麥酒販賣業	東京府荏原郡目黒町大字三田二四七		大日本麥酒株式會社
三九、一、二七	威士忌業	英國倫敦ホルボーン二六		ジエムス、ピウカナン會社
四〇、六、二八	麥酒販賣業	神奈川縣橫濱市山手町二三		キリンビール株式會社
四〇、八、一七	煙草製造業	英國倫敦		エツチエルサブフラーリ會社
四一、一、二〇	香水舖	佛國巴里		クロツツ合名會社
四二、八、二八	醬油釀造販賣	千葉縣東葛飾郡野田町三五〇		茂木 佐平治
四二、八、二八	漬物商	東京市京橋區本材木町三ノ一一		村田 與兵衛
四二、一〇、二五	寶玉商	英國倫敦		アールエンドガラード商會
四二、一、二三	吳服織物商	京都市下京區烏丸通高辻下ル 印橋堂町		株式會社高島屋吳服店
四三、七、二三	織物商	同市上京區一條通北入堅富田町		川島 甚兵衛
四三、一〇、一二	果物商	東京市神田區通新町一四		青木 惣太郎
四四、三、一〇	三鞭酒販賣	佛國フランス市		ビアツシニムシム會社
四四、五、五	洋酒商	東京市京橋區銀座二ノ六		株式會社明治屋
四五、四、五	菓子商	東京市神田區有樂町一ノ五		合名會社鹽瀬總本店
四五、五、一七	貴金屬商	佛國巴里		マレー兄弟商會
四五、六、一一	酒類商	東京市港區草區茅町二ノ二十六番地		加島 十兵衛
四五、六、一一	樂器商	濱松市板屋三百七十番地ノ一		日本樂器株式會社

四五、六、一一	樂器商	東京市京橋區竹川町一四
二、四、二	醬油醸造販賣	千葉縣香取郡笹川町二一三
二、四、八	鹽甲商	長崎市今魚町五七
二、七、一四	裝束織物商	東京市麴町區中六番町二九
二、一〇、二二	味淋商	東京市神田區旅籠町一ノ三
三、六、二〇	貴金屬商	英國倫敦
三、九、九	醬油醸造販賣	千葉縣海上郡銚子町四ノ一五六
三、一〇、九	魚類陶器商	東京市赤坂區傳馬町一ノ二〇
三、一二、二八	食料品商	麴町區平河町三ノ六
四、九、一〇	菓子商	京橋區南橫町三
五、一二、七	薰香、毛革、煙草、墨紙商	京都市上京區寺町通御池下ル
七、二、二五	西洋料理業	東京市京橋區安女町三
七、一一、五	醬油醸造販賣	千葉縣海上郡銚子町二八五
八、八、一九	清酒販賣業	兵庫縣武庫郡魚ヶ崎町四五二
八、一〇、二〇	製氷商	東京市本所區中ノ郷業平町一七一
一五、四、一二	味噌製造商	愛知縣岡崎市八幡町字往還通六九
九、一、八	清酒販賣業	兵庫縣武庫郡御影町字濱東七六
九、五、一九	同上	東京市京橋區四日市町二
九、五、一九	金屬食器商	東京市京橋區南鍛冶町二二

同東京支店共益社
多田庄兵衛
江崎榮造
高田茂
鈴木新兵衛
ジエダプリンエーベソソソソソ
濱田慶治
奥八郎兵衛
寶亭井上安次郎
黒川三郎
熊谷直之
株式會社精養軒
銚子醬油製造株式會社
山邑酒造株式會社
日東製氷株式會社
早川久右衛門
株式會社本嘉納商店
株式會社加島屋
東洋金屬食器製造株式會社

大正	一、一、一二、一	ベルモット製造販賣業	伊太利トリノ市
	一二、三、一五	貴金屬商	英國ロンドンリーヂエンド街
	一二、三、一五	洋服商	英國倫敦サブイロ
	一二、四、九	西洋料理商	芝區三田四國町
	一二、四、九	陶磁器商	佐賀縣西松浦郡有田町一三六二
	一三、四、一二	寶石裝身具商	東京市京橋區銀座四丁目三
	一五、一〇、一六	馬車製造業	英國倫敦セントジエームス街
	一五、一〇、一六	自動車製造業	英國倫敦コンデット街
	一五、一二、二五	味之素	東京麴町區有樂町一
昭和	二、四、一一	味之素	東京市京橋區南傳馬町一ノ一二
	二、六、一三	味噌製造業	東京市神田區宮本町一番地
	二、七、五	西洋料理業	東京市麴町區八重洲町一丁目一
	二、一一、七	菓子商	東京市赤坂區傳馬町三丁目九
	三、一、一六	花商	東京市神田區旅籠町三ノ五
	三、四、九	清酒商	東京市京橋區銀座一丁目九番地
	二、六、四	清酒商	京都府紀伊郡伏見町字南濱二四七
	三、九、五	清酒商	京都府紀伊郡伏見町字竹中六〇九
	九、五、五	果實商	東京市京橋區中橋廣小路八

マルチニエンドロシ會社
コールドスミスエンドミルプア
イスミス商會
ヘンリープール商會
株式會社東洋軒
深川製磁器株式會社
御木本幸吉
フーパー會社
ロールスロイス會社
明治製糖株式會社
株式會社鈴木商店
綾部良一
株式會社中央亭
黒川光景
田島龍次郎
日本麥酒鑄泉株式會社
株式會社大倉恒吉商店
寶酒株式會社
谷次郎吉

昭和 三、一〇、二三	陶器製造業
三、一〇、四	西洋菓子商
四、三、一二	
四、四、五	
四、四、五	
四、九、一二	清酢醸造業

長崎縣東彼杵郡折尾瀬村三川内
八百七十五番地
東京市麹町區山元町一丁目十一
靜岡縣榛原郡吉田村神戸
三千七百四十番地
千葉縣東葛飾郡野田町野田
三百三十九番地
千葉縣海上郡銚子町イノ五百五番地
名古屋市西區袋町八番地

中里 森 三 郎
開進堂村上一政
中村醬油株式會社
野田醬油株式會社
ヤマサ醬油株式會社
合名會社 笹田本店

●宮内省御用達ノ文字ヲ支店ニ於テ使用ノ件

警保局長回答

(昭和三年九月四日)
(警發乙第九三六號)

首題ノ件ニ關シ八月二十八日付保發第一三、五〇二號ヲ以テ御照會有之候處本店ニ於テ表出許可ヲ受ケタル本件文字ヲ支店ニ於テ使用候義ハ取締上不問ニ附シ置カレ可然ト存候

福岡縣知事照會

(昭和三年八月二十八日)
(保發第一三五〇二號)

商人ニシテ其ノ筋ノ許可ヲ受ケ本人ノ標札ニ宮内省御用達ノ文字ヲ書記シ若ハ其ノ商人ノ商品等へ該標札ヲ摸寫スルカ如キハ明治元年三月太政官布告第一九五號但書ニ依リ不問ニ附シ可然旨明治三十四年十二月群馬縣知事ノ照會ニ對シ警保局長回答ノ次第モ有之候處右商人カ各地ニ支店ヲ設ケタル場合宮内省御用達ノ文字ヲ書記シタル標札ヲ使用スルモ前記通牒ノ趣旨ニ依リ不問ニ附シ差支無之候哉取締上聊カ疑義相生シ候條至急何分ノ御回示相成度候也

●恩賜ノ文字ヲ彫刻セル遺失物取扱ニ關スル件

警保局長回答及通牒

(昭和四年十一月二十五日警發乙第一四三七號大阪府知事宛及警發甲第一八七號其ノ他廳府縣長官宛)

首題ノ件ニ關シ御照會有之候處本件ハ成ルヘク原品ヲ毀損セサル様注意ノ上恩賜ノ文字ヲ削除シ交付又ハ公賣方取相成可然義ト存候

追テ本件宮内省トモ内議濟ニ有之候

大阪府知事照會

(昭和四年十月七日)
(保第一五四六四號)

恩賜ノ文字ヲ彫刻シアル遺失物件(懷中時計又ハ刀劍等)ニシテ民法第二百四十條ニ依リ拾得者其ノ所有權ヲ取得シ又ハ遺失物法第十五條ニ依リ國庫ニ歸屬シタル物件ヲ交付又ハ公賣ニ付セムトスル場合其ノ儘取扱支障無之哉疑義相生候條何分ノ御指示相仰度此段及照會候也

●献上品取扱内規改正ノ件

(昭和五年一月二十三日内第七〇號)
(内務次官ヨリ廳府縣長官宛)

今般献上品取扱内規別紙ノ通り改正相成タル旨宮内次官ヨリ通知有之候

(別紙)

宮内次官通牒

(昭和四年十二月二十八日)
(官發第八〇一號内務次官宛)

今般献上品取扱内規別途内牒ノ通改正ノ處爾今書籍新聞雜誌ノ献上ニ際シテハ特ニ許可シタルモノ外天覽、台覽等

ノ標示又ハ廣告等致ササル様御取計相成度

追テ單ニ献上ノ旨ヲ標示シ又ハ廣告スルハ差支ナキ儀ト御了知相成度尙特ニ天覽、台覽等ノ標示ヲ許可シタルトキハ直ニ可及通報候

献上品取扱内規

第一條 聖上皇后宮又ハ皇太后宮ニ物品ヲ献上セントスル者アルトキハ特別ノ場合ヲ除クノ外本規程ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第二條 献上出願ハ總テ所轄地方長官ヲ經由セシムヘシ但シ官公署ノ献上ニ在リテハ直接出願セシムルコトヲ妨ケス特別ノ事由アルモノニ付亦同シ

第三條 外國人及在外邦人（關東州及南洋群島ヲ除ク）ノ献上出願ハ總テ外務大臣ヲ經由セシムヘシ但シ特別ノ事由アルモノニ付テハ其ノ所屬國大使ヲ經由シ出願セシムルコトヲ妨ケス

第四條 献上セントスル者ニ對シテハ献上品目種類數献上者ノ住所又ハ居所位勳爵職業氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル宮内大臣宛願書ヲ差出サシムヘシ

前項ノ願書ニハ目錄ノ外献上品カ書籍ナルトキハ副本ヲ添付セシムヘシ但シ事情ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

第五條 献上品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メラルルモノハ採納セサルモノトス

一、華美ニ流ルルモノ

二、廣告又ハ宣傳ノ爲ニスルモノ

三、賣名、私利ノ爲ニスルモノ

四、其ノ他献上品トシテ不適當ナルモノ

第六條 献上者ニ對シテハ總テ金品ノ下賜ナキヲ原則トス

第七條 献上ニ關スル事務ハ宮内大臣官房庶務課ニ於テ之ヲ處理シ外國人在外邦人ノ献上ニ付テハ式部職ニ協議ノ上之ヲ處理スヘシ

第八條 宮内大臣官房庶務課ニ於テ献上願書ヲ受理シタルトキハ採否決定ノ上次條以下ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 献上採納ニ決シタルトキハ第一號書式ニ依リ不採納ニ決シタルトキハ第二號書式ニ依リ献上者ニ其ノ旨通知スヘシ（地方長官外務大臣又ハ大公使ヲ經由ス）但シ採納ニ關スル通知ハ事情ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

第十條 献上品ヲ採納シタルトキハ献上品登錄簿ニ登載ノ上物品ハ目錄ヲ添へ侍從職皇后宮職又ハ皇太后宮職ニ送付スヘシ

前項ノ手續ヲ了シタルトキハ遲滯ナク第二號書式ニ依リ挨拶狀ヲ地方廳外務省又ハ大公使館ヲ經由シ献上者ニ送付スヘシ

附則

行幸啓先ニ於テ其ノ地方住民ニシテ物品ヲ献上セントスルモノアルトキハ本規程ニ準シ行幸啓主務官ニ於テ適宜之ヲ處理スヘシ

朝鮮總督臺灣總督關東廳長官樺太廳長官及南洋廳長官ハ本規程ニ於ケル地方長官ト看做ス

外國人ノ献上ニ付テハ第四條及第八條乃至第十條ノ規定ニ拘ラス適宜處理スルコトヲ得
(様式略)

●皇室ニ關スル文字濫用ニ關スル件訓令

(昭和五年十月七日内務省訓令第一二五八號廳府縣長官宛)

皇室ニ關スル文字濫用取締ニ關シテハ明治元年三月太政官布告明治三十四年十二月内務省訓令第二十號並昭和四年十二月通牒献上品取扱内規等ニ依リ常ニ留意セラルル處ナルモ尙之ヲ濫用スルモノ或ハ時ニ其ノ取締區々ニ亘レルノ事例ナキニアラス本件取締ハ其ノ性質上特ニ周到ナル注意ヲ要スル處ナルヲ以テ自今左記標準ニ依リ之カ取締ヲ行ヒ以テ遺憾ナキヲ期セラルヘシ

記

皇室ニ關スル文字濫用取締内規

- 第一 書籍、新聞雜誌其ノ他ノ物品ニ天覽台覽又ハ宮内省御用達ノ文字ヲ標示スルハ宮内省ニ於テ特ニ許可シタルモノノ外取締ヲ要スルコト
- 第二 宮内省御用品、御買上品、献上品、或ハ御用、御料等ノ文字ハ實際御用、御買上又ハ献上ニ係ル特定ノ物品ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス從テ假令同種ノ物品トスルモ之ヲ他品ニ使用スルハ取締ヲ要スルコト但シ宮内省ニ於テ特ニ許可シタルモノハ此ノ限ニ在ラサルコト
- 第三 献上品御採納ヲ得又ハ御用命御買上ヲ賜ハリタル等ノ事實ヲ表示スルハ皇室ノ尊嚴ニ關セサル限り其ノ年月日

ト共ニ具體的ニ其ノ旨ヲ記載スルニ於テハ支障ナキコト

- 第四 前項ノ標示ヲ其ノ物ノ頒布又ハ廣告ニ當リ第三者ニ於テ使用スル場合ハ所定事項ノ外献上者又ハ御買上等ヲ賜ハリタル者ノ氏名ヲ明記セシムルコト
- 第五 行幸啓ヲ賜ハリ又ハ侍從御差遣ヲ賜ハリタル旨ノ標示ヲ廣告ニ使用スルハ取締ヲ要スルコト
- 第六 各宮ニ關スル献上、御買上、台覽、御成等ノ事實ヲ廣告等ニ使用スル場合ニ付テモ右ニ準シテ適宜取締ヲ行フコト
- 第七 現在既ニ描出使用済ノモノニシテ本内規ニ抵觸スルニ至リタルモノハ訂正容易ナルモノノ外不問ニ附スル等直ニ私人財産上ニ不測ノ損失ヲ與フルカ如キコトナキ様留意スルコト

●皇室ニ關スル文字濫用取締ニ關スル件通牒

(昭和五年十月七日内務省警視第一四九九號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

首題ノ件ニ關シ本日別途訓令相成候處天覽、台覽並行幸啓又ハ皇族御成ヲ賜ハリタル旨等ノ文字ハ從來其ノ事實有之且之ヲ具體的ニ記述スルニ於テハ標示許容相成居候處爾今之カ事實アルモノト雖行幸啓、皇族御成並侍從御差遣等ノ文字ハ廣告ニ使用シ得サルコト、シ天覽、台覽ノ文字ニ付テハ特ニ宮内省ノ許可ヲ得タルモノニ限り其ノ標示ヲ認メ單ニ行幸啓御成場所ニ陳列シタル等ノ事由ニ依リ本件文字ヲ使用スルハ之ヲ許容セサルコト、相成候モノニ付御了知相成度候

●御陵御墓附近建築物ニ關スル件訓令

(明治三十年三月二十三日) (内務省訓令第二六三號)

御陵ヨリ三町御墓ヨリ一町以内ノ地ニ火葬場遊病院監獄遊園(公衆ニ對シ營業ヲ爲スモノ)製造所劇場其ノ他公衆ノ集合スル建築物ヲ設ケシムヘカラス

御陵墓ノ御堀ノ水悉皆村方ニ下賜相成候上ハ右水溜ノ間不敬ナキ様嚴重取締ヲ爲スヘシ

●御陵御墓附近建築物ニ關スル訓令ノ件

依命通牒

(明治三十年八月十六日警甲第三四號) (衛生警保兩局長ヨリ廳府縣長官宛)

本年訓令第二六三號御陵御墓取締ニ係ル訓令第一項ハ既設ノモノニ適用スルニアラスシテ單ニ將來ヲ指示スルモノニ有之右ハ申迄モ無之義ニハ候得共爲念依命此段及通牒候也

●御陵墓其ノ他ニ關スル件通牒

(大正六年九月三日内務省祕第一七五) (一號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

本件ニ付御陵墓所在地地方長官ヘ別紙ノ通訓令相成候條御參考迄右申進候也

(別紙)

御陵墓所在地廳府縣長官宛訓令

(大正六年九月三日内) (務省訓令第四三八號)

御陵墓所在地ニ於テ不良ノ輩神聖ナル地域ヲモ辨別セス濫ニ之ニ出入シテ枯損木ヲ盜伐シ又ハ石柵金具類ヲ剝落窃

取シタル事例ノ發生ニ鑑ミ事體寔ニ輕カラサルヲ認メ嚴密取締方客年五月主務局長ヲシテ通牒セシムル所アリ當時ニ於テ取締上特ニ注意スルトコロナルヘシト雖モ警察官吏ノ配置未タ充分ナラス從テ查察ノ周到ヲ期スル能ハス其後ニ於テ密ニ御陵墓ヲ發掘シ埋藏セル御物其ノ他ノ物件ヲ窃取シテ之ヲ轉賣シタル事實ヲ生シタル地方アリ犯行者ハ直ニ發見逮捕スルヲ得タリト雖モ事ノ茲ニ至リタルハ恐懼ニ堪ヘサル所ナリ本件ハ自ラ他ノ犯罪ト趣ヲ異ニシ神聖ナル地域ヲ侵犯シ御陵墓ノ尊嚴ヲ冒瀆ス其ノ世通人心ニ及ホスノ影響洵ニ少カラス警察上極メテ重大ナル事項ニシテ職ニ警察ニ在ル者ノ最モ警戒注意ヲ爲サ、ルヘカサルハ固ヨリ言ヲ俟タス就テハ自今御陵墓傳説地及其ノ參考地所在ノ地方ニ於テハ之ニ對スル取締ヲ一層嚴密ニシテ警察官吏ヲ督勵シテ管下ニ現住シ又ハ之ニ出入スル不良民ノ動靜ニ注意ヲ加ヘ其ノ宮内省諸陵寮員ノ在勤スル地方ニ於テハ能ク之ト連絡ヲ保チ協力以テ御陵墓其ノ他ニ對スル監視ヲ嚴ニシ如上ノ犯行ヲ未然ニ防止スルニ努ムヘシ

●御陵墓附近ニ料理屋、飲食店、旅館、製造所

建設ノ件依命通牒

(大正十四年十二月九日内務省發警第) (九七號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

御陵ヨリ三町御墓ヨリ一町以内ノ地ニ火葬場遊病院監獄遊園製造所劇場其ノ他公衆ノ集合スル建築物等ヲ設ケシムヘカラサルコトハ明治三十年三月二十三日内務省訓令第二六三號ヲ以テ訓令相成居候處本件ノ處理ニ關シ料理屋飲食店旅館又ハ小規模ノ製造所ノ類ニ付テハ爾今四圍ノ狀況ニ依リ陵墓ノ尊嚴ニ關セス且危險其ノ他障害ナシト認ムルモノハ許可相成支障無之候尤料理屋等ノ建設ヲ認ムル場合ハ歌舞音曲ヲ弄スル等ノ爲ニ物議ヲ誘發スル様ノコト無之様相

當制限相成度尙許可セラレ候上ハ其ノ都度宮内省諸陵寮ニ報告相成度候
追テ本件ハ宮内省ト協議濟ニ有之候條申添候

第二節 形像碑表、勳章、記章

●形像建設ニ關スル件依命通牒

(明治三十三年五月十九日秘甲第一〇五號ノ内警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

碑表建設ニ就テハ墓地及埋葬取締規則ニ依リ所轄警察署ノ許可ヲ受クルヲ要スル儀ニ候處鑄像銅像刻像等ノ建設ニ就テハ別段ノ取締規則無之然ルニ右等形像ハ交通風致風俗ノ取締上其ノ建設ヲ許否スルノ必要有之又既設ノ形像中ニハ考古ノ資料又ハ美術品トシテ之ヲ保存シ濫ニ毀損滅却セシムヘカラサルモノモ有之候ニ付今般内務省令第十八號發布相成候次第ニ有之候條依命此段及通牒候也

●形像建設地ニ關スル件依命通牒

(明治三十三年五月十九日秘甲第一〇五號ノ内警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

本年五月内務省令第十八號ヲ以テ形像取締規則發布相成候處該規則ニ依ル許否ト土地ノ處理トハ無論別途ニ屬シ候儀ニ付當省主管ノ官有地ニ形像ヲ建設セムトスル者アリタル場合ニ在テハ土地ニ關スル取扱ハ明治二十九年十二月二十六日庶甲第二六〇號及明治三十一年六月三日庶甲第一一五號通牒ヲ準用相成度依命及通牒候也

(參照)

内務省庶甲第二六〇號

明治十九年六月當省訓令訓第二九七號第五條中「官有地」ヲ「官有社寺境内」ト改ム

●形像取締ニ關スル件依命通牒

(明治三十三年七月十日德乙第一三六號ノ内警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

本年内務省令第十八號形像取締規則ハ紀念ノ爲ニ公園等ニ建設スル銅像其他ニ關スル取締ヲ主トシテ設定セラレタルモノニ有之隨テ市町村等公共團體ノ事業ニ屬スル場合少カラサルヘキ豫想ニ依リ罰則ヲ設ケス寧ロ必要ニ臨テハ行政執行法ヲ適用シテ強制執行スルノ主意ニ有之候省令ノ精神ニ關シ間々疑ヲ抱カル、向モ有之趣ニ付爲念依命右通牒候也

●形像取締ニ關スル依命通牒

(明治三十三年七月十四日秘丙第一一五號ノ内警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

千葉縣知事照會

(明治三十三年六月一日保秘收第一八號)

先般發布ノ形像取締規則ニ於テ形像下稱スル中ニハ路傍ノ石地藏山門ノ仁王社寺境内ニアル駒狗又ハ狐其他商業廣告ノ爲メ建設スルモノニシテ苟モ人畜等ノ模形アルモノハ總テ之ヲ包含致シ居ル義ニ候哉又形像ハ土地ニ定着スルヲ要シ堂内ニ据置キタルモノ、如キハ規則ノ適用ヲ受ケサルモノニ候哉若シ然リトセハ形像ノ爲メ堂宇ヲ設ケタルモノト堂宇ニ形像ヲ安置スルモノトニヨリ區別ヲ生スルコト無之哉聊疑義有之候ニ付至急御回報相成度此段及御照會候也

警保局長回答

(明治三十三年七月十日秘丙第一一五號)

本年六月一日付保祕收第一八號ヲ以テ形像取締規則ニ關シ御照會之趣了承路傍ノ石地藏ニ關シテハ省令ヲ適用スルノ外無之候得共山門ノ仁王社寺境内ニ在ル駒狗又ハ狐等慣行ニ依リ社寺ニ附隨スル物件ハ省令ノ適用ヲ受クルノ限リニ無之又商業廣告ノタメ建設シタル形像ト雖モ永久保存ノ目的ヲ以テスルモノニアラサレハ是亦省令ニ依ルヘキモノニ無之且後段形像ハ土地ニ定着スルヲ要スル義ト被存候尤形像之基底トシテ礎石其他ヲ用ユルトモ土地定着タルコトヲ害セサルヘク相考候又堂宇内ニ於ケル神佛ノ像等ハ通常省令ノ適用ヲ受ケシムル限ニ無之候得共形像保護ノ爲ニ建造物ヲ以テ圍繞又ハ掩覆スルカ如キ場合モ可有之是等ハ事實ニ付其時々措置候外可無之ト存候要スルニ省令ハ近來公園其他ニ於テ銅像類ヲ建設スル者間々有之候爲取締上ノ必要ニ應シ制定相成候義ニ候條此邊御含ミノ上可然御取扱有之度經伺ノ上此段及回答候也

●形像建設ニ關スル件依命通牒

(大正十三年四月十四日内務省發警第二)
(一號警保局長ヨリ廳府縣長官宛通牒)

明治三十三年當省令第十八號形像取締規則ニ依リ人物其ノ他ノ形像建設ノ申請アリタル場合ニ於テ形像又ハ其ノ礎石其ノ他ノ部分ニ表ハス文章ニシテ帝室ニ關スルモノ又ハ國交上ニ累ヲ及ホスノ虞アリト認ムルモノニ付テハ圖案其ノ他必要ノ事項ヲ具シ豫メ當省大臣ニ御稟請ノ上御處理相成様致度右申進候也

(參照)

形像取締規則

(明治三十三年五月十九日内務省令第一八號大正十三年内務省第一三號改正)

第一條 官有地及公衆ノ往來出入スル地ニ於テ永久保存ノ目的ヲ以テ人物其ノ他ノ形像ヲ建設、移轉、改造又ハ除却

セントスルモノハ地方長官東京府ハ警視總監以下同シノ許可ヲ受クヘシ但シ墓地境内ニ於テ慣例ニ依リ禮拜ノ用ニ供スルモノハ此ノ限リニ在ラス

●官有名勝地舊蹟地又ハ古墳地ニ碑表建設出願者

アリタル場合ニ關スル件依命通牒

(明治三十一年六月三日庶甲第一一)
(五號庶務局長ヨリ廳府縣長官宛)

官有名勝地舊蹟地又ハ古墳地ニ碑表建設出願者アリタルトキハ(一)碑表ニ記シタル事蹟風教ニ碑益アリ(二)碑表ノ體裁其他ノ美觀ヲ添フルノ一助ト成リ(三)若シ維持等ノ費用ヲ要スルトキハ建設者之ヲ負擔シ及(四)建設シタル土地ヲ公用ニ供スル必要アルニ當テハ管轄行政廳ニ於テ碑表ヲ棄却又ハ移轉スルモ故障ナキノ條件ヲ以テ建設者之ヲ國ニ寄附スルモノニ限り特ニ詮議相成候儀モ有之候條右ノ場合ニ於テハ碑文ノ寫碑表ノ物質其形狀長幅及建設位置ヲ示セル圖面并建設地ノ狀況等詳細事實ヲ具シ稟伺可相成依命此段及通牒候也

●勳章記章類似標章佩用禁止ノ件訓令

(明治廿八年八月二十四日訓)
(第六三六號廳府縣長官宛)

今般勅令第百十八號ヲ以テ勳章記章類似標章佩用禁止ノ件發布相成候ニ付テハ概ネ左ノ主旨ニ依リ取扱ハルヘシ尤本令ノ旅行ニ付テハ犯罪者ノ處罰ヨリ注意ノ制止ヲ主トセラルヘシ

勳章記章類似標章佩用禁止方心得

第一 勅令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章トハ首トシテ從軍記章褒章(紅綠藍黃綬)憲法發布紀念章大婚二十五年祝

典之章等ヲ指スモノト知ルヘシ

第二 類似ノ標章トハ地金ノ何タルト圖樣ノ如何トヲ問ハス其章形及綬色ノ勳章記章ニ見紛ハシキモノヲ云フ其要點左ノ如シ

- 一、綬色綬幡及章形ノ勳章記章ニ近似セルモノ
- 二、綬ヲ以テ鈎懸シ勳章記章ノ如キ體裁ヲ爲シ之ヲ肋部又ハ喉下ニ佩用スルモノ
- 三、無綬ノ章ト雖モ星章ヲ佩フヘキ肋部ニ佩用スルモノ
- 四、綬ヲ單用スルモノト雖モ其染色形狀勳章記章ノ綬ト類似ノモノ
- 第三 公然佩用スルコトヲ得ストハ屋外公然ノ集會公然ノ儀式ノ席又ハ公衆群集ノ場所等ニ於テ佩用スルコトヲ得サルヲ云フト知ルヘシ

但協會ノ類ノ會員ニシテ其會員ノミニ限り屋内又ハ屏障アル場所ニ集會スル場合ニ於テ其會ノ標章ヲ佩用スルモノ、如キハ概ネ公然ノ佩用ニアラサルモノトシテ取扱フヘシ

第四 一見玩具タリ打扮具タルコト分明ナル物ヲ歌舞遊藝又ハ兒女ノ遊戲ニ用ユル場合ハ本令ノ問フ所ニ非スト知ルヘシ

●勳章記章類似之標章佩用禁止ノ件通牒

(明治二十八年十月十二日警甲第七六號警保局長ヨリ應府縣長官宛)

本年勅令百十八號勳章記章類似標章佩用禁止之儀ニ付別紙甲號ノ通り賞勳局へ問合候處乙號ノ通り回答有之候ニ

付御承知相成度尤モ實際類似標章佩用方ニ付許可ヲ與フル場合ニ於テハ其都度御伺出相成度經伺ノ上此段及通牒候也

(甲 號)

警保局長照會 (明治二十八年十月九日警發第二一號)

本年勅令百十八號勳章記章類似標章佩用禁止方ノ義ニ關シテ府縣ヨリ伺又ハ照會等有之候ニ付左ノ廉々及御問合候

- 一 肋部ニハ標章ノ何タルヲ問ハス一切佩用セシメサル哉
- 二 章形ノ直徑曲尺ニテ大凡六七分旭又ハ菊花等勳章記章ニ見紛ハシキモノニアラスシテ綬ナク襟紐ノ穴又ハ肩袖等ニ付スルハ妨ケナキ哉
- 三 諸種ノ競争會ニ於ケル賞牌ノ如キモノハ其形稍大ナルモ時計ノ鎖ニ付スルモノハ該勅令ノ範圍外ト見做スヘキ哉

(乙 號)

賞勳局書記官回答 (明治二十八年十月十日送第三六七號)

警發第三七號本年勅令百十八號勳章記章類似標章佩用禁止ノ儀ニ付御問合之趣了承右ハ下記ノ通御承知有之度此段及回答候也

- 一 勳章記章ニ全ク類似セスト認メラル、モノハ肋部ニ付セシメサルノ限ニアラス
- 二 章形ノ直徑曲尺六分以内ニシテ勳章記章ニ類似セスト認メラル、モノハ御見解ノ通

三 形狀ノ勳章記章ニ類似セサルモノヲ時計ノ鎖ニスルハ御見解ノ通

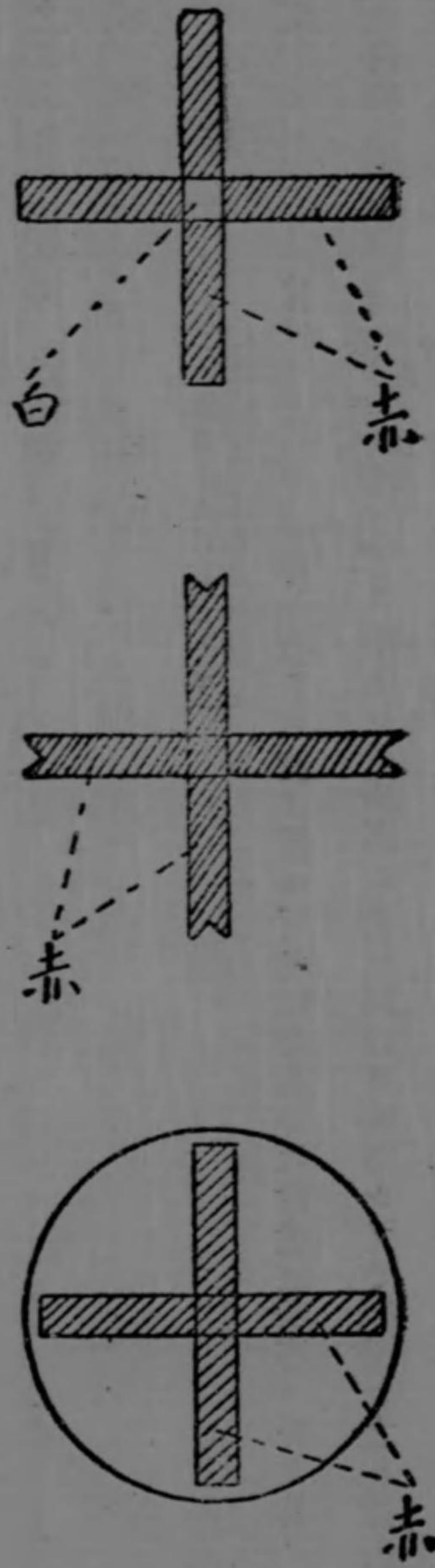
●赤十字記章名稱等取締ノ件依命通牒

(大正二年十月二十一日内務省秘第一五三九號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

本年三月勅令第十六號赤十字記章名稱等潜用者取締ノ件ニ付テハ別紙ノ區別ニ準據シ御取扱相成度尤モ右ハ大要ヲ列舉シタルニ過キサル義ニ有之候間實際執行ノ場合ニ於テハ種々ノ事例相生スヘク思料被致候ニ付彼是比較對照ノ上別紙ニ例示セルモノト類似候モノ、如キハ大體別紙ノ區別ニ準シ適應ノ御措置相成度尙本件ハ將來赤十字ノ記章及名稱等ヲ濫用スルモノナカラシムルニ有之候ハ申進候迄モ無之義ニ候間取締ノ目的ヲ達スルヲ以テ趣旨トナシ處罰ヲ目的トスル様ノ事無之様致度存候ニ付貴管下ニ於テ商品其他ニ之ヲ使用スル者ニ對シテハ勅令ノ趣旨懇篤御說示ノ上違反者ナキニ努メラレ取締上苛察ニ涉ラサル様貴部下ニ對シ御注意相成度候

(別紙) 赤十字記章、名稱及之ニ類似トシテ取締ヲ要スルモノ

- 一、赤十字ヲ描出スル生地ハ白地ニ非サルモ相當ノ距離ヲ隔テ、之ヲ望見スレハ白地ニ赤十字ノ記章ヲ描出シタルモノト殆ト同一ニ認メラル、モノ例ヘハ卵黃色若ハ薄青色ニ赤十字ヲ描出スル類ノ如シ
- 一、白地若ハ之ニ準スヘキ生地ニ薄紅色、澁色ノ類ニテ十字ヲ描出スル等赤十字記章ニ紛シキモノ
- 一、白地若ハ之ニ準スヘキ生地ニ左圖ノ如キ赤十字記章ニ紛シキ形狀ヲ描出セルモノ
- 一、赤十字若ハ之ニ紛シキ十字ヲ描出セルモノ、上部、下部周圍等ニ木草葉其ノ他ノ裝飾ヲ施セルモノ
- 一、商品其ノ他ノモノ、名稱ニ赤十字文字ヲ使用セルモノ



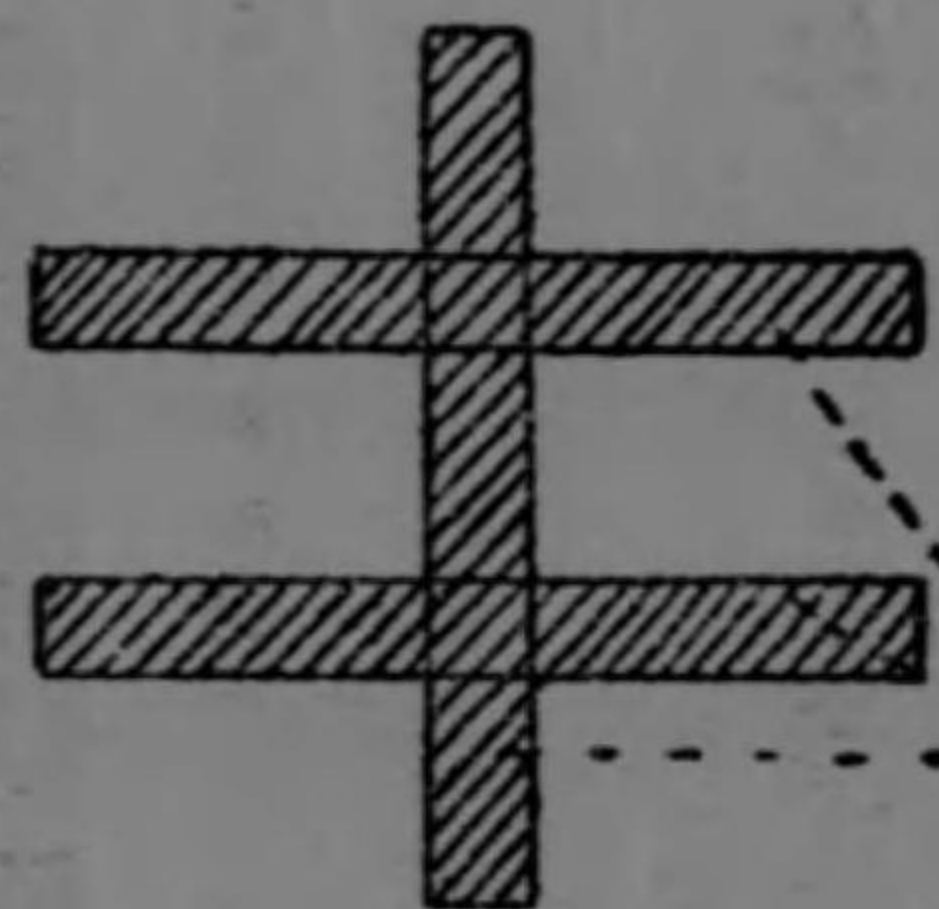
同上取締ヲ要セサルモノ

- 一、商標登録ヲ經タル赤十字及之ニ類似スル記章ニシテ商標權存續期間内ニ屬スルモノ
- 一、黒地、綠地其ノ他之ニ準スヘキ濃色ノ生地ニ赤十字ヲ描出スルモノ
- 一、左記形狀若ハ之ニ類スルモノ
- 一、白十字ノ文字ヲ名稱ニ使用スル類ノモノ
- 一、生地ノ何色タルヲ問ハス例ヘハ白色、黒色、金色、銀色等ニシテ十字ヲ描出スルカ如キ赤十字若ハ之ニ類似ノ記章ニ紛ハシカラサルモノ

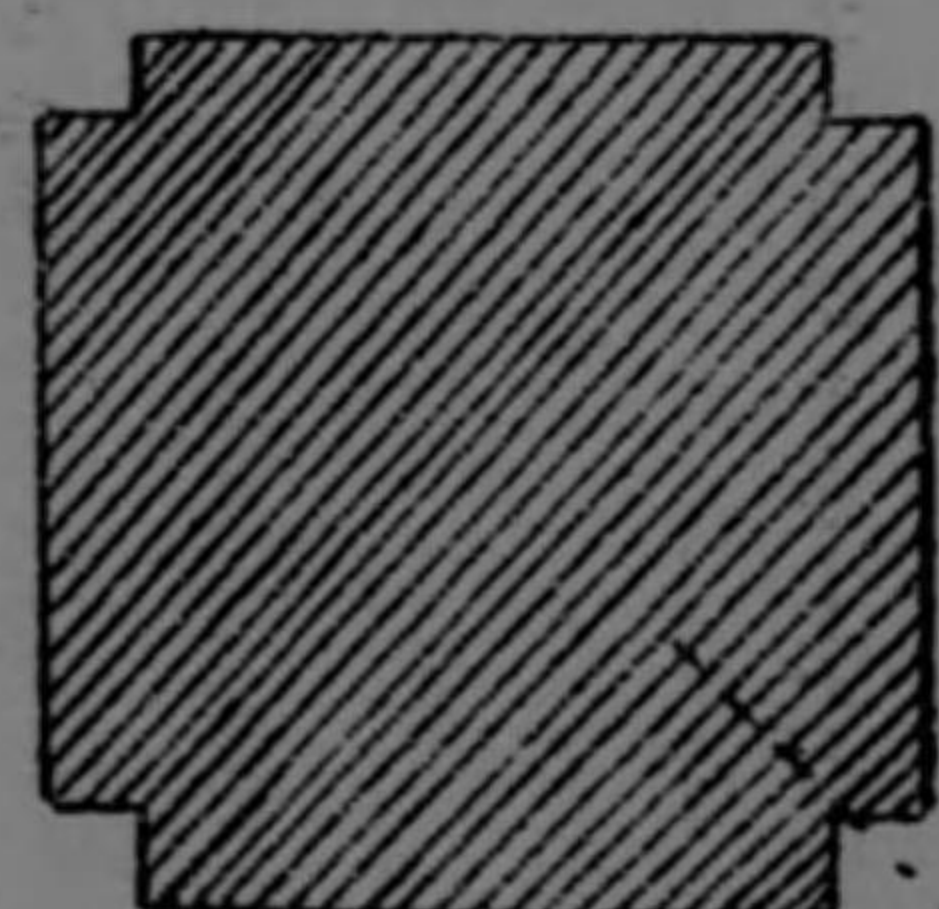
赤



赤



赤



二七六

赤

●基督教會等ニ於テ使用ノ赤十字類似記章

取締ニ關スル件通牒

(大正五年七月八日内務省閣第一一三號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

基督教會說教所等ニ於テ提灯其ノ他ニ本件記章使用ノ義ニ關シ別紙第一號ノ通陸海軍兩省へ及照會候處第二號ノ通回答有之候間右ニ依リ御取扱相成様致度候

別紙第一號

警保局長照會

(大正五年四月十五日付警閣第一一三號陸海軍法務局長宛)

本件濫用者取締方ニ付テハ大正二年勅令第十六號ノ趣モ有之候處基督教會說教所等ニ於テ其ノ入口若ハ傳道ノ場所ニ於テ白地ニ十字形(普通ノ十字形ニ比シ下部ノ長キモノ)ヲ赤色ニテ描出シタル提灯ヲ使用シ又ハ標燈ニ之ヲ描出使用スルノ類ハ商品等ニ之ヲ描出スルモノト自ラ其ノ趣ヲ異ニスルモノニ有之取締上不問ニ付スルモ支障可無之思料候得共貴省ノ御意見承知致度候

別紙第二號

陸海軍省副官回答

(大正五年六月二十七日普第二一三一號警保局長宛)

赤十字記章使用ニ關スル件照會ノ趣了承右ハ姑ク不問ニ付シ置キ可然意見ニ有之右及回答候也

●職工店員表彰ノ爲佩用セシムル記章ニ關スル件

兵庫縣知事照會

(大正七年三月二日兵外商第二五二號)

今般本縣ニ於テ優良店員並職工表彰ノ目的ヲ以テ之ニ關スル規定ヲ縣令ニテ發布シ優秀ナル者ニ對シテハ賞金ノ外一定ノ記章(別紙雛形ノ如キモノ)ヲ授與シ之ヲ受ケタルモノヲシテ其ノ記章ヲ常時又ハ多衆集合ノ式場等ニ於テ佩用セシメ度其佩用ノ箇所ハ男女共左胸部(衣服ノ襟)ノ見込ニ有之候處前記記章並ニ佩用ノ箇所ハ明治四十一年勅令第二百九十二號ニ抵觸スルモノニハ無之ト相認候へ共若シ實行後行違等アリテハ甚タ思ハシカラサル結果ヲ來シ候ニ付何分御取締ノ模様御回示相煩度尙本件ハ差掛リタル事件ニ付御含ミヲ以テ折返御回答得度此段相伺候也

追テ明治二十八年八月二十四日内訓第六三六號第二ハ今尙效力ヲ有スルモノニ候哉併而御回示相成度申添候

(別紙略)

警保局長回答

(大正七年三月十日兵警第六號)

本月二日附兵外商第二五二號ヲ以テ優良店員並職工表彰ノ爲之ニ佩用セシムル記章ノ件ニ付御照會之趣了承右ハ御添付ニ係ル記章ノ直徑ヲ曲尺六分以内トナシ綬ヲ付セサルニ於テハ支障無之尙明治二十八年八月訓第六三六號内訓ハ

舊勅令第一百八號ニ基キ發シタルモノニ有之候ヘ共現行勅令第二百九十二號中第二條ハ舊勅令ト大體ニ於テ同様ノ規定ニ有之從テ之ニ對スル取締標準ハ前掲内訓ニ據ルヘキモノニシテ依然有效ノモノニ有之候經伺ノ上右申進候

(參照)

勅令第一百八號 明治二十八年八月十六日

勅令又ハ勅令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章ニ類似ノ標章ハ何等ノ形狀ヲ問ハス公然佩用スルコトヲ得ス犯ス者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

外國ノ勅章記章並日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本令ニ因リ變更スルノ限リニアラス

(參照)

勅令第二百九十二號 明治四十一年十二月二日

第一條 勅章又ハ布告、勅令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章、褒章ヲ潜用シタル者又ハ其ノ佩用ノ停止ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス外國勅章記章ノ佩用禁止若ハ停止ニ違反シタル者又ハ佩用免狀ナクシテ佩用シタル者亦同シ

第二條 勅章又ハ布告、勅令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章、褒章ニ類似シタル標章ヲ佩用シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス外國勅章ニ類似シタル標章ヲ佩用シタル者亦同シ

附則

明治二十八年勅令第一百八號ハ之ヲ廢止ス

日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本令ニ依リ變更ヲ受クルコトナシ

第三節 銃砲火藥類其ノ他危險物

●諸學校ヘ體操用銃器拂下ノ件通牒

(明治三十九年六月三十日内務省陸甲第八一號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

諸學校ヘ體操用銃器拂下ノ儀ニ付明治二十九年九月陸軍大臣ヨリ貴官ヘ通達有之候處今回別紙寫ノ通り陸軍省副官ヨリ通知有之候條御承知相成度此段及通牒候也

(別紙)

陸軍省送甲第六三〇號(明治三十九年六月廿一日陸送達) 軍省副官ヨリ内務次官宛

學校體操用銃器拂下區域ノ規定ニ關シテハ明治二十九年九月四日送甲第二六〇五號ヲ以テ當大臣ヨリ貴大臣ニ移牒相成居該規定ニヨレハ小學校ヘハ公私立共總テ拂下ケサル事ニ定メラレ居候處小學校ニテモ生徒尙武心ノ涵養ニ資スル目的ヲ以テ拂下希望ノ向モ有之殊ニ軍隊ノ存在セサル獨立島嶼ニアリテハ必要ノ場合モ可有之ト被存候ニ付若シ前記拂下區域規定學校ノ希望者ヘ拂下銃ヲ配當シ尙殘數有之候場合ニハ今回ニ限り小學校ヘモ拂下差支無之事ニ被定候條右様御了承相成度候

(參照)

陸軍省送甲第二六〇五號 (明治二十九年九月四日陸送達) 軍大臣ヨリ内務大臣宛

諸學校へ體操用銃器ヲ當省ヨリ拂下之義ハ其手續及拂下クヘキ學校之區域是迄區々ニ相成居差支不尠候條今般別紙之通規定シ道廳府縣へ通達致置候間此段及移牒候也

(別紙)

銃器拂下手續及區域

- 一、文部省直轄學校ハ文部大臣ヨリ陸軍大臣へ照會スルコト
- 一、道廳府縣尋常師範學校尋常中學校及技藝學校等ニ在リテハ長官若クハ知事ヨリ直ニ陸軍大臣へ伺出ル事
但シ東京府ニ在リテハ豫メ警視總監ノ承認ヲ經ルヲ要ス
- 一、郡市町村立尋常中學校及技藝學校等ニ在リテハ郡市町村長ノ願書ニ道廳長官若クハ府縣知事ノ添書(取締上不都合ナキ旨明)ヲ附シ長官若シクハ知事ノ手ヲ經テ陸軍大臣へ願出ル事
但書前同斷
- 一、私立尋常中學校及之ト同等以上ト認ムヘキ學校ニ在テハ學校長ノ願書ニ道廳長官若クハ府縣知事ノ添書(取締上不都合ナキ旨明)ヲ附シ長官若クハ知事ノ手ヲ經テ直ニ陸軍大臣ニ願出ル事
但書前同斷
- 一、小學校へハ公私立共總テ拂下ケサル事

廢品タル軍用銃砲取扱ノ件依命通牒

(明治四十四年八月十一日内務省警第二〇五九號警保局長ヨリ府縣長官宛)

軍用銃砲ノ廢品處分ニ依リ非軍用銃砲トシテ取扱ハルヘキモノノ方式ニ關シ別紙甲號ノ適當省次官ヨリ陸軍次官並海軍次官ニ照會候處乙號ノ通り回答有之候條御了知相成度依命此段及通牒候也

(甲 號)

内務次官照會 (明治四十四年五月九日 内務省警第二〇五九號)

陸海軍官衙ニ於テ軍用銃砲ニ對シ廢品處分ヲ爲シタルモノニシテ非軍用銃砲トシテ取扱ヲ爲スヘキモノハ取締ニ當ル者並當業者ニ於テモ之カ方式ヲ承知致置候必要有之候間自然將來廢品處分ニ依リ右ニ該當候モノ相生候御見込ニ當ハハ豫メ方式ヲ一定セラレ官報ヲ以テ公示相成候様御配慮相煩度此段及御照會候也

(乙 號)

陸軍次官回答 (明治四十四年六月十日陸軍省送達陸警第二一八四號)

陸軍官衙ニ於テ廢品處分ヲナシタル軍用銃砲中非軍用銃トシテ取扱フヘキモノニ關スル方式公示方ノ件ニ付五月九日警第二〇九號ヲ以テ御照會ノ趣了承當省ニ於テハ從來廢品處分ヲ爲シ非軍用銃砲ノ取扱ニ移セシモノニ付取締上不都合ノ點アルヲ認メ去ル明治四十一年以來ハ斷然從來ノ廢兵器處分法ヲ改正シ其結果廢兵器トシテ拂下クヘキモノハ修理ヲ加フルモ銃砲ノ形體ニ復スヘキ處ナキモノニ限り其他ハ總テ軍用銃砲トシテ拂下居候而シテ銃砲火藥類取締法改正後ニ於テモ依然右ノ取扱ヲ爲ス等ニ付御照會ノ如キ方式公示ノ必要無之候條御承知相成度候

海軍次官回答 (明治四十四年七月二十五日官房第一五九三號ノ二)

右ニ關シ内務省警第二〇五九號御照會ノ趣了承當省ニ於テ廢品處分ヲ行フ銃砲ハ依然軍用銃砲トシテ取扱ヲ爲スカ

若ハ直ニ材料へ保管轉換スルモノノミニシテ御照會ノ趣旨ニ該當ノ場合無之候條御承知相成度右回答ス

●瓦斯發射拳銃短銃取扱方ニ關スル件通牒

(明治四十四年十月五日警兵第九八號ノ内務省警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

兵庫縣知事照會 (明治四十四年八月二十一日保發第三二七號)

管下神戸市ニ於テ瓦斯發射拳銃短銃ノ輸入販賣ヲ爲サムトスル者有之候處其ノ構造作用等ハ別紙ノ通り現品ハ未タ到着シ居ラス詳細不明ニ有之趣ニテ器械的破壊力ヲ有セス單ニ瓦斯ヲ發射シ其ノ作用ニ依リ一時抵抗不能ノ状態ニ陥ラシムルニ止マルモノニ付銃砲火藥類取締法上ノ銃砲トシテ取扱フヘキ限リニ非スト思料致候得共聊取扱上ノ疑義相生シ候ニ付何分ノ御意見承知致度此段及照會候也 (別紙略)

警保局長回答 (明治四十四年十月五日警兵第九八號ノ内)

八月二十一日付保發第三二七號瓦斯發射拳銃短銃取扱方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ非軍用銃砲トシテ御取扱相成度此段及回答候也

●陸軍々人拳銃ノ授受携帶其ノ他ニ

關スル件通牒

(明治四十五年五月十八日内務省警保第二三二九號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

陸軍軍人拳銃ノ授受携帶其ノ他ニ關シ甲號ノ通り陸軍次官ニ照會相成候處乙號ノ通り内務次官宛回答有之候條右御含ミノ上相當御取締相成度依命此段及通牒候也

追テ下士以下ノ軍人ニ在リテハ職務上必要ノ場合ハ拳銃ヲ官給セラルルニ付若シ同軍人ニシテ之レカ買入ヲ爲サムトスルトキハ當然許可ヲ受クヘキ義ニ有之候條御了知相成度此段申添候也

(甲號)

内務次官照會 (明治四十五年四月二十五日内務省警保第二〇二九號)

拳銃短銃ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ規定ニ依リ職務ノ爲授受運搬又ハ携帶スルニハ警察官署ノ許可ヲ受クルヲ要セサルヲ以テ本年軍令陸軍第一號陸軍服裝規則ニ依リ拳銃ノ佩用ヲ要スル者ハ其ノ現役軍人タルト在郷軍人タルトニ拘ラス警察官署ノ許可ヲ受クルコトナク授受其ノ他ノ行爲ヲ爲スニ於テ差支無之候得共若シ制規ノ服裝以外ノ場合ニ於テ同一行爲ヲ爲ストキハ直ニ同第三十九條ニ違反スル次第ニ有之然ルニ制規ノ服裝ヲ爲スヘキ場合ハ其ノ數多カラサルニ拘ハラス既ニ拳銃ヲ所有スル上ハ不知不識之レヲ携帶スル等違反ノ行爲ヲ爲スノ虞可有之爲ニ處罰ヲ蒙ムルカ如キコト有之ニ於テハ甚タ遺憾ノ儀ニ有之候ニ付右軍人ニ對シ注意方可然御訓達相煩シ度此段及照會候也

陸軍次官回答 (明治四十五年五月十三日陸軍省送達陸普第一六四九號)

四月二十五日内務省警保第二〇二九號ヲ以テ照會相成候拳銃短銃取扱方注意ノ件了承然ルニ軍令陸軍第一號陸軍服裝規則ニ規定ノ場合以外ニ於テ職務上之カ携帶ヲ要スル場合多々相生シ候條單ニ制服着用以外ニ在テ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ手續ヲ履行スルコトナク運搬携帶等ヲ爲ストキハ相當ノ制裁ヲ受クヘキ旨特ニ陸軍一般へ注意致置候間承知相成度此段及回答候也

● 拂下軍用銃取締ノ件依命通牒

(大正三年十月十三日内務省秘第二六) (二〇號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

軍用銃砲ノ廢品處分取扱方ニ付テハ明治四十四年八月十一日付内務省警第二〇五九號ヲ以テ及通牒置候通廢兵器トシテ拂下クルモノハ修理ヲ加フルモ銃砲ノ形體ニ復スヘキ虞ナキモノニ限レル儀ニ候處陸軍々用銃砲及火藥類拂下規則ニ依リ拂下クルモノノ内「廢」字ノ刻印アルモノヲ認メ候ニ付陸軍省ニ及協議候處右「廢」字ノ符號ハ廢品處分ヲ示スヘキ符號ニハ無之モ將來誤解ヲ防ク爲メ同字ノ刻印ヲ爲ササルコトニ改正相成候間爾今同拂下規則ニ依ル拂下品ニシテ同刻印アルモノ可無之ハ勿論ニハ候ヘ共現ニ民間ニ存在スル銃器ニ同字ノ刻印アルモノ多々可有之右ハ上記ノ通り廢品處分ノ符號ニ無之ニ付テハ同廢字ノ刻印アルモノ軍用銃トシ嚴重御取締相成度候

● 職務上銃器携帯ニ關スル件

島根縣知事照會

(大正四年三月十二) (日保第八四九號)

銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ所謂「職務」ノ爲メニスル場合トハ法令ニ依リ直接間接ニ職務上戎器ノ携帯運搬等ヲ認メラレタル場合ヲ指シタルモノニシテ取締上之ヲ狹義ニ解シ郵便遞送人カ郵便物保護ノ爲メ銃器ヲ携帯スルカ如キ場合ハ職務上當然携帯スヘキモノニアラサルヲ以テ同條ノ範圍外ト認メラレ候得共聊カ疑義ヲ生シ候ニ付御意見承知致度此段及照會候也

警保局長回答

(大正四年三月十九) (日警島第五號ノ内)

本月十二日付保第八四九號ヲ以テ本件ニ關シ御照會ノ處郵便遞送集配人ニシテ明治二十年四月二十七日遞信省公達第八十七號郵便物保護銃規則ニ依リ銃器ヲ携帯スル場合ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ於ケル職務ノ爲ニスル携帯ニ該當スル次第ニ被存候

● 屠殺銃器取扱ニ關スル件

大分縣知事照會

(大正四年五月二十二) (日保第二四二四號)

廣島市渡邊銃砲店ノ販賣ニ係ル馬蹄形屠殺銃ヲ以テ屠殺用ニ供セントスル向有之カ使用ハ當業者ヘ獎勵スヘキ價値アルモノト被認候處右銃器ニ關シテハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ短銃ニ準シテ之ヲ取扱又之ニ用フル實包ノ調製ハ各當業者ヲシテ法第二條第三號前段ニ依リ許可ヲ受ケシムヘキモノト思料候得共便宜上明治四十四年五月御通牒第六五五號ニ準シ取扱可然哉何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

警保局長回答

(大正四年五月二十七) (日警分第二五號ノ内)

本月二十二日付保第二四二四號ヲ以テ馬蹄形屠殺銃取扱ニ關シ御照會ノ處同銃器ノ構造及威力等御記載無之候得共同銃器ニシテ「グリーナー」式屠殺銃ナルニ於テハ非軍用銃トシテ取締ルヘキモ短銃又ハ拳銃トシテ取扱フヘキモノニ無之又其ノ實包ノ製造ハ法第二條ニ依リ處理スヘキモノニ有之候條御了知相成度候

(參照)

秘第六五五號 (明治四十四年五月十日)

一、火藥類ノ製造ニ關シテハ銃砲火藥類取締法第二條ノ規定モ有之狩獵ヲ爲ス者ニ於テ銃用實包等ヲ製造スル場合ニ於テモ行政官廳ノ許可ヲ受クヘキ筋合ノモノニ有之候得共狩獵免狀ヲ有スル者ニ對シテハ火藥類讓受ニ付テモ同施行規則第十八條ノ火藥類ニ限り許可ヲ要セサルノ特例ヲ認メ居候儀ニモ有之同條ノ數量内ニ於テ火藥類ノ製造ヲ爲スニ當リ許可ヲ要セシムルハ煩細ニ涉リ候ノミナラス取締上差シタル必要モ可無之存候間狩獵免狀ヲ有スル者カ其ノ狩獵用ノ爲銃用實包等ヲ製造候場合ニ於テハ許可ノ手續ヲ要セス便宜之ヲ默認候様致度候尙射的場ニ於ケル射的練習ノ爲製造候場合ニ於テモ同様ノ御取扱相成度候 (以下略)

●拂下ニ係ル軍用銃取締ノ件依命通牒

(大正四年七月十七日内務省秘第一〇) (六九號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

本件ニ付テハ客年十月十三日付秘第二六二〇號ヲ以テ及通牒置候處民間ニ輾轉セル銃器中ニハ明治三十二年陸海軍告示ニ依リ廢品處分ヲ爲シタル爲「廢」字ノ刻印アルモノト陸軍省軍用銃拂下規則ニ依ルモノニシテ「廢」字ノ刻印アルモノトノ二種有之ヲ以テ右兩者ヲ判別シ得ル方法無之ニ於テハ軍用銃砲取締上支障不尠ヲ認メ陸軍省ニ及協議ニ候處左記ノ標準ニ依リ判別スルコトト相成條相當御措置相成度候尤モ同標準ニ依ルモ判定困難ノ場合當該警察官署ヨリ最寄ノ陸軍兵器支廠同出張所又ハ要塞司令部砲兵部ニ現品ヲ差出シ檢定ヲ請求スルニ於テハ夫々判定ノ上檢定書ヲ交付スルコトニ相成候條前記ノ方法ニ依リ軍用銃砲取締方嚴重御處理相成度候

左記

陸軍拂下銃器ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ軍用銃トシテ取扱ヲ爲スコト

- 一、陸軍ニ於テ軍用銃トシテ制定使用シ居ルモノ「即チ三十年式步(騎)兵銃、三十八年式步(騎)兵銃、四十四年式騎銃(但シ拳銃ヲ含マス)又ハ構造之ニ類似セルモノ
 - 二、口徑五密米以上(之ヲ含ム)ニシテ腔線ヲ施シ且ツ千米突以上ノ距離ニ着彈セシムヘキ照準具ノ裝置アルモノ
 - 三、破損銃タルモ修理ヲ加フレハ前二號ノ一ニ該當スル銃器ノ形態ニ復シ得ヘキ處アルモノ
- 追テ本文檢定ニ費用ヲ要スル場合ハ檢定請求者ニ於テ之レヲ負擔スヘキ筈ニ有之候尙右檢定ニ要スル費用トハ主トシテ荷造運搬費ナルモ檢定請求銃多數ナルトキハ特ニ手入費ヲ要スルコトモ有之候趣ニ付御了知相成度候

●屠殺銃取締ニ關スル件通牒

(大正四年九月十五日内務省警五第一四) (三號ノ内警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

廣島市天満町渡邊銃砲店發賣渡邊式屠殺銃ハ非軍用銃トシテ取締ヲ要スルモノナレトモ短銃拳銃トシテ取扱フヘキモノニ無之旨問合ノ向ニ對シ回答候條及通知候

●芬蘭へ銃器輸出禁止ニ關スル件依命通牒

(大正八年十一月二十七日内務省外警第一五七七號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

當分ノ内帝國内ヨリ芬蘭「ヘルシングフォルス」へ小銃及拳銃ノ輸出ヲ禁止セラルヘキ筈ニ付之カ計畫ヲ爲スモノアル場合ニ於テハ速ニ當省大臣へ報告相成度候

●發彈輕便短銃取締ニ關スル件

(大正十年二月二十四日警奈第四號ノ) (内警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

警保局長回答

(大正十年二月二十
四日警奈第四號)

一月二十七日付高秘發第二五號ヲ以テ御照會ノ發彈輕便短銃ハ御意見ノ通非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキモノニ有
之候

奈良縣知事照會

(大正十年一月二十七
日高秘發第二五號)

奈良市久保町時計店

上 田 米 藏

右者ハ左記短銃製造販賣ノ計畫有之候處其ノ使用ニ依リテハ相當ノ威力有之銃砲火藥類取締法ノ所謂非軍用銃トシ
テ取締ヲ要スヘキモノト認メラルルモ聊カ疑義相生シ候條御試射ノ上何分ノ御指示相成度現品相添御伺候也

記

一、名稱、發彈輕便短銃

實用新案第三九四六二號

(イ) 銃身曲尺一尺周圍一寸八分口徑一分五厘

(ロ) 銃床曲尺一寸

(ハ) 構造別紙圖面ノ通り(圖面省略)

二、使用法

(ニ) (藥莢) 玩具用火工品(俗ニ替玉)ヲ五六粒ヲ充填シソノ上ニ散彈(第十號位)ヲ充填シ銃腔ニ押入シ尙雷管更

ニ替玉一粒ヲ入レ擊鐵ヲ引ク

三、效力

第二項ニ記載シアル如クシテ發砲スルトキハ曲尺二十尺ヲ距テテ彈丸ハ板面ニ二分ノ一突入ス

藥莢ニ火藥ヲ裝填シ發砲スルトキハ五間ヲ距テテ杉四分板ヲ貫通ス十間ヲ距ツルトキハ同様杉四分板ヲ貫通ス十五

間ヲ距テテ杉板ニ彈丸ヲ突入ス

十七間ヲ距テテ彈丸ノ先ヲ突入スル威力アリ

空氣銃取締ニ關スル件通牒

(大正十年三月二十九日警德第一二號
ノ内警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

警保局長回答

(大正十年三月二十
九日警德第一二號)

三月二十二日付保第一二四六號ヲ以テ御照會ノ本件ハ御意見ノ通り非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキモノニ有之候

追テ爾今空氣銃ヲ五間ノ距離ニ於テ杉四分板(仕上厚二分五厘)ニ向ケ彈丸五發ヲ發射シ内一發以上貫通スル威力ア

ルモノニ付テハ總テ非軍用銃トシテ銃砲火藥類取締法ヲ適用スル儀ト御了知相成度候

德島縣知事照會

(大正十年三月二十
二日保一二四六號)

左記空氣銃ヲ精査スルニ其ノ構造威力既通牒ノモノニ劣ラサルヲ以テ非軍用銃トシテ取締ヲ要スヘキモノト思料候
條何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

記

一、銃器ノ名稱、ゲーム式空氣銃(一名元折形空氣銃)

製造者 東京市神田區元佐久間町二番地

濱田銃砲製作所

銃ノ全長 二尺八寸

銃身ノ長 一尺三寸一分

口徑 約一分五厘

重量 五百二匁

彈丸 ◯形ニシテ一發宛充填シ發射ス

威力 五間ノ距離ニ於テ杉四分板ヲ浸徹シ約十間以内ノ距離ニ於テ雀ヲ射落ス

●毒瓦斯發射用銃器ニ關スル件通牒

(大正十一年四月二十九日警發甲第四三號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

警保局長回答

(大正十一年四月二十
九日警神第五八號)

三月十六日付神高收第八七四一號ヲ以テ御照會相成候本件ハ御見込ノ通り拳銃トシテ御取締可相成モノト存候

追テ本件銃用藥包ノ容器ニハ獨逸文ヲ以テ別紙譯文ノ通印刷シアルヲ以テ其ノ效力ニ付試驗ノ結果ハ別紙當局囑託

西松唯一報告ノ通ニ有之候ニ付申添候

(獨文譯)

氣絶武器(銃ノ効驗)

氣絶銃ノ効驗ヲ試驗スルニハ室内ニ於テ此銃ヲ發射シ射撃方向ニ駈付ケヨ

其ノ際次ノ方法ニ依テヤル

- 一、銃ノ發射準備ヲナシ
- 二、腕ト銃ヲ水平ニシ
- 三、眼ヲ開キ
- 四、口ヲ開キ
- 五、發射シ尙發射ト同時ニ速ニ其方向ニ駈行キ
- 六、強ク呼吸ヲナス
- 七、眼ト口トハ塞カスニ

已ニ二三秒經過シタル後初メテ發射シ方向ニ駈ケ出タラ全ク無益無意味テアル驚クヘキ効驗アル此瓦斯ハ射撃者ニ對シ射撃實施後直ニ持續セル作用ヲ一瞬時其ノ眼鼻及口ニ及ホス然レ共此瓦斯ハ普通ノ瓦斯ノ如ク全ク見ルコトヲ得サルモ二三秒後ニハ飛散シテ了フ

發射後ノ明瞭ナル煙ハ此ノ瓦斯ニ非スシテ此ノ實驗ヲ驚シ(脅シ)又淺慮ナル疑惑者ニ對シテモ直ニ了解セシムル火藥ノ煙テアル

親交アル人ヲ射撃スルナ

假死ピストル調査報告 (大正十一年四月十七日)

假死ピストルノ實包ニハ雷管トシテ普通銃用雷管ヲ用ヒ發射藥トシテ黑色火藥ヲ用ヒ其ノ假死藥ハ蕃椒、炭酸、石灰及粉狀黑色火藥ヨリナリ假死又ハ永久死ヲ與フヘキ毒瓦斯又ハ毒霧又ハ是等ヲ發生スヘキ何等ノ物質ヲ含有セス動物試驗トシテ南京鼠ヲ用ヒ密閉室中ニテ實包ヲ發射シ所謂毒瓦斯毒霧ヲ南京鼠ニ呼吸セシメタルニ何等ノ異狀ナカリキ又發明者ノ指示ニ從ヒ發射後本囑託自身其煙霧中ニ突入シタルニ少シク刺戟性瓦斯アリテ嚏ヲ催シタルノミニテ身體ニ何等ノ反應ヲ起ササリキ

實包ヲ一米距リタル衝立ニ向ツテ發射セシニ多クノ孔ヲ穿チ半米距リタリ衝立ニ向ツテ發射セシニ密接セシ無數ノ孔ヲ穿チタリ

故ニ當ビストル實包ヨリ發出スル瓦斯及霧ハ人體ニ假死若ハ永久死ヲ與ヘサレトモ之ヲ一米以内ノ距離ヨリ人ノ顔面ニ向ツテ發射スル時ハ眼潰トシテ永久ノ失明創傷ヲ與フコトト思ハル

右報告仕候

神奈川縣知事照會

(大正十一年三月十六日)
(神高收第八七四一號)

横濱市尾上町二丁目二十番地

銃砲火藥類販賣業

鹿島清三郎

右者ヨリ今般獨逸製毒瓦斯彈發射器販賣致度旨伺出アリタルニ該發射器ハ拳銃ト同一ノ型狀ヲ有シ其ノ構造簡單ニシテ殆ト玩具ニ等シキモノナルモ之ニ實彈ヲ裝填シテ使用スル時ハ拳銃ト同様ノ威力ヲ有スル而已ナラス毒瓦斯彈ヲ充填シ人畜ニ向ケテ發射スル時ハ五分間乃至二十分間位假死ノ状態ニ陥ラシムル由ニ有之就テハ銃砲火藥類取締法並ニ關係法規全部ヲ適用シ所謂拳銃トシテ取締ノ必要アルモノト認ムルモ異例ニ屬スルヲ以テ何分ノ御指揮相仰度現品並ニ瓦斯彈分析書相添へ此段稟申候也

假死拳銃藥莢試驗成績

本品ハ雷管付紙製藥莢ニシテ内部ハ大約三分ノ一ノ火藥ト三分ノ二ノ褐色粉末ヨリナリ發射時ニ粉末ヲ散亂スヘキ

裝置トナセリ

本品ノ粉末部ヲ取り水ニ溶解シテ陶汰法ヲ行ツテ底部ニ灰色ノ粉末其ノ上部ハ黑色ノ粉末最上部ハ褐色ノ粉末赤色及黄色ノ粉末ヲ浮游ス此浮游物ハアルカリニ合シテ黄褐色酸ニ遇フ時ハ美麗ナル赤色ヲ呈ス又此浮游物ヲ取りテ鏡見スルニ多數ノ窩點ヲ有スル片及樹脂様物質脂肪油房ヲ鏡見シ得本品ノ浮游物ヲ煮沸シテ得タル液ハ此レヲ味フルニ苛烈灼ク如ク直ニ蕃椒ナルコトヲ直感シ得

本品ノ粉末部ヲ燃焼スレハ美麗ナル火花ヲ散シテ炭火シ遂ニ灰化ス灰分ハ比較的少量ニシテ此カ浸出液ハ強アルカリ性ヲ有シ少量ノ硝酸反應ト炭酸カリヲ檢出ス尙鹽酸酸性液ニ硫化水素瓦斯ヲ通スルニ變化ナシ本品ノ粉末ニ水ヲ加ヘテ水蒸氣ヲ通シツツ蒸溜スルニ溜液ハ濁濁シ黄白色ノ沈澱物ヲ生ス此ヲ取りテ燃焼スルニ青色ノ焰ヲ上ケテ燃焼シ硫黃固有ノ臭氣ヲ發ス其ノ他溜液ニ就テ見ルニ反應ナシ本品ノ粉末ニ就テ一般アルカロイド反應ヲ試ミルニ只アルカリイーターテル浸出殘渣中タンニン酸液ニヨリテ黒變スルコトアルモ其ノ他ニ變化ヲ認メス尙主ナルアルカロイト殊ニ「ウエラトリン」ニ就テ試ミルニ反應ヲ認メス

右成績ニヨリ判定スル時ハ本品ノ粉末部ハ火藥末ト蕃椒末トヨリナルモノト認ム

大正十一年二月二十七日

神奈川縣衛生技手

安宅清三郎

●變裝空氣銃取締ニ關スル件

(大正十一年十二月二十七日警視第四四)
(三號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

警視總監照會 (大正十一年十二月十
九日保第二八二號)

府下荏原郡大井町元芝九二九番地

都花空氣銃研究所

祖 下 博 次

右ノ者製造ニ係ル左記空氣銃ハ其ノ構造精巧ヲ極メ「ステツキ」形ニ之ヲ變裝シ市内各玩具店ニ於テ販賣シ居ルヲ發見致候ニ付其ノ威力ヲ試驗致候處結果左記ノ通ニ有之比較的微力ニシテ非軍用銃ノ範圍ニ屬セサルモ其ノ構造變裝ニ係リ普通一般ノ空氣銃ト同一ニ單ニ其ノ威力ノ強弱ニ依リ之カ取締ノ要否ヲ決定スヘキモノニアラスト思料セラレ候ニ就テハ本銃ノ威力ノ程度ト雖モ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ノ仕込銃トシテ取締ヲ要スルモノト思料候ヘ共御意見承知致度現品(一挺)相添ヘ此段及照會候也

追テ現品御試驗濟ノ上ハ返戻相成度申添候

左 記

一、銃器ノ名稱

ステツキ形空氣銃

一、製造所

東京府荏原郡大井町元芝九二九

都花空氣銃研究所

一、銃ノ全長 二尺七寸六分

一、銃身 二尺六寸三分

一、彈丸 圓錐彈

一、威力 五間ノ距離ニ於テ杉四分板仕上二分五厘ニ五發發射スルニ最大威力深サ約一分五厘ノ彈痕ヲ認ム

警保局長回答

(大正十一年十二月二十
七日警視第四四三號)

大正十一年十二月十九日保第二八二號ヲ以テ御照會相成候變裝空氣銃ノ件ハ御意見ノ通其ノ威力ノ強弱ニ係ラス苟モ人畜ヲ傷害シ得ルニ足ルヘキモノハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依リ仕込銃トシテ御取締相成度候

●拂下軍用銃標識打刻ノ件通牒

(大正十二年一月二十六日警開第一
八號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

陸軍ヨリ學校及在郷軍人會ニ拂下ヘキ小銃ニハ尾筒御紋章ノ下部約十耗ノ位置(露式連發銃ニ在リテハ相當位置)ニ左記標識ヲ打刻シ且學校ニ拂下ノ分ニ對シテハ銃ノ一連番號ノ頭ニ番號ト同一字形ノ○ヲ二箇、在郷軍人會ニ拂下ノ分ニ對シテハ同上○ヲ三箇併列打刻スルコトニ定メタル趣陸軍省ヨリ通牒有之候ニ付御了知相成度候

左 記

學校ニ拂下ノ分ノ標識 文(徑約八耗)

在郷軍人會ニ拂下ノ分標識 M(徑約八耗)

●消火ピストル輸入販賣取締ニ關スル件

(大正十二年五月九日內務省視警第九
七號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

警視總監照會

(大正十二年四月九日保第九七號)

東京市麴町區有樂町一丁目一番地

帝國消火銃合資會社

右會社ニ於テ消火「ピストル」販賣方新聞廣告(別紙添付)致居候ヲ以テ調査候處本品ハ在獨逸國伯林ウオルフ、コ
 ラツクス株式會社ヨリ輸入販賣セントスルモノニシテ其ノ構造及作用ノ詳細ハ左記ノ通ニ有之消火彈發射器ノ構造及
 作用ハ略拳銃ト類似スレトモ強テ銃砲火藥類取締法令ヲ適用スルノ必要無之被認候ヘ共消火彈ハ其實質ニ於テ同法施
 行規則第二條第三號火工品ニ該當スルモノト被認候處右ハ火工品中ノ實包ニ屬スヘキカ又ハ火藥爆發藥ヲ使用シタル
 火工品ト認ムヘキカ又或ハ實害ノ點ヨリシテ煙火又ハ船舶備付用煙火類似ノ火工品ニ準シ同法施行規則第四十四條第
 二項ニ依リ法令ノ一部ヲ除外シテ取締ルヘキヤニ付疑義相生シ候ニ付何分ノ御指示仰度現品相添ヘ此段及稟議候也

左記

一、消火「ピストル」ノ構造

(イ)發射器ノ構造

發射器ノ全身長一尺三寸一分銃身部九寸口外徑一寸九分五厘ニシテ全部鋼鐵ヲ以テ製造シ擊鐵彈力線包裝部ヨリ
 成リ銃身ハ下部蝶番上部ニ文鐵ニヨリ接合シ外面ハ赤色塗料ヲ塗布シアリ

(ロ)消火彈ノ構造

消火彈ハ鋼鐵製ノモノニシテ全長八寸九分五厘口外徑一寸七分五厘ニシテ外面ハ赤色塗料ヲ塗布シ管尾ニ銃用雷

管ヲ附シ管底ニ厚五分ノ藁紙ヲ填メ小粒黑色火藥約二瓦填藥シ更ニ厚紙ヲ以テ填塞シ炭酸鹽類ヲ主劑トスル消火
 劑約六百瓦ヲ填藥シ之ヲ厚紙ヲ以テ填塞シ更ニ封蠟ニテ密閉シアルモノニシテ全量約千瓦アリ

二、消火「ピストル」ノ效方

實驗ノ狀況

新聞紙數枚ニ石油エーテル約四十瓦ヲ注キ之ニ點火シ約二米突ノ距離ニ於テ發射器ニ依リ消火劑ヲ發射スルニ二
 回ニシテ全ク消火セリ又空間ニ向ツテ發射スルニ藥粉約八米突ノ距離ニ飛散シ「アンモニア」臭ヲ發セリ

警保局長回答

(大正十二年五月八日 警發乙第二〇四號)

四月九日付保第九七號ヲ以テ御照會相成候本件消火彈ハ火藥及爆發藥ヲ裝填シアルモノニシテ煙火若クハ煙火類似ノ
 火工品ト其ノ效用ヲ異ニスルモノナルヲ以テ銃砲火藥類取締法施行規則第二條第一項第三號ノ火藥若ハ爆發藥ヲ使用シ
 タル火工品トシテ取締ルヘキモノニシテ其ノ發射器ハ消火彈ヲ發射シテ防禦用ニ供セラルルモノノミナラス右消火彈
 ニ加工シ彈丸ノ類ヲ裝填スルトキハ之ヲ發射シテ人畜ヲ傷害スルノ用ニ供シ得ヘキモノナルヲ以テ規則第一條ノ所謂
 非軍用銃トシテ取締ルヘキモノト存候

●テンブル式銃擊機取締ニ關スル件通牒

(大正十二年七月十一日警務受第三七九 一號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

警視總監照會

(大正十一年六月十八日 乙保第五八二五號ノ二)

東京市麴町區永樂町一丁目一番地

第二編 保安

右會社ニ於テ遭難船救助用トシテ在英國テンプル商會ヨリ輸入シタル銃擊器ト稱スルモノハ口徑一寸二分全長一尺二寸ノ黃銅製ノモノニシテ其ノ尖端ヲ壁體又ハ鐵板等ニ突キ當テルトキハ大ナル音響及反動モナクシテ徑四分長サ二寸六分ノ鋼鐵製銃ヲ發射シ厚サ四分ノ鐵板ヲ容易ニ貫徹スル威力ヲ有スルモノニ有之就テハ其ノ銃ヲ發射セシムル藥莖ハ雷管及硝化棉黑色火藥等ヲ裝填シタル火工品ナルヲ以テ銃砲火藥類取締法施行規則第二條第一項第三號ニ依ル火工品中ノ實包ニ屬スルモノト認メ銃打機ハ其ノ作用略銃砲ト同様ニシテ且威力強大ナルノミナラス使用ノ如何ニヨリテハ公安上危險ノ虞大ナルヲ以テ規則第三十九條ノ短銃トシテ取締ルコトト致度モ從來右類例無之取締上疑義相生シ候ニ付何分ノ御指示相仰度此段及稟申候也

警保局長回答 (大正十二年七月二十七)
日警務受第三七九一號

六月十八日付乙保第五八二五號ノ二ヲ以テ御照會相成候本件テンブル式銃擊機ハ其ノ先端ニ壁體若クハ鐵板ニ突キ當ツルニ非サレハ發射シ得サルノ構造ナルニ於テハ其ノ效用ヲ短銃ト同シクスルモノニ無之ニ付普通ノ非軍用銃トシテ取締相成ヘキモノト存候

●爆音信號銃取締ニ關スル件通牒

(大正十三年五月五日警保局長發)
乙第六五八號廳府縣長官宛移牒

群馬縣知事照會 (大正十三年三月三)
日保第九六八號

左記爆音信號銃ハ「アセチリン」瓦斯ヲ應用シ通常單ニ爆音ヲ發シ(爆音ハ三八式空包ヨリ稍弱)信號用ノ目的ヲ以

テ製作セラレタルモノナルモ銃身ヲ交換シテ使用スルトキハ霰彈ヲ發シ得ヘク而シテ其ノ威力ハ非軍用銃砲トシテ取締ヲ受クル標準以下ナリト雖モ爆音及起爆ノ方式等ヨリ或ハ非軍用銃砲トシテ取締ヲ要スヘキモノトモ思料セラレ候條何分ノ御指示相成度現品相添ヘ此段及照會候也

追テ現品ハ御用濟ノ上ハ御返戻相煩度

記

遠藤 桑 太郎

- 一、製造人 群馬縣高崎市通町九一
- 二、全長 三尺二寸八分 (霰彈用ノ場合三尺四寸)
- 三、重量 五百五十匁 (霰彈用ノ場合五百六十匁)
- 四、説明構造別紙ノ通り (別紙略)

警保局長回答 (大正十三年五月五日警
保局長發乙第六五八號)

大正十三年三月三日付保第九六八號ヲ以テ御照會ノ爆音信號銃ハ銃砲ノ外觀ヲ有シ且ツ爆音亦強クシテ保安上相當取締ヲ要スルモノト認メラレ候ニ付テハ非軍用銃砲トシテ御取扱相成度候

●學校備付銃器貸與ニ關スル件回答

文部省專門學務局長ヨリ照會 (大正十三年九月十
二日千專第一三號)

首題ノ件ニ關シ今般千葉縣知事ヨリ別紙寫ノ通り照會有之タル所右ノ如キ場合ニ於テハ保管學校責任ノ下ニ貸與方

差支無之様思ハルルモ貴局ノ御意見至急御回示相成度此段照會ス

追テ陸軍ニ於テハ差支無之趣ニ有之ニ付此段申添フ

(別紙寫)

文部大臣宛千葉縣知事ヨリ照會

(大正十三年九月三日)
(日教第三七〇六號)

學校備付銃器保管ニ就テハ大正五年八月十五日付官專第一三〇號御通牒及大正十三年四月二十九日付銃拂第九三號ヲ以テ陸軍兵器本廠ヨリノ御通牒ノ次第モ有之他ニ貸與スヘキ筋合ニ無之モノト被認候得共在郷軍人並青年團等ニ於テ軍事思想普及ノ爲メ軍隊指導ノ下ニ演習等ヲ施行スル場合ニ於テ右團體ニ學校備付銃器貸與致シ差支無之モノニ候哉右ハ差掛リ必要有之候ニ付至急何分ノ御指示相仰度此段及稟伺候也

警保局長回答

(大正十三年九月二十二日警)
(保局警發乙第一四一七號)

九月十二日附千專第一三號ヲ以テ御照會相成候首題ノ件別ニ異存無之候

●陸軍各部隊ニ於テ練習用具或ハ普通物品トシテ

保管セル銃器處理ニ關スル件通牒

(大正十三年十月三十日警保局警發甲第一一)
(一六號警保局長ヨリ廳府縣長官宛移牒)

本件ニ付陸軍次官ヨリ各部隊ニ對シ別紙ノ通通牒致候趣ニ有之候條御參考迄寫差進候

(別紙寫)

陸軍次官ヨリ各部隊宛通牒

(大正十三年十月二日)
(陸普第三六六一號)

各部隊ニ於テ練習用具或ハ普通物品トシテ保管セル銃器中不用ニ歸シ之ヲ處理スルニ方リ銃砲火藥類取締法施行規則第一條軍用銃砲ニ該當セルモノノ拂下ニ關シテハ陸軍々用銃砲及火藥類拂下規則第八條ニ準シ取扱フ儀ト承知相成度候也

追テ銃砲火藥類取締法施行規則第一條第二項ノ解釋左記ノ通ニ付爲念申添候

左記

- 一、有效ノ解釋ハ人馬殺傷ノ效力ノ有無ニシテ命中精度ノ問題ニアラサルコト
- 二、破損銃タルモ修理ヲ加フル時ハ本規則ノ形態ニ復シ得ヘキ程度ノモノハ軍用銃ト解釋スヘキコト

●中等以上ノ學校ニ配付スル軍用銃ニ關スル件

依命通牒

(大正十四年九月二十五日內務省文警第二)
(一號警保局長ヨリ廳府縣長官宛依命通牒)

學校教練振作ノ爲文部省ニ於テ陸軍省ト協議ノ上現役陸軍將校ヲ配置セル中等以上ノ學校ニシテ其ノ備付銃器僅少ナルモノニ對シ軍用銃ヲ配布シ戰時其ノ他必要アル場合ニ於テハ陸軍省ニ於テ之ヲ回收スルノミナラス毀損其ノ他ノ事由ニ依リ不用ニ歸シタル場合ト雖其ノ自由處分ヲ許ササルコトヲ條件トシテ學生生徒ノ教練ニ使用セシムルコトニ相成候趣ニ有之隨ツテ從來砲兵工廠ニ於テ陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則第一條ニ依ル軍用銃砲ノ拂下トハ彼是相違致居候儀ニ付私立學校ニ於テ本件配付ヲ受クルモ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條ノ許可ハ要セサル儀ト存候間爲念右申進候

追テ本件配付ノ學校名、銃器ノ種類並數量ハ其都度通牒可致申添候

●拳銃讓受許可ニ關スル件回答

(大正十四年十一月十三日警保局警發乙第一四六四號)

鹿兒島縣知事照會 (保發第六四五五號大)

(正十四年十月廿二日)

拳銃ノ讓受ハ其ノ目的カ單ニ護身用ニ限ラレ居ルモノナリヤ將又學校青年團等ノ運動競技合圖用ニ使用スルモノニ對シテモ許可差支ヘナキヤ疑義相生シ候條何分ノ儀御指示相煩度此段及照會候也

警保局長回答 (大正十四年十一月十三日)

(警保局警發乙一四六四號)

本件ニ關シ十月廿二日付保發第六四五五號ヲ以テ御照會相成候處拳銃ノ讓受ニ關シテハ其ノ用途ノ制限無之儀ニ候得共御申越ノ競技合圖用トシテ特ニ拳銃ヲ擇フノ必要無之様被存候ノミナラス近時往々之ヲ害用スルモノ有之ノ事例ニ鑑ミ旁々本件讓受許可ハ考慮ヲ要スヘキ儀ト存候

●玩具用拳銃ニ關スル件

(大正十五年一月十一日警發甲第一號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

十一月十五日名古屋市ニ於テ別紙圖例ノ如キ形狀ノ玩具用拳銃ノ彈倉ニ玩具用雷管數個及彈丸ヲ裝填シ之ニ發火藥トシテ同様雷管ヲ用キ兒童ヲ狙撃シ右彈丸ハ被害者ノ着用セル單衣二枚ヲ貫通シ更ニ左側胸部ニ深サ五センチメートルニ達スル創傷ヲ負ハシメタル事件有之候處本件拳銃ノ銃身ハ中空ニシテ彈倉ニ小許ノ加工(アンチモニーナルヲ以テ錐トヲ)ヲ爲スニ於テハ右ノ如ク容易ニ彈丸ヲ發射スルノ構造ト爲スヲ得ヘク現ニ玩具商ニ於テハ加工シタルモノヲ販

賣セルモノ有之本件拳銃ハ其ノ彈倉ニ加工セルト否トニ拘ラス其ノ構造ニ徴シ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ所謂拳銃トシテ取締ヲ要スヘキモノト被存候得共既ニ製造、授受、運搬、携帯ヲ爲セル者ニ對シ銃砲火藥類取締法令違反トシテ直ニ處分スルハ過酷ノ嫌有之候間右ハ不問ニ附セラルル様致度尙現ニ所持スル者ニ對シテハ製造元ニ送付シテ銃身ニ中空ヲ設ケス若ハ彈倉ヲ有セサル様改造スル等小許ノ加工ニ依リ容易ニ彈丸ヲ射出スルノ虞ナカラシムル様改造セシメ又ハ任意之ヲ廢棄セシムル等可然御措置相成度右申進候

追而其ノ製造元、同數量及販賣先並其ノ數量等ハ目下不明ニ付發見次第關係廳府縣ヨリ通報方取計置候間申添候

●玩具用拳銃取締ニ關スル件

(大正十五年三月八日警保局長ヨリ大阪府知事宛同月十一日警保局長官宛參考通牒)

大阪府知事照會 (大正十五年二月十六日)

(保第一〇〇八〇號)

客月二十九日警保局警發乙第九七號ヲ以テ信號用拳銃取締ニ關スル件ニ付御回報ノ趣ニ依リ當市ニ於テ販賣シ居ル玩具用拳銃左記ノ通り二種別封ヲ以テ御送附申候條一應御審議相煩度及報告候也
追テ御用濟ノ上ハ現品御送相成度申添候也

左記

一、玩具用拳銃一種 一挺

東京市下谷區龍泉寺町

安野利七製造

一、玩具用拳銃一種 一挺

名古屋市西區本町三丁目一二

鴉飼修一製造

警保局長回答

(大正十五年三月八日警保局警發乙第三二五號)

本件ニ關シ二月十六日付保第一〇〇八〇號ヲ以テ御報告相成候處東京市下谷區龍泉寺町安野利七製造ニ係ルモノハ取締ヲ要セサル儀ト存候得共名古屋市西區本町三丁目一二鴉飼修一製造ニ係ル玩具用拳銃ハ彈丸ヲ發射スルノ機能ヲ有シ且玩具用火工品以外ノ火藥類ヲ裝填シテ發射スルニ於テハ相當威力ヲ有スルモノト存候ニ付テハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ所謂拳銃トシテ取締ヲ要スヘキモノト存候得共既ニ之ヲ授受、運搬携帶シ又ハ之カ製造ヲ爲セル者ニ對シ銃砲火藥類取締法令違反トシテ直ニ處分スルハ過酷ノ嫌有之候間右ハ不問ニ附セラルル様致度尙現ニ所持スル者ニ對シテハ製造元ニ送付シテ彈丸ヲ發射スルノ機能ナカラシムル様相當改造セシメ又ハ任意之ヲ廢棄セシムル等可然御措置相成度

追テ各廳府縣ニ對シテハ本文ノ趣通牒致置候尙現品ハ別途返戻致候間申添候

●玩具用拳銃取締ニ關スル件通牒

(大正十五年三月十一日警發甲第三〇號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

名古屋市西區本町三丁目一二鴉飼修一製造ニ係ル別紙圖例ノ如キ玩具用拳銃ヲ大阪府下ニ於テ販賣セルヲ發見シタル趣ニ有之右現品ヲ審査致候處本件拳銃ハ彈丸ヲ發射スルノ機能ヲ有シ且玩具用火工品以外ノ火藥類ヲ裝填シテ發射スルニ於テハ相當威力ヲ有スルモノト存候ニ付テハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條ニ所謂拳銃トシテ取締ヲ要

スヘキモノト存候得共既ニ之ヲ授受運搬携帶シ又ハ之カ製造ヲ爲セル者ニ對シ銃砲火藥類取締法令違反トシテ直ニ處分スルハ過酷ノ嫌有之候間右ハ不問ニ附セラルル様致度尙現ニ所持スル者ニ對シテハ製造元ニ送付シテ彈丸ヲ發射スルノ機能ナカラシムル様相當改造セシメ又ハ任意之ヲ廢棄セシムル等可然御措置相成度

●軍用銃修繕ニ關スル件

(大正十五年三月十一日警保局長ヨリ石川縣知事宛同日警保局警發甲第三四一號警保局長ヨリ石川縣知事宛同日警保局長ヨリ廳府縣長官宛參考通牒)

石川縣知事照會

(大正十四年十二月二十一日收保第四一二六號)

管下金澤市上胡桃町杉本五十外(元銃工科出豫備砲兵上等工長)ナル者本回學校其ノ他在郷軍人會等ニ於テ演習用トシテ保管スル軍用銃ニ付各保管者ヨリノ委託修繕營業(勿論廢銃其ノ他非軍用銃ヲ修繕若ハ改造シテ軍用銃ヲ成立セシムルカ如キコトナク破損箇所ノ部品交換又ハ着色ヲ爲サムトスルモノ)ノ許可申請ヲ本官宛提出有之候處軍用銃ノ修繕業ハ銃砲火藥類取締法第三條第三項及同法施行規則第五條ニ依リ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ內務大臣及其ノ主務大臣ニ許可ノ申請ヲ爲スヘキ儀ナルモ本件ノ如キ現實軍用ニ供セサルモノニシテ而モ非軍用銃ニアラサルモノニ付テハ何等明文ナク且大正四年三月十日警高第二九號ノ內御通牒ノ次第モ有之處理上聊カ疑義ヲ生シ候條何分ノ御回示相成度候也

警保局長回答

(大正十五年三月十一日警保局警發乙第三四一號)

本件ニ關シ客年十二月二十五日收保第四一二六號ヲ以テ御照會相成候處右ハ廢銃其ノ他非軍用銃ヲ材料トシテ軍用銃ヲ製造致候場合ハ勿論學校、在郷軍人會等ニ於テ演習用トシテ保管スルモノト雖軍用銃(大正四年七月內務省)トシテ

取締ヲ要スヘキモノニ在リテハ其ノ破損箇所ノ部分品ノ交換取付ノ操作ヲ致候場合モ銃砲火藥類取締法第三條同法施行規則第五條ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ儀ト存候
追而單ニ銃身ニ着色スルカ如キ行爲ニ對シテハ不問ニ附セラレ可然ト存候

●拳銃讓受許可ニ關スル件

(大正十五年四月十二日警保局警發乙第五二三號警保局長ヨリ和歌山縣知事宛同日警保局警發甲第五三三號其ノ他廳府縣長官宛參考通牒)

和歌山縣知事照會 (大正十五年四月一日保第三〇三二號)

官公署ニ銃砲火藥類取締法令ヲ適用セサルハ明治三十二年八月訓第七六二號內務大臣訓令ニ依リ疑義ノ存セサル所ニシテ官公立學校モ官公署ニ包含スルコトハ明治三十三年二月保發第二一號高知縣知事稟伺ニ對スル內務省警保局第九號御回答ニ御明示ノ次第モ有之隨而官公立學校ニ於テハ證明書ヲ提出シテ火藥商ヨリ火藥類ヲ讓受ケツ、アリ然ルニ近時學校青年團等ノ運動競技合圖用トシテ拳銃ヲ使用スルノ傾向有之候ニ付テハ拳銃讓受ニ關シテモ前掲證明書ニテ讓受ケ得ルヤ又許可ヲ要スルモノトセハ運動競技合圖用トシテ拳銃(實彈ヲ發射シ得ルモノ)ヲ讓受許可差支無キヤ聊カ疑義相生シ候條何分ノ御回示相煩度此段及稟伺候也

警保局長回答 (大正十五年四月十二日警發乙第五二三號)

本件ニ關シ四月一日付保第三〇三二號ヲ以テ御照會相成候處官公立學校ニ對シテハ銃砲火藥類取締法令ハ適用無之候得共私立學校及青年團ニ對シテハ其ノ適用有之從テ銃砲火藥類ノ讓受ニ關シテ亦成規ノ手續ヲ要スル儀ニ有之尙拳

銃ノ讓受ニ關シテハ銃砲火藥類取締法令ニ於テ其ノ用途ノ制限無之儀ニ候得共御申越ノ競技合圖用トシテハ特ニ拳銃ニ限ルノ必要モ無之様被存候ノミナラス競技合圖用トシテ學校、青年團ニ常時備置クトキハ保管上特別ノ設備ヲ爲サ、ル限り不逞ノ徒ニ惡用セラルルコト可有之最近拳銃ヲ使用セル兇暴ナル犯罪ノ續出セル事例ニ鑑ミ私立學校青年團等ニシテ本件授受ノ願出有之候場合ハ可成之ヲ他ノ銃ニ代ヘシメ官公立學校ニ對シテモ之ヲ避ムシムル様御措置相成度尤モ競技ノ際銃砲販賣業者等ヨリ一時之ヲ借受使用後直ニ返還スル場合ニ於テハ別ニ差支無之但シ右ノ場合ト雖私立學校青年團ニ在リテハ拳銃ノ授受携帶竝空包讓受ノ許可ヲ要スルハ勿論ノ儀ニ有之候間右申進候

●爆音信號機ニ關スル件

(大正十五年八月十九日警保局警發乙第一一五二號警保局長ヨリ群馬縣知事宛同日警保局警發甲第一一一號其他廳府縣長官宛參考通牒)

群馬縣知事照會 (大正十五年七月二十日保第六一九八號)

群馬縣高崎市連雀町九九

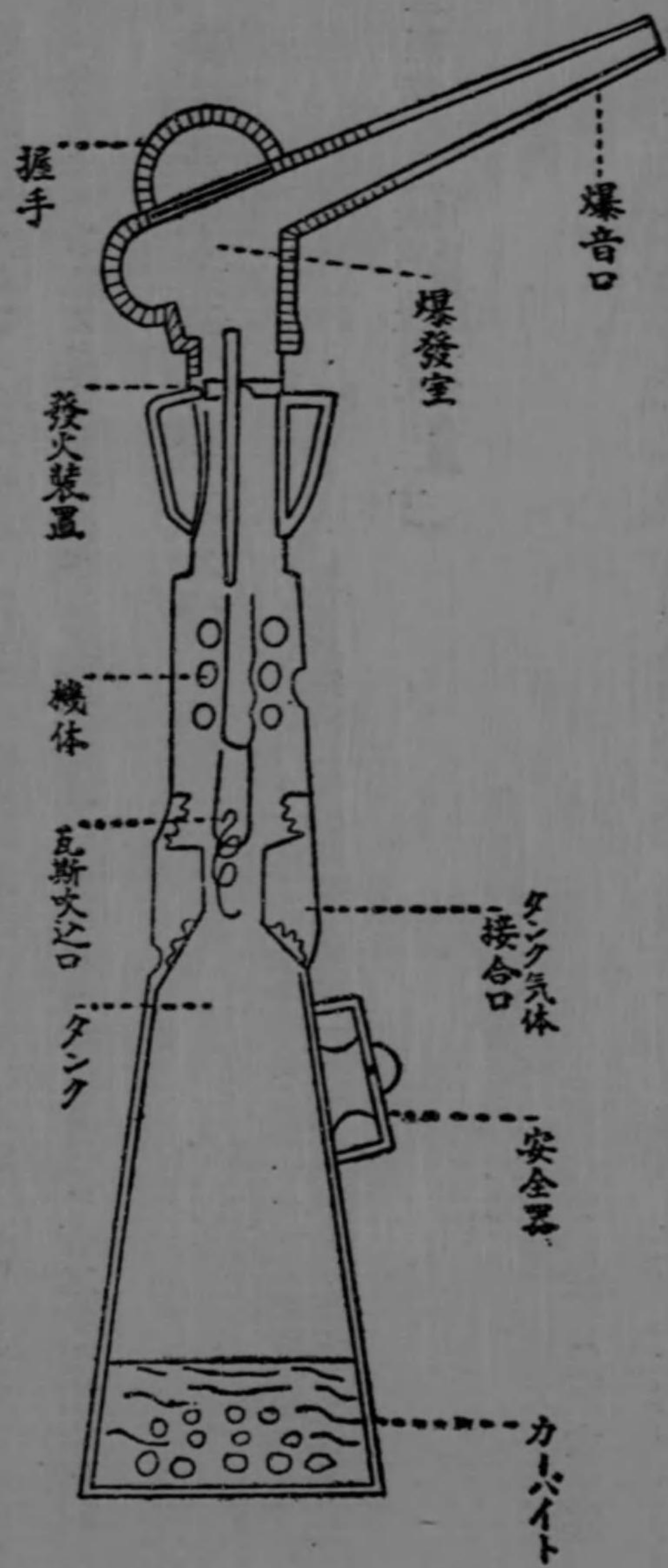
遠藤 条 太郎

右者製造ニ係ル左記爆音信號機ハ銃砲火藥類取締法ニ依ル非軍用銃砲ノ適用ヲ受クルヤ否ヤニ付製造者ヨリ伺出有之候ニ付現品ヲ調査スルニ其ノ裝置ハアセチリン瓦斯ト空氣ノ混合氣ヲ爆發セシムルモノニシテ其ノ音響ハ大正十三年四月三十日警保局警發乙第六五號ニ依ル爆音信號銃ヨリ稍強ク其ノ用途ハ主トシテ害鳥ノ威嚇及競技運動會等ノ信號ニ使用セラレ而シテ彈丸ハ全ク發射シ得サルモ音響ノ強大火焰ノ發生等ヨリ聊疑義相生シ候條何分ノ御指揮相仰度

此段及照會候也

迫而現品ハ製造者ヨリ任意貴局へ持參可致申添候也

記



警保局長回答

(大正十五年八月十九日)
(警發乙第一一五二號)

本件ニ關シ七月二十日付保第六一九八號ヲ以テ御照會相成現品審査致候處彈丸ヲ發射スルノ機能無之ノミナラス小
許ノ加工ニ依リ之ヲ惡用スルノ虞亦無之様被存候ニ付右ハ非軍用銃トシテ取締ヲ要セサルモノト存候

拳銃取締ニ關スル件

(大正十五年五月二十六日警保局長ヨリ警視總監宛)
(第七三九號警保局長ヨリ警視總監宛)

警視總監照會

(大正十五年五月十
一日保第二一二號)

左記拳銃ハ從來拳銃型玩具トシテ巷間ニ販賣セラレツツアリ一種空氣銃ニ類シ其ノ威力ハ五間ノ距離ニ於テ杉四分
板(仕上二分五厘)ニ向ケ彈丸五發ヲ發射シ内一發モ貫通致ササル程度ニ有之候得共其構造ヨリ觀レハ寧短銃トシテ
ノ取締ヲ爲シ可然モノト被思料候ニ就テハ何分ノ御指示相仰度現品相添へ此段及稟議候也

記

一、銃器ノ名稱 拳銃型玩具

一、製造人 大阪市南區高津四番町七十六番地

常盤號商會代表者 浦 善 藏

一、販賣所 府下南葛飾郡寺島町二六一四番地

常盤號出 張 店

一、銃ノ全長 約一尺ニシテニツケル渡金製

一、銃身ノ長サ 約八寸

一、彈 丸 大型霰彈ヲ用ユ

一、發射方法 銃ノ先端ナル螺旋狀銃身ヲ壓縮シテ銃口ヨリ霰彈ヲ入レ引金ヲ引キテ發射スルモノナリ

第二編 保 安

警保局長回答

(大正十五年五月二十六日)
(警保局警發乙第七三九號)

本件ニ關シ五月十一日保第二一二二號ヲ以テ御照會相成試射致候處ニ間ノ距離ニ於テ杉板ニ僅ニ彈痕ヲ止ムル程度ノ威力ニシテ銃火藥類取締法施行規則第三十九條ニ依ル取締ヲ爲スノ要無之モノト存候
追テ現品ハ別途返戻候

●軍用銃砲拂下ニ關スル件

(大正十五年十月五日警保局警發乙第一二二五號警保局長ヨリ千葉縣
知事宛同日警保局警發甲第一二二九號其ノ他ノ廳府縣長官宛參考通牒)

千葉縣知事照會

(大正十五年八月二十一日)

軍用銃砲拂下ニ付テハ明治四十四年陸軍省令第四號陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則第一條ニ依リ從來疑義無之候ヒシモ青年訓練所ニ於テ軍事研究ノ目的ヲ以テ之カ拂下ヲ願出テムトスルトキハ警察署ノ許可ヲ受クヘキ性質ノモノト被存候得共右ノ場合ニ於テハ出願人一人ニ付一箇ヲ限り拂下得ルモノナリヤ又ハ在郷軍人會及學校等ト同様目的ニ必要ナル數量ヲ拂下ケ得ルモノナリヤ若シ同様ニ拂下ケ得ルモノナリトセハ同條但書ニハ在郷軍人會及學校ハ此ノ限ニ在ラスト明記セラレ居ルニ付青年訓練所ハ學校ト見做シ一個以上讓受ノ許可差支ナキヤ疑義相生候ニ付何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

警保局長回答

(大正十五年十月五日)
(警發乙第一三二五號)

八月二十一日付ヲ以テ御照會相成候本件ハ左記ノ通りニ有之右申進候

追而本件ニ付テハ陸軍省トモ打合濟ニ付申添候

記

- 一、青年訓練所ノ經營主體カ青年訓練所令第三條ニ依ル市町村、市町村學校組合及町村學校組合ナル場合ハ軍用銃砲ノ讓受ニ關シ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條ノ許可ヲ要セサルモ青年訓練所令第四條ニ依リ私人カ經營スル訓練所ニ在リテハ軍用銃砲ノ讓受ニ付銃砲火藥類取締法施行規則第十八條ノ許可ヲ必要トス
- 二、市町村、市町村學校組合及町村學校組合ノ經營スル青年訓練所ノ用ニ供スルモノニ對シ拂下ヲ爲ス場合ニ在リテハ當該市町村長又ハ組合管理者ニ拂下クルモノナルヲ以テ陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則第一條第一號ニ所謂公署ニ該當スルヲ以テ拂下數量ニ制限ナク又私人ノ經營スル訓練所カ警察署ノ讓受許可ヲ受ケテ拂下ヲ受クル場合ニ在リテモ同條第二項但書ニ規定スル學校ト看做シ拂下數量ヲ制限セス

●舊式軍用銃取扱方ノ件依命通牒

(大正十五年十月六日內務省陸警第
一九號警保局長ヨリ廳府縣長官宛)

軍用銃ノ判別ニ關シテハ大正四年七月十七日內務省祕第一〇六九號ヲ以テ申進置候處明治二十年(西曆一八八七年)以前ニ本邦若ハ歐米諸國ニ於テ創製シタル陸海軍用小銃ハ現時ニ於テハ軍用ニ供シ得ルモノト難認候ニ付テハ右銃器ニ對シテハ軍衙ノ檢定ヲ俟ツ迄モナク非軍用銃トシテ御取扱相成様致度關係當局ト打合ノ上右申進候
追而明治二十年(西曆一八八七年)以前本邦ニ於テ相當員數存在シ幕府各藩又ハ我陸軍ニ於テ軍用銃トシテ採用シタルモノ別表ノ通ニ付御參考迄申添候

非軍用銃一覽表 (大正十五年七月十六日調)

第一前裝銃		一、滑腔銃		二、施綫銃	
銃名	項目	製造國	發明年	本邦渡來年	最大照尺射程
ググール歩兵銃	同	本和邦	天不保年間	天保三年	照門ノミニテ照尺ナシ
同 騎銃	同	同	同	同	同
ヤーゲル歩兵銃	同	和蘭	同	弘化年間	同
同	同	同	同	同	同
ミニエー歩兵銃	同	英	一、八五一	文久年間	九〇碼
本邦製ミニエー歩兵銃	同	本邦	同	同	七五〇碼
ヤーゲル歩兵銃	同	和蘭	同	天保年間	照門ノミニテ照尺ナシ

第二後裝銃		二、施綫銃			
銃名	項目	製造國	發明年	本邦渡來年	最大照尺射程
ヤーゲル騎銃	同	和蘭	同	同	同
レミントン歩兵銃	同	米	一、八五〇年頃	元治頃	五〇〇碼
エンヒールド歩兵銃	同	英	一、八五三	慶應年間	一一五〇碼
同 騎銃	同	英	一、八五三	同	九〇〇碼
同 砲兵銃	同	英	一、八五三	同	照門ノミニテ照尺ナシ
同	同	英	一、八五三	同	同
スプリングヒールド歩兵銃	同	米	一、八五八	安政頃	九〇〇碼
同 騎銃	同	米	一、八五八	同	五〇〇碼
フルミルト歩兵銃	同	埃	一、八六〇年頃	幕末	九〇〇歩
ウイットオルト歩兵銃	同	英	同	同	一一〇〇〇碼
マンソン歩兵銃	同	瑞西	一、八六四	慶應年間	一〇〇〇碼

一、底礎式

銃名	項目	製造國	發明年	本邦渡來年	最大照尺射程
シヤールプス 騎銃	米	一、八五九	幕末		八〇〇碼
レシントン 歩兵銃	米	一、八六八	明治初年		一五〇〇碼
同 騎銃	米	一、八六八	同 右		五七〇〇碼
スタール 騎銃	米	一、八五八	幕末		
スペインサー連發 歩兵銃	米	一、八六〇	慶應年間		九〇〇碼
同 騎銃	米	一、八六〇	同 右		同 右
ビーボーヂー、マルケニー 歩兵銃	米	一、八六二	明治十二年		五〇〇碼
ヘンリー、マルチニー 歩兵銃	英	一、八七四	明治五年		一二〇〇碼
二、莖囊式					
スナイドル 歩兵銃	英	一、八六六	明治元年		一二五〇碼

三、活巻式

同 騎銃	英	一、八六六	同 右		一〇〇〇碼
マッチウース 歩兵銃	英	一、八六〇年代	同 右		一二五〇碼
シヨスリン 騎銃	米	同 右	同 右		五〇〇碼
グリオン 騎銃	米	一、八六四	慶應		八〇〇碼
三、活巻式					
アルビニー 歩兵銃	白耳義	一、八六七	明治初年		一二五〇碼
同 騎銃	白耳義	一、八六七	同 右		三〇〇碼
ストーム 歩兵銃	英	一、八六〇年代	幕末		一二五〇碼
同 騎銃	英	同 右	同 右		三〇〇碼
コンブレイン 歩兵銃	白耳義	一、八六八	幕末		一二五〇碼
ウエンドル 歩兵銃	埃	一、八六六	日清利戰品役		八〇〇歩
スプリングヒールド 歩兵銃	米	一、八六〇年代	幕末		一二〇〇碼

